

キイロヤマトンボ

Macromia daimoji Okumura

トンボ目 ヤマトンボ科

【選定理由】砂地河川への依存性が強く、環境指標性が高い。現在の生息地点は10程度と思われ、生息域が局所的である。

【種概要】成虫は体長71~82 mm, コヤマトンボより腹部が細身で、黄色みが強い。河床に砂が堆積する緩やかな流れの河川中流域に生息する。

【分布】国外では朝鮮半島、台湾、中国、ロシア、東南アジアに分布。国内では、福島県以南の本州、四国、九州に分布する。県内では、員弁川、海蔵川、木津川、雲出川、櫛田川、宮川、熊野川などの水系で記録されている。

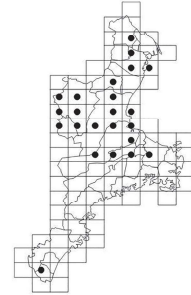
【現況・減少要因】員弁川、海蔵川では2000年以降の記録が無く、絶滅の可能性がある。現在、安定発生しているのは、穴倉川、木津川、櫛田川、中村川などに限られる。木津川は砂の堆積が減少しており、生息への影響が危惧される。汽水域での生息確認である相野谷川は、河川氾濫により生息が危惧されている。

【保護対策】河川中流の砂地環境を保全する必要がある。河川構造物により砂堆積が減少している場合は、河床環境を維持するための対策が必要である。

【文献】5, 6, 14, 37, 39, 41, 44, 49, 62, 73, 82, 97, 99, 120, 133, 154, 158, 177, 178, 184, 186, 200, 233, 234, 237.

(石田昇三・刀根定良・松沢孝晋)

(写真：松阪市，2024年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

タンボオカメコオロギ

Loxoblemmus aomoriensis Shiraki

バッタ目 コオロギ科

【選定理由】1か所のみで確認されている。

【種概要】体長雄11.9~13.1 mm, 雌11.8~16.2 mm. 中型。黒褐色。ハラオカメコオロギやモリオカメコオロギに酷似し、形態での区別は難しい。鳴き声の音色はハラオカメコオロギに似るが、鳴き方はむしろモリオカメコオロギに近い。通常田圃、水路の縁、湿地など林に近い湿った農耕地等に多いが、北日本では乾燥したところにも生息する。卵越冬年1化。

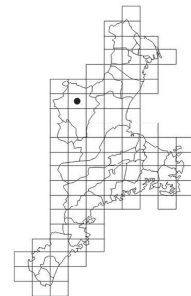
【分布】北海道、本州、九州、中部地方では広く生息し、個体数は多い。県内では伊賀市でのみ確認されている。

【現況・減少要因】生息範囲が狭く、分布が限られ、個体数が少ない。農耕地を中心として、林縁にも生息する。農耕地の休耕、植林、農業以外の用途への転用などで、生息地の環境変化が進んでいる。また周辺森林が放置され、林床が暗くなり、生息可能な環境が少なくなっている。

【保護対策】従来と同様の農業経営が行われることが望まれる。

【文献】22, 45, 54, 62.

(加納康嗣・河北 均)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

クチナガコオロギ

Verarifictorus aspersus (Walker)

バッタ目 コオロギ科

【選定理由】既知の生息地点は7地点であり、各地点の個体密度は低い。

【種概要】体長約13~22 mm. 全体黒褐色。ツヅレサセコオロギに体色、体長などが似るが、雄の大あごが長く顔面の半分ほどあることや「キリッ、リッ、リッ」とややゆっくり鳴くので区別できる。年1化、成虫は9~10月に出現する。

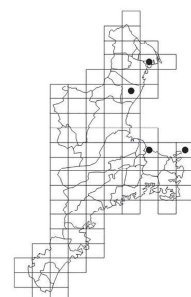
【分布】韓国、中国、台湾に分布する。国内では本州（東海地方以西）、四国、九州に局所的に分布し、県内では四日市市、鈴鹿市、伊勢市、鳥羽市（答志島、神島）の記録がある。

【現況・減少要因】自然林、丘陵地、公園などの開放的な草地で発見される。分布が限られ、各生息地の生息範囲は狭く、個体数も少ない。

【保護対策】現在の生息地はほぼ安定しているので、土地開発等の整備活動を行わずに、現環境を維持していく必要がある。

【文献】3, 4, 5, 49, 54.

(村井俊郎・河北 均)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ダイリフキバツタ

バッタ目 バツタ科

Callopodisma dairisama (Scudder)

【選定理由】既知の生息地点数は10以下。確実な生息地は3か所。
 【種概要】体長雄19.6~22.4 mm, 雌26.7~30 mm. 鮮黄緑色。黒側条は頭部と前胸背の前縁のみ。後腿節の下面は鮮紅色。前翅は側生し小さく細い。雄の尾肢は強く曲がり、先端は細い。*Callopodisma*はシノニム。生息地は山間のキャンプ場、スキー場など明るくやや開けた環境で、灌木が繁った林床、林縁など。卵越冬年1化。

【分布】本州（東海、和歌山を除く近畿地方、中国地方東部、東限は長野）。分布域が狭い。県内では伊賀地域とその周辺部。

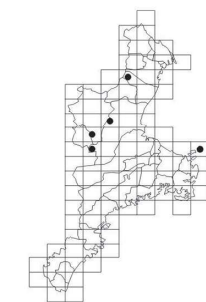
【現況・減少要因】布引山地では山頂部やキャンプ場などの低木林層を主とした高原状の明るい環境に生息するが少ない。伊賀の低山地も同様の環境が多く、生息地が点在していた。また松阪市や答志島からも局所的に記録されている。植林の拡大や里山の荒廃による林床、林縁の植生の遷移、シカの食害などによる植物群落の消失により個体数は激減し、ほとんどの生息地が消滅している。

【保護対策】明るい林床、林縁などの環境を現状維持する。

【文献】13, 20, 25, 48, 54.

(加納康嗣・河北 均)

(写真：伊賀市，2014年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

カワラバツタ

バッタ目 バツタ科

Eusphingonotus japonicus (Saussure)

【選定理由】既知の生息地点は10以下であり、安定した生息地は熊野川、宮川中流域および多志田溪だけである。生息地は分断されている。

【種概要】体長35~45 mm. 中型のバッタ。灰褐色で、暗褐色の斑紋が点在し砂礫地に対する保護色となっている。後翅は暗褐色の弧状の紋があり、内側は鮮やかな青色。河川の砂礫に生息し、年1化、成虫は7~10月に出現する。

【分布】本州、四国、九州において局所的に分布する。県内ではいなべ市、菰野町、紀北町、松阪市、大台町、多気町、度会町、伊勢市、熊野市から記録されている。

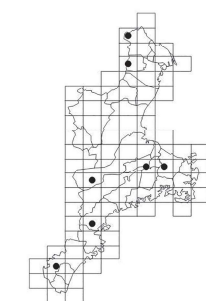
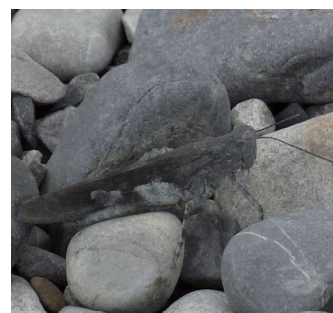
【現況・減少要因】河川改修による河原環境の喪失と河川の植物群落の遷移により、生息地と個体数が減少している。

【保護対策】河川改修にあたっては、本来の河原環境への影響を極力避け、改修後の植物の遷移について十分配慮するべきであり、できれば、生息地の河川改修工事は止めるのが望ましい。

【文献】41, 50, 53, 54, 70, 72.

(河北 均)

(写真：熊野市，2011年，篠木善重撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ハルゼミ

カメムシ目 セミ科

Yezoterpnosia vacua (Olivier)

【選定理由】既知生息点数は100以上あり、県内各地から記録されているが、近年の減少傾向はきわめて高い。

【種概要】体長（翅端まで）33~37 mm. 褐色~黒色で、♂は腹部が長く袋状であるが、♀では短く、産卵管が突出する。マツ類に依存し、成虫は4~6月、山間部では7月上旬頃まで発生する。

【分布】本州（新潟県・福島県以南）、四国、九州。国外では中国に分布。県内では、いなべ市、東員町、桑名市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、伊賀市、名張市、松阪市、多気町、明和町、大台町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会町、大紀町、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市、御浜町、紀宝町。

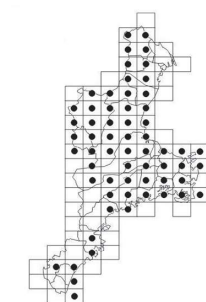
【現況・減少要因】県内では海岸林から標高1,000 m程度の山地まで広く生息するが、本種の生息基盤となるマツ林はマツノザイセンチュウによる枯死、メガソーラー施設等の開発により多くが消滅し、それに伴い本種の生息地も急激に減少している。また、マツ枯れや開発等が見られない地点でも減少または消滅を確認している。

【保護対策】マツ林の保全管理が必要。生息地では継続的に調査が必要である。

【文献】33, 44, 63, 65, 78, 79, 81, 82, 83, 84, 85.

(北村 颯・乙部 宏)

(写真：明和町，2022年，北村颯撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

エゾゼミ

Auritibicen japonicus (Kato)

カメムシ目 セミ科

【選定理由】県内での生息地は限られ、既知生息点数は15以下。生息地の自然度の高い高木の針葉樹林が減少傾向にある。

【種概要】体長(翅端まで) 59~68 mm。背面には黒地に褐色系の紋があり、中胸背のW状紋上部と側縁は白粉を帯びる。雄の腹弁は先端丸みを帯び、第3腹板に達する。成虫は7月中旬~9月中旬に出現する。

【分布】北海道、本州、四国、九州。県内ではこれまでに菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、名張市、松阪市、大台町で記録されている。

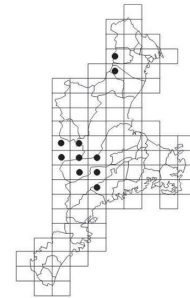
【現況・減少要因】鈴鹿山系では、標高800 m付近より上部で生息。三峰山地では、標高600 mから1,000 m付近にかけて記録されている。本種は造林地や広葉樹林にも生息するが自然度の高い大木の針葉樹林を好む傾向が強く、開発や自然災害も含めた山林の荒廃が種の生息基盤に影響を与えている。

【保護対策】生息地のモミヤツガ類などの針葉樹の保全が急務。種の継続的な分布調査が必要である。

【文献】5, 8, 13, 19, 25, 26, 27, 44, 48, 61, 64, 79, 80, 81, 82, 86.

(北村 颯・乙部 宏)

(写真: 大台町, 2020年, 北村颯撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ヒメミズカマキリ

Ranatra unicolor Scott

カメムシ目 タイコウチ科

【選定理由】既知生息地は10か所以上あるが、近年生息地の環境悪化が懸念される。

【種概要】体長25 mm内外で、体は長形で褐色である。前脚はやや太く捕獲脚となっている。

【分布】北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では、いなべ市、川越町、鈴鹿市、津市、伊賀市、多気町、鳥羽市、志摩市などで記録がある。

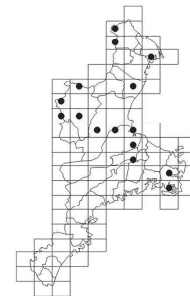
【現況・減少要因】生息範囲は広いが、いずれの既知生息地においても、近年生息地点、個体数が減少している。本種は低地の池沼や河川の静水域等に生息するため、周辺環境の水路や圃場の整備が進み、用排水分離が進んだためと思われる。

【保護対策】本種が生息可能な水辺環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。

【文献】17, 32, 39, 43, 57, 72, 73.

(鈴木 賢・大川親雄)

(写真: 愛知県, 2010年, 矢崎充彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

オオコオイムシ

Appasus major (Esaki)

カメムシ目 コオイムシ科

【選定理由】既知生息地が5以下で、いずれの場所も生息湿地の基盤が脆弱である。

【種概要】体長(23~26 mm)ほどで、コオイムシ(17~20 mm)より一回り大きい。5月下旬~6月頃に雌は雄の背面に卵を並べて産み付ける。高層湿原や谷地などに生息する。

【分布】北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では、伊賀市の数か所および津市美杉町俱留尊山での記録がある。

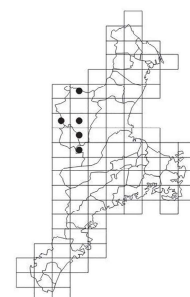
【現況・減少要因】伊賀市の旧上野、阿山、青山地域および津市美杉町俱留尊などで記録されている。本種は山間部の高層湿原や浅い池沼に生息し、特に泥状の環境を好む。法花の湿原では近年湿原の遷移が進んでおり、将来的には粘土層の採掘など諸開発により、生息地の消滅あるいは水源枯渇など直接的、間接的に影響を受けるおそれがある。

【保護対策】高層湿原や池沼周辺の開発抑止、里山も含めた湿地環境の保全。

【文献】43, 57, 58, 73.

(富田靖男・矢崎充彦)

(写真: 伊賀市, 1999年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

タガメ

カメムシ目 コオイムシ科

Kirkaldyia deyrolli (Vuillefroy)

【選定理由】かつては県内に広く生息していたが、近年生息地、個体数ともに減少している。

【種概要】体長50~67 mmで、体は長楕円形で灰褐色あるいは褐色をしている。前脚は太く強力な捕獲脚となっている。成虫は灯火に飛来する。本州産最大のカメムシ類の一種である。

【分布】北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する。県内では北勢地域から東紀州地域まで広く生息していると考えられる。

【現況・減少要因】生息範囲は広いが、いずれの既知生息地においても、近年生息地点、個体数が激減している。本種は低地の池沼、湿性休耕田、河川の静水域に生息するため、池沼周辺環境の水路や圃場の整備が進み、用排水分離が進んだためと思われる。

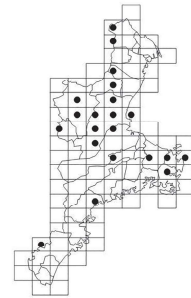
【保護対策】本種が生息可能な水辺環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。

【特記事項】特定第二種国内希少野生動植物種に指定され、商業目的の採集等は禁止。

【文献】32, 39, 40, 43, 46, 52, 55, 56, 57, 61, 62, 64, 67, 71, 73.

(鈴木 賢・大川親雄)

(写真：伊賀市，2001年，富田靖男撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

エサキアメンボ

カメムシ目 アメンボ科

Limnoporus esakii (Miyamoto)

【選定理由】既知生息地が10以下で、河川改修、池沼周辺の水辺環境の悪化などによる減少が危惧される。

【種概要】体長6~9 mmほどの細身で小型のアメンボの一種。背面は橙褐色で側面には銀白色の毛を有する。触角は第4節が最長で黒色を呈する。本種は近年減少しつつある水生植物が豊富に生育する止水域を指標する種の一つである。

【分布】北海道、本州、四国、九州、対馬に分布する。県内では、津市、松阪市、多気町、伊勢市、志摩市大王町、南伊勢町などで記録されている。

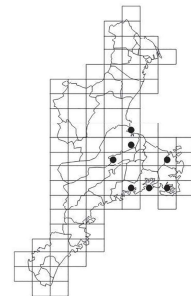
【現況・減少要因】松阪市の雲出川および榑田川下流部のワンド、志摩市大王町および南伊勢町押洲などの既知生息地の環境は、平地のヨシやガマなどの抽水植物が繁茂する池沼やワンドなど低湿地である。いずれの地域も埋め立てなどの環境改変を受けやすく、抽水植物の減少とともに生息適地が縮小している。

【保護対策】抽水植物が豊富に繁茂する池沼の埋め立てや開発等の抑止、水質保全。

【文献】14, 17, 65, 72, 73.

(富田靖男・石田和男・矢崎充彦)

(写真：志摩市，2005年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

ニシキンカメムシ

カメムシ目 キンカメムシ科

Poecilocoris splendidulus Esaki

【選定理由】既知生息地が5以下で、県中北部に分布するが、生息範囲が限定されている。

【種概要】体長16~20 mmで、体色は金属光沢のある緑青色地に赤色の帯紋を有し、大型で美しいカメムシである。

【分布】本州、四国、九州に分布する。県内ではいなべ市、菰野町、伊勢市から記録がある。

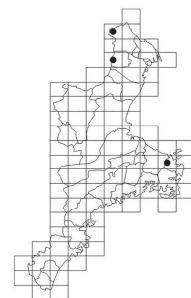
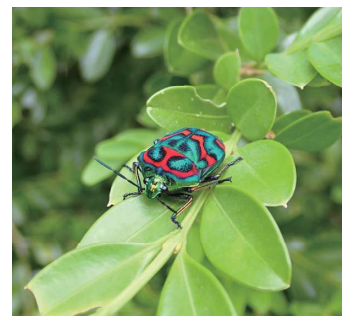
【現況・減少要因】生息範囲は広いと考えられるが、幼虫がツゲで育つために、生息地が限定される。近年の産業開発により生育環境が激変していると考えられる。

【保護対策】本種が生息可能な環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。

【文献】12, 23, 43.

(鈴木 賢)

(写真：いなべ市，2021年，矢崎充彦撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

オナガミズスマシ (キイオナガミズスマシ) コウチュウ目 ミズスマシ科
Orectochilus regimbarti Sharp

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類

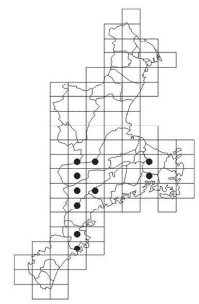
その他動物
維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

VU
VU
NT

【選定理由】 生息環境が悪化している。
【種概要】 体長8.5~10.0 mm. 河川上流の清流に生息する。昼間は岸辺の岩から垂れ下がったナルコスゲなどの根の間に潜んでいる。夜間には水面を巡回する。夜間しばしば灯火に飛来する。
【分布】 本州，四国，九州。朝鮮半島、ロシア沿海州。三重県では、菰野町、鈴鹿市、亀山市、津市、松阪市、大台町、大紀町、伊勢市、尾鷲市で記録されている。
【現況・減少要因】 ダム建設、河川改修などによる生息地の消失、生息地上流の森林伐採や道路工事などにもなう水質汚濁などが本種の生息にとって脅威となるものと思われる。
【保護対策】 生息が確認された地点、およびその上流では河川改修などを行わないこと。森林伐採や道路工事などにも配慮が必要である。
【特記事項】 紀伊半島の個体群は、別亜種 (subsp. *odaiensis* Kamiyaキイオナガミズスマシ) として扱われることが多い。
【文献】 81, 188, 305, 306, 356, 357, 391, 393, 478.

(秋田勝己)



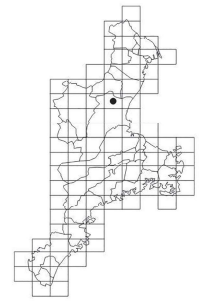
三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

タカノオオサムシ (マヤサンオサムシ高野尾亜種) コウチュウ目 オサムシ科
Carabus (Ohomopterus) maiyasanus otobei Makita, Zhang & Kubota

【選定理由】 本県特産で分布域が非常に限られる上に生息環境も分断化されている。
【種概要】 体長24~30 mm. 背面は光沢のある銅色。主食はフトミミズ類と推定される。樹林周辺に生息する。北陸地方、近畿地方北部に分布するマヤサンオサムシC. (*O.*) *maiyasanus* Batesの亜種で、2021年に新たに発見・記載された。他の亜種と比較して、大型で交尾器形態等も特異である。マヤサンオサムシの主たる分布域から著しく隔離されている。
【分布】 日本 (三重県) 固有亜種で、津市・亀山市境界付近の限られた範囲に分布。
【現況・減少要因】 生息地域が限られている上に、分布地域において住宅地や農地などで生息環境の分断化が著しい。
【保護対策】 分布域内の環境改変をできるだけ避ける必要がある。本種の生息環境である市街地郊外の緑地は、宅地開発以外にも太陽光発電設備等の設置で失われることもあり、注意が必要である。
【特記事項】 タイプ産地は津市高野尾町。亜種の和名はタイプ産地の地名に由来する。
【文献】 557.

(久保田耕平)

(写真：亀山市，2021年，乙部宏撮影)



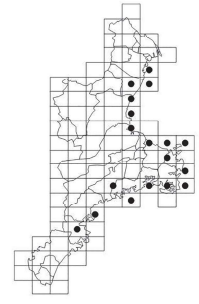
三重県 2025	VU
三重県 2015	—
環境省 2020	—

ヒョウタンゴミムシ コウチュウ目 オサムシ科
Scarites aterrimus Morawitz

【選定理由】 砂浜海岸には広く生息していたと思われるが砂浜の衰退と過度な漂着物の清掃活動による撤去で減少している。後翅は退化しており移動力も乏しい。
【種概要】 体長15~20 mm. 体色は艶のある黒色で、前翅の肩部はなだらかな丸みがある。成虫は汀線付近から少し離れた範囲の流木や堆積物の下で発見される。
【分布】 本州，四国，九州。三重県では四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町で記録されている。
【現況・減少要因】 生息地に適した砂浜には、現在外来植物や路傍植物の侵入により草原に遷移しつつある。また汀線上の漂着物は本種にとって重要な餌原と隠れ家となっているが大勢による漂物の過度な清掃および重機による漂着物の撤去が大きなダメージを与えている。
【保護対策】 砂浜の外来植物と路傍植物による草原化を食い止める。汀線の漂着物のすべてがゴミではなく人工ゴミ以外の自然漂着物は過度に撤去しない。海から浜へのエコトーンの保全は多くの生物にとっての生命線となる。
【文献】 70, 79, 80, 83, 88, 91, 92, 185, 223, 252, 258, 260, 268, 272, 307, 362, 372, 389, 479.

(乙部 宏)

(写真：津市，2024年)



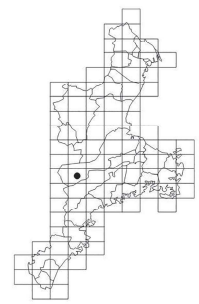
三重県 2025	VU
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミエチャマルチビヒョウタンゴミムシ コウチュウ目 オサムシ科
Reicheiodes yokozekii Morita

【選定理由】既知の生息地点5以下。生息地が局限される。紀伊山地固有種で三重県で記録されるのみである。
 【種概要】体長2.2~2.3 mm。
 【分布】本州。紀伊山地固有種。自然林の落葉下に生息する。三重県では大台町、大紀町から記録されている。
 【現況・減少要因】近年ニホンジカの食害により下層植生が崩壊し、乾燥化が進行したことは、本種の生息には脅威となっている。本種のような落葉下に生息する種にとっては、林床の乾燥は非常に深刻である。
 【保護対策】ニホンジカの個体数管理を含む落葉広葉樹林の保全。
 【特記事項】従来、三重県からチャマルチビヒョウタンゴミムシ *R. yanoi* (Kult) として記録されてきた種は、2015年に記載された表記種であると推定される。タイプ産地は、大台町迷岳である。
 【文献】11, 100, 107, 437, 499, 500, 501.

(秋田勝己)



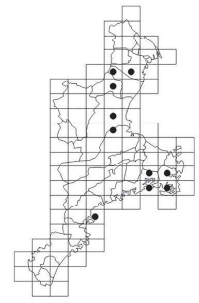
三重県 2025
VU
三重県 2015
DD
環境省 2020
—

オオトックリゴミムシ コウチュウ目 オサムシ科
Oodes vicarius Bates

【選定理由】既知の生息地点が10以下。生息環境が悪化し、近年減少している。
 【種概要】体長12~13.2 mm。平地の池沼の水際に生息する。夜行性で水面を泳いだり、水中に潜るのが観察されている。昼間は池畔に堆積した濡れた落葉や石の下に潜んでいる。
 【分布】本州。九州。県内では四日市市、鈴鹿市、津市、伊勢市、志摩市、南伊勢町、紀北町で記録されている。
 【現況・減少要因】生息地は一つの池沼中のせいぜい10数mにわたる水際に過ぎない。したがって、各個体群の大きさはきわめて小さい。また、現在それぞれの生息地は分断、孤立しているため、個体群間の交流は全くないものと考えられる。
 【保護対策】生息地である池沼の埋め立てや改修をしないことである。
 【文献】12, 90, 195, 260, 266, 268, 343, 357, 432, 498.

(秋田勝己)

(写真：玉城町，2020年，乙部宏撮影)

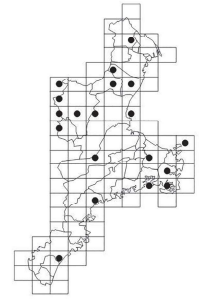


三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
NT

コガシラミズムシ コウチュウ目 コガシラミズムシ科
Peltodytes intermedius (Sharp)

【選定理由】かつて普通に見られる種であったが、近年激減している。
 【種概要】体長3.1~3.6 mm。植物の豊富な溜池や、水田、水路脇の小さな水路に生息する。
 【分布】北海道、本州、四国、九州、対馬。朝鮮半島、中国、ロシア極東、台湾。三重県では、いなべ市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町、御浜町で記録されている。
 【現況・減少要因】かつては県下全域の水田地帯ではごく普通に見られた種である。しかし、水田の乾田化、農薬、除草剤の使用、アメリカザリガニの侵入繁殖によって激減している。また、近年多用される農薬の影響は非常に大きいものと考えられる。コガシラミズムシ科の他種に比べると、危急性は低いが、今後も減少傾向が続くものと考えられる。
 【保護対策】生息地辺での農薬および除草剤の不使用が求められる。また、水田耕作がなされなくなった場合には、植物遷移が進んで恐らく本種の生息には適さなくなるであろう。
 【文献】21, 32, 76, 77, 89, 90, 260, 261, 304, 306, 357, 370, 443, 457.

(秋田勝己)



三重県 2025
VU
三重県 2015
—
環境省 2020
—

キボシケシゲンゴロウ

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

Nipponhydrus flavomaculatus (Kamiya)

【選定理由】 既知の生息地点が10以下。生息地が局地的で、一つの水系内でも生息する地点は限定される。環境が良好な溪流の指標種となりえる。

【種概要】 体長2.5 mm。河川上流下部の清流に生息する。岩陰など水流が緩やかになった部分に垂れ下がったナルコスゲやタケ類の根、水面に浮かんだ落葉落枝がたまった中などにいることが多い。

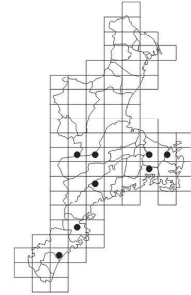
【分布】 日本固有種。北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島、種子島。県内では菰野町（湯の山）、津市（雲出川）、大紀町（大内山川）、伊勢市（島路川、五十鈴川、横輪川）、南伊勢町（伊勢路川）、尾鷲市（中川）、熊野市（井戸川）で確認されている。

【現況・減少要因】 紀伊山地に源を発する河川上流域の産地は現存しているが、1950年代に記録がある菰野町湯の山では再発見することができなかった。ダム建設、河川改修などによる生息地の消失、生息地上流の森林伐採や道路工事などともなう水質汚濁などが本種の生息にとって脅威となるものと思われる。

【保護対策】 生息が確認された地点、およびその上流域では河川改修などを行わないこと。森林伐採や道路工事などにも配慮が必要である。

【文献】 21, 127, 128, 202, 283, 361.

(秋田勝己)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

DD

キボシツブゲンゴロウ

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

Japanolaccophilus nipponensis (Kamiya)

【選定理由】 既知の生息地点が10以下。生息地が局地的で、一つの水系内でも生息する地点は限定される。環境が良好な溪流の指標種となりえる。

【種概要】 体長3.0~3.2 mm。後翅が退化しており、飛翔することができない。河川上流下部の清流に生息する。岩陰など水流が緩やかになった部分に垂れ下がったナルコスゲやタケ類の根、水面に浮かんだ落葉落枝がたまった中などにいることが多い。晩夏から秋に新成虫が出現し、初夏まで生存する。冬季は水中に見られない。

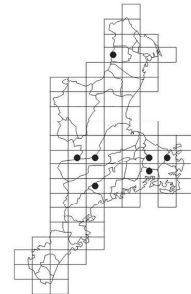
【分布】 北海道、本州、四国、九州、対馬、朝鮮半島。県内では菰野町（三滝川）、津市美杉町（雲出川）、大紀町大内山（大内山川）・大宮（藤川）、伊勢市（島路川、五十鈴川、横輪川）、南伊勢町南勢（伊勢路川）で確認されている。

【現況・減少要因】 ダム建設、河川改修などによる生息地の消失、生息地上流の森林伐採や道路工事などともなう水質汚濁などが減少の要因である。

【保護対策】 生息が確認された地点、およびその上流域では河川改修や森林伐採を行わないこと。道路工事などにも配慮が必要である。

【文献】 127, 128, 202, 282, 306, 347, 361.

(秋田勝己)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

テラニシセスジゲンゴロウ

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

Copelatus teranishii Kamiya

【選定理由】 既知生息地点が5以下である。

【種概要】 体長4.8~5.5 mm。河川敷などの荒地に一時的にできた水たまりなど、不安定な水域に生息する。

【分布】 日本固有種。本州、九州。三重県では四日市市、津市、紀北町で記録がある。

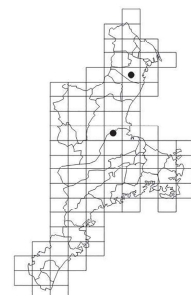
【現況・減少要因】 荒地的な環境は、基本的に維持されることがない。河川敷の荒地は河川が頻繁に洪水を起こすことによって維持されるものであるが、近年は、上流にダムが作られて、洪水が起きる頻度が減少し、そういった荒地が少なくなった。また、河川の改修などによって広い河原自体がほとんどなくなってしまった。

【保護対策】 これ以上ダムを作ったり、河川の改修を進めたりしないことである。常に不安定な環境を渡り歩く種であるために、その保全は非常に難しいものと思われる。

【特記事項】 *Copelatus*属の同定は非常に難しく、特に古い記録のなかには他種と混同しているものも多いものと思われる。

【文献】 12, 280.

(秋田勝己)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

クロゲンゴロウ

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

Cybister brevis Aube

【選定理由】既知の生息点数は20以下。以前は広く分布していたと思われるが農薬散布、圃場整備、池沼、湿地の埋め立てや護岸工事などによって減少している。

【種概要】体長20～25 mm。成虫は卵形で緑色から褐色を帯びた黒色である。前胸背板から上翅にかけての側縁部は淡黄色に縁取りはない。平地から低山地にかけての水生植物の豊富な池沼、湿地やその付近の水田などに生息。

【分布】本州、四国、九州。三重県ではいなべ市、菰野町、鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市、多気町、志摩市、南伊勢町。

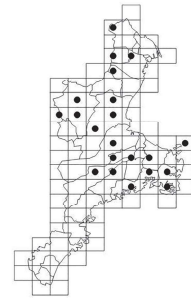
【現況・減少要因】ため池の消失、圃場整備、開発、農薬や生活排水などの汚染、侵略的外来種（アカミミガメ、コイ、ウシガエル、アメリカザリガニなど）の捕食圧と水生植物などへの被害による消失、またアメリカザリガニは水質、底泥も悪くし水生植物の再生をも阻んでいる。

【保護対策】侵略的外来種を侵入させない。侵入したら排除をする。また、汚水を流入させず水生植物が豊富な状態に復元させる。玉城町のビオトープでは清し有田佐田沖環境保全会によるアメリカザリガニの定期的駆除により本種が多く復活できた事例もある。

【文献】90, 300, 361, 374, 390, 394, 463.

(乙部 宏)

(写真：玉城町、2022年、乙部宏採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

コガタガムシ

コウチュウ目 ガムシ科

Hydrophilus bilineatus cashimirensis Redtenbacher

【選定理由】既知産地は20以下。止水域の水位の浅い水草豊富な湿地、水田、放棄水田などで見られる。全国的に減少傾向である。

【種概要】体長23～28 mm。体色は背面、腹面ともに黒く艶があり腹面には微毛に覆われている。ガムシに比べ一回り小さく後胸腹板に長い突起があることで他の種と区別ができる。灯火にも飛来する。

【分布】北海道、本州、四国、九州、南西諸島。三重県では菰野町、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、松阪市、多気町、鳥羽市、志摩市で記録されている。

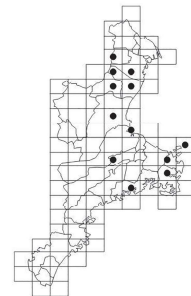
【現況・減少要因】圃場整備や池沼の護岸工事による水辺の移行帯の崩壊や埋め立て、農薬や生活污水などによる水質悪化による水草類の消滅や侵略的外来種の侵入などの影響が高い。

【保護対策】生息地の環境保全を行い、生活污水や薬剤などの流入を防ぎ、侵略的外来種は駆除する。

【文献】91, 98, 99, 260, 261, 268, 463.

(乙部 宏)

(写真：多気町、2023年、乙部宏採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

ミヤタケダルマガムシ

コウチュウ目 ダルマガムシ科

Hydraena miyatakei M. Satô

【選定理由】既知生息地が5未満。生息環境の悪化が懸念される。

【種概要】体長1.4～1.6 mm。植物が多い浅い湿地で見られる。

【分布】北海道、本州、四国、九州、南西諸島。朝鮮半島、中国北部、ロシア沿海州。三重県では、四日市市、南伊勢町で記録されるほか、伊賀市で確認されている。

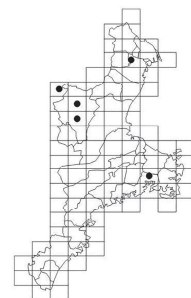
【現況・減少要因】四日市市の記録は1980年の記録で現在の状況は不明。伊賀市の現存生息地は、いずれも集水域に耕作地や民家などが無い山間の湿地や溜池で、アメリカザリガニは未侵入。農薬などには非常に弱いものと考えられ、本種の生息が確認されるまでに、殆どの生息地は消失してしまっていたものと考えられる。

【保護対策】アメリカザリガニの駆除と生息地周辺での農薬の不使用が求められる。

【特記事項】微小なうえに動きが緩慢であるために、発見が困難な種である。

【文献】432, 502.

(秋田勝己)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

コクロシデムシ

コウチュウ目 シデムシ科

Ptomascopus morio Kraatz

【選定理由】 既知生息点数は50以下。かつては平野部から山間部にかけて生息していたと考えられるが近年減少している。

【種概要】 体長8～12 mm。上翅がやや短く腹部が長く見えるためハネカクシ類にも似ている。体長は艶のある黒色で腹部には微毛に覆われている。夏季に出現し動物の死体に集まる自然界の掃除屋スカベンジャーであり灯火にも飛来する。

【分布】 北海道、本州、伊豆諸島、佐渡、四国、九州。三重県下では鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、大台町、伊勢市、度会町、大紀町、尾鷲市、熊野市。

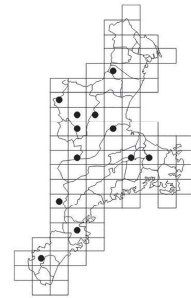
【現況・減少要因】 生息地の開発などもあるが原因は不明である。

【保護対策】 生息状況の調査と生息地の保全が急務である。

【文献】 42, 68, 81, 89, 98, 185, 186, 217, 257, 260, 261, 285, 306, 329, 357, 358, 359, 371, 391.

(乙部 宏)

(写真：松阪市，2018年，乙部宏採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

キンキコリクワガタ (トウカイコリクワガタ近畿亜種) *Platycerus takakuwai akitai* Fujita

コウチュウ目 クワガタムシ科

【選定理由】 分布は広いが山地に限られ、局地的である。シカの食害等による減少が懸念される。

【種概要】 体長8～12 mm。関東地方南部、中部地方、近畿地方、四国の一部に分布するトウカイコリクワガタ *Platycerus takakuwai* Fujita の亜種で、分布域は北陸地方、近畿地方と四国の限られた地域である。主としてブナ林等の冷温帯広葉樹林に生息する。成虫は秋季にホストの腐朽材中で羽化し、春季に脱出して活動する。

【分布】 県内では鈴鹿山脈、台高山脈等の山岳地帯に局地的に分布する。鈴鹿山脈に分布するものと台高山脈に分布するものとはミトコンドリア遺伝子が分化している。

【現況・減少要因】 幼虫は主として地表の細く柔らかい広葉樹の腐朽材（白色腐朽、軟腐朽）に穿孔している。シカの食害によって地表が乾燥し、好適な条件の腐朽材が減少し、踏みつけによる破壊もおこっている。度会町の産地は風力発電設備の設置以降、生息が確認できなくなっている。

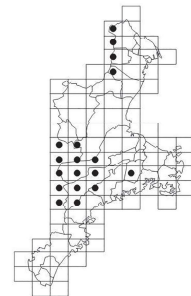
【保護対策】 冷温帯落葉広葉樹林の保全が必須であり、風力発電設備の設置等による影響も考慮する必要がある。また、シカの個体数管理を適切に行う必要がある。

【特記事項】 タイプ産地は宮川村（旧）父ヶ谷。

【文献】 171.

(久保田耕平)

(写真：松阪市，2006年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヘリトゲゴブスジコガネ *Trox mandli* Balthasar

コウチュウ目 コガネムシ科

Trox mandli Balthasar

【選定理由】 既知の生息地点は5以下である。県内においては生息地は非常に局所的である。

【種概要】 体長5.1～6.9 mm。春に出現し、全国的には河川敷や人里近くに残された緑地で、猛禽類のペリットやキツネの糞に含まれている毛や軟骨を食べる。三重県においては分布の状況が少し違う。

【分布】 北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、シベリア（東部）に分布する。県内では、鈴鹿山系（北部）、青山高原、松阪市堀阪山などで記録されている。その中で青山高原は比較的多く確認されているが、それ以外の記録はわずかである。

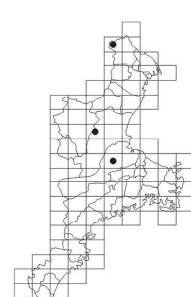
【現況・減少要因】 最も生息数の多い青山高原では、風力発電施設の増設で減少が危惧される状況である。今回の調査では最大の生息地である青山高原で確認できなかった。山頂部のススキが原に生息していたが風力発電施設の拡大により生息域が狭くなったようだ。

【保護対策】 生息地の保全。生息地での調査を行い、開発には最大の配慮をすべきである。

【文献】 26, 313, 371.

(稲垣政志)

(写真：津市，2003年，稲垣政志採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミヤマダイコクコガネ

コウチュウ目 コガネムシ科

Copris pecuarius Lewis

【選定理由】既知の生息地点数は10以下であり、山地の自然林が良好に保たれた環境に生息している。

【種概要】体長17.0～24.2 mm. 林内の鹿糞を好むが、放牧地から見つかることも多い。新鮮な鹿・牛の糞に集まる。夜行性で灯火に集まる。8～9月に個体数が増える。

【分布】本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、シベリア北部。県内では鈴鹿山系（いなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市）と台高山系（大台町宮川、紀北町海山区）。

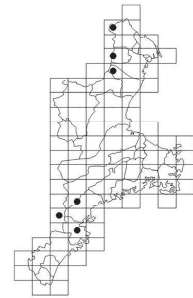
【現況・減少要因】自然林の伐採による減少や林道の開通による森林の乾燥化により減少している。

【保護対策】現在残っている自然林をできるだけ保全することと、増えすぎた鹿の頭数調整が必要である。

【文献】20, 49, 51, 147, 175, 229, 391.

(稲垣政志)

(写真：亀山市，2001年，稲垣政志採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

コスジマグソコガネ

コウチュウ目 コガネムシ科

Aphodius lewisii Waterhouse

【選定理由】既知の生息点数は5以下。全国的にも分布が限られており、県内においても極限されている。

【種概要】体長3～4 mm. 成虫は暗褐色で成虫，幼虫ともに獣糞を食し灯火にもよく集まる。

【分布】本州、四国、九州，種子島，奄美大島。三重県では津市，松阪市，多気町で記録されている。

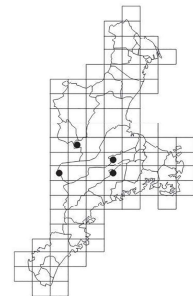
【現況・減少要因】ニホンジカなど増殖し糞は多くあるが本種の記録は少ない。小型種であるため発見が困難であるが精度の高い調査が進めばカテゴリーが下がる可能性もある。

【保護対策】生息地の環境保全。

【文献】119, 528.

(乙部 宏)

(写真：松阪市，2022年，稲垣政志採集・撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヌバタママグソコガネ

コウチュウ目 コガネムシ科

Aphodius brevisculus (Motschulsky)

【選定理由】既知の生息地点は5以下である。これまでに県内で1か所で1頭が採集されただけであったが今回の調査で追加採集できた。

【種概要】体長4～6 mm. 山地から平地にかけての林内からオープンランドにかけて幅広く生息する。新鮮な牛・鹿・サルなどの糞に集まる。春季に個体数を増す。

【分布】北海道，本州，四国，九州，対馬。国外では濟州島，朝鮮半島。県内では松阪市飯高町の1か所のみで採集されている。

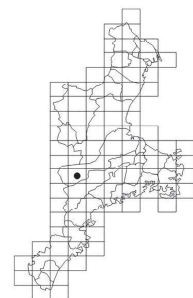
【現況・減少要因】隣県である奈良県奈良公園や岐阜県などでは，春季に多くの個体が観察できるが，当県での生息密度は極めて少ない。

【保護対策】生息地の保全と自然林の保護が必要である。

【文献】111.

(稲垣政志)

(写真：松阪市，2022年，稲垣政志採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

EN

環境省 2020

—

ヒメスジマグソコガネ

コウチュウ目 コガネムシ科

Aphodius hasegawai Nomura et Nakane

【選定理由】既知の生息地点数は5以下。県内ではこれまでに2例の記録があるのみである。

【種概要】体長3.0~4.3 mm。光沢の鈍い黒色。時に上翅が赤褐色となる。春季に個体数を増す。山地の林内のサル糞で見つかることが多いが、雑食性もあり動物の遺体や猛禽類のペリットでも見つかることがある。

【分布】本州，四国，九州。日本固有種。県内では多気郡大台町大杉谷と松阪市飯高町蓮の2か所のみで記録されている。

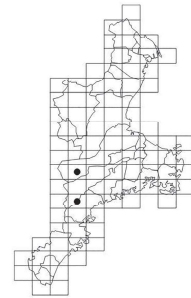
【現況・減少要因】県内での生息数が非常に少ない。今回の調査でも少数の個体が採集できたので非常に生息数は少ないが今の環境さえ維持できれば絶滅は免れそうだ。

【保護対策】生息地の保全。

【文献】111, 287.

(稲垣政志)

(写真：松阪市，2005年，稲垣政志採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ニセマキバマグソコガネ

コウチュウ目 コガネムシ科

Aphodius morii Nakane

【選定理由】県内では大台山系でのみ記録されており，生息地は極めて限局的である。

【種概要】体長4.5~6.8 mm。光沢のやや弱い黒褐色。晩夏から秋にかけて個体数を増す。標高1,000~2,500 m付近での採集例が多い。林内の新鮮な鹿糞から見つかる。

【分布】本州，四国，日本固有種。県内では大台ヶ原でのみ記録されている。

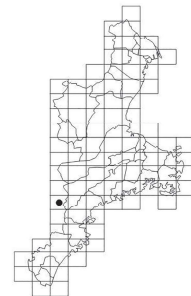
【現況・減少要因】標高の高い大台ヶ原のきわめて限局した地域のみで見つかっている。生息環境の変化，特に鹿による林床植物への食害による林床の乾燥化のための生息条件の悪化が目立つ。

【保護対策】生息地の保全。増えすぎた鹿の頭数を適正に調整すること。

【文献】104.

(稲垣政志)

(写真：大台町，1984年，生川展行採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヤマトケシマグソコガネ

コウチュウ目 コガネムシ科

Leiopsammodius japonicus (Harold)

【選定理由】既知の生息地点5以下。生息環境が悪化し，近年の減少が著しい。

【種概要】体長3.5~4.7 mm。海岸の砂浜に生息する。海藻や流木，漂着物の下から見つかることが多い。4~5月の暖かい日に群飛することがある。

【分布】北海道，本州，四国，九州，対馬。県内では四日市市，鈴鹿市，津市，松阪市の海岸で確認されている。

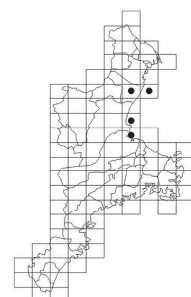
【現況・減少要因】護岸工事や浸食による砂浜の狭小化が進行しており，危機的な状況にある生息地が多い。また，砂浜への車両の乗り入れ，必要のない過度な海岸清掃は本種にとっては生息の脅威となっている。

【保護対策】残された自然砂浜海岸に開発行為を行わないこと。

【文献】62, 70, 147, 223.

(稲垣政志)

(写真：鈴鹿市，2006年，生川展行採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔藓類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

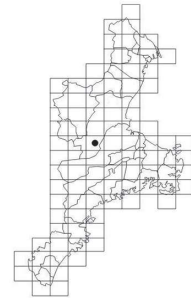
シコクチャイロコガネ
Sericania shikokuana Nakamura

コウチュウ目 コガネムシ科

【選定理由】 既知の生息地点は1地点であり1989年以後の記録がない。
 【種概要】 体長9.0~13.0 mm. 背面は黒褐色~暗赤褐色. 腹面は暗赤褐色. 脚部を除いてすす状のつや消しである.
 【分布】 県内では津市美杉町平倉演習林のみで記録されている. 国内では本州(紀伊半島), 四国に分布し日本固有種である.
 【現況・減少要因】 紀伊半島の台高山系と紀伊山系の1,000 m以上の山岳地帯からは記録があるが三重県では平倉演習林のみでの記録しかなく, 今回の調査でも大台ヶ原の特別保護区の三重県側の調査では得られなかった.
 【保護対策】 平倉演習林の現状の調査と演習林の保護が必要である. 同時に他の地域での生息調査も必要である.
 【文献】 255.

(写真: 津市, 1980年, 島地岩根採集)

(稲垣政志)



三重県 2025
VU
三重県 2015
—
環境省 2020
—

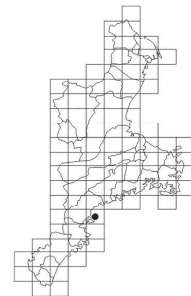
コバヤシチャイロコガネ
Sericania kobayashii Nomura

コウチュウ目 コガネムシ科

【選定理由】 既知の生息地点は1地点である。
 【種概要】 体長9.5~10.5 mm. 背面は黒褐色~赤褐色, 背面は♂で絹状のつや消し, ♀は鈍い光沢がある. オオヒラチャイロコガネに似るが後腿節の前縁が鋸歯状にならず, 腹節の刺毛が中央部にも存在することで区別できる.
 【分布】 尾鷲市須賀利.
 【現況・減少要因】 尾鷲市の照葉樹林の林床の落ち葉ふるいで採集された1例のみの記録である. 原記載の和歌山県護摩壇山と奈良県荒神山以外での記録はほとんどない. きわめて限局的な生息状況である.
 【保護対策】 熊野灘沿岸照葉樹林を今後とも守ってゆくべきである.
 【文献】 418.

(写真: 尾鷲市, 2020年, 横関秀行採集)

(稲垣政志)



三重県 2025
VU
三重県 2015
—
環境省 2020
—

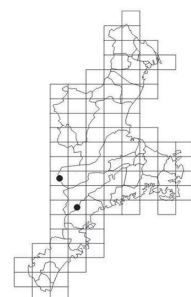
ホソチャイロコガネ
Sericania elongata Nomura

コウチュウ目 コガネムシ科

【選定理由】 既知の生息地点は2地点である. 大台山系の標高の高い一部の地域のみで生息する.
 【種概要】 体長8.5~11 mm. 地色は黄褐色で上翅の隆条部は黒褐色, 腹面は黒褐色~暗赤褐色. 背面は金属色を帯びる.
 【分布】 県内では記載に使用された多気郡大台町大杉谷と松阪市飯高町明神平の2地点で記録されている. 日本固有種で本州(近畿地方以西), 四国に分布する.
 【現況・減少要因】 近年になって1976年の記載で三重県の個体が使用されて以来初めて生息が再確認された. 大台山系の標高の高い自然林にのみ生息する. 極めて生息密度の少ない種である.
 【保護対策】 大台山系の自然林の保護. 特に大規模風力発電などのための自然林の伐採などをしないこと.
 【文献】 419, 420.

(写真: 松阪市, 1999年, 横関秀行採集)

(稲垣政志)



三重県 2025
VU
三重県 2015
—
環境省 2020
—

アカマダラハナムグリ
Poecilophilides rusticola (Burmeister)

コウチュウ目 コガネムシ科

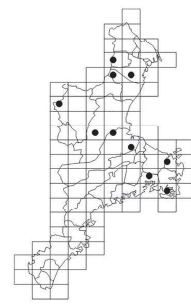
哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

【選定理由】生息地が局限され、個体数も少ない。近年の減少が著しい。
 【種概要】体長14～20 mm。低山地や丘陵地の雑木林に生息する。晩夏に新成虫が出現し、翌夏まで生存する。成虫はクヌギなどの樹液に來集する。幼虫はワシタカ類など大型鳥類の巣から発見され、古くなった巣材、食べ残しの死骸やペリットを食べているらしい。
 【分布】本州、四国、九州。濟州島、朝鮮半島、シベリア東部、中国、モンゴル。県内では四日市市、菰野町、鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市、伊勢市、玉城町、鳥羽市、志摩市などで確認されている。
 【現況・減少要因】1980年代以前の記録が多く、最近の確認例は少ない。本種の減少は、良好な里山の荒廃、狭小化とそれに伴う鳥類類の生息数の減少が深く関与しているはずである。
 【保護対策】まず、ワシタカ類をはじめとする多くの鳥類が生息できる里山を保全することである。また、成虫が來集するクヌギの多い雑木林の維持管理も必要であろう。
 【文献】129, 180, 194, 263, 299, 300, 442, 496。

(秋田勝己)



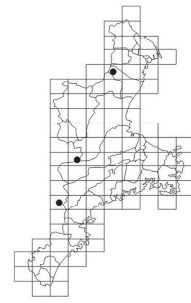
三重県 2025	VU
三重県 2015	NT
環境省 2020	DD

ミヤマオオハナムグリ
Protaetia lugubris insperata (Lewis)

コウチュウ目 コガネムシ科

【選定理由】既知の生息地点5以下。生息地が局限され、個体数も少ない。
 【種概要】体長19～23 mm。自然度の高い落葉広葉樹林に生息する。成虫はミズナラなどの樹液やリョウブ、ノリウツギなどの花に來集する。幼虫はミズナラ、ブナ、イタヤカエデなどの樹洞底部に堆積した腐植土を食する。
 【分布】北海道、本州、四国、九州。サハリン。三重県では鈴鹿山脈（亀山市）、紀伊山地（津市、大台町）で確認されている。
 【現況・減少要因】本種の生息には、樹洞をもつ大木を多く含む自然度の高い落葉広葉樹林が必要不可欠である。しかし、過去の伐採によりそのような森林はわずかしが残されていない。また、近年ニホンジカの食害により森林の乾燥化が進行したことも本種の生息には脅威となっている。
 【保護対策】ニホンジカの個体数管理を含む落葉広葉樹林の保全。
 【文献】11, 100, 107。

(秋田勝己)



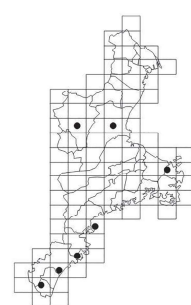
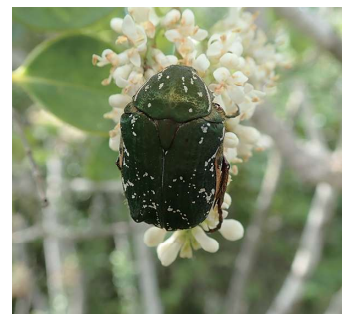
三重県 2025	VU
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

キョウトアオハナムグリ
Protaetia lenzi (Harold)

コウチュウ目 コガネムシ科

【選定理由】既知の生息地点数は10以下。本種はシイ、カシ類の古木が残る森に生息する。全国的にも分布は限られている。
 【種概要】体長20～24 mm。上翅は♂で黄緑色の被覆物で覆われ光沢を欠き♀は強い光沢のある緑銅色で翅端は尖らない。幼虫はシイなどの根際の腐植部分を食し、成虫は夏に出現する。樹冠を活発に飛翔し、広葉樹の樹液や果実、花に集まる。
 【分布】本州、四国、九州および周辺離島。県内では津市、伊賀市、松阪市、伊勢市、紀北町、熊野市、紀宝町。
 【現況・減少要因】湿潤な照葉樹林の保全。森林の一部が伐採されただけでも、森全体が乾燥してしまい生息できなくなる。
 【保護対策】生息地の調査と生息環境の保全が必要であり、森林内の小規模伐採でも配慮が必要である。
 【文献】26, 89, 194, 258, 263, 372, 527。

(乙部 宏)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

(写真：伊勢市，2021年)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

オオヒラタハナムグリ
Neovalgus fumosus (Lewis)

コウチュウ目 コガネムシ科

【選定理由】 既知の生息地点数は5以下。三重県では中部地域の山間部に限られており、低山から山地にかけて分布しているが倒木や古木の樹洞などを利用するため生息環境に限られる。

【種概要】 体長7~10 mm。全体に黒色で♂は上翅前半と尾節板に鱗毛からなる黄色紋がある。♀は上翅中央部に僅かながら鱗毛の白色紋があり尾節板先端にトゲ状突起がある。晩春から夏季に出現し♂は各種の花に集まるが♀は稀である。

【分布】 本州、四国、九州。県内では津市、松阪市。

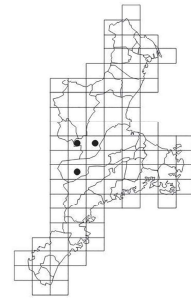
【現況・減少要因】 湿潤な自然林の減少や樹洞のある古木の伐採撤去。

【保護対策】 生息地の自然林の保全。近年歩道近くの樹洞がある倒壊の恐れのある古木などが伐採撤去される時があるが伐採しても一部は残すなどの手法をとる。そのような配慮が樹洞を利用する多くの生物の保全にもつながる。

【文献】 98, 187.

(乙部 宏)

(写真：津市，2023年)



三重県 2025
VU
三重県 2015
—
環境省 2020
—

クロマダラタマムシ
Nipponobuprestis querceti (E.Saunders)

コウチュウ目 タマムシ科

【選定理由】 既知の生息地点数5以下である。平地から里山にいたるエノキの古木でみられるが個体数が少ない。

【種概要】 体長17~28 mm。成虫は5~7月にかけて出現し、エノキの古木にみられる。幼虫はエノキ生木の枯死部に穿孔する。

【分布】 本州（関東以西）、四国、九州。中国。県内では津市、伊賀市、名張市、松阪市、明和町、玉城町、伊勢市で確認されている。河川敷や段丘崖のほか、一里塚、城跡などにある特定のエノキ古木である。

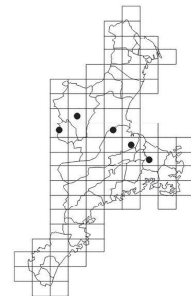
【現況・減少要因】 河川敷などのエノキ古木は少なくなり、人里のエノキ古木も枯死、伐採されたり、幼虫が食入する太い枝も危険回避の名目で除去されたりしてしまふことが多くなった。

【保護対策】 河川の改修に伴う河畔林の伐採をおこなわないこと。また、本種が発生しているエノキ古木の枯枝などはなるべくならそのままにしておくことが望ましい。

【文献】 12, 89, 177, 284, 340, 476.

(秋田勝己)

(写真：津市，2022年，乙部宏撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

クロコモンタマムシ (ヤノコモンタマムシ)
Poecilnota variolosa Thery

コウチュウ目 タマムシ科

【選定理由】 既知生息地点が5未満。生息基盤が脆弱である。

【種概要】 12~17 mm。成虫は5~7月に出現し、日当たりのよいヤマナラシの生木に集まる。幼虫は肥厚した樹皮に穿孔する。成虫の時期に幼虫がみられることから、成虫になるまで2年を要するものと思われる。全国的に記録が少ない。

【分布】 北海道、本州。朝鮮半島、中国北部、ロシア沿海州、ヨーロッパ。三重県では、伊賀市から記録される。

【現況・減少要因】 西日本亜種 *yanoi* は、三重県産と推定される標本をもとに記載されたものであるが、詳細な産地は不明である。近年、伊賀市の比較的近接する2産地が発見された。いずれも道路法面の小規模なヤマナラシ群落であるが、1か所については、そのほとんどが伐採されてしまい生息地が消失した。その後、伊賀市の別の地点からも発見されたが、発生していたヤマナラシは伐採されてしまった。

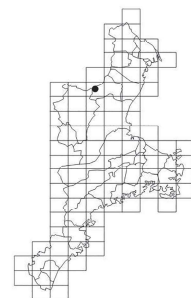
【保護対策】 残されたヤマナラシ群落の保全を図ることである。陽樹であることから、場合によっては下刈りを実施するなどのより積極的な保全策も求められる。

【特記事項】 「三重県」から、記載された亜種 *yanoi* (ヤノコモンタマムシ) は、現在は名義タイプ亜種のシノニムとして扱われる。

【文献】 176, 475.

(秋田勝己)

(写真：伊賀市，2023年，乙部宏撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

トゲフタオタマムシ

Dicerca tibialis Lewis

コウチュウ目 タマムシ科



哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

【選定理由】 既知の生息地点数5以下である。生息範囲は局所的である。

【種概要】 体長10~15 mm. 成虫は夏から秋にかけて羽脱し、スギなどの樹皮下で越冬する。幼虫はモミなどの枯枝に食入する。

【分布】 本州（関東以西）、四国、九州。中国。県内では津市、大台町、伊勢市で確認されている。

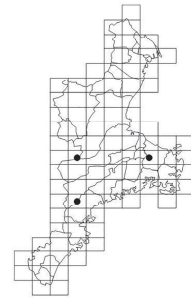
【現況・減少要因】 モミが含まれる自然林に生息する。モミが生える森林は過去の伐採によって、そのほとんどが失われてしまっている。近年の森林伐採はほとんど行われていないが、夏季の極端な高温化やニホンジカの食害による森林の乾燥化は、本種の生息に影響を与えている可能性がある。

【保護対策】 モミが自生する自然林の伐採を行わないことである。

【文献】 2, 12, 52, 150, 177, 255.

(秋田勝己)

(写真：大紀町，2018年，乙部宏撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

アオタマムシ

Eurythrea tenuistriata Lewis

コウチュウ目 タマムシ科



【選定理由】 既知の生息地が5以下である。生息環境が局限される。

【種概要】 体長16~28 mm. 成虫は7~8月に出現。幼虫はモミなどの立ち枯れ材部を食べる。成虫はイヌブナやケヤキの葉を後食することが知られている。

【分布】 日本固有種。本州、四国、九州。三重県では、津市、大台町で記録されている。

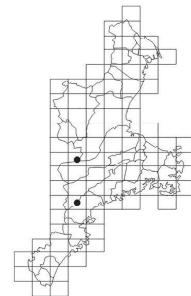
【現況・減少要因】 モミが含まれる自然林に生息する。モミが生える森林は過去の伐採によって、そのほとんどが失われてしまっている。近年の森林伐採はほとんど行われていないが、夏季の極端な高温化やニホンジカの食害による森林の乾燥化は、本種の生息に影響を与えているものと思われる。

【保護対策】 自然林の伐採を行わない。

【文献】 11, 31, 47, 96, 178, 211, 214, 219, 221, 306.

(秋田勝己)

(写真：大台町，2019年，乙部宏撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ホソクリタマムシ

Toxoscelus matobai Toyama

コウチュウ目 タマムシ科



【選定理由】 既知の生息地点は5以下。全国的にも分布が限られており県内においても生息地が局限されている。

【種概要】 体長約4~4.5 mm. 成虫の体色は真鍮色の光沢をもった黒色で上翅に白色毛による波状紋がある。7月ごろ出現し1,000 m前後のブナの古木の葉上にいることが多い。

【分布】 本州、四国、九州。県内では大台町、大紀町で記録されている。

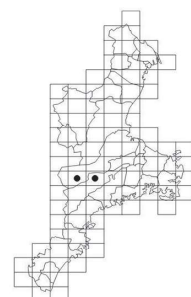
【現況・減少要因】 1,000 m前後のブナ林に限られる。近年の温暖化によりブナが結実しなくなってきた。また発芽してもニホンジカの食害によってブナの再生更新がおこなわれていない。したがって現状の古木が枯死すると絶滅してしまう。

【保護対策】 ブナなどの自然林の保全。ニホンジカの駆除とブナ林の再生を行う。

【文献】 138.

(乙部 宏)

(写真：大紀町，2022年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類

その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

アカガネエグリタマムシ
Endelus pyrrosiae aokii Y.Kurosawa

コウチュウ目 タマムシ科

【選定理由】 既知産地は5地点。シダ類のヒトツバ群落に生息する。全国的にも分布が限られている。

【種概要】 体長約4mm。成虫は赤銅色。秋に新成虫が現れ、そのまま越冬し、春にも成虫が見られる。成虫はヒトツバの表面を削ぐように食害する。

【分布】 本州（中部以西）、淡路島、四国、九州、奄美大島。県内では鳥羽市、南伊勢町、海山町、尾鷲市。

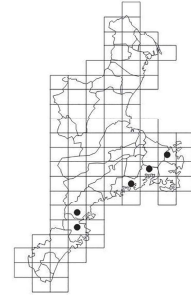
【現況・減少要因】 崖のコンクリート化による消失。小規模な石垣、崖などのヒトツバ群落で発生しているが、他の植物が進入してきており、植物遷移の進行によってヒトツバの群落が衰退し、本種が減少することが危惧される。

【保護対策】 本種の生息する崖や石垣などのヒトツバ群落の保全。

【文献】 292, 526.

(乙部 宏)

(写真：鳥羽市，2017年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

スナサビキコリ
Meristhus niponensis Lewis

コウチュウ目 コメツキムシ科

【選定理由】 既知の生息地点11以下。生息環境が悪化し、近年の減少が著しい。

【種概要】 体長4～5mm。海浜の砂浜に生息し、草本の根元や流木の下などから見出される。灯火に飛来することがある。

【分布】 本州、四国、九州、式根島、淡路島、隠岐島、対馬、志賀島、五島列島、上甕島、下甕島。県内では鈴鹿市鼓ヶ浦海岸、津市海岸町、高茶屋小森町、松阪市松名瀬海岸、伊勢市大湊海岸、鳥羽市浦村町砥谷の浜、千鳥ヶ浜、志摩市阿児町国府白浜、尾鷲市中井浦、三木里、紀宝町井田海岸で記録されている。

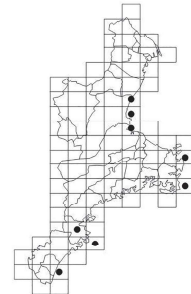
【現況・減少要因】 県内では、砂浜海岸の減少と環境の改変により、生息地域が限定または減少してきている。

【保護対策】 生息地に車両の乗り入れが出来ないように手立てを講じることが急務である。残された生息地では新たな開発行為を行うべきではない。

【文献】 80, 193, 258, 260, 268, 293, 294, 296.

(生川展行)

(写真：鈴鹿市，2006年，草深文哉採集，稲垣政志撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ハマバヒメサビキコリ
Agrypnus miyamotoi miyamotoi (Nakane et Kishii)

コウチュウ目 コメツキムシ科

【選定理由】 砂浜海岸には広く生息していたと思われるが砂浜の衰退と過度な漂着物の清掃活動による撤去で減少している。また後翅も退化しており飛べず移動力も乏しい。

【種概要】 体長6～8mm。上翅は赤褐色であり近似種も数種いる。良好な自然砂浜海岸に生息し砂粒の細かく、やや乾燥気味の自然漂着物や堆積物付近に潜むことが多い。

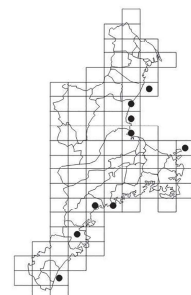
【分布】 本州、四国、九州、南西諸島。三重県では四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、鳥羽市、大紀町、紀北町、尾鷲市、御浜町で記録されているがハマバオヒメサビキコリと混同されている可能性がある。

【現況・減少要因】 生息地に適した砂浜には、現在外来植物や路傍植物の侵入により草原に遷移しつつある。また汀線上の漂着物は本種にとって重要な餌源と隠れ家となっているが重機による漂着物の撤去により大きなダメージを受けている。

【保護対策】 砂浜の外来植物と路傍植物による草原化を食い止める。汀線の漂着物のすべてがゴミではなく人工ゴミ以外の自然漂着物は過度に撤去しない。海から浜へのエコトーンの保全は生物多様性の根幹になる。

【文献】 83, 87, 88, 258, 292, 293, 294, 372.

(乙部 宏)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

オオダイリヒラタコメツキ

コウチュウ目 コメツキムシ科

Actenicerus odaisanus (Miwa)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

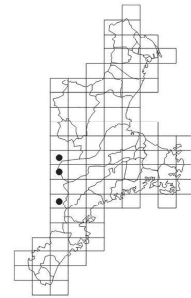
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
苔苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

【選定理由】既知の生息地点数は5以下で、生息環境は限定される。
 【種概要】体長18~20 mm. 背面は光沢の強い緑銅色で非常に美しい。紀伊半島の山岳地域にのみ生息している地域固有種で、ブナ原生林内の明るい場所のササやかん木に見られる。
 【分布】紀伊半島固有種で台高山脈、大峰山脈の標高約1,000m以上の自然林に分布している。県内では松阪市飯高町高見山、明神平、桧塚奥峰、大台町三津河落山、大台ヶ原で記録されている。
 【現状・減少要因】台高山脈のブナの原生林の伐採、スギ・ヒノキの植林の増加により、生息範囲が限られてきていたが、近年は特にシカの食害による下草の激減の影響が深刻化してきている。
 【保護対策】台高山脈に残されたブナの原生林の保全が急務である。
 【特記事項】大台ヶ原の生息地の一部は吉野熊野国立公園の特別保護地区に指定されている。
 【文献】12, 100, 163, 245, 295, 391, 431.

(生川展行)

(写真：松阪市，2022年，生川展行採集，稲垣政志撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

オオマドボタル

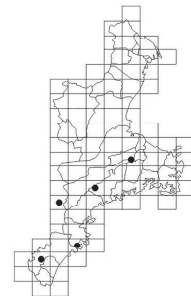
コウチュウ目 ホタル科

Lychnuris discicollis (Kiesenwetter)

【選定理由】既知生息点数は5以下。三重県では中勢地域より南部の限られた地域しか記録がなく生息地が局限されている。
 【種概要】体長9~12 mm. 頭部は前胸に覆われており前部に2か所透明な「窓」がある。全体に黒色で前胸の中央部に淡赤部の斑紋を持ち触角はやや太く扁平。低山からブナ帯下部までの自然林で生息している。昼行性のホタルで林床植物付近を緩やかに飛翔し草上に止まることが多い。幼虫は陸生だが詳しくは解明されていない。
 【分布】本州（中部以西）、四国、九州。三重県下では玉城町、大紀町、大台町、熊野市。
 【現況・減少要因】自然林の減少と林床の乾燥化が幼虫に悪影響を与えている。
 【保護対策】生息状況の調査と生息地の保全が急務である。
 【文献】37, 258, 391, 358.

(乙部 宏)

(写真：大台町，2016年，中西元男採集)



三重県 2025	VU
三重県 2015	—
環境省 2020	—

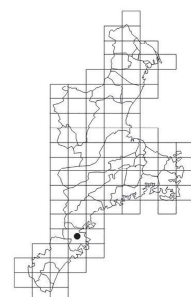
キタヤマクビボソジョウカイ

コウチュウ目 ジョウカイボン科

Asiopodabrus (Asiopodabrus) kitayamaensis Takahashi

【選定理由】既知の生息地が1。生息環境が著しく悪化している。
 【種概要】体長6.6~7.5 mm. 自然度の高い落葉広葉樹林に生息し、5月に記録されている。ジョウカイボン科は、幼虫、成虫ともに捕食性で、幼虫は落葉下に生息する。
 【分布】本州。紀伊山地固有種。三重県では尾鷲市で記録される。
 【現況・減少要因】近年のシカ食害による林床の乾燥化、また夏季の極端な高温傾向は、冷涼湿潤な環境を好む本種にとっては、深刻なダメージを与えているものと考えられる。本種に限らず、クビボソジョウカイ類の全ての種が、近年激減している。
 【保護対策】ニホンジカの個体数調整をすることである。
 【特記事項】紀伊半島固有種。尾鷲市の標本がパラタイプに指定されている。
 【文献】365.

(秋田勝己)



三重県 2025	VU
三重県 2015	DD
環境省 2020	—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

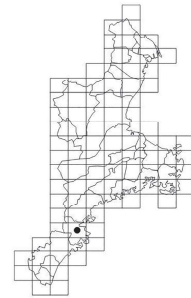
オワセクビボソジョウカイ

コウチュウ目 ジョウカイボン科

Asiopodabrus (Asiopodabrus) owasensis Takahashi

【選定理由】 既知の生息地が1. 生息環境が悪化している。
 【種概要】 体長6.5~8.1 mm. 自然度の高い広葉樹林に生息し、5月に記録されている。ジョウカイボン科は、幼虫、成虫ともに捕食性で、幼虫は落葉下に生息する。
 【分布】 本州。紀伊山地固有種。三重県では尾鷲市で記録される。
 【現況・減少要因】 近年のシカ食害による林床の乾燥化、また夏季の極端な高温傾向は、冷涼湿潤な環境を好む本種にとっては、深刻なダメージを与えているものと考えられる。本種に限らず、クビボソジョウカイ類の全ての種が、近年激減している。
 【保護対策】 ニホンジカの個体数調整をすることである。
 【特記事項】 紀伊半島固有種。尾鷲市の標本がパラタイプに指定されている。学名・和名ともに尾鷲に因む。
 【文献】 365.

(秋田勝己)



三重県 2025
VU
三重県 2015
DD
環境省 2020
—

ルリキオビジョウカイモドキ

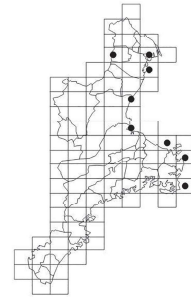
コウチュウ目 ジョウカイモドキ科

Intybia takaraensis (Nakane, 1955)

【選定理由】 既知の生息地点数は10以下で、生息環境が限定される。
 【種概要】 体長2.7~3.4 mm. ルリ色で、雄の触角は特異な形をしている。自然度の高い砂浜の海岸や、河口のヨシ原に生息している。
 【分布】 本州、九州、トカラ列島、国外ではロシア、韓国に分布。県内では四日市市富田、吉崎海岸、菰野町菰野、鈴鹿市鼓ヶ浦海岸、磯山海岸、松阪市松名瀬海岸、伊勢市二見町神前海岸、鳥羽市砥谷の浜、志摩市阿児町国府白浜で記録されている。
 【現況・減少要因】 県内では、8ヶ所で記録されているだけで、個体数は少ない。
 【保護対策】 自然度の高い砂浜の海岸や河口のヨシ原の保全が急務である。
 【文献】 88, 91, 232, 260, 307, 375, 427, 432.

(生川展行)

(写真：鈴鹿市，2006年，石崎優太採集，稲垣政志撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

イソジョウカイモドキ

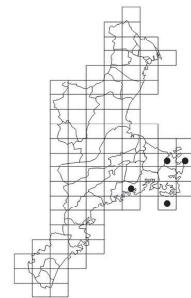
コウチュウ目 ジョウカイモドキ科

Laius asahinai Nakane

【選定理由】 全国的に生息地が限定されており、三重県での既知の生息地も4か所だけで、自然環境の改変による個体数の減少が危惧される。
 【種概要】 体長4 mm前後。黒青色で♂の触角は第2節が大きく特異な形をしている。岩礁地帯に見られる。
 【分布】 本州、伊豆大島、三宅島、八丈島、巖島、隠岐島、四国、九州、屋久島、種子島。県内では鳥羽市安楽島海岸、老ノ浜、国崎、菅島、志摩市志摩町和具大島、和具広ノ浜、南伊勢町塩竈浜で記録されているだけである。
 【現況・減少要因】 現時点では、生息地の大きな環境の改変はみられない。
 【保護対策】 生息地の海岸の保全が急務である。
 【文献】 267, 268, 432, 433.

(生川展行)

(写真：鳥羽市，2007年，生川展行採集，稲垣政志撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
DD

オオキノコムシ

コウチュウ目 オオキノコムシ科

Encaustes cruenta praenobilis Grouvelle

【選定理由】 既知の生息地点数は6地点以下で、生息環境は限定される。

【種概要】 体長16~36 mm. 日本のオオキノコムシ科の中では最大の種で、ブナの自然林の立枯木や倒木に生えたサルノコシカケ類に集まる。

【分布】 北海道、本州、四国、九州に分布。県内では津市美杉町平倉演習林、若宮八幡宮、松阪市飯高町明神岳、大紀町南赤山、大台町迷岳、大台ヶ原で記録されている。

【現状・減少要因】 ブナの自然林の減少と共に、生息域が狭められてきている。

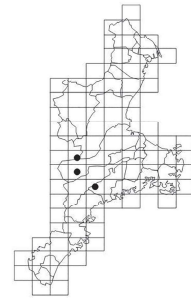
【保護対策】 県内に残されたブナの自然林の保全が急務である。

【特記事項】 今後台高山脈に残されたブナの自然林の調査が進めば、新たな生息地が発見される可能性がある。

【文献】 48, 182, 219, 226, 242, 260, 306, 434.

(生川展行)

(写真：大紀町，1995年，生川展行採集，稲垣政志撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ルリヒラタムシ

コウチュウ目 ヒラタムシ科

Cucujus mniszewski Grouvelle

【選定理由】 既知の生息地点数は5地点以下で、生息環境が限定され、個体密度も低い。

【種概要】 体長20~27 mm. 非常に扁平で細長く、黒色で上翅はルリ色、日本のヒラタムシ科では最大の種である。

【分布】 北海道、狸峠、本州、四国、九州、対馬に分布。県内では松阪市飯高町明神平、大台町父ヶ谷、大台ヶ原で記録されている。

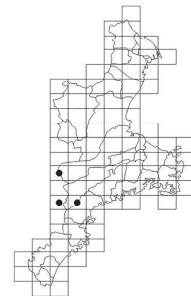
【現状・減少要因】 全国的に記録の少ない種で、台高山脈のブナの原生林内の倒木や立枯木の樹皮下に生息しているが、ブナの原生林の減少とともに生息域が狭められている。

【保護対策】 台高山脈に残されたブナの原生林の保全が急務である。

【文献】 37, 247, 270.

(生川展行)

(写真：松阪市，1999年，生川展行採集，稲垣政志撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

アトコブゴミムシダマシ

コウチュウ目 コブゴミムシダマシ科

Phellopsis suberea Lewis, 1887

【選定理由】 全国的に記録は少なく、既知の生息地点数は2地点のみである。

【種概要】 体長14~21 mm. 日本のコブゴミムシダマシ科の中では最大の種で、ブナの自然林の立枯木や倒木に生えたサルノコシカケ類に集まる。

【分布】 本州・壱岐、四国・九州。県内では津市美杉町平倉演習林と尾鷲市古和谷で、記録されているだけである。

【現状・減少要因】 津市美杉町の三重大学演習林では特に大きな環境の変化はない。

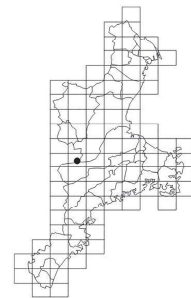
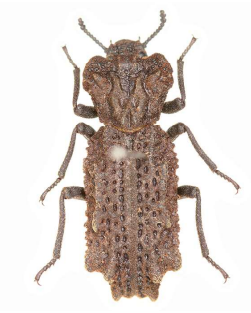
【保護対策】 台高山脈のブナの原生林の保護が急務である。

【特記事項】 今後調査が進めば、台高山脈のブナの原生林が残っている地域から発見される可能性が高い。

【文献】 12, 219, 306, 435.

(生川展行)

(写真：津市，1988年，生川展行採集，稲垣政志撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

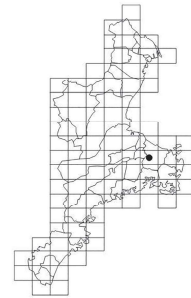
クロホシクチキムシ

コウチュウ目 ゴミムシダマシ科

Pseudocistela haagi Harold

【選定理由】 既知生息地点が1. 生息環境が脆弱である。
 【種概要】 体長7.0~10.1 mm. 大木の樹洞で発生する. 成虫は5~6月に出現し, 発生木の葉上や周辺で見ることが多い.
 【分布】 日本固有種. 本州, 四国, 九州. 三重県では伊勢市から記録される.
 【現況・減少要因】 伊勢市では神社にあるケヤキ大木の樹洞周辺で発見されていたが, 2000年代になってからは確認されていない. 現在, その発生木は枯死してしまい存在しない. 他県では平野部の社寺林のほか, 山地の自然林でも発見されているので, 今後, 紀伊山地などからも発見される可能性は高いものと思われる.
 【保護対策】 今後, 発見が期待される自然林の伐採を行わないことである.
 【文献】 12, 160, 458.

(秋田勝己)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

テントウゴミムシダマシ

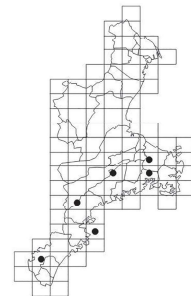
コウチュウ目 ゴミムシダマシ科

Leiochrinus satzumae Lewis

【選定理由】 照葉樹の自然林に生息し, 全国的に生息地は限られている. 県内の既知の生息地点数は5以下である.
 【種概要】 体長3.8~4.5mm. 体は黄褐色で光沢があり, 体型は半球状. 照葉樹林の自然林に生息しており, 成虫で越冬する.
 【分布】 本州, 四国, 九州, 対馬, 種子島. 国外ではインドシナに分布. 県内では伊勢市神宮林, 大紀町滝原, 大台町大杉谷, 尾鷲市九木崎, 熊野市紀和町木津呂で記録されている.
 【現況・減少要因】 伊勢市神宮林や大紀町滝原では神社林として保全されており多産するが, 他の生息地では個体数は少ない.
 【保護対策】 既産地の照葉樹自然林の保護が必要である.
 【文献】 12, 32, 37, 86, 244, 357.

(生川展行)

(写真: 伊勢市, 2002年, 生川展行採集, 稲垣政志撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

オカモトツヤアナハネムシ

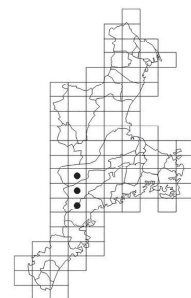
コウチュウ目 アカハネムシ科

Pedilus okamotoi (Kôno, 1935)

【選定理由】 全国的に記録は少なく, 既知の生息地点数は10地点以下である.
 【種概要】 体長7.6~9.5 mm. 雄は上翅後方に特異な彫刻がある. 5月下旬~6月中旬に, ブナの原生林の林床を飛んでいる個体や, 下草に止まっている個体が見られる.
 【分布】 本州・四国・九州に分布. 県内では, 松阪市飯高町高見山, 木谷谷川, 青田, 大台町宮川広クリ谷, 父ヶ谷, 三津河落山で記録されている.
 【現況・減少要因】 台高山脈のブナ, ミズナラの原生林の伐採, スギ・ヒノキの植林の増加により, 生息範囲が減少していたが, さらに近年は特にシカの食害による下草の激減の影響が深刻化してきている.
 【保護対策】 台高山脈のブナ, ミズナラの原生林の保全が急務である.
 【特記事項】 今後, 台高山脈に残されたブナ, ミズナラの原生林の調査が進めば, 新しい生息域が発見される可能性がある.
 【文献】 12, 53, 60, 249.

(生川展行)

(写真: 大台町, 1996年, 市橋甫採集, 稲垣政志撮影)



三重県 2025
VU
三重県 2015
VU
環境省 2020
—

オオクボカミキリ

Tengius ohkuboi Matsushita

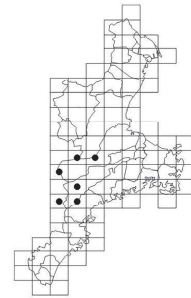
コウチュウ目 ホソカミキリムシ科



【選定理由】 既知生息地が5以下。減少傾向がみられる。
 【種概要】 体長5.8~9.1 mm. 自然度の高い落葉広葉樹林に生息する。成虫は6~7月に出現し、広葉樹の新しい枯れ枝に集まる。幼虫はトチノキ、ケヤキなどの枯枝を食べる。
 【分布】 本州（紀伊山地）、四国。三重県では津市、松阪市、大台町、大紀町で記録される。
 【現況・減少要因】 本種が生息するような自然林は、過去の伐採によってほとんど残っていない。また、近年の夏季の極端な高温やニホンジカの食害に起因する森林の乾燥化などにより、かなり深刻な状況にあるものと考えられる。
 【文献】 11, 35, 153, 157, 247, 248, 249, 250, 447, 497.

(秋田勝己)

(写真：大紀町，2020年，乙部宏撮影)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

ホンドニセハイイロハナカミキリ

Rhagium femorale N.Ohbayashi

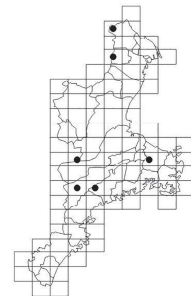
コウチュウ目 カミキリムシ科



【選定理由】 既知の生息点数は10以下。低山地では記録が途絶えており近年は山地のやや標高の高い地域の限られた範囲に限定される。
 【種概要】 体長10~21 mm. 成虫は灰色で白色の微毛で帯状の複雑な模様がある。低山地から山地の春から初夏にかけて寄主植物である針葉樹の衰弱木、新鮮な立ち枯れ、伐採木に集まる。
 【分布】 本州、四国、九州。県内では、いなべ市、菰野町、津市、大台町、伊勢市、大紀町で記録されている。
 【現況・減少要因】 低山地でのアカマツ林の衰退。山地でのモミ類などが混じる自然林の減少が考えられる。
 【保護対策】 生息地での森林開発は行わない。また生息地の一部が風力発電設備の計画に入っているのが懸念される。
 【文献】 146, 306, 357, 390.

(乙部 宏)

(写真：伊勢市，1991年，乙部宏採集)

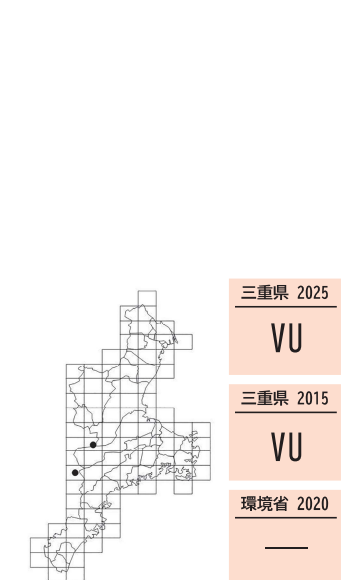


三重県 2025	VU
三重県 2015	—
環境省 2020	—

テツイロハナカミキリ

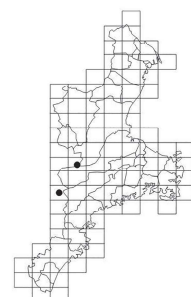
Encyclops olivacea Bates

コウチュウ目 カミキリムシ科



【選定理由】 既知の生息地点5以下。生息環境が悪化している。
 【種概要】 体長7~10 mm. 落葉広葉樹林に生息する。成虫は5~6月に出現。ミズキ、カラコギカエデ、タンナサワフタギなどに訪花する。幼虫はミズナラ、サワグルミなどの生木のコルク層に食入する。
 【分布】 北海道、本州、四国、九州。県内では紀伊山地（津市、大台町）で確認されている。
 【現況・減少要因】 幼虫は、樹皮にコルク層が発達する大木でないと成長することができないため、本種の生息は、自然度の高い落葉広葉樹林に限定される。しかし、過去の伐採によってそのような森林はすでにほとんどが失われてしまっている。また、近年のニホンジカ食害による下層植生の消失は、森林の乾燥化を招いているうえ、さらに夏季の異常な高温は、本種の生息にとって大きな脅威となっている。
 【保護対策】 ニホンジカの個体数調整を行う。生息地である落葉広葉樹林の伐採をしないことである。
 【特記事項】 生息地は吉野熊野国立公園特別保護区と三重大学演習林に含まれる。
 【文献】 87, 178, 255, 291.

(秋田勝己)



三重県 2025	VU
三重県 2015	VU
環境省 2020	—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 苔苔類
- 藻類
- キノコ

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

クロソンホソハナカミキリ

コウチュウ目 カミキリムシ科

Mimostrangalia kurosonensis (Ohbayashi)

【選定理由】生息地が局限され、既知の生息地は2か所にすぎない。食樹が限定され生息基盤が脆弱である。

【種概要】体長13~18 mm。常緑広葉樹林に生息する。成虫は7~8月に出現し、ノブドウ、リョウブ、ノリウツギなどに訪花する。幼虫は、ハイノキの枯れ木に食入する。

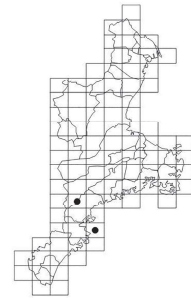
【分布】日本固有種。本州、四国、九州、対馬、屋久島、御蔵島。本州の記録は非常に少なく、三重県はその東限にあたる。三重県では大台町、尾鷲市で記録されている。

【現況・減少要因】記録されている2産地とも現存している。幼虫はハイノキに依存しているため、良好な常緑広葉樹林でないと生息することができない。しかし、本種が生息しえるような常緑広葉樹林は、過去の森林伐採によってほとんど残されていないのが現状である。

【保護対策】生息地である常緑広葉樹林の伐採をしないことである。

【文献】133, 178, 291.

(秋田勝己)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

オオトラカミキリ

コウチュウ目 カミキリムシ科

Xylotrechus vilioni (Villard)

【選定理由】既知の生息地点が5以下。個体密度が極めて低い。

【種概要】体長20~33 mm。成虫は7~9月に出現する。幼虫は、モミ、ウラジロモミ、ツガなどの生木に食入する。

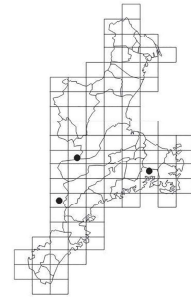
【分布】北海道、本州、四国、九州。県内では名張市、津市、伊勢市、大台町で記録されている。

【現況・減少要因】本種は、低標高地ではモミ、高標高地ではウラジロモミを主に食べている。生木を食する大型種であることから、もともと個体密度はきわめて薄い。したがって、その生息にはまとまった面積をもつモミ、ウラジロモミを含む自然林が必要である。しかし過去の森林伐採によってそのような林はほとんど残されていない。

【保護対策】生息地の森林を伐採しないことである。

【文献】9, 178, 291, 447.

(秋田勝己)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ヤマトシロオビトラカミキリ

コウチュウ目 カミキリムシ科

Kazuoclytus lautoides (Hayashi)

【選定理由】既知の生息地点数は5以下である。生息地が局所的である。

【種概要】体長6~11 mm。成虫は4~5月に出現し、カエデ類やヤマザクラに訪花する。幼虫はモミの枯れ枝に食入する。

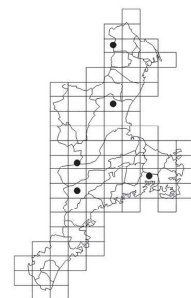
【分布】本州、四国、九州。朝鮮半島。三重県では、いなべ市、津市、伊勢市で記録されている。

【現況・減少要因】モミが含まれる自然林に生息する。モミが生える森林は過去の伐採によって、そのほとんどが失われてしまっている。近年の森林伐採はほとんど行われていないが、夏季の極端な高温化やニホンジカの食害による森林の乾燥化は、本種の生息に影響を与えているものと思われる。

【保護対策】モミが自生する自然林の伐採を行わないことである。

【文献】12, 144, 151, 152, 255, 291.

(秋田勝己)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

セダカゴバヤハズカミキリ

コウチュウ目 カミキリムシ科

Parechthistatus gibber shibatai Miyake

【選定理由】既知の生息点数は20以下。後翅が退化しており移動力が乏しい。開発などにより生息地が分断されている。

【種概要】体長12~22 mm。体色は赤褐色~灰褐色の微毛で覆われている。上翅の背面は弱く隆起し翅端はやや尖る。秋季に新成虫が出現し成虫で越冬し春から初夏にかけて広葉樹の倒木に集まることが多い。幼虫は広葉樹の菌類に犯された湿潤な倒木や枯れ木に穿孔する。

【分布】本州（関東中部以西）、四国、九州、対馬、隠岐。県内では菰野町、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、津市、松阪市、大台町、度会町、大紀町、尾鷲市、熊野市。

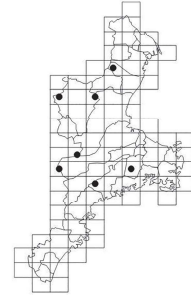
【現況・減少要因】広葉樹の自然林の開発などによる減少。生息地ではニホンジカによる林床植物の荒廃で湿潤な環境が失われている。

【保護対策】生息地での森林開発は行わない。一部が風力発電設備の計画に入っているのと低山の生息地はソーラー発電設置の開発が懸念される。

【文献】81, 96, 146, 260, 390, 529, 530, 531, 532, 533, 534.

(乙部 宏)

(写真：大台町，2022年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

シロスジタコゾウムシ

コウチュウ目 ゾウムシ科

Hypera (Eirinomorphus) conmaculata (Herbst)

【選定理由】既知の生息地点数は2か所である。

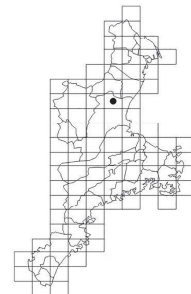
【種概要】体長4~7 mm。上翅は黒・茶褐色で、灰白色の紋を縦条に複数持つ種で、縦条の数には変異がある。

【分布】本州、九州に分布するが少ない。県内からは、鈴鹿市三宅町、亀山市下庄町から採集された。

【現況・減少要因】鈴鹿市から亀山市にかけての丘陵地・里山の湿地に生息しており、県内他地域では確認されていない。日陰になった湿地のセリを食害しており、セリに壊滅的な影響を及ぼし、植生が変化し個体数が激減している。鈴鹿市三宅町の産地は、乾燥化により植生が変化し、2014年には生息が確認できなかった。

【保護対策】丘陵地・里山の湿地環境を保全することが必要。

(官能健次)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

カスミハネカ

ハエ目 ハネカ科

Nymphomyia alba Tokunaga

【選定理由】既知の生息地点数は1。全国的に希少。

【種概要】体長2 mm内外の細長くひ弱な、極めて特殊な体形をしている。頭部は円錐形で、触角は3節でさらに微細な2節が先端にある。胸部は長く、翅は体長よりも長く白色の細長い三角形で、数少ない縦脈（痕跡的）と多数の長い縁毛をもつ。腹部は細長く、末端の2節には特殊な突起物がある。飛翔に移るとき、腹部を曲げて弾き、空中に跳躍する奇習をもつ。雌雄ともに群飛し、空中で交尾する。川面上空での群飛は11月や3月には昼間、4月には夕方に観察されている。交尾を終えた個体は翅を脱落させて、しばらくは底生動物として生活しているようである。

【分布】徳島、京都、奈良、三重、岐阜、群馬、栃木の各府県と国後島。県内では榎田川のみ。

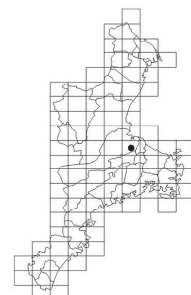
【現況・減少要因】成虫は早春と晩秋に流れの緩やかな河川中流域に出現し、川底に礫や砂が堆積した岸辺上空を群飛する。微小な虫で白色の翅を持つことから、昆虫網で捕えても識別しにくい。

【保護対策】幼虫が棲める石礫底や砂底を有する清流の環境を守る。

【文献】40, 76.

(篠木善重)

(写真：栃木県，2015年，中瀬悠太撮影・採集・保管)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

メスアカケバエ

Bibio japonica (Motschlsky)

ハエ目 ケバエ科

【選定理由】既知の生息地点数は4で、生息地は範囲が狭く、局所的かつ散発的である。

【種概要】体長11 mmほど。雄は全体が光沢のある黒色で、普通種のハグロケバエと紛らわしい。雌は中胸背と腹部は淡赤褐色で腹部第I背板には一対の黒点を持つ。幼虫は群生する。成虫は3～6月に出現。低木上で群飛する雄が観察されている。

【分布】日本各地、奄美、沖縄、国外では朝鮮半島、中国に分布。県内では四日市市の海岸、津市の安濃川河川敷と河芸町の海岸、菅島などで確認されている。時に大量発生することもあるが、翌年の発生は皆無となることがある。

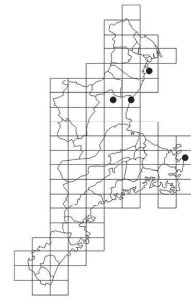
【現況・減少要因】河畔林は伐採されやすく、生息環境が安定して存続することが少ない。県内の採集例は4月下旬～5月初旬。

【保護対策】自然度の高い河岸林や海岸堤防際の疎林の保全。

【文献】60, 65, 71.

(写真：津市, 2015年)

(篠木善重)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

トワダオオカ

Toxorhynchites (Toxorhynchites) towadensis Matsumura

ハエ目 カ科

【選定理由】生息地点数は5。幼虫が樹洞性であることから発生個体数は少ない。

【種概要】日本最大の美しい蚊。体長は10～14 mm。雌雄ともに非吸血性で、昼間に花の蜜を吸う。金属光沢のある青藍色の体色をしている。腹部第6～8節の両側に顕著な黒と橙黄色の毛束がある。古タイヤの溜め水や樹洞の水溜りなどに暮らす幼虫は捕食性で他種のボウフラなどを捕食していて、共食いもあり、通常一つの樹洞に一匹の4令幼虫しかいない。4令幼虫の体長は16 mm内外。タイプ産地は青森県の十和田。

【分布】北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島に分布する。県内では亀山市、津市、伊勢市から記録がある。名張市にも生息している（筆者未発表）。

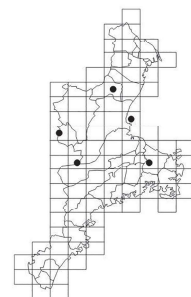
【現況・減少要因】県内では社寺林や演習林などから5～10月に採集されている。幼虫は樹洞にすむため、伐採によって生息環境は減りつつあるらしい。

【保護対策】良好な樹相を有する生息地の保全。

【文献】4, 28, 55, 56, 61, 78, 84.

(写真：名張市, 2024年, 篠木善重採集)

(篠木善重)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

ネグロクサアブ

Coenomyia basalis Matsumura

ハエ目 クサアブ科

【選定理由】生息地点数は2。自然度の高い環境に少数の個体が局所的に分布すると見なされる。全国的にも記録は少ない。

【種概要】自然林内の比較的湿潤な環境下、朽木で発生する。5～7月に出現。大型（体長は雌で25 mm内外、雄で17 mm内外）で、頭部は小さく、身体は太い。雄は暗褐色、雌は黄褐色。小楯板の後縁に1対の棘状突起を有する。雄の複眼は合眼的で、雌のそれは離れる。オサムシ科甲虫に狩られる観察例がある。

【分布】千島列島、北海道、本州、四国、九州に分布。県内では亀山市と多気町からの記録がある。

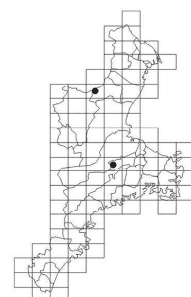
【現況・減少要因】亀山市の採集地を何度も訪れているものの、再発見できていない。発生個体数も少ないのだろう。

【保護対策】生息環境の保全。

【文献】72, 79, 83.

(写真：亀山市, 2012年)

(篠木善重)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

DD

コガタノミズアブ

Odontomyia garatas Walker

ハエ目 ミズアブ科

【選定理由】既知生息地点数は14。水田や湿地に固有の種で、環境指標性がある。かつては市街地付近でもみられた普通種であったが、全国的に個体数が著しく減少している。県内でも現在、生息が確認できた地点は調査が進んで増えているものの、採集個体数の総数は18頭に過ぎない。

【種概要】中形種で、体は太く、やや扁平で黒色。胸部は光沢があり、側縁は黄色。腹部には、前縁が波打った顕著な斑紋があり、生時は青色の幻色を呈し、死後は黄色に変化する。翅は透明。幼虫はおそらく肉食で水性、尾端を水面に出して呼吸する。年1化、初夏のころ出現する。

【分布】日本全土。国外では中国大陸、台湾に分布。県内ではいなべ市、朝日町、川越町、四日市市、鈴鹿市、津市、松阪市、明和町での生息が確認。

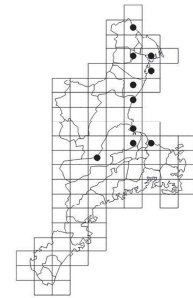
【現況・減少要因】かつては水田に普通にみられたというが、全く姿を消し、現在は河川・湿地などで自然度の高い環境に局所的に分布している。おそらく水田への薬剤散布が最も大きな影響を与えたと推測される。

【保護対策】幼虫の生息環境の保全が最も重要。こうした環境は最も開発の影響を受けやすく、保全のための施策が必要。

【文献】27, 33, 48, 63, 72, 80.

(篠木善重)

(写真：津市，2010年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ミドロミズアブ

Odontomyia filipjewi (Pleske)

ハエ目 ミズアブ科

【選定理由】生息地点数は4。全国的に記録の少ない種で、自然度の高い里山周辺の湿地環境に局所的にみられる。

【種概要】ミズアブに似るが、より小型で腹部背板第2～4節の後縁両側に黄赤色～黄色の斑紋がある。腿節基半は黄色。R4脈を欠き、小楯板は広く黒色。複眼は有毛。ユキヤナギに飛来する。カエデ等の枝先でホバリングする。生態は未解明。本属の触角鞭節全体とその末端部は先端に向かって細くなる。和名は京都市深泥池に由来する。

【分布】北海道、本州（埼玉、茨城、神奈川、三重、京都、岡山）に分布する。県内ではいなべ市、菰野町、津市から記録がある。鈴鹿市での生息も確認している（筆者未発表）。県内の記録では3月下旬～5月初旬に採れている。

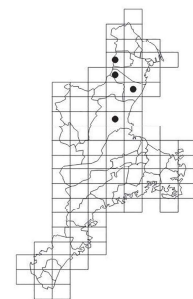
【現況・減少要因】幼虫はおそらく水生なので、湿地環境の劣化が生息の脅威となる。

【保護対策】湿地を伴う里山環境の保全。

【文献】10, 71, 72.

(篠木善重)

(写真：鈴鹿市，2015年，篠木善重採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

ツノヒゲシギアブ

Arthroceras japonicum Nagatomi

ハエ目 シギアブ科

【選定理由】生息地点数は2で、2雌の記録のみ。生息地は局地的で、個体数も少ない。

【種概要】体長は雄10～11 mm、雌10～14.5 mm。雌はより大形で、黒色味が強い。雌雄で大きく印象が異なる。雌雄ともに触角は短く、先端に向かって尖り、翅は褐色に曇る。雄の複眼は合眼的で、腹部基部は広く黄色。成虫は山地の溪流に見られ、林縁や林内の葉上に静止しているのが時折見出される。幼虫はおそらく水棲。成虫は5～6月に見られる。シギアブとしては、例外的な触角の形態で同定しやすい。

【分布】本州、四国、九州。県内ではいなべ市藤原町と津市美杉町から記録されている。

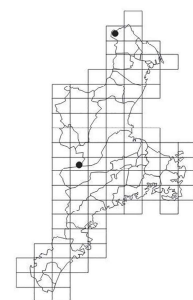
【現況・減少要因】溪流の劣化。

【保護対策】周囲の森林を含めた溪流の保全。

【文献】72.

(篠木善重)

(写真：いなべ市，2024年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ハリオスキバツリアブ

ハエ目 ツリアブ科

Villa sp.7

【選定理由】 個体数が少なく、生息地点数は4。生息地は草地のある砂浜海岸に限定される。

【種概要】 海浜性の種。体長は6.5 mm～14 mm、翅長は6～13 mmと、かなり小形から大型まで変化が著しい。翅の前縁室と第1基室は透明。胸部と腹部基部の側縁は白褐色の長毛に覆われ、腹節背板は白色鱗毛による横帯を装う。顕著な雄外部生殖器は持ち、ナミスキバツリアブのそれとは明らかに異なることが近年解明された。日本海側には近似のシオサイスキバツリアブ *Villa* sp.6 (翅の前縁室と第1基室は薄く褐色に曇る) が分布し、一部地域では本種と混生する。

【分布】 青森県、静岡県、愛知県、三重県、京都府、大阪府、兵庫県、香川県、鹿児島県。県内では6月初旬～7月中旬にかけて、津市北部海岸、松阪市松名瀬海岸から記録されていて、川越町高松海岸にも生息していた(筆者未発表)。

【現況・減少要因】 砂浜海岸の日当たりのよい草むらで見かけるが、道路新設工事後の高松海岸では見かけなくなった。

【保護対策】 砂浜海岸の保全。

【文献】 50。

(篠木善重)

(写真：津市，2011年)

ヨシコツルギアブ

ハエ目 ツルギアブ科

Toxorhynchites (Toxorhynchites) towadensis Matsumura

【選定理由】 いずれの生息地も自然度の高い海浜で、生息地は極限され、存続に不安がある。

【種概要】 小形で体形は細長く、後方に向かって狭まる。雄の腹部は美しい銀白色の毛に覆われる。雌では灰褐色に黒色の斑紋を装う。この属の種は互いに近似種が多いが、本種は前・中腿節の腹面に1～2本の剛毛をもつことで、比較的容易に区別できる。海浜性で、コウボウムギの群落やその周辺の限られた範囲にみられ、それより内陸には生息しない。幼虫は砂中であって他の節足動物を捕食する。4～10月に出現する。

【分布】 日本固有種で本州(山口県、島根県、京都府、新潟県、三重県、神奈川県)、九州に分布。県内では鈴鹿市鼓ヶ浦海岸、津市河芸町・白塚・町屋浦・御殿場の海浜に分布。

【現況・減少要因】 自然度の高い海浜にのみ生息することから、生息地は非常に限定されていて、開発は存続に対する大きな脅威となっている。

【保護対策】 現存の生息環境をその周辺地を含めて保全すること。

【文献】 36, 48, 52, 71。

(篠木善重)

(写真：津市，2011年)

シオサイツルギアブ

ハエ目 ツルギアブ科

Acrosathe sp.

【選定理由】 県内では津市と松阪市の砂浜海岸に限って生息する。自然度の高い砂浜にのみ生息し、全国的にも3県で記録されるのみ。

【種概要】 小形で体形は細長く、後方に向かって狭まる。雄の腹部は美しい銀白色の毛に覆われる。雌では灰褐色に黒色の斑紋を装う。この属の種は互いに近似種が多く、雄外部生殖器を調査せずして本種を外見的に鑑別することはできない。海浜性だが、砂上で見られることは少なく、灌木が疎生する砂地環境を好むようで、ハマボウフウ、ハマゴウ、灌木類などの植物体の上にあがることが多い。幼虫は砂中であって他の節足動物を捕食すると思われる。5月下旬～10月に出現する。

【分布】 日本固有種で、本州(愛知県・三重県)と四国(高知県)の太平洋岸の自然度の高い海浜のみ。県内では津市北部の砂浜と松阪市の松名瀬海岸に分布。

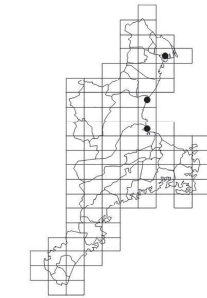
【現況・減少要因】 津市の町屋浦は海岸開発と砂浜の生態系を考慮しない松植樹により生息環境が悪化しているため、本種の生息が危ぶまれる。

【保護対策】 海岸開発にしる、灌木類の伐採などの美化活動にしる、生息への脅威となる。砂浜の生態系に配慮した対応が求められる。

【文献】 52, 71, 72。

(篠木善重)

(写真：津市，2009年)



三重県 2025

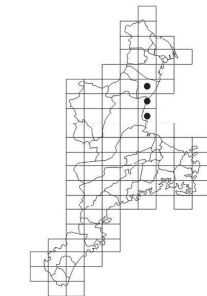
VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—



三重県 2025

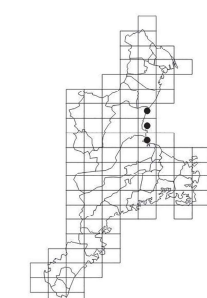
VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

アシナガムシヒキ

Molobratia japonica (Bigot)

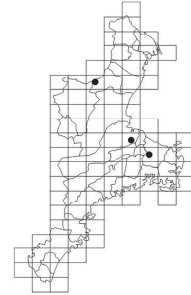
ハエ目 ムシヒキアブ科

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

【選定理由】生息地点数は4. このうち2地点は60年以上前の記録.
 【種概要】体長13~27 mm. 黄褐色~赤褐色で, 胸部や腹部第5・6節は黒色. 脚が長く, いかにもハチ狩りに適した体形をしている. 前脛節末端にかぎ状の突起がある. 榊田川での観察では, オオマキバガガンボ *Nephrotoma pullata*ばかりを捕食していた.
 【分布】北海道, 本州, 四国, 九州, 沖縄に分布する. 県内では鈴鹿峠, 伊勢神宮宮域, 榊田川から記録される.
 【現況・減少要因】鈴鹿峠では7月下旬に, 近年の記録は4月下旬~5月中旬にかけての榊田川中流域のみ. 他の河川敷等での調査が必要と思われる.
 【保護対策】河畔林の保全.
 【文献】4, 39, 68, 85.



三重県 2025
VU
三重県 2015
DD
環境省 2020
—

(篠木善重)

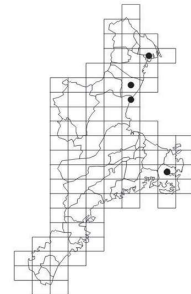
(写真: 松阪市, 2018年)

アメイロホソムシヒキ

Leptogaster trimucronata Hermann

ハエ目 ムシヒキアブ科

【選定理由】生息地点数は4. 生息個体数も少ない.
 【種概要】体長17 mmほどの中形で, 体色は黄赤色. 触角は黄白色. 平均棍は長く黄色. 胸背は琥珀色に輝き, 黄色の微毛を列生する. 脚は黄色で, 黄毛を有し, 腿節および脛節の結合部は黒色. 腹部後半は暗色となり, 末端生殖器は光沢のある黒色.
 【分布】国内では本州, 四国に分布. 国外では台湾に分布. 県内では高松海岸, 鼓ヶ浦, 津市河芸町, 志摩市阿児町から記録される.
 【現況・減少要因】7月初旬~8月下旬にかけて, 海浜の疎林内で採集される. また, 海岸近くの民家の灯火にも飛来する. 高松海岸の産地は道路建設のため生息環境が破壊された.
 【保護対策】海岸地帯の疎林の保護.
 【文献】71, 72.



三重県 2025
VU
三重県 2015
DD
環境省 2020
—

(篠木善重)

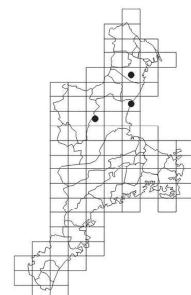
(写真: 津市, 2024年, 篠木善重採集)

コマバムツホシヒラタアブ

Scaeva komabaensis (Matsumura)

ハエ目 ハナアブ科

【選定理由】生息地点数は4. 生息個体数は少ない. 環境指標性が高い.
 【種概要】体長13~15 mm. 腹背の黄色斑紋は, 第2節を除き勾玉状で側縁を超える. 複眼の毛は長く密. 顔の毛は黒い. 幼虫はアブラムシを捕食する. 年数回発生し, 成虫は夏期山地に見られ, 晩秋に平地に降りて越冬し, 春再び山へ移動するという, 移動性の種と考えられている. 津市の例では, 10月末に青山高原, 12月初旬に芦原海岸, 3月初旬に海岸に近い民家の庭に現れた. タイプ産地は東京の駒場.
 【分布】北海道, 本州, 四国, 九州に分布. 県内では四日市市から記録がある.
 【現況・減少要因】津市での生息は確認されている (筆者未発表). 県内各地での調査を積み増していく必要がある.
 【保護対策】山地と海岸, 双方の生息地環境の保全.
 【文献】72.



三重県 2025
VU
三重県 2015
DD
環境省 2020
—

(篠木善重)

(写真: 津市, 2004年, 桂孝次郎採集, 大阪市立自然史博物館所蔵)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類

その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ルリハナアブ

ハエ目 ハナアブ科

Kertesziomyia viridis (Coquillett)

【選定理由】かつては水田の周囲などで普通にみられた種であるが、全国的に著しく減少している。

【種概要】体長6～12 mmの中形種で、体は太く、黒色。腹部には金緑色の斑紋があって美麗。翅は透明。幼虫は水性で、腐食物を食すると思われる。年1化。春から夏に出現。

【分布】本州、四国、九州。国外では中国に分布。県内では四日市市小牧町、桑名市志知、津市河芸町での記録がある。

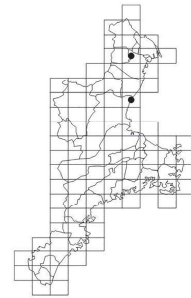
【現況・減少要因】かつては水田等で市街地周辺でも普通に見られた種であったが、近年平地における採集例がほとんどなくなってきている。現在発見できるのは、山地の湿地など隔離された自然度の高い環境のみである。減少の状況からみて、水田への薬剤の散布だけでなく、水質の変化も関係しているものと思われる。2011年以降、目撃さえできていない。

【保護対策】生息状況の調査が先決であるが、保護には生息環境の保全が重要。

【文献】32, 71, 72.

(篠木善重)

(写真：津市，2004年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

コブアリノスアブ

ハエ目 ハナアブ科

Microdon shirakii Reemer et Stahls

【選定理由】全国的に記録の少ない極めて稀な種。生息地点数は1。

【種概要】体長は9～13 mm内外の中形種で、黒～暗赤褐色の体色をした好蟻性のハナアブ。頭部に7個の瘤状隆起がある。小楯板は赤褐色で、その後縁にはアリノスアブにあるような一対の短棘はない。成虫は5月頃に出現する。低山地の雑木林周辺に生息し、樹上営巢性のハリフトシリアゲアリの巣に寄生する。

【分布】本州（東京、埼玉、千葉、神奈川、新潟、三重、京都）に分布する。県内では津市美杉町から記録がある。

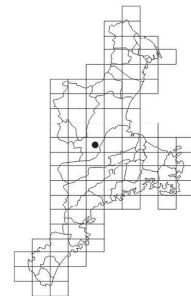
【現況・減少要因】これまで1雄の記録のみ。

【保護対策】台地や丘陵地の開発や里山の雑木林の伐採などは、本種生息の大きな脅威となる。ハリフトシリアゲアリ営巢地の調査を進める必要がある。

【文献】11, 29, 46.

(篠木善重)

(写真：津市，2002年，蒔田実造採集・所蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

ヒメコムズメイガ

チョウ目 ツトガ科

Parapoynx rectilinealis Yoshiyasu

【選定理由】記録が少なく生息環境である湿地が激減している。

【種概要】開帳約12 mm、前後翅とも黄金色の地に黒い縁取りを持った白色横線と縦線が数本見られるという美しい模様である。食草等幼生期については知られていないが、本属の幼虫は気管鰓を持つ水生昆虫で、本種についても同様に水生植物を食べると考えられる。しかも既知産地の状況から明らかに貧栄養湿地に生育する植物に依存していると考えられる。

【分布】全国的にもまれで、新種記載された京都の他、その後岩手県、宮崎県、豊橋市、滋賀県、兵庫県、三重県で採集されているだけである。三重県では伊賀市法花の湿地が唯一の記録であったが近年南伊勢町で多数の個体が得られた。

【現況・減少要因】県内においては2か所の記録のみで、生息できる湿地環境が激減している。

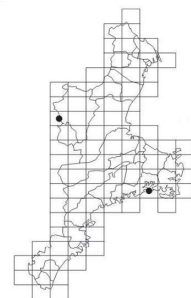
【保護対策】生息環境の保全が急務と考えられる。

【特記事項】おそらく幼虫が水棲のため、水質も生息に重要な要因になると考えられる。

【文献】6, 22, 28, 50.

(間野隆裕)

(写真：伊賀市，1993年，間野隆裕採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

クワトゲエダシャク

チョウ目 シヤクガ科

Apochima excavate (Dyar)

【選定理由】かつての記録地が消滅し、分布域が極めて局地的となってきた。

【種概要】開帳約45 mm、成虫は年1回早春に発生し、前翅を扇子状に折りたたみ、半分立てた特異な形状で止まる。雄は灯火に飛来するが、雌は飛来しないため極めてまれで、日本に現存する個体はわずかである。幼虫はかつてクワの害虫として知られた。愛知県では近年多くの樹種から幼虫が獲られている。

【分布】北海道から九州に分布。県内では、鈴鹿山脈の御在所、松阪市榎田川両郡橋、津市安濃町、志摩市大王町波切及び志摩町越賀で記録されているがその多くは古いデータで、各地で絶滅した可能性が高い。

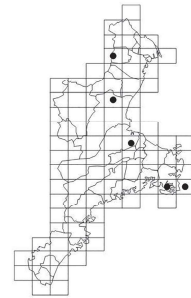
【現況・減少要因】幼虫の主要な食樹であるクワは、カイコの餌として栽培面積が昭和31年にピークを迎えたが、平成10年には最盛期の約3%に激減した。もともと栽培クワにおける生息密度は高くなかったと思われるが、この栽培クワ面積の減少は本種の生息密度減少に大きく影響したと考えられる。また食樹とともに無農薬で生息してきた本種にとって、農薬散布などによっても生息密度が減少する要因となった可能性が高い。

【保護対策】河畔林などとして生育するクワ類の保全。

【文献】21, 28.

(間野隆裕)

(写真：愛知県，2022年，間野隆裕採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

カバフキシタバ

チョウ目 ヤガ科

Catocala mirifica Butler

【選定理由】県内での生息が限定され、わずかな記録しかみられない。

【種概要】幼虫はカマツカを食し、年1回夏に成虫が出現する。前翅は樹皮模様を呈するが、前翅端に黒化部分を持つのが特徴で、後翅はオレンジ色。夜間灯火や樹液にも来るが、同属種の中でもっとも得にくい種の一つ。

【分布】栃木県以西の関東から中国地方にかけて分布する日本固有種。現在判明している県内産地のうち伊勢市、伊賀市鉄砲町は環境改変のため生息が望めず、津市白山町の記録は2014年と古い。現在の確実な産地は伊賀市青山高原と鈴鹿市、いなべ市のみと考えられる。

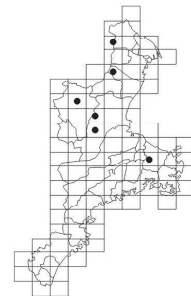
【現況・減少要因】これまで県内で記録された地点のいくつかは、青山高原と鈴鹿市を除いて食樹が伐採されるなど環境変化が甚だしく、現在の生息は全く期待できないと思われる。また食樹のカマツカは県内に広く分布しているにもかかわらず本種が生息確認されていない理由については不明である。他県においてもかつての記録地は激減しているが、その理由は不明である。

【保護対策】森林伐採の禁止、里山の保全などにより、少なくとも食樹であるカマツカを残存させ、生息環境を残す事が急務。

【文献】27, 28.

(間野隆裕)

(写真：伊賀市，2005年，間野隆裕採集)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

ウラナミアカシジミ (名義タイプ亜種)

チョウ目 シジミチョウ科

Japonica saepestriata saepestriata (Hewitson)

【選定理由】既知の生息地は多いが、ほとんどの地点で減少傾向が著しい。

【種概要】前翅長20 mm程度、鮮やかな橙色の翅に、裏面は細かく黒い縞模様がある。後翅に長い尾状突起をもつ。6月発生、年一化卵越冬。

【分布】北海道西南部、本州、四国瀬戸内海側。県内では中勢、伊賀地域の低地、丘陵から記録される。台高山脈溪谷部、志摩半島沿岸から熊野灘沿岸にかけて別亜種ssp. *gotohi*が分布する。

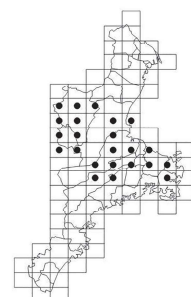
【現況・減少原因】本種が生息する里山のクヌギ林は、薪炭用、シイタケ栢木として栽培が盛んであったが、近年はヒトの暮らしの近代化に伴って減少、生息基盤が急速に減少している。

【保護対策】里山の維持管理。本種は幼齢林の萌芽林に好んで発生するため、定期的な伐採更新が必要である。

【文献】11, 17, 28.

(中西元男)

(写真：度会町，2016年，河本実採集・撮影・所蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ウラジロミドリシジミ

Favonius saphirinus (Staudinge)

チョウ目 シジミチョウ科

【選定理由】既知の生息地は10を超えるが、減少傾向が著しく、生息地分断の進行が顕著に認められるためNTから移行。

【種概要】前翅長15 mm程度、雄翅表は青色の金属光沢、雌では褐色。裏面は雄雌共白色。6月に発生、年一化卵越冬。

【分布】北海道、本州東北中部近畿中国地方と、四国、九州ではごく一部に分布する。県内では鈴鹿市以南中南勢まで、ほぼ県中部に限って記録される。

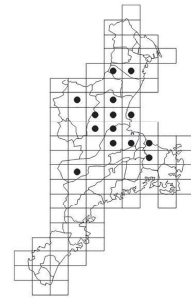
【現況・減少原因】里山丘陵のナラガシワ林に生息する。ナラガシワはクヌギ、コナラに比べ薪炭林、シイタケ櫛木としての利用が少なく栽培地域が狭いため、開発による減少率が高い。

【保護対策】ナラガシワ林の保全と育成。定期的な伐採更新を計り林の老齢化による生息地条件劣化を防ぐことも必要である。

【文献】11, 28, 51.

(中西元男)

(写真：明和町，2024年，京谷優撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

オオミドリシジミ

Favonius orientalis (Murry)

チョウ目 シジミチョウ科

【選定理由】既知の生息地は多いが、ほとんどの地点で減少傾向が著しい。

【種概要】前翅長15 mm内外、雄翅表は鈍い緑色の金属光沢、雌では褐色。6月に発生、年一化卵越冬。

【分布】北海道、本州、四国、九州。県内では志摩半島部を除き県北から県南まで広く記録される。

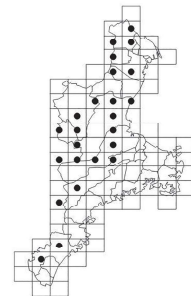
【現況・減少原因】里山丘陵では近年記録が途絶気味。オスには山頂に飛来、テリトリーを張る習性があるため山地頂上部での記録が多いが、実際の発生地は低標高山麓部で開発の影響を受けやすいと考えられる。

【保護対策】里山の維持管理。特に林縁部の保全。

【文献】4, 11, 28.

(中西元男)

(写真：津市，2014年，中西元男採集，河本実撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

クロシジミ

Niphanda fusca (Bremer et Grey)

チョウ目 シジミチョウ科

【選定理由】既知の生息地は多いが、減少傾向が著しく、生息地も分断されている。

【種概要】前翅長20 mm程度、6～7月発生、年一化、褐色の翅に雄は紫色の光沢を帯びる。雌は褐色一色のものから不規則な白斑をもつものもある。幼虫がアリの巢中で給餌を受けて育つ特異な生活史をもつ。幼虫越冬。

【分布】本州、四国の一部、九州に分布する。県内では鈴鹿、台高、紀南の山地、伊賀、中勢の丘陵から記録される。

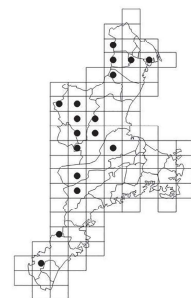
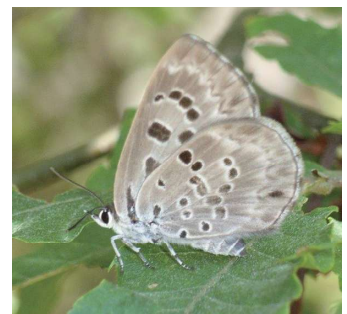
【現況・減少原因】荒れ地的な環境を好み、生息地は植生変遷の影響を強く受けて不安定。丘陵部では生息に適した雑木林の消失、荒廃で減少傾向が著しい。

【保護対策】山地生息地の現状保持、丘陵部では雑木林の伐採再生による若返りを主とする維持管理。

【文献】10, 11, 28.

(中西元男)

(写真：いなべ市，2017年，河本実撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

EN

クモガタヒョウモン

チョウ目 タテハチョウ科

Nephargynnis anadyomene (C.Felder et R.Felder)

【選定理由】 既知の生息地は多いが、近年ほとんどの地点で確認されない。個体密度の低い種のため減少傾向把握が困難。

【種概要】 前翅長40 mm程度、淡橙色に黒紋のあるヒョウモン模様のタテハチョウ。後翅裏面は他のヒョウモン類のように各種個性的な模様斑紋がなく、不鮮明な白銀の雲模様一色である。5月に羽化、夏季に休眠し秋再び活動する。年一化、初齢幼虫越冬。

【分布】 北海道の南半部、本州、四国、九州。県内ではほぼ全域から記録されるが、いずれの地でも少ない。

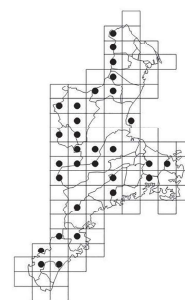
【現況・減少原因】 ほとんどの地点で近年の記録が途絶。もともと個体密度が低い種のため減少原因特定は困難。

【保護対策】 個体数動向の注意深いモニタリング。

【文献】 10, 11, 31, 32, 36。

(中西元男)

(写真：鈴鹿市，1997年，河本実採集・撮影・所蔵)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

ヤマキマダラヒカゲ

チョウ目 タテハチョウ科

Neope niphonica Butler

【選定理由】 既知の生息地は多いが、近年の減少が著しい。

【種概要】 前翅長30~38 mmで、翅表裏とも褐色で後翅裏面に眼状紋をもつ。裏面の色調は季節型により変異がある。5~9月にみられ、多くの産地では年2化だが、高標高地では年1化と考えられる。

【分布】 北海道、本州、四国、九州。下層植生としてササ類が密生する雑木林に棲息。近縁種サトキマダラヒカゲが主に平野部で見られるのに対し県内では県下全域の主に標高300 m以上に分布。一部地域では両種が混棲している。

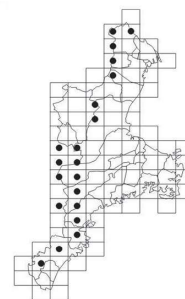
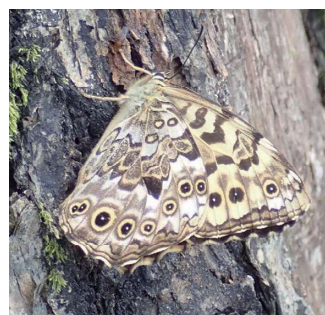
【現状・現象要因】 過去記録がある多くの場所が近年まったく見られなくなった地点が多い。個体数激減の要因として食草であるササ類がシカの食害により壊滅的に減少していることがあげられる。

【保護対策】 シカの個体数を適切に管理し、ササ類が回復することが望まれる。

【文献】 10, 11, 14。

(河本 実)

(写真：菰野町，2021年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ヒトスジキソトビケラ

トビケラ目 フトヒゲトビケラ科

Psilotreta japonica (Banks)

【選定理由】 既知の生息地点は5以下で、近年の記録は1地点のみである。生息地が限定され個体数も少ない。

【種概要】 成虫の前翅長は10~11 mmで黒色、幼虫は体長約14 mmで頭部および前、中胸の正中線上に一本の縦条紋が特徴的である。巢は荒い砂粒からなり、円筒形で側面から見ると緩やかに曲がる。

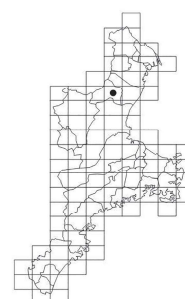
【分布】 本州、東海、近畿地方から記録されているが、近年の記録は少なく滋賀県、愛知県、三重県のみである。県内においては亀山市から記録されている。

【現況・減少要因】 平地から低山地の清冽な細流を好むため、開発などの影響を受けやすい。特に平野部においては、湧水起源の緩やかな細流に限定される。こうした環境は人間の土地利用、改変の多い場所と重なるために減少したと考えられる。

【保護対策】 流れの周辺を含めた里山全体の保全が必要である。

【文献】 8。

(森田久幸)



三重県 2025

VU

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ホシアシブトハバチ

ハチ目 コンボウハバチ科

Agenocimbex maculatus (Marlatt)

【選定理由】既知の生息地点数は5以下であり、食樹がエノキに限られ、環境変化の影響を大きく受けやすい。

【種概要】♀♂とも成虫の体長が14~18 mmほどの、黄色地の腹部に黒点模様のあるハチ。脚はほぼすべて黒色で、青色光沢がある。翅はほぼ一様に黄褐色を帯びる。年1回発生で、4~5月に出現し、エノキの葉に産卵する。成虫の発生期間が短いため、幼虫の方が見つけやすい。幼虫は、黄色~黄灰色の体に黒い水玉模様がある体長30 mmほどのイモムシ。

【分布】国外では中国、朝鮮半島。国内では本州、四国、九州。県内では北勢、中勢、伊賀で記録されている。

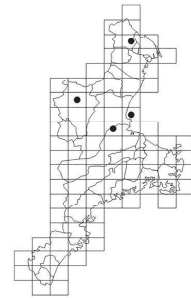
【現況・減少要因】2002年の目撃情報(写真)以降、発見報告がなく、減少傾向にあると思われる。里山の開発による食樹エノキの減少に伴う影響も心配される。

【保護対策】幼虫の餌となるエノキを確保するため、環境を保全する。

【文献】25, 26, 28, 34, 35, 40, 63.

(篠木善重)

(写真:津市, 2002年, 宮本正行撮影)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

DD

クロマルハナバチ

ハチ目 ミツバチ科

Bombus ignitus Smith

【選定理由】既知の生息地点数は約30であるが、近年の個体数は激減している。

【種概要】雌成虫は、体長20 mmほどで全身黒色、腹背の先端はオレンジ色。雄成虫は黄色で、腹部と胸部に黒い帯がある。4月上旬頃より女王バチが現れ、花の花粉を集めて土中に巣を作る。ネズミの廃巣を利用することもある。巣は秋まで継続するため、ツツジ類、アザミ類、タンポポ類など多種類の訪花植物を必要とする。

【分布】国外では朝鮮半島、中国。国内では本州、四国、九州に分布。県内ではいなべ市、菰野町、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、松阪市、伊勢市、大紀町から記録されている。大台町(写真)、紀北町、熊野市でも標本が得られている(筆者未発表)。やや山地性だが、平野部でも見つかることがある。

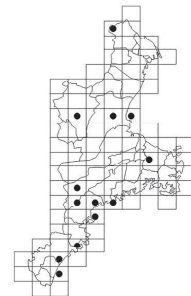
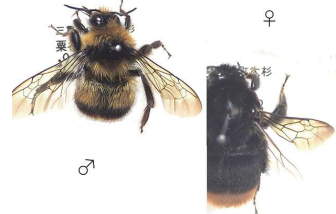
【現況・減少要因】1960年代に鈴鹿山脈から多くの産地が記録されたものの、2016年の報告書には記録が見当たらず、個体数が激減していると推察される。

【保護対策】餌源である野山の花の確保と営巣場所の環境を保全する。

【文献】1, 14, 18, 31, 34, 44, 52, 59, 63.

(篠木善重)

(写真:大台町, 2013年)



三重県 2025

VU

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

アオハダトンボ

トンボ目 カワトンボ科

Calopteryx japonica Selys

【選定理由】河川改修や都市化の進行等により減少傾向であり、県内での分布は局所的である。

【種概要】成虫は、体長55~62 mm、頭・胸部が強い金属光沢がある緑色をした翅の黒いカワトンボ。平地から丘陵地のある程度砂地があり、抽水植物が繁茂する清流に生息する。

【分布】国外では朝鮮半島、中国東北部、アムール川以東のシベリアなどに分布。国内では、本州、九州に生息する。県内では、北勢地域・中勢地域・伊賀地域に広く分布しているが、伊勢志摩地域や東紀州地域での記録は少なく、記録地も局所的である。

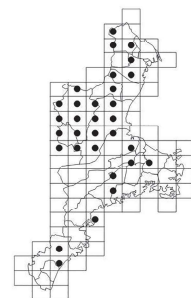
【現況・減少要因】三滝川(四日市市)、海蔵川(四日市市)、木津川(伊賀市)、長野川(津市)、穴倉川(津市)では2020年以降の調査で生息が記録されたことから、確認記録が増える可能性がある。ただし、生活排水・工場排水の流入や河川整備に伴い、減少もしくは絶滅した産地も少なくない。

【保護対策】伊勢志摩地域や東紀州地域での生息状況を明らかにする。併せて、河川の清流域の環境保全と水生植物の存続が必要である。

【文献】1, 6, 9, 15, 39, 49, 60, 61, 82, 98, 99, 120, 132, 133, 184, 187, 195, 202, 220, 226, 237.

(石田昇三・刀根定良・松沢孝晋)

(写真:津市, 2023年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

オオイトトンボ

Paracercion sieboldii (Selys)

トンボ目 イトトンボ科

【選定理由】 県内各地で記録され個体数も多かったが急速に衰退し、現在県内で確実に生息しているのは伊賀地域に限られる。

【種概要】 成虫は、体長27~39 mm. 頭部の眼後紋は大きく、後頭条も明瞭である。平地から低山地の抽水植物や浮葉植物が豊富な池沼、湿地、水田などに生息する。

【分布】 国外では朝鮮半島に分布。国内では、北海道、本州、四国、九州および周辺の離島に分布する。県内では、伊賀市、名張市、津市、松阪市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、紀北町などで記録されている。

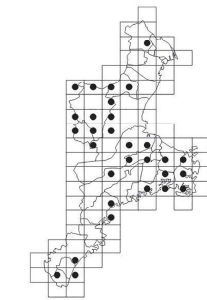
【現況・減少要因】 1990年代は北勢地域から東紀州地域にかけて分布記録があるが、2000年以降では、伊賀市、南伊勢町、紀北町での記録のみで、個体数の減少が著しい。減少要因として、土地開発に伴う池沼や湿地の消失、水生植物群落の衰退、水質の悪化などの影響が考えられる。その他、農薬の影響も考えられる。

【保護対策】 最近の確認情報が少ないため、生息の現状を明らかにすることが必要である。水生植物が生育する池沼や湿地、休耕田湿地の保全が必要である。

【文献】 5, 6, 9, 14, 16, 56, 67, 82, 83, 133, 110, 146, 150, 167, 169, 177, 197, 205, 211, 214, 215, 221, 232, 237.

(松沢孝晋)

(写真：伊賀市，2024年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

セスジイトトンボ

Paracercion hieroglyphicum (Brauer)

トンボ目 イトトンボ科

【選定理由】 県内各地で記録され個体数も多かったが急速に衰退しており、確認機会も稀である。

【種概要】 成虫は、体長27~37 mm. 頭部の眼後紋は三角型で大きい。平地から低山地の抽水植物や浮葉植物が豊富な緩やかな流れや池沼に生息する。

【分布】 国外では朝鮮半島、中国に分布。国内では、北海道、本州、四国、九州および周辺の離島に分布する。県内では、桑名市、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、津市、松阪市、伊勢市、志摩市、熊野市、御浜町、紀宝町などで記録されている。

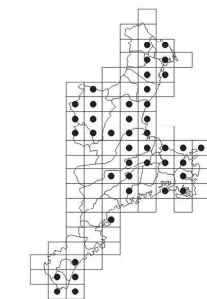
【現況・減少要因】 1990年代は北勢地域から東紀州地域にかけて分布記録があるが、2000年以降では鈴鹿市、伊賀市、松阪市、熊野市、御浜町、紀宝町などに記録に限られ、個体数の減少が著しい。減少の要因としては、池沼や水路の消失、水生植物群落の衰退、水質の悪化などの影響が考えられる。その他、農薬の影響も考えられる。

【保護対策】 最近の確認情報がないため、生息の現状を明らかにすることが必要。水生植物が生育する池沼や用水の保全が必要である。

【文献】 5, 6, 9, 14, 25, 26, 32, 59, 82, 87, 107, 120, 134, 140, 141, 142, 148, 154, 166, 177, 178, 186, 187, 191, 197, 214, 218, 226, 232, 237.

(松沢孝晋)

(写真：愛知県，2018年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ムカシトンボ

Epiophlebia superstes (Selys)

トンボ目 ムカシトンボ科

【選定理由】 県内の山地溪流に生息するが、環境の悪化に伴い減少傾向にある。

【種概要】 成虫は、体長46~53 mm, 黒地に黄色の斑紋があり、翅の形は均翅亜目に近い。山間部の河床が安定した溪流に生息する。

【分布】 日本固有種。北海道、本州、四国、九州、隠岐に分布する。県内では鈴鹿山系、伊賀盆地などの山地溪流に分布している。熊野市逢川（標高1 m）は、国内最低標高の分布記録である。

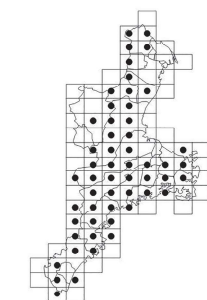
【現況・減少要因】 2010年以降もいなべ市、菰野町、伊賀市、津市、伊勢市、尾鷲市で記録されており、生息は安定している。山間部の開発や砂防堰の設置等により減少傾向にある。

【保護対策】 2000年以降の確認情報が少ないことから、生息の現状を明らかにすることが必要である。保護対策としては、河川上流域の森林を維持・育成していくことが重要である。

【文献】 5, 6, 7, 8, 9, 18, 27, 29, 30, 31, 35, 38, 42, 45, 50, 52, 53, 58, 61, 66, 67, 69, 74, 76, 81, 82, 85, 88, 89, 91, 92, 93, 102, 108, 115, 119, 124, 129, 131, 132, 136, 138, 139, 142, 144, 149, 150, 154, 159, 161, 163, 177, 178, 183, 185, 187, 198, 202, 214, 218, 226, 232, 235, 236, 237.

(石田昇三・刀根定良・松沢孝晋)

(写真：いなべ市，2024年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ムカシヤンマ

トンボ目 ムカシヤンマ科

Tanypteryx pryeri (Selys)

【選定理由】 生息要件として山地からの安定した湧水との関係が大きく、環境指標性が高い。県内に広く生息するが、生息地や個体数は減少傾向である。

【種概要】 成虫は、体長63~72 mm、翅胸前面は広く灰褐色で、腹部は黒地に黄色斑がある。樹林の多い丘陵地や山地の水が浸みだす崖地や湿地に生息する。

【分布】 日本固有種で、本州と九州に分布する。県内の丘陵地に局所的ながら広く分布している。

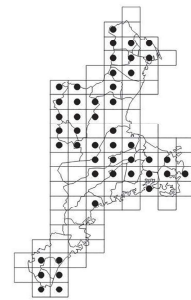
【現況・減少要因】 北勢地域から伊賀地域の湧水がある樹林地周辺では比較的多くの個体数が見られる。幼虫が生息する低山地や山地の湧水地の土地開発に伴う湧水の不安定化や枯渇による生息への影響が大きい。現在は県内に普遍的に生息するが、生息動向に注意が必要である。

【保護対策】 丘陵部における湧水を伴う斜面下部の崖地やハンノキ林など湿生樹林を有する環境などの保全が必要である。

【文献】 6, 14, 16, 19, 21, 33, 34, 46, 54, 58, 59, 60, 64, 65, 67, 69, 75, 76, 82, 83, 84, 85, 90, 98, 120, 128, 129, 131, 133, 138, 140, 144, 146, 151, 152, 154, 155, 159, 163, 178, 184, 185, 187, 189, 194, 198, 202, 205, 212, 214, 218, 223, 226, 229, 231, 232, 237.

(石田昇三・刀根定良・松沢孝晋)

(写真：四日市市，2021年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ホンサナエ

トンボ目 サナエトンボ科

Shaogomphus postocularis (Selys)

【選定理由】 1990年代から2000年代にかけて、県北部や県中部の各所で記録されたが、2010年以降は5カ所での記録しかなく、生息地や個体数の減少が著しいと思われる。

【種概要】 成虫は、体長48~52 mmで、腹部が独特の太く短い形態をしている。黒字に黄色斑があり老熟すると灰緑色となる。平地から丘陵地の砂泥底で、緩やかな流れに生息する。

【分布】 国外では、朝鮮半島、中国、ロシアに分布。国内では、北海道・本州・四国・九州に分布するが、東北から北陸地方にかけては絶滅した産地が多い。県内では、北勢地域・中勢地域・伊賀地域・伊勢志摩地域に分布する。

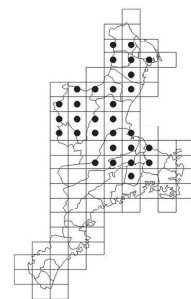
【現況・減少要因】 2010年以降の分布記録は、伊賀市、名張市、松阪市のみである。分布は点的で、個体数の減少が著しいと思われる。河川改修や大規模出水により、既知生息地の多くが消失している可能性がある。

【保護対策】 最近の確認情報がないため、生息の現状を明らかにすることが必要である。併せて、河川中下流の砂泥底の緩流域の環境を保全することが必要である。

【文献】 6, 28, 39, 40, 41, 59, 82, 99, 117, 120, 148, 154, 177, 184, 187, 199, 232, 237.

(松沢孝晋)

(写真：松阪市，2020年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒメクロサナエ

トンボ目 サナエトンボ科

Lanthus fujiacus (Fraser)

【選定理由】 山間部の溪流に広く分布するが、2010年以降の記録は少なく個体数は減少している。

【種概要】 成虫は、体長39~45 mm、翅胸前面にハの字型とT字型の黄斑がある。山地の河川上流、源流域の流水環境などに生息する。

【分布】 日本固有種。本州（千葉県を除く）、四国、九州に分布する。県内では、いなべ市、桑名市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、大台町、伊勢市、大紀町、南伊勢町、紀北町、尾鷲市、熊野市など丘陵部各地の渓流域で記録されている。

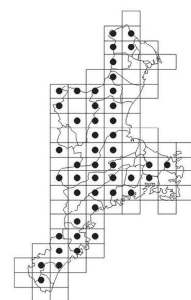
【現況・減少要因】 県内各地で記録されているが、2010年以降の記録は伊賀市・名張市・松阪市のみであり、個体数が著しく減少している可能性がある。本種が生息する山間部の大規模開発や砂防堰の設置に伴い減少傾向にあると思われる。

【保護対策】 2010年以降の確認情報が少ないことから、生息の現状を明らかにすることが必要である。保護対策としては、河川上流部や源流部を含む森林環境を維持・育成していくことが重要。

【文献】 5, 6, 14, 42, 50, 58, 59, 82, 116, 120, 132, 133, 135, 140, 154, 163, 177, 178, 184, 185, 186, 187, 199, 202, 214, 220, 226, 232, 237.

(石田昇三・刀根定良・松沢孝晋)

(写真：滋賀県，2020年，牛島釈広撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

タバサナエ

トンボ目 サナエトンボ科

Trigomphus citimus tabei (Asahina)

【選定理由】伊勢湾沿岸域に普遍的に見られたが、生息域の消失や環境悪化により減少傾向にある。

【種概要】成虫は、体長41~46 mm、雄の副性器は生殖片が円弧状で大きい。樹林に囲まれた池沼や湿地、緩やかな流れなどに生息する。

【分布】ユーラシア大陸には原名亜種が分布し、日本産は亜種とされる。国内では、静岡以西の本州と四国、九州に分布する。県内では、いなべ市、菰野町、四日市市、伊賀市、津市、松阪市、多気町、伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会町、大紀町などで記録されている。

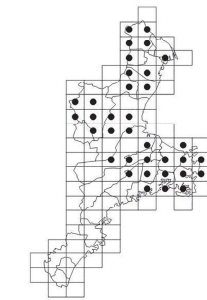
【現況・減少要因】北勢地域から伊勢志摩地域にかけて広く生息記録があるが、2010年以降は、いなべ市・菰野町・伊賀市・津市・伊勢市に限られ、減少傾向にある。いなべ市藤原町や伊賀市沖など多産する場所も見られる。減少要因としては、ため池の改修や水田の圃場整備による生息環境の減少、農薬の影響などが考えられる。

【保護対策】本種の生息する灌漑水路やため池、湿地の保全が必要である。

【文献】1, 5, 6, 9, 10, 14, 16, 28, 42, 57, 61, 64, 67, 76, 79, 82, 83, 92, 116, 120, 126, 134, 155, 163, 172, 178, 194, 199, 202, 223, 224, 226, 229, 232, 237.

(石田昇三・刀根定良・松沢孝晋)

(写真：伊賀市，2024年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

フタスジサナエ

トンボ目 サナエトンボ科

Trigomphus interruptus (Selys)

【選定理由】かつては伊勢湾沿岸域に普遍的に見られたが、生息域の消失や環境悪化により近年は減少傾向にある。

【種概要】成虫は、体長43~48 mm、翅胸側面に2本の黒条をもつ。平地から丘陵地の抽水植物が繁茂する池沼に生息する。

【分布】日本固有種で福井、静岡以西に分布するが山陰地方からの記録は無い。県内では、いなべ市、菰野町、四日市市、鈴鹿市、伊賀市、名張市、津市、松阪市、明和町、伊勢市、玉城町、大紀町などから記録されており、東紀州地域での記録はない。

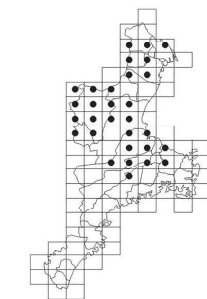
【現況・減少要因】北勢地域・中勢地域・伊賀地域・伊勢志摩地域に広く生息記録があるが、2010年以降の記録地は、いなべ市・伊賀市・松阪市に限られ、減少傾向にある。減少要因としては、ため池の改修工事や水田の圃場整備による生息環境の減少、農薬の影響などが考えられる。特に松阪市周辺では絶滅に瀕していると思われる。

【保護対策】本種の生息する灌漑水路やため池、湿地の保全が必要である。

【文献】5, 6, 10, 14, 16, 42, 57, 64, 76, 82, 83, 92, 113, 119, 133, 148, 154, 163, 177, 190, 191, 199, 202, 224, 232, 237.

(石田昇三・刀根定良・松沢孝晋)

(写真：伊賀市，2024年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ミヤマアカネ

トンボ目 トンボ科

Sympetrum pedemontanum elatum (Selys)

【選定理由】本種の生息域である緩流の整備等に伴う生息域と個体数の減少が年々顕著に見られる。

【種概要】成虫は、体長32~39 mm、翅の縁紋の辺りから内側にかけて幅広い淡褐色帯がある。主に丘陵地や低山地の水田地帯や湿地の緩やかな流れの場所に生息する。

【分布】種*S. pedemontanum*はヨーロッパからユーラシア大陸、朝鮮半島にかけて分布しており、日本産は亜種*elatum*とされている。国内では、北海道、本州、四国、九州に分布する。県内では、北勢地域から東紀州地域のほぼ県内全域で記録されている。

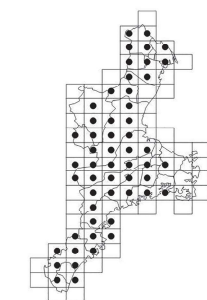
【現況・減少要因】丘陵地や低山地に広く分布するが、局所的で個体数も少ない。特に、伊賀地域では減少が著しい。減少要因としては、圃場整備などで常時水が流れる水路が減少したこと、生息域の湿地の開発や自然遷移による荒廃などが考えられる。

【保護対策】丘陵の水が湧き出し流水を形成する水田環境の管理と保全が重要である。

【文献】1, 6, 9, 10, 14, 17, 20, 47, 50, 51, 63, 64, 76, 82, 83, 95, 98, 99, 100, 108, 112, 113, 114, 120, 132, 133, 140, 143, 147, 149, 151, 152, 154, 161, 163, 172, 177, 178, 184, 186, 187, 201, 202, 207, 214, 218, 226, 232, 237.

(石田昇三・刀根定良・松沢孝晋)

(写真：四日市市，2020年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

コバネコロギス

バッタ目 コロギス科

Metriogryllacris magna (Matsumura et Shiraki)

【選定理由】 既知の生息地点は10以下。県南部の沿岸部の照葉樹林に限って生息するので、生息範囲は限定される。

【種概要】 体長約21~24 mm。全体茶褐色で、腹部背面に黒色と白色の横帯のある美しいコロギスである。照葉樹林の樹上に生息し、口から糸を吐いて葉をつづって営巣する習性がある。年1化、幼虫越冬と考えられる。

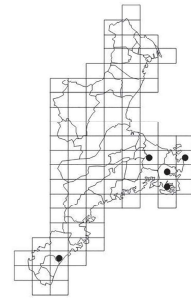
【分布】 本州、本州（東海地方以西）、四国、九州、南西諸島。国外では台湾の沿岸部に局所的に分布し、県内では伊勢市神宮林、鳥羽市管島、答志島、志摩市、熊野市から記録されている。

【現況・減少要因】 本州では生息地も限定され、その生息範囲は狭く個体数も少ない。沿岸部の土地開発による森林伐採によって、生息環境は悪化している。夜行性で樹上生活のため個体の確認は困難であるが、生息環境の悪化から推して、減少傾向にあると推定される。

【保護対策】 沿岸部の照葉樹林の保全が必要である。

【文献】 31, 33, 37, 47, 54.

(河北 均)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

イセカマドウマ

バッタ目 カマドウマ科

Paratachycines (Paratachycines) isensis Sugimoto et Ichikawa

【選定理由】 いなべ市藤原町篠立の風穴のみに生息する。洞窟性の種であり、今後新生息地が発見されたとしても生息地は限定されるものと考えられる。

【種概要】 体長約9 mm。小型のカマドウマ。全体淡黄褐色。真性洞窟性の種であり、生態は不明である。

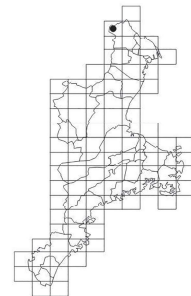
【分布】 本州（三重・岐阜）の洞窟から記録されているだけである。

【現況・減少要因】 生息地の石灰洞の環境は現在のところ安定しているが、生息域は狭く、個体数も多くない。

【保護対策】 洞窟及び洞窟入口などの周辺附近も含めて環境保全が必要である。

【文献】 6, 54, 63.

(河北 均)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

スズカササキリモドキ

バッタ目 キリギリス科

Kinkiconocephalopsis matsuurai Kawakita

【選定理由】 既知の生息地点は10以下。紀伊半島東部のブナ帯に限って生息するので、生息範囲は限定される。

【種概要】 体長約10 mm。小型の短翅ササキリモドキ。緑色、前胸背に暗褐色帯があり、腹部背面に黄白帯がある。ブナ帯の樹上及び林内のササの群落に生息する。年1化、成虫は7~9月に出現する。

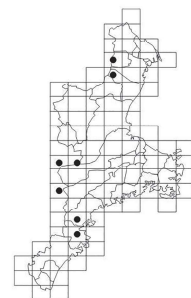
【分布】 紀伊半島固有種。鈴鹿山脈、高見山地、台高山脈、大峰山脈から知られ、県内では菰野町、亀山市、津市、松阪市、大台町、尾鷲市から記録されている。

【現況・減少要因】 ブナ帯に限って生息するため、森林伐採により減少傾向にある。

【保護対策】 ブナ帯域の自然林の保全が必要である。

【文献】 26, 28, 34, 50, 54.

(河北 均)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

カヤコオロギ

バッタ目 コオロギ科

Euscyrthus japonicus Shiraki

【選定理由】かつては三重県下全域の草原に普遍的に分布していたが、同じ区域の草原であってもイネ科植物等の一部の箇所しか見つからず生息場所は限定される。

【種概要】体長約10~12 mm. 中型のコオロギ、黄褐色で、頭胸部及び前翅背面に茶褐色の一条がある。発音器はなく、鳴かない、雌産卵管は長く、体長と同等。

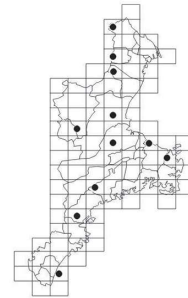
【分布】本州、四国、九州、韓国、台湾から記録されている、三重県内では、いなべ市、菰野町、亀山市、伊賀市、津市、大台町、伊勢市、鳥羽市、紀北町、尾鷲市、御浜町から記録がある。かつては全県に普遍的に生息していたが、近年個体数は減少しており、同じ草原内でも部分的にしかみられない。

【現況・減少要因】生息草原の放置による遷移と考えられる。

【保護対策】イネ科植物等の草刈りにより、本種に適応した生息地の適切な維持管理が必要である。

【文献】1, 39, 40, 69.

(河北 均)



三重県 2025
NT
三重県 2015
—
環境省 2020
—

ノセヒシバッタ

バッタ目 ヒシバッタ科

Alulatettix fornicatus (Ichikawa)

【選定理由】伊賀地域周辺に分布が限られ、既知の生息地点は10以下で、個体数は少ない。

【種概要】体長雄約9.3~9.9 mm, 雌約9.8~11.8 mm. 前胸背正中は著しくアーチ状に盛り上がり、前縁は三角状に突出。前後翅ともかなり退化し、前翅上側半分は前胸背板に隠れる。後翅は完全に隠れることが多い。前翅を入れる窪みは不明瞭。比較的明るい林床に棲む。晩春~初夏に成虫。

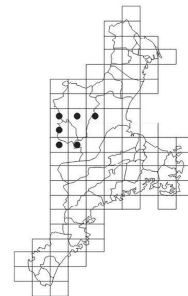
【分布】本州（愛知県以西）、四国、九州、隠岐に分布。県内では、布引山地、尼ヶ岳、名張周辺山地で確認されている。

【現況・減少要因】山林等の管理放棄により林床が隠ぺいされ暗くなった。

【保護対策】森林の適切な管理を行い、森林周辺の多様な環境が残るようにすることが必要である。

【文献】10, 11, 12, 54.

(加納康嗣・河北 均)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

キイフキバッタ

バッタ目 バッタ科

Parapodisma niihamensis hiurai Tominaga et Kano

【選定理由】紀伊半島固有種、既知の生息地点は10以下、個体数も少ない。

【種概要】体長雄24.7~27.8 mm, 雌29.9~36.8 mm. 中型種、雄の黒側条は頭部から前胸背前縁部、雌の黒状は不明瞭、後腿節下面は紅色、雄の生殖下板は上方に短く突出し、背面内側に小さな背縁突起はない。前翅は後腿節の半分より短い、雄の尾肢は、くの字形、先端部は薄く平圧され、先端側面はまるい。林縁の灌木上、山間クズ群落の乾いた陽地に多い。成虫は8~10月、卵越冬年1化。

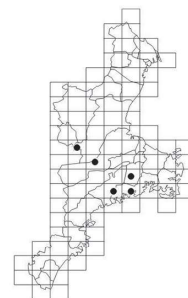
【分布】紀伊半島固有種である、三重県は分布の南限になり、県内では伊賀市、津市、大台町、大紀町、南伊勢町の記録がある。

【現況・減少要因】紀伊半島固有種である、三重県は分布の南限になり、県内では伊賀市、津市、大台町、大紀町、南伊勢町の記録がある。

【保護対策】分布地域の低山帯の食害対策等環境維持が必要である。

【文献】14, 16, 17, 23, 35, 48, 54, 65, 66, 68.

(河北 均)



三重県 2025
NT
三重県 2015
—
環境省 2020
—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

キンキフキバツタ

Parapodisma subastris Huang

バッタ目 バッタ科

【選定理由】日本固有種であり、全国的にも生息地は限定される。
 【種概要】体長雄23.4~24.7 mm, 雌26.3~29.7 mm. 中型種, 黒側条は頭部から前胸背前縁部, 腿節下面は紅色, 雄の生殖下板は上方に短く突出し, 背面内側に小さな背縁突起はない. 前翅は後腿節の半分より短く前種より小さい. 雄の尾肢は, く の字形,先端部は薄く平圧され, 先端側面はまるい. ブナ林の灌木上や陰湿な谷奥に生息する. 成虫は8~9月, 卵越冬年1化.

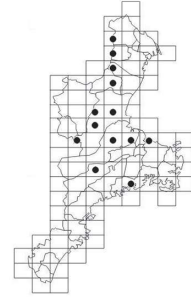
【分布】日本固有種で本州中央部に分布の中心がある. 三重県は分布の南限になる. 前種とは概ね棲み分けるが, 一部分布域が重なる. 県内からはいなべ市, 菰野町, 四日市市, 鈴鹿市, 亀山市, 津市, 伊賀市, 松阪市, 明和町, 鳥羽市, 大紀町から記録がある.

【現況・減少要因】分布地が限定されるうえ, 生息地の個体数が少ない. ブナ林の灌木上や陰湿な谷奥に生息するが, 森林の荒廃やシカの食草被害などにより生息域が狭められている.

【保護対策】分布地域の低山帯のシカの食害対策等環境維持が必要である.

【文献】6, 8, 9, 14, 18, 19, 23, 35, 48, 51, 52, 54, 65, 67.

(河北 均)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒメフキバツタ

Parapodisma etsukoana Kobayashi

バッタ目 バッタ科

【選定理由】既知の生息地点は10以下, 個体数も少ない.

【種概要】体長雄19.5~24 mm, 雌24.6~37.2 mm. 中型種. 黄緑色. 雄の黒側条は前胸背前縁部から中葉まで. 雌では頭部のみ, 時に前胸背前縁部まで. 後腿節下面は紅色. 雄の生殖下板は上方に短く突出し, 背面内側に小さな背縁突起をもつ. 前翅は側生する. 雄の尾肢は, く の字形. 成虫の出現期は他のフキバツタ類と比べて遅く, 8月中旬以降に見られる. 北向き斜面や陰湿な溪流沿いの林縁, 暗い林内の灌木上に生息する. キイチゴ類やアジサイ類を好む. 卵越冬年1化.

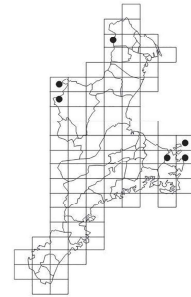
【分布】日本固有種で本州中央部に分布の中心がある. 三重県は分布の南西限になり, 滋賀県境の伊賀市北部, いなべ市, 亀山市の北勢地方北部並びに伊勢市, 鳥羽市, 志摩市の南勢地方に限定される. 三重県中勢は分布の空白地帯である.

【現況・減少要因】分布地が限定されるうえ, 生息地の個体数が少ない. 溪流沿いや林縁の灌木上にみられるが, 森林の荒廃やシカの食草被害などにより生息域が狭められている.

【保護対策】分布地域の低山帯の環境維持が必要である.

【文献】24, 37, 44, 48, 54.

(加納康嗣・河北 均)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

イナゴモドキ

Mecostethus parapleurus (Hagenbach)

バッタ目 バッタ科

【選定理由】山地草原的環境に局所的に分布し, 確実な産地は2か所.

【種概要】体長雄約25~27 mm, 雌約25~30 mm. 背の側面に黒帯があり, 一見イナゴ類のようだが, 前肢付け根の間の突起はない. 黄褐色型が最も多く, 淡褐色, 褐色の色彩型がある. 後翅は透明. 体が細く, 翅が長く後腿節を越える. 6~8月に成虫. 西日本では局所的に分布. ヨーロッパと共通種.

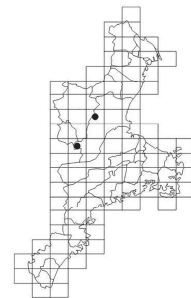
【分布】北海道, 本州, 四国, 九州, 奥尻島, 佐渡島, 隠岐, 対馬. 県内では, 青山高原, 大洞山麓に生息する.

【現況・減少要因】環境が安定した冷涼な山地草原の遷移進行, 草地開発などにより生息可能な環境が減少している.

【保護対策】山地高原の草原環境の維持が必要である.

【文献】54, 71.

(加納康嗣・河北 均)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ヤマトマダラバッタ

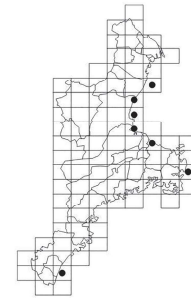
バッタ目 バッタ科

Epacromius japonicus (Shiraki)

- 【選定理由】 海岸，大河川の砂浜に生息し，全国的にも生息地は限定される。
- 【種概要】 体長30～35 mm. 中型のバッタ。体色は淡褐色で暗褐色の斑紋が点在し，砂地に対して保護色となっている。後翅は透明，基部は暗褐色。年1化，成虫は7～10月に出現する。
- 【分布】 北海道，本州，四国，九州に分布し。県内では四日市市，鈴鹿市，津市，松阪市，明和町，伊勢市，志摩市の伊勢湾岸及び御浜町，紀宝町の熊野灘沿岸から記録されている。
- 【現況・減少要因】 砂浜に限って生息するため，自然海岸の減少により生息地と個体数が減少している。
- 【保護対策】 本種の生息環境である海浜植物群落の保護，海岸への車輛乗入れの規制等の保護対策が必要である。
- 【文献】 1, 29, 30, 36, 37, 43, 51, 54, 55, 59, 64.

(河北 均)

(写真：津市，2007年，篠木善重撮影)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

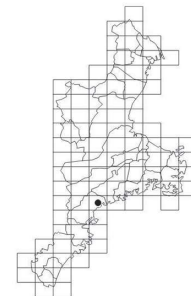
ウルシゴキブリ

ゴキブリ目 ゴキブリ科

Periplaneta japanna Asahina

- 【選定理由】 既知の生息地は紀伊長島鈴島1か所から知られているのみであるが，県南部の沿岸部の照葉樹林に限定して生息しているものと考えられる。
- 【種の概要】 体長雄約21～27 mm，雌26～28 mm. 全体黒褐色。クロゴキブリに似るが，全体的に丸味を帯びる。本種は家屋内には生息せず，野外のみに生息する。
- 【分布】 北海道（国内移入種），本州（東海地方以西），四国，九州，伊豆諸島，南西諸島，県内では紀伊長島鈴島のみから記録されている。
- 【現況・減少要因】 本州では生息地も限定され，その生息範囲は狭く個体数も少ない。沿岸部の土地開発による森林伐採によって，生息環境は悪化している。
- 樹上生活のため個体の確認は困難であるが，生息環境の悪化から推して，減少傾向にあると推定される。
- 【保護対策】 沿岸部の照葉樹林の保全が必要である。
- 【文献】 38.

(河北 均)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

ヒメハルゼミ

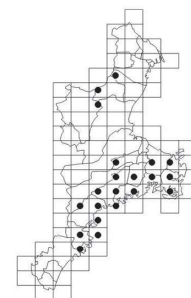
カメムシ目 セミ科

Euterpnosia chibensis chibensis Matsumura

- 【選定理由】 既知生息点数は50以下。生息地は自然純度の高い照葉樹林に限られ軽度な環境変化に影響を受けやすい。
- 【種概要】 体長（翅端まで）29～40 mm. 褐色および緑褐色の地に黒色の条紋を持ち，腹部は♂では長く袋状，♀では短く，産卵管はハルゼミより長く突出する。成虫は6月下旬～8月上旬まで発生し，夕刻集団で合唱する。また灯火にも飛来する。
- 【分布】 日本固有種で本州（中部以南），四国，九州，南西諸島（徳之島以北）。県内では，亀山市，伊賀市，多気町，大台町，伊勢市，鳥羽市，志摩市，度会町，大紀町，南伊勢町，紀北町，尾鷲市，熊野市。
- 【現況・減少要因】 シイ・カシ類を主体とする暖帯林に生息し，発生地での個体数は多い。開発には敏感でソーラー発電設備などによって一度生息地が分断され縮小されると回復が困難である。
- 【保護対策】 シイ・カシ等を主体とする暖帯林の保全が重要である。また，既知の生息地では伐採を伴う開発を行わない等の対策が必要である。
- 【特記事項】 大東諸島には亜種のダイトウヒメハルゼミ *ssp. daitoensis* が分布。
- 【文献】 44, 65, 78, 79, 82, 83, 87, 88, 89.

(北村 颯・乙部 宏)

(写真：伊勢市，2019年，北村颯撮影)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 苔苔類
- 藻類
- キノコ

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

エゾハルゼミ

カメムシ目 セミ科

Yezoterpnosia nigricosta (Motschulsky)

【選定理由】県内での生息地は限られ、既知生息点数は10以下。生息地であるブナ帯自然林の衰退にともない本種も減少傾向にある。

【種概要】体長（翅端まで）40～45 mm。雌の産卵管はわずかしき裸出ししない。成虫は中部地方や寒冷地では5月ごろから活発に鳴き始めるが県内では6月下旬～7月上旬にピークを迎える。

【分布】北海道、本州、四国、九州。国外では樺太、千島、中国に分布。三重県では菰野町、鈴鹿市、津市、松阪市、大台町、紀北町。

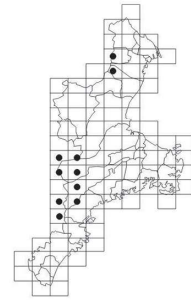
【現況・減少要因】鈴鹿山系と台高山系の限られた地域に生息する。ニホンジカによる鹿害によって林床植生の崩壊により著しく自然林が衰退している。合唱性が高く生息地が分断されると存続の脅威となる。

【保護対策】現存するブナ帯自然林を保全するとともに、長期的に自然林の再生、復元を図る。生息地が風力発電工事の計画に入っているのも懸案である。

【文献】1, 9, 10, 11, 18, 21, 27, 50, 61, 79, 82.

(北村 颯・乙部 宏)

(写真：松阪市，2017年，北村颯撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

チツチゼミ

カメムシ目 セミ科

Kosemia radiator (Uhler)

【選定理由】既知生息点数は30以下。アカマツ林などの荒廃により、生息基盤が危惧される。

【種概要】本土最小のセミで、体長（翅端まで）27～33 mm。背弁がなく、全体暗色で、中胸背に1対の暗黄色紋がある。成虫は7月下旬～11月上旬（県内では8月中旬～10月中旬）までみられる。

【分布】日本固有種で、北海道南部から九州。県内では、いなべ市、菰野町、鈴鹿市、亀山市、津市、伊賀市、名張市、松阪市、多気町、明和町、大台町、度会町、玉城町、大紀町。

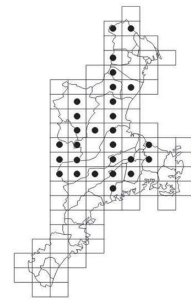
【現況・減少要因】丘陵地や低山地域のアカマツ、スギ、ヒノキなど針葉樹林に生息し、林床のツツジ類が産卵植物に選ばれることが多い。アカマツ林は近年マツノザイセンチュウによって枯死が広域的に進行しており著しく衰退している。このような生息地は開発の対象となりやすく影響がある。

【保護対策】アカマツ林と林床植物も含めた保全。スギ・ヒノキ造林地の継続的な管理が必要。

【文献】3, 4, 6, 33, 36, 42, 44, 47, 51, 57, 61, 70, 71, 79, 82, 90, 91.

(北村 颯・乙部 宏)

(写真：多気町，2018年，北村颯撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

コオイムシ

カメムシ目 コオイムシ科

Appasus japonicus Vuillefroy

【選定理由】県内における分布域は広いが、生息環境の改変などにより減少傾向にある。

【種概要】体長17～20 mmで、一般にオオコオイムシ（23～26 mm）と比べて一回り小さい。5～6月頃に雌は雄の背面に卵を並べて産み付ける。池沼や水田、休耕田、河川の淀みなど止水から緩流域に生息する。

【分布】北海道、本州、四国、九州に分布し。県内では広く分布する。

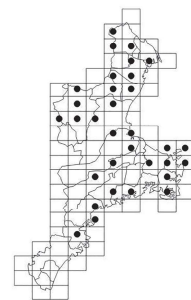
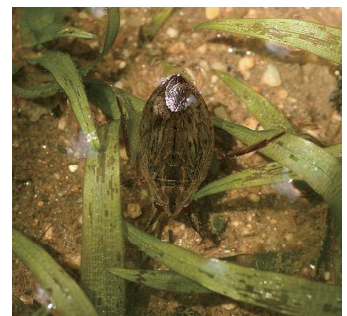
【現況・減少要因】現在のところ県内には比較的広く生息しているが、これらの生息地はいずれも諸開発の影響を受けやすい地域で、近年減少傾向にある。水田や休耕田等の埋め立てによる開発で、生息地自体が減少している。

【保護対策】池沼や湿地の開発抑止、水田、水路、河川等の水質保全。

【文献】17, 28, 29, 30, 31, 35, 36, 39, 40, 43, 41, 46, 57, 59, 60, 61, 62, 64, 65, 73, 76.

(富田靖男・矢崎充彦)

(写真：愛知県，2010年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ミゾナシミズムシ

カメムシ目 ミズムシ科

Cymatia apparens (Distant)

【選定理由】既知の生息地が10以下で、湿地やワンドなど比較的浅い止水域を好むため、生息環境の改変による影響を受けやすい。

【種概要】体長5～6mmの小型のミズムシの一種で、雌雄ともに前脚附節が細長く、齒列（ペグ列）が無い。

【分布】北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では四日市市、鈴鹿市、松阪市、志摩市の池沼で確認されている。

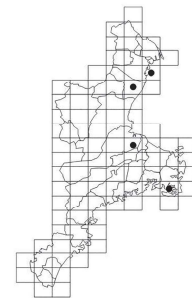
【現況・減少要因】生息地では多産することが少なく、確認個体数は少ない。低地の浮葉植物や抽水植物が繁茂する池沼に生息するが、河川敷に一時的に形成される小規模なワンドなどでも見られる。池沼と周辺環境の改変、水質汚染、河川改修などで減少している。

【保護対策】抽水植物の豊富な池沼やワンドの開発抑止と水質保全。アメリカザリガニやウシガエル等外来種の駆除と侵入防止。

【文献】17, 61, 73.

(富田靖男・矢崎充彦)

(写真：松阪市，2007年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ホッケミズムシ

カメムシ目 ミズムシ科

Hesperocorixa distanti hokkensis (Matsumura)

【選定理由】既知の生息地が10以下で、湿地やワンドなど比較的浅い止水域を好むため、生息環境の改変による影響を受けやすい。

【種概要】体長10～11mmの大型のミズムシの一種で、後胸腹板剣状突起が細長く、雄交尾器の右交尾鉤の中央付近に膨らみがある。

【分布】本州、四国、九州に分布し、県内では中勢地域から南勢地域での確認が多い。

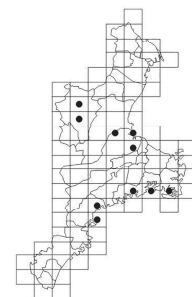
【現況・減少要因】上記の市町で記録されているが、いずれも確認個体数は少ない。生息場所はヨシ、ガマなどの抽水植物の豊富な池沼やワンドなど低湿地で、いずれも生息地基盤が脆弱である。池沼と周辺環境の改変、水質汚染、河川改修などで減少している。

【保護対策】抽水植物の豊富な池沼やワンドの開発抑止と水質保全。アメリカザリガニやウシガエル等外来種の駆除と侵入防止。

【文献】15, 17, 20, 65, 73.

(富田靖男・矢崎充彦)

(写真：志摩市，2005年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ナガミズムシ

カメムシ目 ミズムシ科

Hesperocorixa mandshurica (Jaczewski)

【選定理由】既知の生息地が10以下で、湿地やワンドなど比較的浅い止水域を好むため、生息環境の改変による影響を受けやすい。

【種概要】体長10～11mmの大型のミズムシの一種で、後胸腹板剣状突起が短く、雄交尾器の右交尾鉤の中央付近に顕著な膨らみが無い。灯火に飛来することがある。

【分布】本州、四国、九州に分布し、県内では津市、松阪市、多気町、伊賀市で確認されているが、局地的である。

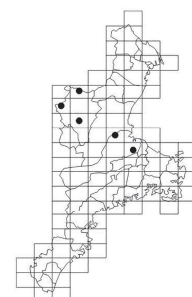
【現況・減少要因】上記の市町で記録されているが、いずれも確認個体数は少ない。生息場所はヨシ、ガマなどの抽水植物の豊富な池沼やワンドなど低湿地で、いずれも生息地基盤が脆弱である。池沼と周辺環境の改変、水質汚染、河川改修などで減少している。

【保護対策】抽水植物の豊富な池沼やワンドの開発抑止と水質保全。アメリカザリガニやウシガエル等外来種の駆除と侵入防止。

【文献】15, 57, 66, 73.

(富田靖男・矢崎充彦)

(写真：多気町，2000年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ミヤケミズムシ

カメムシ目 ミズムシ科

Xenocorixa vittipennis (Horváth)

【選定理由】 既知の生息地が15以下で、いずれの池沼やワンドも生息地基盤が脆弱であり、生息環境の改変による影響を受けやすい。

【種概要】 体長8～9mmの中型のミズムシの一種で、体側はやや膨らみ丸みをおびる。雄の前脚附節内面の歯列（ペグ列）は附節の前半部のみに並び、雄交尾器の右交尾鉤は斧状を呈する。

【分布】 本州、四国、九州に分布。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、津市、松阪市、伊勢市、志摩市、伊賀市で記録されている。

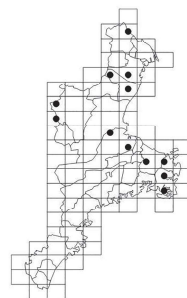
【現況・減少要因】 上記の市町で記録されているが、いずれも確認個体数は少ない。生息場所はヨシ、ガマなどの抽水植物の豊富な池沼やワンドなど低湿地で、いずれも生息地基盤が脆弱である。池沼と周辺環境の改変、水質汚染、河川改修などなどで減少している。

【保護対策】 抽水植物の豊富な池沼やワンドの開発抑止と水質保全。アメリカザリガニやウシガエル等外来種の駆除と侵入防止。

【文献】 56, 57, 61, 64, 66, 73.

(富田靖男・矢崎充彦)

(写真：松阪市，2007年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

オオアメンボ

カメムシ目 アメンボ科

Aquarius elongatus (Uhler)

【選定理由】 かつては県内に広く生息していたが、生息地、個体数ともに減少傾向にある。

【種概要】 体長20～25mm前後で、日本産最大のアメンボの一種である。体色は黒色を呈し、特に雄成虫は大型で、中脚が非常に長い。

【分布】 本州、四国、九州、対馬に分布する。県内ではいなべ市、四日市市、亀山市、津市、明和町、南伊勢町、尾鷲市、熊野市などから広く記録されている。

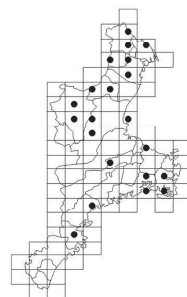
【現況・減少要因】 周辺を樹林に囲まれたやや薄暗い環境の池沼に生息し、河川の緩流域でも見られることがある。宅地開発による樹林地伐採や池沼の埋め立て等により、生息適地が減少している。

【保護対策】 池沼の開発抑止など水辺環境および周辺樹林地の保全。

【文献】 43, 63, 64, 65, 73, 74, 75.

(富田靖男・矢崎充彦)

(写真：愛知県，2012年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

シロウミアメンボ

カメムシ目 アメンボ科

Halobates matsumurai Esaki

【選定理由】 既知の生息地が10以下で、生息環境が特異で局所的である。

【種概要】 体長5～6mmの大型ウミアメンボで、背面は微毛により灰白色を呈する。前脚附節の第1節は第2節より長い。

【分布】 本州、九州北部、対馬の内湾の沿岸に分布。県内では志摩市大王町、志摩町、浜島町の英虞湾および南伊勢町の五ヶ所湾で記録されている。

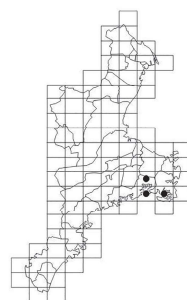
【現況・減少要因】 英虞湾および五ヶ所湾で記録されているだけであり、生息地の範囲は狭い。内湾の水質汚染等、生息環境の悪化が減少要因となりうる。

【保護対策】 内湾沿岸部の環境保全ならびに流入する河川の水質保全。

【文献】 16, 73.

(富田靖男・矢崎充彦)

(写真：志摩市，2001年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

ハマバツチカメムシ

カメムシ目 ツチカメムシ科

Byrsius varians (Fabricius)

【選定理由】 既知生息地が10以下で、生息範囲海岸付近に限定され、かつ局所的である。

【種概要】 体長3.5～4 mmで、体色は光沢のある褐色あるいは赤褐色である。海浜植物の株元などの砂中で生息している。

【分布】 本州、四国、九州に分布する。県内では四日市市、鈴鹿市、津市、明和町、鳥羽市、尾鷲市で記録があり、伊勢湾岸から熊野灘沿岸の海浜に広く分布していると考えられる。

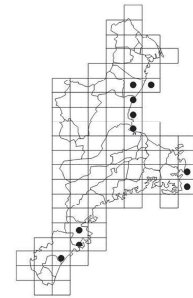
【現況・減少要因】 熊野灘沿岸の生息環境は比較的保全されている。しかしながら伊勢湾岸では工業生産活動やレジャー・スポーツ施設の建設、防災対策等により、生息環境が分断され個体数が減少する可能性が高いと考えられる。

【保護対策】 本種が生息可能な環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。

【文献】 41, 43, 61, 65.

(鈴木 賢)

(写真：津市，2009年，篠木善重撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

シロハリツチカメムシ

カメムシ目 ツチカメムシ科

Canthophorus niveimarginatus Scott

【選定理由】 既知生息地が5以下で、生息範囲は限定され、かつ局所的である。

【種概要】 体長7 mm内外で、体色は光沢のある黒藍色で体側部に白色の縁取りがある美しいカメムシ。カナビキソウのみを寄主植物とし、成虫は卵を保護する習性がある。

【分布】 本州、四国、九州に分布する。県内ではいなべ市、津市、伊勢市、紀北町から記録がある。

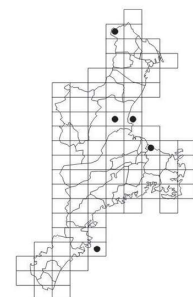
【現況・減少要因】 河川敷やため池堤防周辺など、氾濫原もしくは定期的に草刈りが行われて開放的な草地環境が維持される場所に依存している。人手が入らなくなり草が荒廃するとカナビキソウが消失し、本種も見られなくなる。

【保護対策】 生息地において定期的な草刈り作業を継続し、開放的な草地環境を維持する。

【文献】 32, 43, 93.

(鈴木 賢・矢崎充彦)

(写真：愛知県，2012年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

ツノアカツノカメムシ

カメムシ目 ツノカメムシ科

Acanthosoma haemorrhoidale (Linnaeus)

【選定理由】 既知生息地が5以下で、県中北部に分布するが、生息範囲が限定されている。

【種概要】 体長13～18 mmで、鮮やかな緑色に赤色と黒色の模様がある。前胸背側方に角があり、名の由来となっている。バラ科植物に寄生する。

【分布】 本州、四国、九州に分布する。県内では菰野町、津市から記録がある。本県における分布は、紀伊半島東岸部における南限と考えられる。

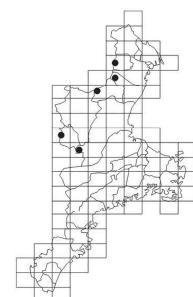
【現況・減少要因】 生息範囲は鈴鹿山系周辺地域であり、現状では環境は保全されている。しかし、比較的低山地帯で確認されることから、今後の土地開発により生息環境が激変する可能性が高いと考えられる。

【保護対策】 本種が生息可能な環境を保全するとともに、継続的な環境調査を行う。

【文献】 38, 43.

(鈴木 賢)

(写真：長野県，2009年，矢崎充彦撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

コマダラウスバカゲロウ
Dendroleon jezoensis Okamoto

アミメカゲロウ目 ウスバカゲロウ科

【選定理由】特殊な環境を好むため既知生息地が極限されており環境変化に影響を受けやすく減少傾向である。

【種概要】体長10 mmほどの幼虫（アリジゴク）は巣を作らず崖、岩場、大径の樹皮などに生える雨水のあたりにくい地衣類の表面で捕食しながら成長する。成虫は体長22 mmほど前翅長28 mm程度で緩やかに飛翔する。

【分布】北海道，本州，四国，九州。いなべ市から尾鷲市まで記録されている。

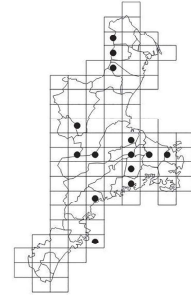
【現況・減少要因】本種にとって必要な特定された地衣類は半日蔭を好み大気汚染にも弱く環境変化にも脆弱である。

【保護対策】生息地および周辺の環境は大きく改変しない。

【文献】2, 5, 9, 10, 11.

(乙部 宏)

(写真：菰野町，2019年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

オオツノトンボ
Protidricerus japonicus (MacLachlan)

アミメカゲロウ目 ツノトンボ科

【選定理由】既知産地は10程度で生息範囲が限られている。

【種概要】成虫は約30 mm，前翅長は40 mm程度で，緩やかに飛翔し灯火などにもよく飛来する。幼虫（アリジゴク）は巣を作らず地表の落葉下などで小昆虫などを捕食している。

【分布】本州，四国，九州に分布する日本固有種。県内では，いなべ市から紀北町まで記録されている。

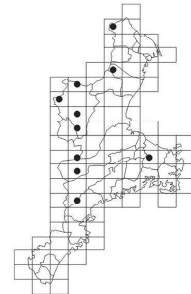
【現況・減少要因】麓から低山，丘陵地などの草原で発生する。現在そのような環境は宅地やソーラー発電などの開発対象になりやすく将来的に大きく減少する可能性が高い。

【保護対策】継続的な環境調査を行い本種の生息地を環境保全する。

【文献】1, 2, 4, 8, 10, 11, 12, 13, 14.

(乙部 宏)

(写真：津市，2016年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

コオナガミズスマシ
Orectochilus punctipennis Sharp

コウチュウ目 ミズスマシ科

【選定理由】既知生息地点が10未満。近年減少傾向にあるものと思われる。

【種概要】体長5.5~6.2 mm。水質の良い河川の上~中流域に生息する。日中は岸辺近くの植物の根の間や岩陰に潜んでいるのを見ることが多い。夜間に水面を巡回する。

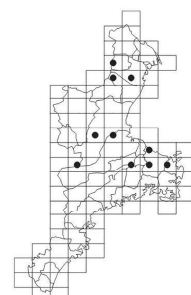
【分布】本州，四国，九州。朝鮮半島，ロシア沿海州。三重県では，四日市市，菰野町，亀山市，津市，松阪市，伊勢市，度会町，鳥羽市などで確認されている。いずれも伊勢湾流入河川で，熊野灘沿岸や伊賀盆地では未記録である。

【現況・減少要因】河川規模が大きく，水質が良い雲出川，榎田川，宮川では，現在も個体数が多い地点があるが，他では非常に少ないようである。四日市市，菰野町の記録は1960年代以前のものである。河川の改修などがその減少要因であると考えられる。また，耕作地からの農薬の流入なども脅威となりえるものと思われる。

【保護対策】河川の改修などには十分配慮すべきである。

【文献】261, 268, 306, 390, 478.

(秋田勝己)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

アイヌハンミョウ

Cicindela gemmata aino Lewis

コウチュウ目 オサムシ科

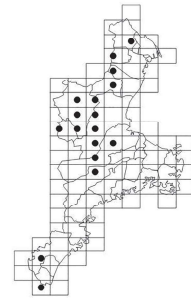


【選定理由】河川改修の影響で全国的に減少している。
 【種概要】体長は16～17 mm. ニワハンミョウに類似するが翅端の斑紋が明瞭であり、上唇の形状などで区別できる。河川敷の上～中流域の砂や小石のある河原に生息し、成虫、幼虫とともに肉食で小さな昆虫類などを捕食する。
 【分布】北海道、本州、四国、九州。県内では、いなべ市から紀宝町までの大きな河川で記録されている。
 【現況・減少要因】生息地の河原は洪水などによる適度な攪乱によって形成される砂州が必要であり、常に不安定な環境を渡り歩くような移動を繰り返している。砂防ダムなどの河川改修は上流部からの砂の供給を減らし本種にダメージを与えている。

【保護対策】自然に近い河川環境の保全が必要である。
 【文献】42, 50, 82, 145, 191, 257, 260, 261, 306, 325, 536.

(乙部 宏)

(写真：津市，2024年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

クロカタビロオサムシ

Calosoma maximowiczii (Morawitz)

コウチュウ目 オサムシ科



【選定理由】既知の採集地点が少数である。
 【種概要】体長22～31 mm. 全体的に黒色で光沢をもつ。後翅は発達してよく飛翔する。主にチョウ目の幼虫を捕食する。
 【分布】北海道、本州、四国、九州と周辺離島に分布するが、西南日本では局地的となる。県内では1980年代までに津市長谷山、旧美杉村で採集され、その後長らく記録がなかった。2013～2014年にかけて伊賀市で多数採集されたが、その後このような大発生は認められない。他にも大紀町、津市、南伊勢町、鈴鹿市で記録が追加された。国外では東アジア地域に分布する。

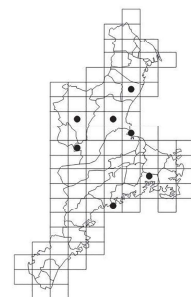
【現況・減少要因】自然度の高い広葉樹林との結びつきが強いと考えられるため、人工林や二次林の増加が負の影響をもたらした可能性が考えられる。東北地方などでは従来から周期的な大発生が知られており、近畿地方でも2010年代に本種の大発生が報告された。県内の最近の記録も一過性のものなのかどうか今後のモニタリングが必要である。

【保護対策】樹林帯を中心に生息地の確認や生態調査が必要である。またそのような自然環境を保全することが、潜在的な本種の生息地を保護することにもなるだろう。

【文献】16, 135, 161, 166, 199, 553, 554, 555, 556.

(久保田耕平)

(写真：津市，1966，小林伸郎採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

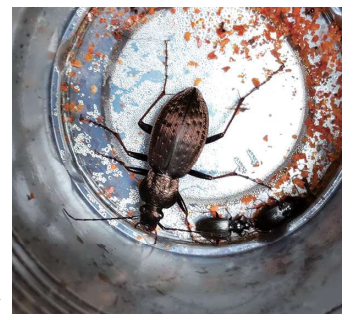
VU

NT

DD

クマノヤマトオサムシ (ヤマトオサムシ熊野亜種) *Carabus (Ohomopterus) yamato kitai* Imura

コウチュウ目 オサムシ科



【選定理由】本県特産で分布域が局限される。既知生息地点数は1地点のみである。

【種概要】体長18～22 mm. 主食はフトミミズ類と推定され、樹林内や林縁に生息する。北陸地方から近畿地方を中心に分布するヤマトオサムシ*C.(O.) yamato* (Nakane)の亜種で、交尾器形態等が特化しているとされる。ヤマトオサムシはこれまでに6亜種に分類されている。

【分布】日本(三重県)固有亜種で、熊野市、御浜町の長尾山周辺の限られた地域に分布する。北方にはミナミヤマトオサムシ*C.(O.) yamato kinkimontanus* Imura & Mizusawaの孤立分布域が点々と存在しており、本亜種の分布域との間に新たな産地が発見される可能性もある。

【現況・減少要因】分布域には樹林帯も多く、本亜種は人工林にも生息できるため、差し迫って絶滅の恐れはない。しかし、分布範囲が限られているため、大規模な環境変化によってダメージを受ける可能性がある。また生息地点周辺は近年シカによる下層植生の食害が著しく、生息環境の悪化が懸念される。

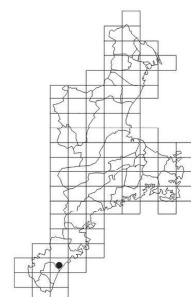
【保護対策】分布域内の環境変化をできるだけ避け、シカの個体数管理を適切に行う必要がある。

【特記事項】タイプ産地は熊野市長尾山。

【文献】101.

(久保田耕平)

(写真：熊野市，2023年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

スズカメクラチビゴミムシ
Trechiana suzukaensis S. Uéno

コウチュウ目 オサムシ科

【選定理由】鈴鹿山脈北部の石灰洞と鉾山跡の3か所から記録されている。
【種概要】体長5.1~6.0 mm. 複眼も後翅も退化し、体色はアメ色に退色している。石灰洞とその周辺の鉾山跡に生息する。近年地下浅層からも採集されている。

【分布】日本固有種で、三重県と滋賀県との県境の中北部の石灰洞と鉾山跡に生息する。いなべ市藤原町の石灰洞「篠立の風穴」、鉾山跡「大貝戸抗」、同市北勢町鉾山跡「大通洞抗」から記録されている。

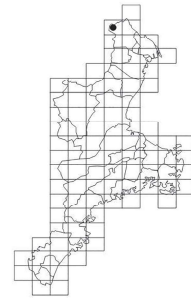
【現況・減少要因】これらの石灰洞のうち、特に「篠立の風穴」は、最近洞窟内部の崩壊が進んできており、また洞窟内部の乾燥化も激しいために、これまでのように洞窟生物が生息できる環境ではなくなりつつある。

【保護対策】「篠立の風穴」は県の天然記念物として保護されているが、上記の自然崩壊による洞窟内部の環境変化のための対策が必要である。他の鉾山跡についても同様のことが言える。

【文献】74, 116, 385.

(稲垣政志・稲垣順子)

(写真：いなべ市, 2006年, 稲垣順子採集)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

シュウレイメクラチビゴミムシ
Trechiana (Pseudotrechiana) imadatei iwatai (S. Uéno)

コウチュウ目 オサムシ科

【選定理由】既知の生息地点が2地点である。
【種概要】体長4.9 mm. 全体に薄い褐色。複眼は退化して無い。後翅は退化して飛べない。イマダテメクラチビゴミムシの亜種。

【分布】伊勢市矢持町鷲嶺の水穴および覆盆子洞。

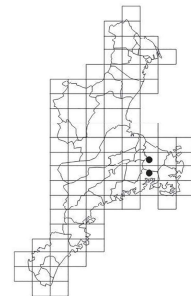
【現況・減少要因】鷲嶺の水穴と覆盆子洞にのみ生息する。現時点で他の地域での生息が確認できないので、この洞窟の環境維持にかかっている。今回の調査でも生息が確認できなかった。もともと非常に生息数の少ない種である。

【保護対策】どちらの洞窟も信仰の対象とされており開発される可能性は低いが今後もこれらの洞窟への信仰が続く保証はないので、地元の協力を含めた行政からの洞窟保護が必要である。

【文献】11, 381.

(稲垣政志・稲垣順子)

(写真：伊勢市, 1975年, 市橋甫採集)



三重県 2025
NT
三重県 2015
—
環境省 2020
—

イマダテメクラチビゴミムシ
Trechiana imadatei (S. Uéno et Shibantai)

コウチュウ目 オサムシ科

【選定理由】伊勢市宇治館町と志摩市磯部町周辺の石灰洞にのみ生息する。
【種概要】体長4.5~5.7 mm. 複眼と後翅は退化し、体色はアメ色に退色する。石灰洞にのみ生息する洞窟性昆虫。

【分布】日本固有種で三重県の南勢地域にのみ分布する。伊勢市宇治館町「燧石の穴」、「五知越の横穴」、「旭の縦穴」、志摩市磯部町「大沢の風穴」、「廃釜の穴」の石灰洞で記録されている。

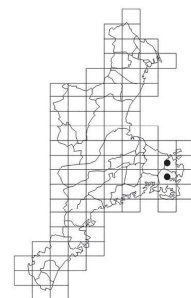
【現況・減少要因】伊勢市宇治館町の石灰洞は、神宮境内にあって管理されているため、本種の個体数は変化なく維持されている。一方、志摩市磯部町の石灰洞は、人的影響による環境破壊が考えられる。

【保護対策】伊勢市宇治館町の石灰洞は維持管理され種の絶滅から保護されているが、志摩市磯部町の石灰洞は、入洞者の制限が必要である。

【文献】68, 362, 381.

(稲垣政志・稲垣順子)

(写真：伊勢市, 2023年)



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

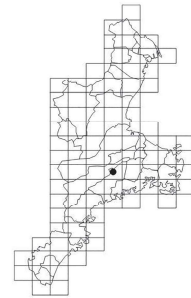
コヤメクラチビゴミムシ
Trechiana apicedentatus S. Uéno

コウチュウ目 オサムシ科

【選定理由】大紀町の石灰洞の1か所のみで生息する。
 【種概要】体長4.6~5.7 mm. 複眼も後翅も退化し、体色はアメ色に退色する、中型の洞窟性昆虫。
 【分布】日本固有種で、三重県大紀町藤木屋の石灰洞「木屋のこうもり穴」にのみ生息する。
 【現況・減少要因】入洞が安易なため、人為的な環境の変化、破壊が危惧される。
 【保護対策】行政、地元の理解ある環境保全と維持管理が望まれる。
 【文献】67, 362, 384.

(写真：大紀町，2022年)

(稲垣政志・稲垣順子)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

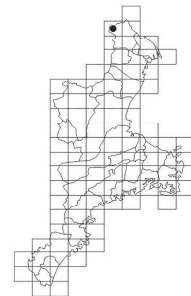
シノダチメクラチビゴミムシ
Kurasawatrechus ichihashii S. Uéno

コウチュウ目 オサムシ科

【選定理由】いなべ市藤原町の石灰洞1か所にのみ生息する。
 【種概要】体長3.1 mm. 複眼と後翅は退化し、体色はアメ色に退色する。洞窟の深部に生息する小型種である。
 【分布】日本固有種で三重県いなべ市藤原町「篠立の風穴」にのみ生息する。この洞窟に生息するスズカメクラチビゴミムシより特化し、小型化してより深部に生息する。
 【現況・減少要因】洞窟周辺の開発は現在一時的に止まっているが、洞窟そのものの内部崩壊が始まっており、特に最深部では崩落のために、これまでに比べて半分ほど埋まってしまった。洞窟全体の乾燥化も進んできており、本種の生息には極めて厳しい状況になりつつある。
 【保護対策】無断で洞窟内部へ入る人があり、洞窟内部の環境汚染が進んでいる。篠立の風穴は県の天然記念物に指定保護されているが、これからも適切な維持管理が望まれる。
 【文献】74, 78, 116, 383.

(写真：いなべ市，2008年，稲垣政志採集)

(稲垣政志・稲垣順子)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

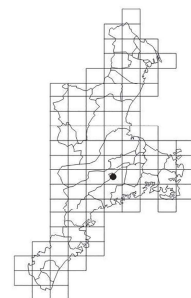
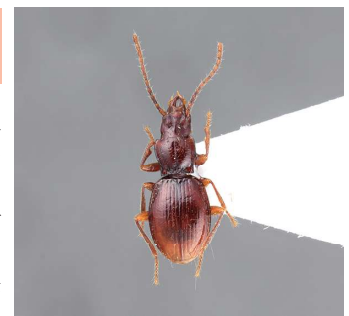
ヒラケメクラチビゴミムシ
Kurasawatrechus hirakei S. Uéno

コウチュウ目 オサムシ科

【選定理由】大紀町藤木屋と大紀町阿曾の石灰洞2か所にのみ生息する。
 【種概要】体長2.5~3.1 mm. 複眼も後翅も退化し、体色はアメ色に退色する。洞窟性昆虫でも同じコヤメクラチビゴミムシより特化した小型種で、洞窟のより深部に生息する。
 【分布】日本固有種で三重県大紀町藤木屋「木屋のこうもり穴」および大紀町阿曾「藤ヶ野の穴（黒天狗の穴）」の2か所に生息する。
 【現況・減少要因】容易に入洞可能な洞窟であり、人為的な環境の変化、破壊が危惧される。
 【保護対策】行政、地元の理解ある環境保全と維持管理が望まれる。
 【文献】67, 384.

(写真：大紀町，2008年，稲垣政志採集)

(稲垣政志・稲垣順子)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 苔苔類
- 藻類
- キノコ

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

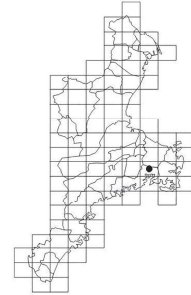
イワサキメクラチビゴミムシ
Kurasawatrechus hirakei iwasakii S. Ueno

コウチュウ目 オサムシ科

【選定理由】 既知の生息地点が1地点である。
 【種概要】 体長2.6 mm. 全体に薄い褐色. 複眼は退化して無い. 後翅は退化して飛べない. ヒラケメクラチビゴミムシの亜種.
 【分布】 伊勢市矢持町鷲嶺の水穴.
 【現況・減少要因】 鷲嶺の水穴にのみ生息する. 現時点で他の地域での生息が確認できないので, この洞窟の環境維持にかかっている.
 【保護対策】 鷲嶺の水穴は信仰の対象となっており開発される可能性は低いが, 地元の理解のうえでの行政からの洞窟環境維持と保全対策が望まれる.
 【文献】 67, 384.

(稲垣政志・稲垣順子)

(写真: 伊勢市, 2004年, 秋田勝己採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

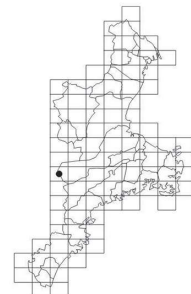
クニメクラチビゴミムシ
Kusumia septentrionalis S. Uéno

コウチュウ目 オサムシ科

【選定理由】 既知の生息地点が2地点である。
 【種概要】 体長4.85~5.10 mm. 全体に薄い褐色. 複眼は退化して無い. 後翅は退化して飛べない.
 【分布】 松阪市飯高町国見山ならびに雲が瀬山.
 【現況・減少要因】 台高山脈の国見山から雲が瀬山にかけての東斜面の地下浅層に生息するが個体数が少なく生息を確認することはきわめて困難である. 風力発電などの大規模な環境破壊があれば生息は難しくなるだろう.
 【保護対策】 現在同地域に大規模風力発電の計画があり, 地元が反対しているにも関わらずまだ計画は消えていない. 今後のこの地域の開発をできるだけしないことがこの種の保全のためには必要である.
 【文献】 422.

(稲垣政志・稲垣順子)

(写真: 松阪市, 2024年, 秋田勝己採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

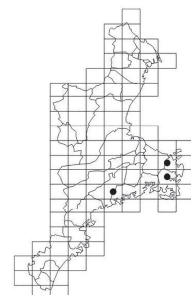
ナガホリアナヒラタゴミムシ
Jujiroa elongata S. Uéno

コウチュウ目 オサムシ科

【選定理由】 既知の生息地は6, 石灰洞にのみ生息する。
 【種概要】 体長11.0~13.0 mm. 複眼は一部退化して小さくなっている. 後翅も退化. 体色もアメ色に退色している. 洞窟性であるが, 地下浅層にも生息する.
 【分布】 日本固有種で南勢地域に分布する. 伊勢市, 志摩市, 大紀町の石灰洞に生息する. *Trechiana*属, *Kurawatrechus*属ほど特化しないが, 洞窟の入り口に近い所に生息している.
 【現況・減少要因】 石灰岩の採石などによる開発による環境変化に最も影響を受ける.
 【保護対策】 行政, 地元の理解ある環境保全と維持管理が望まれる. 特に石灰岩採掘にあたっては, 入念な調査が必要である.
 【文献】 68, 362, 382.

(稲垣政志・稲垣順子)

(写真: 伊勢市, 2023年)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

キベリマメゲンゴロウ
Platambus fimbriatus Sharp

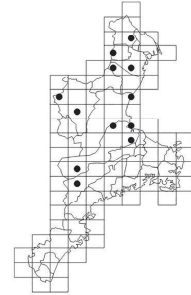
コウチュウ目 ゲンゴロウ科



【**選定理由**】 既知生息地点が10未満。近年減少傾向にある。
 【**種概要**】 体長6.5~8.0 mm。水質の良い河川の中流に生息する。岸边近くの礫の間に潜んでいるのを見ることが多い。夜間灯火に飛来することがある。
 【**分布**】 北海道，本州，四国，九州。朝鮮半島，中国。三重県では，いなべ市，菰野町，四日市市，亀山市，伊賀市，津市，松阪市，大台町で確認されている。いずれも伊勢湾流入河川で，熊野灘沿岸では未記録である。
 【**現況・減少要因**】 河川規模が大きく，水質が良い雲出川，櫛田川，宮川では，現在も個体数が多い地点があるが，他では非常に少ないようである。いなべ市，菰野町の記録は1960年代以前のものである。河川の改修などがその減少要因であると考えられる。また，周辺の耕作地からの農薬流入なども脅威である。
 【**保護対策**】 河川の改修などには十分配慮すべきである。また農薬の河川流入にも注意が必要である。
 【**文献**】 81， 89， 98， 188， 261， 272， 306， 361， 390。

(秋田勝己)

(写真：多気町，2019年，乙部宏撮影)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	NT

コガムシ
Hydrochara affinis (Sharp)

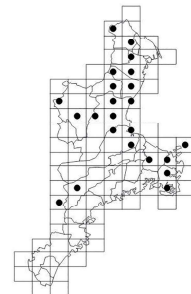
コウチュウ目 ガムシ科



【**選定理由**】 既知の生息点数は100以下。かつては水田なので普通に見られたが近年は激減している。これは全国的に同様の傾向でもある。
 【**種概要**】 体長16~18 mm。背面は黒色で暗褐色の光沢がある。成虫は水草を食べ幼虫は肉食性。止水性で浅いため池や水田，放棄水田などの不安定な水域に見られる。灯火にも多く集まるのは本種が頻繁に移動を繰り返していることを示している。
 【**分布**】 北海道，本州，四国，九州。三重県ではいなべ市，鈴鹿市，亀山市，伊賀市，津市，松阪市，大台町，伊勢市，鳥羽市，志摩市で記録されている。
 【**現況・減少要因**】 圃場整備による乾田化と中干しの強化，開発，農薬や生活排水などの汚染，侵略的外来種（アカミミガメ，ウシガエル，アメリカザリガニ）による水質汚染や水草の食害と捕食圧が脅威となっている。
 【**保護対策**】 生息地の環境保全を行い，生活污水や薬剤などの流入を防ぎ，侵略的外来種は駆除する。
 【**文献**】 33， 42， 77， 89， 91， 260， 261， 268， 272， 387， 391， 463， 540， 541。

(乙部 宏)

(写真：玉城町，2020年，乙部宏採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	DD

マルツヤマグソコガネ
Apodius (Sinodiapterna) troitzkyi Jacobson

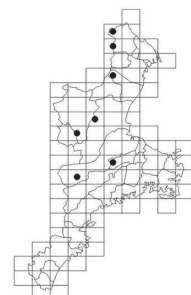
コウチュウ目 コガネムシ科



【**選定理由**】 既知の生息地点数は10以下である。全国的にも局地的に分布し，いずれの生息地でも個体数は少ない。
 【**種概要**】 体長4.0~5.7 mm。林内の鹿糞で見つかることが多い。オープンランドの放牧地でもしばしば得られる。広域分布種であるが，産地は局所的。春~初夏にかけて個体数を増す。
 【**分布**】 北海道，本州，四国，九州。国外ではサハリン，台湾，朝鮮半島，中国，シベリア（東部）。県内では鈴鹿山系，布引山系，櫛田川上流，大台町迷岳で記録されているが，いずれも少数である。今回の調査では伊賀市でも確認できた。
 【**現況・減少要因**】 鹿の頭数は増加しているが，本種はそれほど増加していない。
 【**保護対策**】 本種の生息する自然林の保護が必要である。
 【**文献**】 104， 108， 147， 229， 324， 378。

(稲垣政志)

(写真：伊賀市，2022年，稲垣政志採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 苔苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ネグロマグソコガネ

コウチュウ目 コガネムシ科

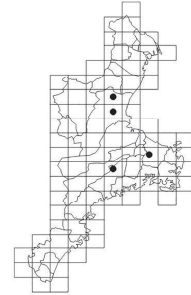
Aphodius (Aparammoecius) pallidilgonis (Waterhouse)

【選定理由】 既知の産地 4 箇所。
 【種概要】 体長3.5~4.5 mm. 頭部および前胸は光沢のある黒色で、上翅は黄褐色で基部と両側部に黒紋を持つ。
 【分布】 本州、九州。日本固有種。県内では津市芸濃町、津市美里町、伊勢市宇治今在家町、度会郡大紀町で記録されている。
 【現況・減少要因】 冬季の鹿糞から得られるが産地は極めて限局されている。植林された暗い林には生息しない。自然度の高い広葉樹林が必用である。
 【保護対策】 これ以上人工植林を進めない。落葉広葉樹の自然林を出来るだけ残す。

【文献】 410, 423, 424, 425.

(田中晃詞・稲垣政志)

(写真：伊勢市，2005年，稲垣政志採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

ハバビロコケシマグソコガネ

コウチュウ目 コガネムシ科

Myrhessus yorikoeae Ochi, Kawahara & Inagaki

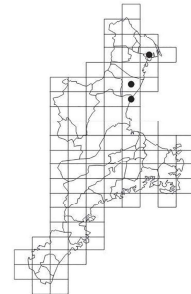
【選定理由】 既知の生息地点は 3 地点である。河川敷の環境は不安定で生息する砂地が維持される必要がある。
 【種概要】 体長3.2~3.7 mm. 体色は黒色で光沢は鈍く無毛。前胸背には 4~5本の横隆起があり、中央部両側に近縁種よりやや弱い横溝がある。
 【分布】 三重郡朝日町、鈴鹿市庄野町（タイプ産地）、鈴鹿市寺家町。国内では他に千葉県、埼玉県、大阪府などで記録されている。
 【現況・減少要因】 三重県の河川敷には広く分布している可能性はあるが他県では局所的な生息しか確認されない。

【保護対策】 河川敷の砂地に生息しているのでこの環境の維持のために河川敷の改変を極力行わないこと。特に河川の氾濫防止のための砂利採集は致し方ないが河川林の伐採や意味のない護岸工事は止めるべきである。

【文献】 260, 426, 427, 428.

(稲垣政志)

(写真：鈴鹿市，2004年，稲垣政志採集（タイプ標本）)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

ワタリビロウドコガネ

コウチュウ目 コガネムシ科

Nipponosrica peregrina (Chapin)

【選定理由】 既知の生息地点が 1 地点である。今回の調査による生息が確認できない。

【種概要】 体長7.6~9.6 mm. 頭部は黒褐色、他の部分は黄赤色から赤褐色。上翅会合角が角張らないことでハラゲビロウドコガネと区別できる。

【分布】 鈴鹿山脈。日本固有種。

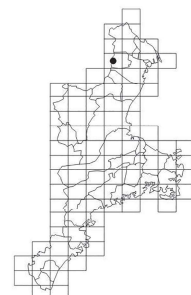
【現況・減少要因】 本来は自然の残る平地から中低山に生息するが三重県では平地ではほとんどハラゲビロウドコガネが生息しており鈴鹿山脈の標高550 m地点で本種がわずかに採集された。三重県では極めて生息数の少ない種である。

【保護対策】 標高が中程度の山地の自然林を保護する必要がある。

【文献】 429.

(稲垣政志)

(写真：菰野町，2022年，稲垣政志採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

オオヒラチャイロコガネ

Sericania ohirai Sawada

コウチュウ目 コガネムシ科

【選定理由】 既知の生息地点は鈴鹿山脈北部地域に限局されている。

【種概要】 体長9.5~11.5 mm. 背面は黒褐色~赤褐色, 背面は♂で絹状のつや消し, ♀は鈍い光沢がある. 後腿節の前縁に沿って列状に連なった鋸歯状の稜線がある.

【分布】 鈴鹿山脈北部地域.

【現況・減少要因】 鈴鹿山脈の北部地域のみに限局した生息である. しかしながら5月~6月にかけてのライトトラップで少ないながらも継続的に生息が確認できている. 生息地の良好な林が送電線の建設工事などで広く伐採されており今後の生息状況は予断を許さない.

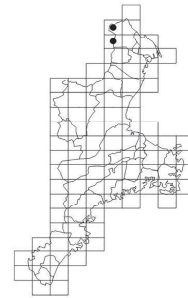
【保護対策】 現在行われている送電線工事などでの林の伐採を最低限に抑える.

【特記事項】 藤原岳をタイプロカリティーとしてフジワラチャイロコガネ *S. akitai* H. Hirasawa の名で記載されたが, 濃尾平野をはさんで東に分布するオオヒラチャイロコガネと同種であるとされた.

【文献】 43, 366.

(稲垣政志)

(写真: いなべ市, 2022年, 稲垣政志採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

キラチャイロコガネ

Sericania kirai Sawada

コウチュウ目 コガネムシ科

【選定理由】 既知の生息地点が2地点のみである.

【種概要】 体長8.5~10.5 mm. 背面は黒色. ♂ではつや消し, ♀は強い光沢がある. 頭楯および前頭にはかなり目立つ刺毛を比較的密にそなえる.

【分布】 津市美杉町平倉演習林, 鈴鹿山脈.

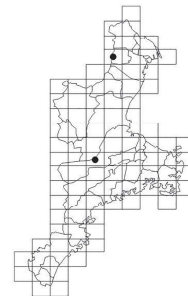
【現況・減少要因】 ライトトラップに飛来しないために生息状況のつかみにくい種である. 平倉演習林は調査が許されていないので現状が把握できない. また鈴鹿山脈のブナ清水では下草がほとんど鹿により食い尽くされており乾燥化が進んでこの種の生息には厳しい状況である.

【保護対策】 増えすぎたニホンジカの個体数調節. 山頂付近にわずかに残された天然林の保護が必要である.

【文献】 419.

(稲垣政志)

(写真: 菰野町, 2014年, 生川展行採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

ヒラタチャイロコガネ

Sericania alternata Sawada

コウチュウ目 コガネムシ科

【選定理由】 既知の生息地点は7地点である. 今回の調査で三重県南部地域の山地には比較的広く分布することが判明したが生息密度は少ない.

【種概要】 体長8.0~12.0 mm. 背面は黒褐色~赤褐色, 上翅の隆条は多少色が濃く, 腹面は黄赤褐色. 背面は♂で絹状のつや消し, ♀は鈍い光沢がある. 上翅の隆条は奇数番目が偶数番目より明らかに高まる.

【分布】 津市美杉町平倉演習林, 松阪市飯高町蓮, 松阪市飯高町波瀬, 度会郡大紀町錦, 尾鷲市湯小屋谷, 尾鷲市九鬼町, 熊野市紀和町赤木川.

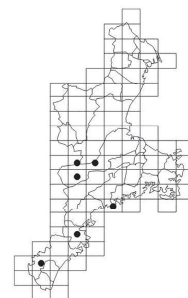
【現況・減少要因】 三重県の南部地域の山地には広く分布している可能性があるが, どの地域でも生息数は少ない.

【保護対策】 三重県南部地域の山地の自然度の高い森林が維持されることが必要である.

【文献】 80, 255.

(稲垣政志)

(写真: 松阪市, 2022年, 中西元男採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔藓類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

クロスジチャイロコガネ

コウチュウ目 コガネムシ科

Sericania fuscolineata fulgida Nijima et Kinoshita

【選定理由】 既知の生息地点が3地域である。今回の調査による生息が確認できない。

【種概要】 体長8.0~11.5 mm。背面は淡黄褐色だが西日本では前胸背板の中央部と上翅の会合線に沿った部分、隆条が黒褐色となる傾向が強い。

【分布】 鈴鹿山脈北部，平倉演習林，大台山系。日本固有種。

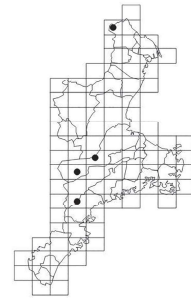
【現況・減少要因】 鈴鹿山脈，大台山系とも下草がほとんど鹿により食べ尽くされており乾燥化が進んでこの種の生息には厳しい状況である。今回の標本調査で三重県総合博物館に所蔵されている膨大な平倉演習林の過去の標本調査を行ったが，この種は1頭しか見つけられず生息数は極端に少ないようだ。

【保護対策】 鈴鹿山系，大台山系ともに良好な自然林の面積は少なく，この林を今後も保護してゆく必要がある。また増えすぎたニホンジカの個体数調節が必要である。

【文献】 37, 100, 112.

(稲垣政志)

(写真：いなべ市，2012年，横関秀行採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

オオダイセマダラコガネ

コウチュウ目 コガネムシ科

Exomala ohdaiensis (Sawada)

【選定理由】 既知の生息地点10以下。新種基産地の大台ヶ原山を中心に数か所の限られた地域で記録がある。生息個体数自体も少ない。

【種概要】 体長9.5~13.5 mm。上翅の中央斜めに太く明瞭な黒い帯状紋がある。側縁隆起は後角に届かない。小楯板は黒色である。

【分布】 日本固有種で本州，四国，九州に分布する。県内では鈴鹿山脈，津市美杉町，松阪市飯高町，大台町大杉谷，大台ヶ原山，大紀町，尾鷲市周辺から記録されているが，御在所岳を除き，生息数は極めて少ない。

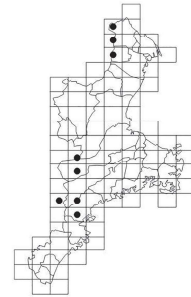
【現況・減少要因】 御在所岳 (1,212 m) では海拔600 m付近から山上にかけて，7月中旬~8月上旬に発生し，リョウブの花に集まる。発生は毎年不安定であり，多くない。

【保護対策】 御在所岳とその周辺の開発がこれ以上進められないこと。また，野生の鹿が年々増加し，これによるリョウブを中心に樹木の被害が目立つので，ニホンジカの個体数調節が必要である。

【文献】 80, 187, 390.

(稲垣政志)

(写真：菰野町，1989年，市橋 甫採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

ジウシチホシハナムグリ

コウチュウ目 コガネムシ科

Paratrichius septecimguttatus (Snellen van Vollenhoven)

【選定理由】 既知の生息地点数は10以下。自然度の高い森林を好み近畿，東海地方では限られた地域に分布し個体密度は低い。

【種概要】 体長10~14 mm。前胸背板に5個、上翅に12個の黄色紋がある。上翅は黒色で稀に赤褐色も見られ照葉樹林帯からブナ帯下部まで分布している。初夏に出現し各種の花に集まる。

【分布】 本州，四国，九州，屋久島。県内では鈴鹿市，津市，松阪市，玉城町，伊勢市，大台町，南伊勢町，熊野市。

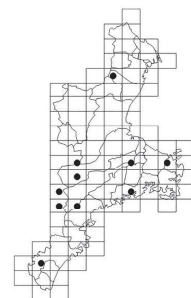
【現況・減少要因】 ブナ帯から照葉樹林帯の自然林の伐採による森林減少とニホンジカの被害による林床の乾燥化と樹皮剥ぎによる照葉樹の衰退などが影響を与えている。

【保護対策】 生息地の調査と生息環境の保全が必要であり，森林内の小規模伐採でも配慮が必要である。風力発電施設やソーラー発電施設の計画の候補地になりやすいことが懸念される。

【文献】 11, 26, 189, 271, 305, 334, 358, 391, 542.

(乙部 宏)

(写真：熊野市，1993年，乙部 宏採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

ハイケボタル

Aquatica lateralis (Motschulsky)

コウチュウ目 ホタル科

【選定理由】 既知生息点数は40以下。かつては普通に生息していたが近年の減少率は著しい。

【種概要】 体長7~10 mm。日本においてホタルの代表的な種である。上翅は黒色で前胸は淡赤色。幼虫は水生で水田などの止水域の巻貝を捕食し動物の死骸なども食す。成長すれば水辺の畦などの土中で蛹化する。

【分布】 北海道から九州。県下では桑名市から御浜町。

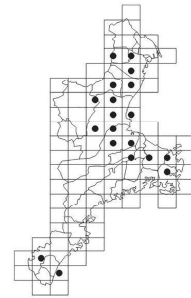
【現況・減少要因】 谷地に残る水田に緩やかに流れ込む水路周辺や低農薬に取り組み水田で発見されることが多い。湿田の畑地への転用（麦、大豆）に加え浸透移行性殺虫剤の普及と田植、落水の早期化による乾田化と水質汚染による幼虫の餌となる巻貝類の減少、圃場整備や配水管方式への転換などで水辺から陸地への移行帯の分断により幼虫が上陸できず蛹化できないことなど複数の要因が重なった結果である。

【保護対策】 浸透性除草剤の低減を図り汚水の流入を防ぎ餌となる巻貝を生育させる。生息地付近の水辺から陸地への移行帯を重視し、畦などの除草は薬剤を使用せず草刈り時期も蛹化季節の5、6月を避ける。現状の農耕方式を維持する。また、むやみに他の地域から移入し放すのは生物多様性の保全ではない。

【文献】 36, 79, 84, 85, 89, 257, 261, 268, 300, 357, 359, 372, 390, 392, 427, 543, 544, 545, 546, 547, 548, 549。

(写真：明和町，2024年)

(乙部 宏)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

セダカテントウダマシ

Bolbomorphus gibbosus Gorham

コウチュウ目 テントウダマシ科

【選定理由】 紀伊半島固有種で、既知の生息地点数は20以下である。

【種概要】 体長7.0~9.0 mm。黒褐色で上翅に4個のオレンジ色の紋があり、体は丸く背面が大きく盛り上がっている。後翅は退化しており、飛ぶことができない。動作は緩慢で、驚かすと臭い黄色の液を出す。

【分布】 紀伊半島固有種。県内では名張市赤目、度会町獅子ヶ岳、津市美杉町平倉演習林、松阪市国見山、蓮、青田、明神平、宮ノ谷、局ヶ岳、大紀町南赤山、大台町総門山、父ヶ谷、仙千代ヶ峰、大台辻、大台ヶ原、迷岳、大杉谷、尾鷲市古和谷で記録されている。

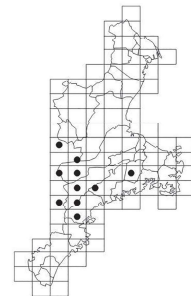
【現状・減少要因】 最近の調査では台高山脈以外でも生息地が確認されているが、いずれの生息地も自然度の高い広葉樹林である。

【保護対策】 少なくとも既生息地の自然環境の保全が必要である。特に自然林の伐採、スギ・ヒノキの植林化等による生息域の減少が危惧される。

【文献】 3, 28, 34, 37, 81, 100, 219, 228, 242, 243, 247, 265, 270, 306, 356, 391, 576, 393, 395, 434, 436, 437。

(写真：大紀町，2007年，生川展行採集)

(生川展行)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ジウクホシテントウ

Anisosticta kobensis Lewis, 1896

コウチュウ目 テントウムシ科

【選定理由】 自然度の高い湿地や河口、海岸の砂浜に生息しており、既知の生息地点数は10以下である。

【種概要】 体長3.8~4.1 mm。背面は淡黄色で、頭部に1対、前胸背に3対、上翅に19個の黒点がある。

【分布】 北海道、本州、四国、九州。国外では朝鮮半島、中国（北部）、ウズリ。県内では、いなべ市大安町両ヶ池、鈴鹿市野町祓川池、鼓ヶ浦海岸、津市河芸町田中川干潟、阿漕浦、松阪市松名瀬海岸、志摩市大王町畦名、紀北町船津元谷川河口で記録されている。

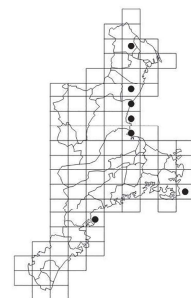
【現状・減少要因】 湿地や河口、海岸の砂浜の埋め立て、護岸整備などにより、生息地が減少している。

【保護対策】 湿地や河口、海岸の砂浜の自然環境の保全が必要である。

【文献】 72, 76, 91, 157, 248, 265。

(写真：鈴鹿市，2004年，生川展行採集)

(生川展行)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

オオマルチビゴミムシダマシ

コウチュウ目 ゴミムシダマシ科

Caedius maderi Kaszab

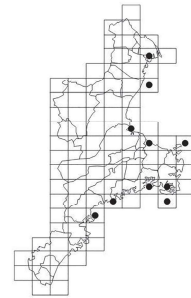


【選定理由】既知の生息地点数は20以下である。
 【種概要】体長4.5~6.0 mm. 体は光沢のない黒色で、海岸の砂浜に生息している。昼間は海浜性植物の根際などの砂の中に潜っており、夜間活動する。
 【分布】本州、四国、九州、伊豆諸島、屋久島、奄美大島、徳之島、沖縄本島、久米島、石垣島、西表島、竹富島、黒島、波照間島、与那国島。国外では韓国、カンボジア。県内では川越町高松海岸、四日市市吉崎海岸、松阪市松名瀬海岸、鳥羽市神島、答志島、志摩市志摩町御座、黒の浜、広の浜、大野浜、和具大島、南伊勢町古和浦座佐池、大紀町芦浜、紀北町大島で記録されている。

【現状・減少要因】以前は県内の砂浜海岸に広く分布していたと考えられるが、海岸の護岸整備や埋め立てなどにより、生息範囲が減少してきている。既地点の海岸の砂浜は大きな環境の変化はない。

【保護対策】少なくとも既地点の海岸の砂浜の保全が必要である。
 【文献】12, 70, 87, 88, 91, 227, 248, 268, 307, 427, 438, 439.

(写真：川越町，1988年，市橋 甫採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

ハネナシセスジキマワリ

コウチュウ目 ゴミムシダマシ科

Strongylium marseuli Lewis



【選定理由】紀伊半島では、和歌山県と三重県南部の熊野灘沿岸地域で記録されているだけで、既知の生息地点数も10以下である。

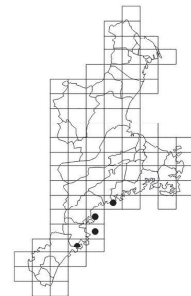
【種概要】体長10~12 mm. 体は黒褐色で上翅間室は隆起する。照葉樹の自然林に生息しており、夜間活動する。後翅は退化して飛ぶことはできない。

【分布】本州、四国、九州、隠岐島、八丈島、壱岐島、対馬、五島列島、大隅黒島、種子島、屋久島、口永良部編奄美大島、徳之島、沖縄本島に分布。国外では韓国。県内では南伊勢町古和浦、大紀町錦向井、錦塩浜、紀北町紀伊長島区豊浦神社、鈴島、尾鷲市九木崎、九木神社、熊野市楯ヶ崎で記録されている。

【現状・減少要因】紀北町豊浦神社、尾鷲市九木神社は神社林として保全されている。熊野灘沿岸に広く分布していたと考えられるが、照葉樹の自然林の減少と共に生息域が減少してきた。

【保護対策】熊野灘沿岸の照葉樹林の保全が必要である。
 【文献】87, 233, 258, 264, 268, 440.

(写真：尾鷲市，1993年，生川展行採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

クロスジツッカク

コウチュウ目 アリモドキ科

Notoxus haagi haagi Marseul, 1879



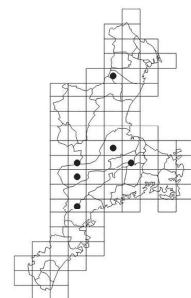
【選定理由】生息密度が低く、既知の生息地点数は10以下である。
 【種概要】体長4.7~6.0 mm. 体は赤褐色で、各上翅の側方には肩部から翅端上部まで伸びる黒褐色の紋があり、前胸背には前方に伸びる大きな突起がある。河川の上流から中流域の河原に生息している。

【分布】本州、四国、九州に分布。国外ではロシア東部、韓国に分布。県内では四日市市宮妻峽、津市美杉町太郎生、三重大学平倉演習林、松阪市庄町櫛田川河川敷、松阪市飯高町蓮、度会町鮎川、大台町大杉谷で記録がある。

【現状・減少要因】既生息地での個体数は少ないため、河川上流から中流部の大規模な河川改修により、減少や絶滅する可能性がある。

【保護対策】河川改修には多自然型工法を導入するなどの注意をする必要がある。
 【文献】189, 230, 249, 255, 257, 409.

(写真：四日市市，1991年，生川展行採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

クロオビホソアリモドキ
Anthicus protensus Marseul

コウチュウ目 アリモドキ科

【選定理由】 海浜性の種で全国的に記録は少なく、既知の生息地点数は10以下である。

【種概要】 体長3.0~3.7 mm. 体は赤褐色で上翅の肩部と中央部、翅端部には黒褐色の紋がある。

【分布】 本州、四国、九州に分布。県内では四日市市楠町吉崎海岸、鈴鹿市磯山海岸、伊勢市東豊浜海岸、鳥羽市相差町、千鳥ヶ浜、砥谷の浜、志摩市阿児町国府白浜、志摩市志摩町黒の浜、熊野市楯ヶ崎で記録されている。

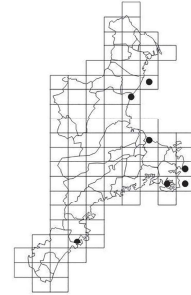
【現状・減少要因】 県内のいずれの生息地も大きな自然環境の変化はないが、全国的に個体数の少ない種であるため、環境の変化で減少あるいは絶滅する可能性がある。

【保護対策】 砂浜海岸の自然環境の保全が必要である。

【文献】 235, 238, 258, 268, 273, 307.

(生川展行)

(写真：四日市市，2000年，市川 太採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

ヘリハネムシ (ナミヘリハネムシ)
Ischalia patagiata Lewis

コウチュウ目 アカハネムシ科

【選定理由】 生息密度が低く、既知の生息地点数は10地点以下である。

【種概要】 体長3.8~6.5 mm. 夏期に林床のササや下草にとまっている個体が得られることが多い。

【分布】 北海道、本州、四国、九州に分布。県内では、菰野町八風溪谷、湯の山、亀山市野登山、伊賀市湯舟、津市美杉町平倉演習林、伊勢市五十鈴川、紀北町紀伊長島区名古屋浜、尾鷲市三木崎で記録されている。

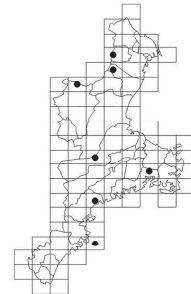
【現状・減少要因】 生息密度が低く、詳細な生態も判明していないため、県内のいずれの生息地も、継続的に生息が確認されていないが、近年は特にシカの食害による下草の激減の影響が深刻化してきている。

【保護対策】 少なくとも既生息地の自然環境の保全が必要である。

【文献】 12, 139, 342, 372, 399.

(生川展行)

(写真：尾鷲市，2002年，稲垣政志採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

クビアカモモブトホソハナカミキリ
Kurarua rhopalophoroides Hayashi

コウチュウ目 カミキリムシ科

【選定理由】 既知の生息地点数は10以下。自然度の高い森林を好み近畿、東海地方では限られた地域に分布し個体密度は低い。

【種概要】 体長8~11 mm. 体形は細長く前胸部は橙赤色で上翅は灰色の微毛に覆われる。成虫は4~6月にかけてカマツカやシイなどの各種の花に集まり、幼虫はクロガネモチやソヨゴの枯れ枝に穿孔する。

【分布】 本州（静岡県以西）、四国、九州。県内では伊賀市、玉城町、伊勢市、鳥羽市、志摩市。

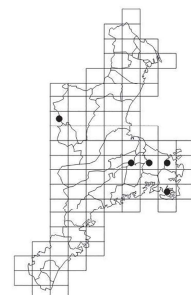
【現況・減少要因】 照葉樹林帯の自然林の開発による減少が考えられる。

【保護対策】 生息地の調査と生息環境の保全が必要であり、森林内の小規模伐採でも配慮が必要である。風力発電施設やソーラー発電施設の候補地に成りやすいことが懸念される。

【文献】 268, 291, 345, 537, 538, 539.

(乙部 宏)

(写真：玉城町，2018年，岡村純採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 苔苔類
- 藻類
- キノコ

- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

イチハシシギゾウムシ *Curcurio ichihashii* Morimoto

コウチュウ目 ゾウムシ科

【選定理由】 県内6か所から記録されており、毎年の発生状態が不安定である。

【種概要】 体長2.3 mm. 吻は円筒形で少し曲がり、前胸背に1対の白色条がある。前脛節端は外方へ広がらない。上翅中央に白色帯がある。

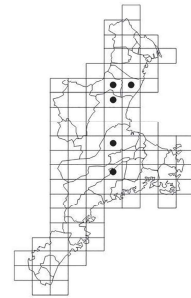
【分布】 本州（三重県、和歌山県、広島県）に分布する。県内では鈴鹿市石薬師町、国府町・河田町・国分町・高塚町・長澤町・三宅町・安塚町・山本町、亀山市安坂山町・田村町・布気町、松阪市小阿坂町、大紀町から記録されている。

【現況・減少要因】 いずれも神社の社叢林から採集されており、毎年の発生数が極めて不安定である。主にサカキから採集されているが、生態は不明である。鈴鹿市の神社の社叢林に広く生息していることが確認されたが、鈴鹿市長沢町の生息地では、台風の影響で樹木が倒れ、その後広く伐採されて、個体数が激減した。

【保護対策】 社叢林の保全管理が望まれる。

【文献】 84, 203, 260, 261.

(官能健次・市橋 甫)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

クマノヒゲボソゾウムシ *Phyllobius (Otophyllobius) kumanoensis* Morimoto & Miyakawa

コウチュウ目 ゾウムシ科

【選定理由】 尾鷲市から旧熊野市にかけての地域だけに分布する固有種である。

【種概要】 体長8.1~9.2 mm. 吻は短く、複眼は球状に隆起し、頭部は複眼後方で一様に隆起する。腿節の歯状突起は大きく、三角状。背面は緑色鱗片に被われる。

【分布】 紀伊半島で多様化し、5種に種分化した中の1種である。生息地は尾鷲市から熊野市にかけての地域で、5種の中で最も狭い地域に分布している。尾鷲市松本・九鬼町九木崎・早田町ナサ崎・矢ノ川峠、熊野市二木島里町・飛鳥町大又から記録されている。

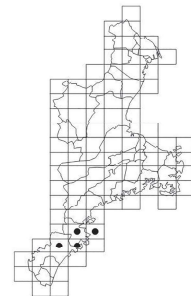
【現況・減少要因】 2006年に記載された種である。生息地は狭い範囲で点在し、分断傾向が顕著である。北部にイセヒゲボソゾウムシ、南部にマルムネヒゲボソゾウムシと分布を接している。

【保護対策】 現状の自然環境を保全するとともに、分布境界では交雑の可能性が高く継続した調査が必要である。

【特記事項】 尾鷲市産の個体群と熊野市側の個体群は形体から区別することができる。

【文献】 204.

(官能健次)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

リュイスヒゲボソゾウムシ *Phyllobius (Chauliophyllobius) lewisi* (Sharp)

コウチュウ目 ゾウムシ科

【選定理由】 県内から1か所の記録があるのみである。

【種概要】 体長5.8~6.4 mm. 雄の吻の先端に1対の角状突起をもつ。前脛節に大きな歯状突起をもち、前脛節は扁平で二湾状。背面は緑色鱗片に被われるが、脱落しやすい。成虫はシャクナゲ・ヤマツツジ・アセビなどの新葉を加害する。

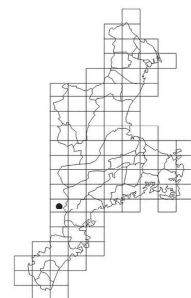
【分布】 紀伊半島固有種で、三重県、奈良県、和歌山県から記録されている。県内からは大台町宮川ひろくり谷で記録されている。他地域からの標本も検しているが、1896年に記載されたタイプ標本写真と比べると、大台ヶ原・ひろくり谷産の標本がよく合致する。

【現況・減少要因】 大台ヶ原周辺は、ニホンジカによる食害で環境が大きく変化しており、本種の生息環境に影響を及ぼしていると思われる。

【保護対策】 ニホンジカによる食害の防止による、自然林の保護が必要である。継続的な生息調査が必要である。

【文献】 63.

(官能健次)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

タマサルゾウムシ

Orobitis cyanea (Linnaeus)

コウチュウ目 ゾウムシ科

【選定理由】菰野町における1956年の記録以降、4地域で記録されたのみである。

【種概要】体長2.1~2.3 mm。体型は球形。背面は黒色で光沢がある。会合線は灰白色の鱗片に、体下面は密に灰色鱗片で覆われる。

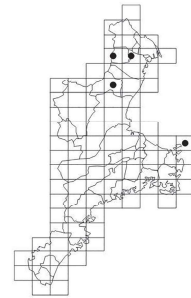
【分布】本州、北海道、千島に分布する。県内では菰野町、四日市市小牧町、亀山市田村町、鳥羽市神島から記録される。

【現況・減少要因】田村町、神島では4~5月にタチツボスミレの花を餌としている。タチツボスミレの生育環境は改変を受けやすいが、田村町、神島は現在のところ比較的環境が保持されている。

【保護対策】タチツボスミレの分布調査と、本種の再調査が必要である。

【文献】83, 390.

(官能健次)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ハマダラハルカ

Haruka elegans Okada

ハエ目 ハルカ科

【選定理由】生息地点数は11。第三紀周北極要素を示す種として学術的に貴重である。

【種概要】成虫は低地から山地にかけて早春に出現。日の当たる樹木の幹上で活動している。ガガンボに似た体型の中型種。暗色の翅に白い水玉模様を点在させる。雄の複眼は離眼的。

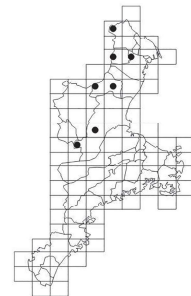
【分布】本州、四国、九州。県内ではいなべ市、菰野町、鈴鹿市、亀山市、津市、松阪市から記録されている。

【現況・減少要因】現在のところ全国的には広く分布し、個体数も多いが、県内での記録地は11か所にすぎず、亀山市の生息地では2024年に生息確認できなかった。

【保護対策】生息地環境の保全。

【文献】31, 48, 72, 81.

(篠木善重)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

DD

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ケジロキアブ

Xylophagus albopilosus Miyatake

ハエ目 キアブ科

【選定理由】生息地点数は3。希少種。

【種概要】自然度の高い森林に生息する種である。身体は細長く、黒色で光沢があり、翅に比較的顕著な斑紋がある。体長雄7 mm、雌11 mm。ホシキアブに似るが、触角第1節は短く、幅の2.5倍、第3節は第1節の約2.6倍。翅端は多少とも暗褐。雌の翅の端縁は暗褐色に縁取られる。雄ではホシキアブとともに翅の斑紋は不明瞭。腹部の毛は灰白色。低山地で5月に出現。この仲間の成虫は朽木に集まり、幼虫は朽木の中において、他の昆虫を捕食する。近縁のホシキアブに似るが、触角第1節がより短く、中胸側背板に微粉を有することで区別できる。

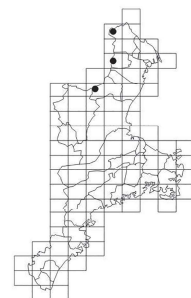
【分布】北海道、本州、四国、九州。県内ではいなべ市藤原町、亀山市関町から記録がある。菰野町でも生息を確認している(筆者未発表)。

【現況・減少要因】県内3ヶ所から3頭が、いずれも4月に得られているのみ。少ない種で、減少しつつあるようだが、より詳しい調査が必要である。亀山市の生息地へ何度足を運んでも見つからない。

【保護対策】生息地環境の保護。自然度の高い森林の保全。

【文献】72.

(篠木善重)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

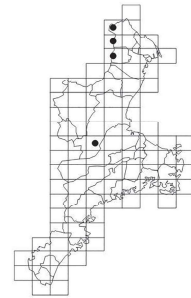
(写真：亀山市，2013年)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

イワタシギクサアブ
Dialysis iwatai Nagatomi

ハエ目 クサアブ科

【選定理由】既知の生息地点は5以下。自然度の高い森林にのみ見られる。
 【種概要】体長は雄9.5~12 mm, 雌10~14 mm. 黒色. 触角は黄色. 翅は暗色に曇り, 脈とその周辺は黒褐色. 地域的に大小・色彩の大きな変異がみられる. 成虫は, 県内では6月中旬~7月中旬に得られている. 雄は早朝に群飛する. 灯火にも飛来する.
 【分布】本州(東京都, 埼玉県, 神奈川県, 三重県, 京都府, 兵庫県), 四国から記録されている. 県内ではいなべ市藤原町西野尻, 同市大安町石樽峠, 菰野町県民の森, 津市美杉町上多気で採集されている.
 【現況・減少要因】全国的に記録は少なく, 県内ではこれまで4地点から10頭ほどが確認できているに過ぎず, ここ10年以上, 新たな記録はない. 自然度の高い森林の減少.
 【保護対策】自然度の高い森林の保全.
 【文献】34, 72.



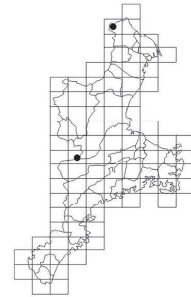
三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

(篠木善重)

ヒラヤマミズアブ
Odontomyia hirayamae Matsumura

ハエ目 ミズアブ科

【選定理由】生息地点数は2。自然度の高い山地に生息。生息個体数も少ない。
 【種概要】体長8~10 mm. 5~6月, 山地に出現. 複眼は裸体. 雄の頭部は大きく, 複眼はよく膨大して相接し, 前額と顔は黄褐色で黄色の長毛を密生し, 後脚第4付節は外側に張り出す. 胸背は雄では黄色立毛, 雌では金色臥毛を装う. 腹部は幅広く扁平. R4脈を欠く. 小楯板は黒色. 花に集まることが確認されている. 幼虫は水棲.
 【分布】本州, 四国. 県内ではいなべ市藤原町と津市美杉町から記録される.
 【現況・減少要因】県内では1980年代に2ヶ所から2頭が記録されるのみ. 5~6月に低山や山手の湿地に出現するも個体数は極めて少ない. 平倉演習林での追加調査はできていない.
 【保護対策】湿地を有する自然度の高い森林の保全.
 【文献】72.



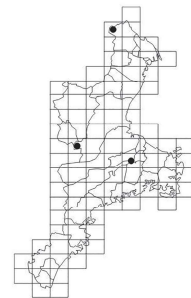
三重県 2025
NT
三重県 2015
DD
環境省 2020
—

(篠木善重)

フトヒゲナガキアブモドキ
Solva procerata (Frey)

ハエ目 キアブモドキ科

【選定理由】既知の生息地点数は4で, これまでに4標本が得られているだけである。
 【種概要】体長13 mm内外. 黒色. 触角は黒色で, 頭長の約4.5倍. 腹部第1背板の膜質部は大きい. 肢の基節は暗褐色. 翅の第2基室の末方部の中央節は明瞭, つまりM3・M4脈は接合しない. コマルハナバチの巣から幼虫が得られたことがある. 成虫は4~6月に出現し, 灌木の葉上にみられ, 敏捷である. また, ヒメバチと見誤りやすい.
 【分布】本州(神奈川県, 三重県, 和歌山県, 大阪府, 京都府, 兵庫県, 山口県), 四国(徳島県, 高知県, 愛媛県), 九州(熊本県, 宮崎県). 県内ではいなべ市藤原町, 菰野町県民の森, 津市美杉町大洞山, 度会町長原口池で採集されている.
 【現況・減少要因】少ない種で, 減少しつつあるらしく, 調査を要する. 低い丘陵地の池周辺の灌木上でも見つかっている.
 【保護対策】自然度の高い森林の保全.
 【文献】34, 72.



三重県 2025
NT
三重県 2015
NT
環境省 2020
—

(篠木善重)

(写真: 菰野町, 2015年, 篠木善重採集)

ハマベコムシヒキ

Stichopogon infuscatus Bezzi

ハエ目 ムシヒキアブ科

【選定理由】既知の生息地点数は10以下であり、自然度の高い砂浜にみられ、環境指標性が高い。

【種概要】極めて小形の種で、体長は6 mmほど。身体は灰白色で、黒色の斑紋がある。成虫は捕食性で、幼虫も同様と考えられる。海浜の砂地に固有であり、自然状態を残した海岸に広く分布している。

【分布】国外では台湾。日本では北海道、本州、四国、九州に分布。県内では高松海岸、鼓ヶ浦、田中川干潟、芦原海岸、豊津浦、白塚海岸、町屋浦、松名瀬海岸から記録される。

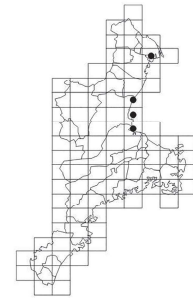
【現況・減少要因】近年の海岸堤防工事や道路建設工事により数か所の生息地が壊滅的影響を受けている。また、生態系を無視した砂浜での清掃活動や松などの植樹活動が本種の生息環境を脅かしている。

【保護対策】砂浜環境の維持に留意する必要がある。

【文献】43, 48, 71, 72.

(写真：津市，2009年)

(篠木善重)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ハチモドキハナアブ

Monoceromyia pleuralis (Coquillett)

ハエ目 ハナアブ科

【選定理由】生息地点数は5。里山や低山地にみられ、環境指標性が高く、局地的に分布し、個体数も多くはない。

【種概要】日本をタイプ産地とするが場所は不明。樹液のしみでたクヌギに集まるハナアブで、体長は20 mmほど、触角が長く、体色は黒く、肩瘤は黄色で、腰のあたり（腹部第2節）がくびれ、腹部には2本の黄色帯があって、まさにオオフタオビドロバチに擬態している。本県では6～7月に採れている。

【分布】本州、四国、九州に分布する。県内では菰野町、鈴鹿市、伊賀市、明和町、伊勢市から記録されている。

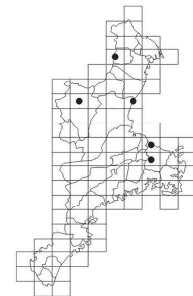
【現況・減少要因】里山や低山地は工業団地や宅地開発に利用されやすく、安易に雑木林が伐採されがちである。

【保護対策】里山的環境を保全すること。

【文献】25, 26, 66, 77.

(写真：伊賀市，2015年)

(篠木善重)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

カクモンハラブトハナアブ (カクモンアシブトハナアブ)

Mallota abdominalis (Sack)

ハエ目 ハナアブ科

【選定理由】既知の生息地点数は15以下。池や湿地および溪流に生息。特に平地の個体群は減少していると考えられる。

【種概要】体長10～13 mm。県内では5月中旬～8月初旬に、湿地周辺に出現している。胸背に縦筋はなく、小楯板は黒い。雄の後腿節の基部内面に突起がある。後腿節は雌雄ともに肥厚する。腹部の斑紋は橙黄～赤褐色だが、黄色い斑紋部が広い明色型の報告例もある。

【分布】本州、四国、九州。国外では台湾に分布。県内では菰野町、四日市市、鈴鹿市、津市、亀山市から記録されており、名張市での生息も確認されている（筆者未発表）。

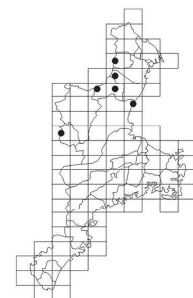
【現況・減少要因】湿地的環境の減少。

【保護対策】里山周辺の湿地的環境を保全する。

【文献】7, 57, 62, 71, 72.

(写真：津市，2013年)

(篠木善重)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蕨苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

コシアキオオモボトハナアブ (コシアカモボトハナアブ) ハエ目 ハナアブ科
Matsumyia japonica (Shiraki)

【選定理由】既知の生息地点数は3で、3個体が得られているのみ。生息地は局所的で、個体数はかなり減少しているらしい。

【種概要】体長16~18 mm. マルハナバチ擬態の大形のハナアブ。後腿節は著しく太い。雄の後脛節末端に大きな三角状突起がある。平地から低山の特に自然度の高い森林に生息し、4~6月に出現する。オオバアサガラ、コハウチワカエデ、サラサドウダン、ウツギなどへの訪花が確認されている。

【分布】本州（青森、岩手、宮城、茨城、栃木、埼玉、東京、三重、京都、大阪、兵庫、山口の各都府県）、四国、九州に分布。県内では津市美杉町といなべ市藤原町から記録されている。

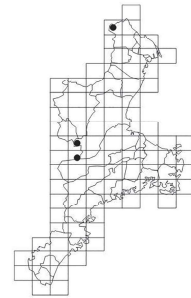
【現況・減少要因】自然度の高い森林の減少。ここ10年以上新たな記録がない。

【保護対策】自然度の高い森林の保全。

【文献】72。

(篠木善重)

(写真：いなべ市，1982年，蒔田実造採集・保管)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

オオハチモドキバエ ハエ目 デガシラバエ科
Eupyrgota luteola Coquillett

【選定理由】既知の生息地点数は10で、全国的に少ない種。

【種概要】大型の種（体長12~17 mm）で、全体黄褐色。翅の先端1/3が暗色となる。体の剛毛が黒~暗褐色で、腿節が常に淡黄褐色であることで日本産デガシラバエ科の他種から区別できる。県内では6~7月に山地で採集されている。近年、灯火採集で得られている。

【分布】本州、伊豆諸島（御蔵島）、九州に分布する。県内ではいなべ市、四日市市、鈴鹿市、津市、志摩市から記録されている。

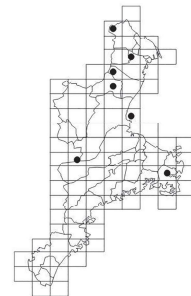
【現況・減少要因】寄生性。生態を含め不明な点が多く、減少要因は不明。

【保護対策】生息地の保全。

【文献】30, 54, 72, 87。

(篠木善重)

(写真：鈴鹿市，2011年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

ハイロニセミギワバエ ハエ目 ニセミギワバエ科
Procanace aestuaricola Miyagi

【選定理由】既知の生息地点数は5以下で、自然度の高い河口の汽水域にみられる。

【種概要】体長2 mm前後の小形種。身体は全体灰色の微粉におおわれる。翅は透明。腿節は多少とも暗色を帯び、雄の中腿節は剛毛を欠く。胸腹側剛毛を有する。汽水域の砂質又は泥質の砂州や干潟に生息する。

【分布】本州（京都府、三重県）、四国、九州、沖縄に分布。県内では高松海岸、鈴鹿川派川、田中川干潟、櫛田川河口干潟に生息している。京都府の記録は1例のみで、三重県は本州での確実かつ唯一の産地である。2003年に高松海岸、田中川干潟および櫛田川河口干潟で大石久志氏により採集されたのが本州初記録である。

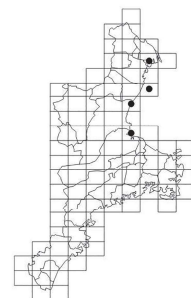
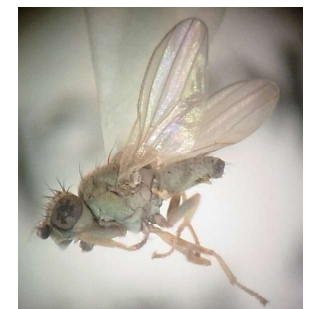
【現況・減少要因】自然度の高い海岸（河口部の干潟）の減少。

【保護対策】河口部汽水域の環境を保全すること。

【文献】36, 44, 72。

(篠木善重)

(写真：四日市市，2010年，大石久志採集・篠木善重所蔵)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ラカンミギワバエ

Dryxo nudicorpus Miyagi

ハエ目 ミギワバエ科

【選定理由】既知の生息地点数は10以下で、自然度の高い河川やダム湖の岸边にみられるが個体数は少ない。

【種概要】日本産ミギワバエ中最大種で、動きは鈍い。体長5~12 mm。自然度の高い河川や山地の清流の砂地や流れ際の石上に見られる。頭部の形状は特徴的で、和名の由来となる羅漢仏を想起させ、同定は容易である。翅のdm—cuは斜めでS字状。

【分布】北海道、本州、四国、九州に分布し、県内では東員町、朝日町、津市、松阪市、度会町、大台町、大紀町、熊野市（筆者未発表を含む）に生息する。

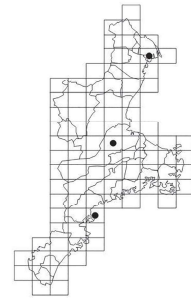
【現況・減少要因】熊野市では河口の砂地で見つかった。生活用水の流れ込み等で富栄養化すると直ちに姿を消す。河川の改修による砂州の減少、および水質の悪化。

【保護対策】生息環境と水質の保全。

【文献】36, 72.

(篠木善重)

(写真：大紀町，2013年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

ニノミヤトビクチミギワバエ

Brachydeutera ibari Ninomiya

ハエ目 ミギワバエ科

【選定理由】かつては市街地にも分布するような種であったらしいが、環境の変化に特に敏感な種のように、現在は極めて分布が限られていて、そのいずれもが自然度の高い環境である。既知の生息地は4地点。

【種概要】体長3.5 mm程度の小形種。やや幅広の体形をしている。胸部の背面は暗褐色。側面は灰色で、腹部は黒色で灰色の斑紋がある。口孔は著しく大きく前部は突出する。河川の溜まりや湿地等に生息し、成虫はしばしば水面に群集する。幼虫は水性、多化性で春から秋に出現する。

【分布】北海道、本州、四国、九州。国外では極東ロシア、イスラエル、台湾、中国、ハワイに分布。県内では四日市市、松阪市飯南町、紀北町で記録がある。尾鷲市の海跡湖にも生息している（筆者未発表）。

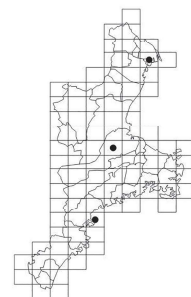
【現況・減少要因】分布状況から判断して、相当に減少したものと推測される。水質の汚濁等の環境の変化が原因と考えられるが詳細は不明。

【保護対策】開発によって最も消滅しやすい環境であり、また特に人的環境に接する生息地は、排水等を含めて環境の保全にも留意する必要がある。

【文献】51.

(篠木善重)

(写真：尾鷲市，2018年，篠木善重採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ハマベニクバエ

Leucomyia alba (Schiner)

ハエ目 ニクバエ科

【選定理由】海浜に生息する種で環境指標性が高く、個体数も少ない。生息地点数は8。

【種概要】体長8 mmほど、中形のニクバエ。体色は灰白色で、雌雄ともに両複眼の間隔が広い。夏季に砂浜海岸や河口の砂浜に出現し、海岸に打ち上げられた海藻や動物死体などに集まる。

【分布】国内では本州、四国、九州、南西諸島に分布し、県内では川越町（高松海岸）、津市（芦原海岸、白塚海岸、島崎海岸、御殿場海岸）、松阪市（五主海岸、松名瀬海岸）、志摩市（国府白浜）から見つかっている（筆者未発表を含む）。

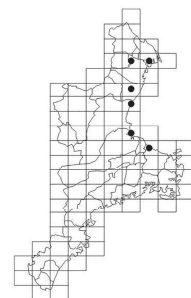
【現況・減少要因】海浜の砂地に生息し、海水浴場周辺でも見つかる。個体数は少なく、局所的に分布していると思われる。

【保護対策】砂浜海岸や河口の砂浜などの改修や開発、埋立てなどが脅威となる。海岸漂着物の除去に重機やトラックなどの車両を使用することも本種の生息に大きな脅威となる。

【文献】90, 91.

(篠木善重)

(写真：津市，2010年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

—

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔藓類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

ゴマフツトガ

チョウ目 ツトガ科

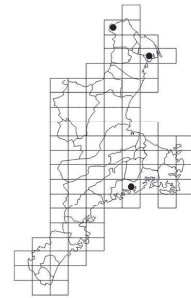
Chilo pulveratus (Wileman et South)

【選定理由】 生息環境である湿地が激減している。
 【種概要】 開帳約19 mm, 前翅は灰褐色の地に黒点を密生させた目立たない模様で後翅は白色をしている。これまでの記録は6~7月に集中し, 年1化と考えられる。食草は不明であるが明らかに低湿地性の蛾で局地的に分布する。
 【分布】 本州, 四国。群馬県南部の記録を最北とし, 伊豆半島, 岐阜県, 愛知県, 三重県, 高知県に記録がある。県内ではいなべ市上相場, 四日市市大矢知町, 南伊勢町に記録がある。
 【現況・減少要因】 県内においては3カ所しか記録がなく, いずれもその湿地環境が悪化して生息不能となっている。
 【保護対策】 良好な湿地環境を保全することが必要である。
 【文献】 22, 28.



(写真: いなべ市, 2012年, 間野隆裕採集)

(間野隆裕)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	NT

クシヒゲハイロヒメシャク

チョウ目 シャクガ科

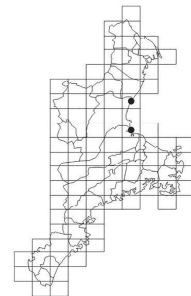
Antilycauges pinguis (Swinhoe)

【選定理由】 個体数減少と生息環境が不安定。
 【種概要】 開帳約19 mm, 灰白色の地に灰褐色点を帯状に散布する。♂の触角は櫛葉状。5~10月にかけて不連続的に発生する。食草は塩生植物シチメンソウ *Suaeda japonica* Makino (ヒユ科) が確認されているが, 三重県内では不明。
 【分布】 三重県と愛知県の伊勢湾岸を東北限に福岡県, 愛媛県, 対馬, 沖縄県南浮原島, 石垣島, 宮古島, 尖閣諸島の北小島から得られており, 国外では台湾, 中国東部からインドシナ半島に分布する。県内では津市河芸町田中川河口干潟と松阪市松名瀬町松名瀬干潟から記録されている。
 【現況・減少要因】 塩生湿地に生息する蛾類で, 県内においては2カ所しか記録がなく, 流動的な湿地環境に加え, 開発の影響から生息環境が狭められている。
 【保護対策】 良好な塩生湿地環境を保全することが必要である。
 【文献】 1, 7, 8, 16, 19, 20, 23, 44, 48.



(写真: 津市, 2010年, 篠木善重撮影)

(間野隆裕)



三重県 2025	NT
三重県 2015	—
環境省 2020	—

モウセンゴケトリバ

チョウ目 トリバガ科

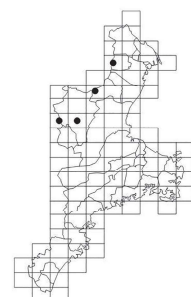
Buckleria paludum (Zeller)

【選定理由】 生息環境である湿地が激減している。
 【種概要】 開帳約10 mmの小型のトリバガ科の一種で, 他の同属種と同様, 前翅2枚後翅3枚に切れ込んだ翅形をしている。斑紋は前後翅共に灰色地に黒条線がまだらにあるため従来はマダラトリバと称していた。幼虫は食虫植物であるモウセンゴケ類を食すという生態的に興味深い種で, そのため局地的に分布する。成虫は5月頃~10月まで見られ, 年数回発生するものと考えられる。
 【分布】 北海道, 本州(岐阜県, 岡山県及び愛知県)で記録されており, 沖縄本島と西表島でも得られている。ヨーロッパでは広く分布する。三重県においては菰野町湯ノ山, 伊賀市の法花と比自岐から記録されている。
 【現況・減少要因】 モウセンゴケの生育する湿地環境が減少してきた。
 【保護対策】 モウセンゴケとその生育する湿地を保全する。
 【文献】 28.



(写真: 伊賀市, 1998年, 間野隆裕採集)

(間野隆裕)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

フジキオビ

チョウ目 アゲハモドキガ科

Schistomitra funeralis Butler

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

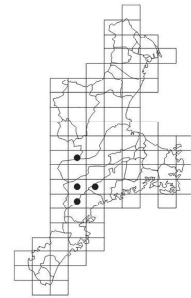
DD

【選定理由】ブナ帯の特異な食性を持つ希少種。
 【種概要】開帳約46 mm. アゲハモドキガ科に属する1属1種の日本固有種。年1回6月頃に成虫が出現し、日中飛翔し特に午前中発見されやすい。幼虫はナツツバキを食することが知られ、良好なブナの森林が残されているところで記録されている。
 【分布】新潟県から福島県付近を北限とし、九州までの山地に分布する。東海地方ではこれまでブナ帯からわずかな記録が得られているにすぎない。三重県では津市美杉町平倉、大台町宮川父ヶ谷、大紀町から記録されている。
 【現況・減少要因】ブナ帯林の衰退に伴って減少すると考えられる。
 【保護対策】食樹およびその周辺樹林の保全。
 【文献】28, 46.



(間野隆裕)

(写真：大台町，2001年，間野隆裕採集)



三重県 2025
NT

三重県 2015
NT

環境省 2020
—

ゴマダラシャチホコ

チョウ目 シャチホコガ科

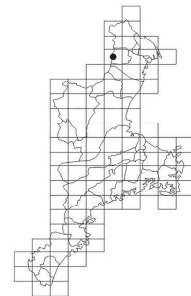
Palaeostauropus obliterates (Wileman et South)

【選定理由】生息環境である山地のモミ林の減少。
 【種概要】開帳約45 mm, 1属1種の日本固有種で、翅の全体は灰白色で、前翅と後翅前縁部に小黑点を散布する。成虫は年1回夏に発生し、分布域が限られるためその記録は限定される。近年、幼虫はモミを食することが判明した。
 【分布】関東以西の本州から九州まで局地的に分布する。三重県においては菰野町の記録が唯一である。
 【現況・減少要因】今後モミ林を精査すれば、追記録を得ることも可能と考えられるが、極めてまれな種と思われる。
 【保護対策】三重県にわずかししか残されていないモミの自然林を保全する。
 【文献】28.



(間野隆裕)

(写真：岡山県，2022年，間野隆裕採集)



三重県 2025
NT

三重県 2015
NT

環境省 2020
—

ナチアオシャチホコ

チョウ目 シャチホコガ科

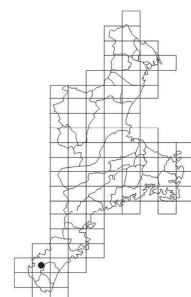
Syntypistis nachiensis (Marumo)

【選定理由】紀伊半島南部以南に分布し、熊野市紀和町が種の東限となっている。
 【種概要】成虫は本州では春と夏に発生するが、食性等詳しい生活史は不明である。
 【分布】本州の三重県（熊野市紀和町布引の滝）以南の太平洋側、四国、九州と、対馬、屋久島、南西諸島に分布する。
 【現況・減少要因】豊かな照葉樹林が生息地であり、県内にはその環境が減少傾向であるため、生息が脅かされている。
 【保護対策】照葉樹林の保全。
 【文献】28.



(間野隆裕)

(写真：熊野市，1995年，間野隆裕採集)



三重県 2025
NT

三重県 2015
NT

環境省 2020
—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

シラユキコヤガ

Eulocastra sasakii Sugi

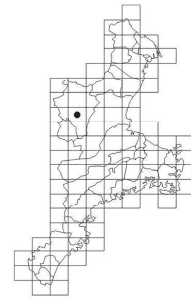
チョウ目 ヤガ科

【選定理由】 生息環境である湿地が激減している。
 【種概要】 開帳13～15 mm，頭部および胸背部は黒褐色，前翅は白地に外縁部と外横部に幅広の黒条線がある。後翅は純白。湿地のみから得られており，幼虫の食草としてヌマガヤが報告されている。
 【分布】 全国的にまれで，秋田県，福井県，愛知県，岐阜県などわずかな記録しか見られない。これまでのところ県内では伊賀市の記録が唯一である。
 【現況・減少要因】 既知産地はいずれも貧栄養湿地で，その湿地環境の減少が，本種の減少要因として大きいと考えられる。
 【保護対策】 生息環境である湿地環境の保全。
 【文献】 2, 28.



(間野隆裕)

(写真：伊賀市，1998年，間野隆裕採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

VU

オオキイロアツバ

Pseudalelimma miwai Inoue

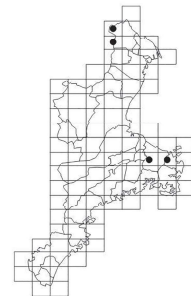
チョウ目 ヤガ科

【選定理由】 幼虫はツゲを食す石灰岩性の蛾で，藤原岳がタイプロカリティーになっており，環境変化に伴い減少する可能性がある。
 【種概要】 幼虫はツゲを食す石灰岩（蛇紋岩）性の蛾類。成虫は夏と秋の年2回発生する。
 【分布】 三重県では藤原岳周辺のほか，神宮林の一の瀬と伊勢市朝熊山でも記録されている。
 【現況・減少要因】 生息環境が石灰岩採掘などにより改変され，減少する。
 【保護対策】 生息環境の保全。
 【文献】 28, 45.



(間野隆裕)

(写真：いなべ市，2012年，間野隆裕採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ヤクシマヒメキシタバ

Catocala tokui Sugi

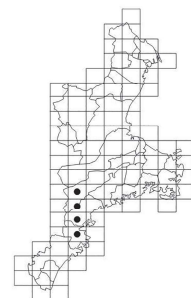
チョウ目 ヤガ科

【選定理由】 豊かな照葉樹林にのみに生息するが，開発等により生息地が脅かされている。
 【種概要】 南方系の局地的分布種。野外での食性は不明であるが，与えればウバメガシやクヌギを食べる。カシ類の自然林で記録され，成虫は年1回6月下旬～7月に発生する。
 【分布】 紀北町不動谷，矢ノ川峠と宮川村の大杉谷，父ヶ谷，熊野市で記録されている。
 【現況・減少要因】 生息地である照葉樹林の開発等によって生息地が脅かされている。
 【保護対策】 生息地の保全。
 【文献】 25, 28.



(間野隆裕)

(写真：尾鷲市，2003年，間野隆裕採集)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

ヌマバウスキヨトウ

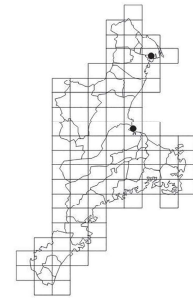
チョウ目 ヤガ科

Chilodes pacificus Sugi

- 【選定理由】生息環境である湿地の減少。
- 【種概要】開帳14～19 mm，前後翅とも灰褐色の地色に斑紋のほとんどない地味な色彩の種である。これまで湿地で得られているが，食性は不明である。
- 【分布】北海道から大阪まで局地的に記録されている。三重県においては四日市と雲出川下流で記録されているが，四日市の湿地は造成のためなくなり現在本種は絶滅した。
- 【現況・減少要因】斑紋が地味なので県内の生息が見落とされている可能性もあるが，生息している湿地の減少が大きな打撃となる。
- 【保護対策】湿地環境の保全。
- 【文献】28。

(写真：愛知県，2012年，間野隆裕採集)

(間野隆裕)



三重県 2025
NT

三重県 2015
NT

環境省 2020
VU

ガマヨトウ

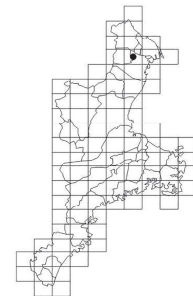
チョウ目 ヤガ科

Capsula aerata

- 【選定理由】日本固有種。低湿地特有の蛾で環境変化に伴い生息が脅かされている。
- 【種概要】幼虫はマコモを食べる。湿地性の蛾で，成虫は晩春から秋に発生する。
- 【分布】三重県では伊賀市，四日市で記録がある。
- 【現況・減少要因】生息地である湿地の減少に伴って減少していると考えられる。
- 【保護対策】生息地である湿地の保全。
- 【文献】28。

(写真：伊賀市，2000年，間野隆裕採集)

(間野隆裕)



三重県 2025
NT

三重県 2015
NT

環境省 2020
VU

エチゴハガタヨトウ

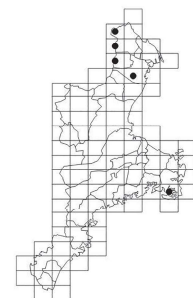
チョウ目 ヤガ科

Asidemia inexpecta (Sugi)

- 【選定理由】石灰岩（蛇紋岩）地帯という特異環境のみに生息する種である。
- 【種概要】幼虫はツゲを食す石灰岩（蛇紋岩）性の蛾類。成虫は夏と秋の年2回発生する。
- 【分布】三重県では四日市市宮妻峡といなべ市藤原岳，菰野町御在所岳，志摩市大王町波切の記録がある。
- 【現況・減少要因】生息環境が石灰岩採掘などにより改変され，減少している。
- 【保護対策】生息環境の保全。
- 【文献】28。

(写真：いなべ市，2014年，間野隆裕採集)

(間野隆裕)



三重県 2025
NT

三重県 2015
NT

環境省 2020
—

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

エゾスジヨトウ

チョウ目 ヤガ科

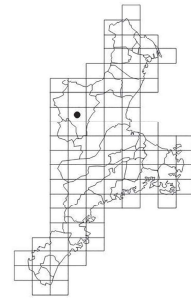
Doerrisa striata (Staudinger)

【選定理由】 生息環境である湿地が激減している。
 【種概要】 開帳20～23 mm, 貧栄養湿地で7～8月に得られており, 年1化と思われるが, 食性等生活史は不明である。
 【分布】 北海道で得られた雄1頭で新種記載され, その後青森県, 栃木県, 岐阜県, 愛知県, 京都府など散発的な記録がある。三重県においては伊賀市沖で得られている。
 【現況・減少要因】 生活史が未知なこともあり県内分布の動向は不明な点が多いが, 生息地である湿地の減少が最も危惧される。
 【保護対策】 生息環境である湿地の保全。
 【文献】 28.



(間野隆裕)

(写真: 伊賀市, 1998年, 間野隆裕採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	VU

イセキリガ

チョウ目 ヤガ科

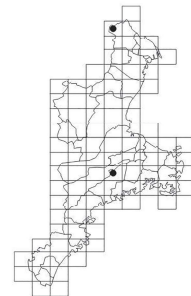
Agrochola sakabei (Sugi)

【選定理由】 三重県大紀町がタイプロカリティーとなっており, 石灰岩(蛇紋岩)地帯という特異環境のみに生息する種である。
 【種概要】 幼虫はツゲのみを食すため, その分布に限定される。成虫は10月から11月に1回発生する。
 【分布】 本州(新潟県以南の数県), 四国(徳島県)に記録があるが, いずれの県でも局地的に生息。三重県では大紀町大宮のほか, いなべ市坂本・河内谷及び西藤原駅前への記録がある。
 【現況・減少要因】 生息環境が石灰岩採掘などにより改変され, 減少している。
 【保護対策】 生息環境の保全。
 【文献】 26, 28.



(間野隆裕)

(写真: 岐阜県, 1989年, 間野隆裕採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

ヤマトハガタヨトウ

チョウ目 ヤガ科

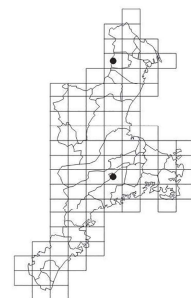
Nyctycia stenoptera (Sugi)

【選定理由】 東海地方以西の平地から丘陵地で得られているまれな種。近年の記録がない。
 【種概要】 おそらく照葉樹林に生息する南方系種であるが, 食性等詳しい生活史は不明だがイチイガシ群落から得られている。成虫は晩秋に1回発生する。
 【分布】 静岡県以西の本州, 四国, 九州に記録が点在し局地的に分布する。県内では大紀町と菰野町湯ノ山に古い記録があるのみである。
 【現況・減少要因】 不明。
 【保護対策】 少なくとも豊かな照葉樹林の保全。
 【文献】 28, 52.



(間野隆裕)

(写真: 佐賀県, 2006年, 古川雅道採集)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

ギンイチモンジセセリ

Leptalina unicolor (Bremer et Grey)

チョウ目 セセリチョウ科

【選定理由】 既知の生息地は10地点を越えるが、生息地が点在しており分断傾向がある。

【種概要】 前翅長20 mm程度、褐色の横に細長い翅のセセリチョウ。後翅裏面に銀白色の一字型の斑紋がある。一般には年二化で夏に発生するものは銀白色紋が不鮮明。秋に部分的な三化が発生することもある。幼虫越冬。

【分布】 北海道、本州、四国の一部、九州に分布。紀伊半島の生息地は中部山陰の生息地から分断されている。県内では伊賀地方と、伊勢湾側では中勢平野の一部に記録される。

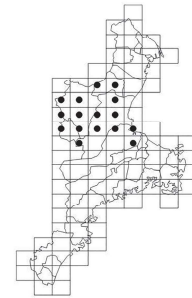
【現況・減少原因】 採草地、河川敷、鉄道線路敷といった明るい草地に生息するが、機械化による広域一斉除草や管理放棄によるクズ、ササ類繁茂、外来イネ科植物の侵入などによる荒廃で好適な環境が失われている。

【保護対策】 草原環境の維持。草刈りの際一斉除草を避け、一時避難可能箇所を残すよう輪番的な作業工程を組む。

【文献】 5, 11, 17, 28.

(中西元男)

(写真：亀山市，2011年，河本実撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ウスバシロチョウ

Parnassius citrinarius Mostschulsky

チョウ目 アゲハチョウ科

【選定理由】 既知の生息地は10地点以下。生息地が狭く限られている。

【種概要】 前翅長35 mm程度。半透明の灰色がかかった白色の翅をもつ小型のアゲハチョウ。5～6月羽化年一化、卵越冬。

【分布】 北海道南部、本州、四国。県内では鈴鹿山脈北部にのみ記録される。

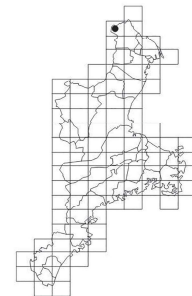
【現況・減少原因】 生息地が限られており、生息基盤が脆弱と考えられる。近県では鹿の過食害によるホスト植物消失で発生が途絶した事例も知られ、注意を要する。現況、県内生息地では顕著な過食害被害、個体数減少は認められていない。

【保護対策】 鹿の過食害の拡大傾向が継続しており、不断のモニタリングと、減少が認められた際の早急な対策が必要。

【文献】 11, 37.

(中西元男)

(写真：いなべ市，2017年，河本実撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

—

環境省 2020

—

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ルミスジミ

Arhopala ganesa (Moore)

チョウ目 シジミチョウ科

【選定理由】 既知の生息地は10地点程度。生息地は点在しており分断傾向が顕著であるが、新たな生息地が追加されたためVUから移行。

【種概要】 前翅長15 mm程度、黒褐色の翅表中央部に大きな青斑を持つ。類似のムラサキシジミは青斑でなく紫色で、翅裏が濃い褐色。本種の翅裏は灰白色で区別は容易。6月から晩秋までみられ。年一化で活動期間が長いと考えられる。成虫越冬のため冬～早春にも成虫がみられる。

【分布】 本州、四国、九州の山地に限られた不連続分布をする。県内では熊野灘沿岸の自然度の高い山地照葉樹林に多く記録される。県中部の伊勢市神宮林、大紀町の神宮別宮滝原宮では記録が長期間途絶。

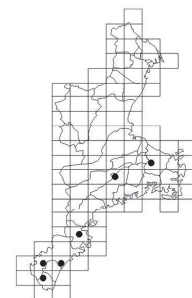
【現況・減少原因】 熊野灘沿岸山地の生息地は安定的、県中部神社林のものは、個体群交流がない分断状態での台風被害によるダメージで絶滅したと考えられる。

【保護対策】 自然度の高い照葉樹林に生息するため、生息地の現状保持が必要。

【文献】 3, 11, 28.

(中西元男)

(写真：熊野市，2024年，村上龍撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

VU

環境省 2020

VU

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蕨苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

ウラミスジジミ

チョウ目 シジミチョウ科

Wagimo signatus (Butler)

【選定理由】 既知の生息地は10地点程度。生息地は点在しており分断傾向がみられる。

【種概要】 前翅長15mm程度、暗褐色の翅表中央部に青紫斑があり、翅裏は赤褐色の地に不規則な白条がある。5～7月出現、年一化卵越冬。

【分布】 北海道、本州、四国と九州では局部的。県内では鈴鹿山脈と台高山地でのみ記録されていたが、近年中勢の里山～低地からも発見された。生息地は広く薄く広がっている可能性がある。

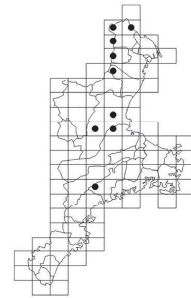
【現況・減少原因】 記録例数が少なく、生息個体数は多くないと考えられる。生息状況には不明な点が多い。

【保護対策】 山地、里山に残る自然度の高い森林環境の保全。

【文献】 11, 28, 43.

(中西元男)

(写真：菰野町，2015年，河本実採集・撮影・所蔵)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

オナガシジミ

チョウ目 シジミチョウ科

Araragi enthea (Janson)

【選定理由】 既知の生息地は5地点以下。生息地は点在しており分断傾向が顕著である。

【種概要】 前翅長15 mm程度、翅表は黒褐色、裏面に黒点を配する。近似のミズイロオナガシジミはこの黒点が線状であることで区別できる。7～8月に羽化、年一化卵越冬。

【分布】 北海道、本州、本州西南と四国、九州では局部的。県内では鈴鹿山脈北部と台高山地櫛田川上流部でのみ記録される。

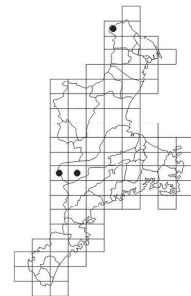
【現況・減少原因】 近年の記録例はごく僅か。生息環境に従前とあまり変化ないよう見受けられるが個体数減少。

【保護対策】 生息地の現状維持。ホスト植物のオニグルミ林の手入れ、適度な間伐など樹齢更新が必要かも知れない。

【文献】 11, 13, 28.

(中西元男)

(写真：いなべ市，2018年，河本実撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

フジモドリシジミ

チョウ目 シジミチョウ科

Sibataniaozephyrus fujisanus (Matsumura)

【選定理由】 既知の生息地は10地点程度。生息地が高標高山地に限られ分断されていることから、個体群交流が不可能。

【種概要】 前翅長15 mm程度、雄翅表は青色金属光沢、雌では褐色。翅裏は灰白色に褐色の帯紋がある。6月羽化、年一化卵越冬。

【分布】 北海道南部、本州、四国、九州の高標高山地に分布。三重県では鈴鹿山脈、台高山地から記録される。

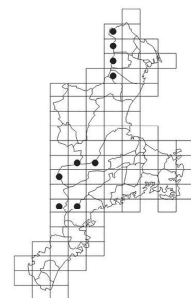
【現況・減少原因】 生息地の立地から、特に減少傾向は認められていない。ただし三重県は本種のホスト植物、ブナの成育限界に近く、特に近年の温暖化による実生の阻害、鹿の過食害による若年木の被害、林床植生消失による乾燥化など、将来推移に懸念される要因が多い。

【保護対策】 生息地の現状維持。

【文献】 11, 12, 28, 40.

(中西元男)

(写真：鈴鹿市，2023年，村上龍撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

—

オオムラサキ

Sasakia charonda (Hewitson)

チョウ目 タテハチョウ科



【選定理由】既知の生息地は多いが、過去、将来推定で減少傾向が著しい。

【種概要】前翅長50~70 mm程度、雌は大型。雄翅表の中心部は大きく紫の幻光色を発する、雌にはこの輝きがなく、地色の黒褐色に白、黄色紋を散らした翅模様。6~7月出現、年一化幼虫越冬。

【分布】北海道南部、本州、四国、九州。県内では鈴鹿山脈山麓部、伊賀地方、中勢の丘陵~山地から記録される。

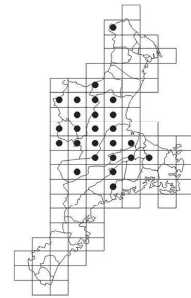
【現況・減少原因】里山の雑木林に広く生息していたが、各地で個体数減少。大型の種で広範囲の行動圏を必要とするため、環境の分断による生育環境の消失が懸念される。

【保護対策】里山の雑木林の維持、管理。特に林の連続性の回復、個体群交流のための回廊整備。また誤った保護思想による無暗な放蝶行為の禁止。特に他地域の個体群を持ち込み安易に放すことは、遺伝子汚染による弊害、地域独自性の喪失を招く危険性が高い。

【文献】11, 17, 28, 47.

(中西元男)

(写真：いなべ市、2023年、鈴木健真撮影)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

NT

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

ヤマトスナハキバチ

Bembecinus hungaricus japonicus (Sonan)

ハチ目 ギングチバチ科



【選定理由】既知の生息地点数は10以下で、個体数は少ない。

【種概要】体長12 mm前後。体は黒色で、腹部に黄斑がある。砂浜海岸や河川敷の砂場に生息、海岸近くの公園の砂場でも見つかる。時に、集団営巣することもある。夏に砂地に営巣し、巣穴内に産卵後、幼虫の餌とするヨコバイやキジラミ等を狩る。

【分布】国内では北海道、本州、四国、九州、対馬、屋久島に分布。県内ではいなべ市、津市、志摩市、南伊勢町から記録されている。鈴鹿市、松阪市でも生息を確認している(筆者未発表)。RDB2015に記述された四日市市、明和町、鳥羽市、伊賀市、尾鷲市、熊野市の確認記録は詳細が不明である。

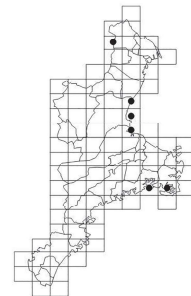
【現況・減少要因】主に砂浜海岸から細々と発見できているが、個体数は少ないと思われる。砂浜や河川河口部では道路工事や堤防工事などの開発事業が続けられている。隣接地に同様の環境があるからとの理屈で開発行為が認められているが、生息地の面積は確実に減少している。

【保護対策】砂浜や砂地の河川敷の自然環境の保全。

【文献】50, 51, 53, 55, 63.

(篠木善重)

(写真：鈴鹿市、2017年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

DD

環境省 2020

DD

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

モンズズメバチ

Vespa crabro flavofasciata Cameron

ハチ目 スズメバチ科



【選定理由】既知の生息地点数は30以下であり、近年減少してきている。

【種概要】成虫の体長30 mmほどの黄色地に黒縞模様のハチ。単眼の周辺に黒い紋がある。主にセミやトンボなど昆虫を餌にする。女王蜂は4月下旬より出現し、木の洞や屋根裏などに5月中旬頃から巣を作る。近年、北海道以外で数が減少してきている。威嚇性、攻撃性ともにやや強く、7~9月に巣付近を通行しただけで刺されることが多い。夜間も活動できる。

【分布】北海道、本州、四国、九州、ユーラシアの温帯地域に分布。県内では、いなべ市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市、津市、明和町、伊勢市、鳥羽市、志摩市から記録されている。平野部や低山地からの記録である。

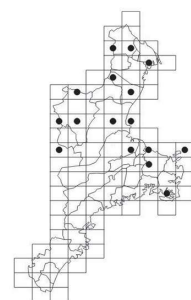
【現況・減少要因】県内では、もともと個体数が少なく、餌の昆虫が生息する里山が開発で減少したことが影響していると考えられる。

【保護対策】餌となる昆虫が豊富に生息する環境を保全する。

【文献】1, 4, 11, 15, 18, 19, 21, 22, 29, 33, 34, 36, 39, 43, 52, 54, 60, 63, 64.

(篠木善重)

(写真：伊賀市、2015年)



三重県 2025

NT

三重県 2015

NT

環境省 2020

DD

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ

キンモウアナバチ

ハチ目 アナバチ科

Sphex diabolicus flammitricus Strand



【選定理由】既知の生息地点数は15以下であり、餌や営巣地の環境などの条件から生息地域が限られ、環境の変化に大きく影響を受け易い。

【種概要】成虫の体長40 mmほどで全身黒色の大型種。前伸腹節に金色の長毛を密生する。クダマキモドキなど直翅目昆虫を狩り、地面に深い穴を掘って（県内の記録では30~40 mm）巣を作る日本最大の狩蜂。県内では7~8月に見られる。名張市の公園では、クロアナバチと混生していて、クロアナバチの巣穴が約160、本種の巣穴が約110見つかったとの観察記録がある。

【分布】国外では東アジア、東南アジア、南アジア。国内では本州、九州、屋久島、琉球列島に分布する。県内では、いなべ市、菰野町、名張市、津市、伊勢市、志摩市、尾鷲市、熊野市で記録されている。

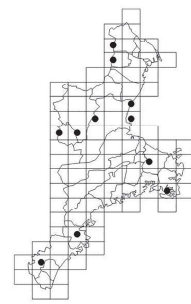
【現況・減少要因】RDB2015に記述された桑名市、松阪市、紀宝町での生息確認記録については文献の裏付けが取れなかった。餌となるクダマキモドキなどが生息する草地に隣接する砂地の減少など生息環境の変化を受け易いと考えられる。

【保護対策】餌となる直翅目の生息が可能な草地の確保と営巣のため草地に隣接した砂地を確保する。

【文献】7, 10, 23, 33, 42, 51, 53, 56.

(篠木善重)

(写真：名張市，2018年，西田悦造採集，松本吏樹郎撮影，大阪市立自然史博物館所蔵)



三重県 2025	NT
三重県 2015	NT
環境省 2020	—

エゾトンボ

トンボ目 エゾトンボ科

Somatochlora viridiaenea (Uhler)

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

県内に広く生息記録はあるが、2010年以降の記録は少なく、生息環境が著しく悪化している可能性がある。

【文献】236.

(松沢孝晋)

ヨツボシトンボ

トンボ目 トンボ科

Libellula quadrimaculata asahinai Schmidt

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

県内に広く生息記録はあるが、2010年以降の記録は少なく、生息環境が著しく悪化している可能性がある。

【文献】236.

(松沢孝晋)

マイコアカネ

トンボ目 トンボ科

Sympetrum kunkeli (Selys)

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

県内に広く生息記録はあるが、2010年以降の記録は少なく、生息環境が著しく悪化している可能性がある。

【文献】236.

(松沢孝晋)

エゾツユムシ

バッタ目 ツユムシ科

Kuwayamaea sapporensis Matsumura et Shiraki

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

三重県内ではいなべ市、伊勢市から記録されているだけである。

【文献】71, 72.

(河北 均)

マミジロノミバッタ

バッタ目 ノミバッタ科

Xya leucophrys Sato et Ichikawa

三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
DD	—	—

2020年に新種記載された種で、三重県内では松阪市櫛田川水系から記録されているだけである。

【文献】60, 61.

(河北 均)

クロハサミムシ <i>Nesogaster lewisi</i> (Bormans)	ハサミムシ目 クロハサミムシ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	-----------------	----------------	----------------	---------------

三重県内では大台町から記録されているだけである。
【文献】42.

(河北 均)

マエグロハネナガウンカ <i>Zoraida pterophoroides</i> (Westwood)	カメムシ目 ハネナガウンカ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	----------------	----------------	----------------	---------------

菌食性で、いなべ市、津市などの記録があるが、狙って採ることが難しく、今後の資料蓄積が必要である。
【文献】7, 44.

(富田靖男・矢崎充彦)

ハウチワウンカ <i>Trypetimorpha japonica</i> Ishihara	カメムシ目 グンバイウンカ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 VU
--	----------------	----------------	----------------	----------------

体長1.5 mm内外。湿性草地に生息し、菰野町、伊賀市から記録があるが、今後の資料蓄積が必要である。
【文献】44, 71, 92.

(鈴木 賢・矢崎充彦)

オヨギカタビロアメンボ <i>Xiphovelia japonica</i> Esaki et Miyamoto	カメムシ目 カタビロアメンボ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 NT
--	-----------------	----------------	----------------	----------------

体長1.5 mm内外。鈴鹿市、志摩市、度会町で記録されているが、未調査地域の資料蓄積が必要である。
【文献】73.

(鈴木 賢)

ババアメンボ <i>Gerris</i> (<i>Gerris</i>) <i>babai</i> Miyamoto	カメムシ目 アメンボ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 NT
--	-------------	----------------	----------------	----------------

体長6～8 mm。志摩市の記録だけであり、生息範囲は局限されていると思われる。
【文献】168.

(鈴木 賢)

ウミアメンボ <i>Halobates japonicus</i> Esaki	カメムシ目 アメンボ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
---	-------------	----------------	----------------	---------------

体長5 mm内外で無翅。沿岸性で、志摩市阿児町、大王町の記録があるが、過去の記録の再検討が必要である。
【文献】32, 45.

(富田靖男・矢崎充彦)

ヤマトセンブリ <i>Sialis yamatoensis</i> Hayashi et Suda	ヘビトンボ目 センブリ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 DD
---	--------------	----------------	----------------	----------------

いなべ市、津市の2地点の池で記録されている。
【文献】3.

(森田久幸)

タナカツヤハネゴミムシ <i>Harpalomimetes fukiensis</i> (Jedlička)	トンボ目 トンボ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 DD
--	-----------	----------------	----------------	----------------

水辺に生息している種で、三重県では鈴鹿市椿溪谷、西庄内町、小岐須溪谷で記録されているだけである。
【文献】260, 360.

(生川展行)

チョウセンゴモクムシ <i>Harpalus crates</i> Bates	コウチュウ目 オサムシ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 VU
---	--------------	----------------	---------------	----------------

2023年、津市の海岸で初めて確認された。植物の種子を食べる草原性種。平野部の草地環境を好む。
【文献】535.

(乙部 宏)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類	スナハラゴミムシ <i>Diplocheila elongata</i> (Bates)	コウチュウ目 オサムシ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 VU
鳥類	三重県では、伊賀市荒木で記録されているだけである。 【文献】 89.				
爬虫類	(生川展行)				
両生類	クビナガキベリアオゴミムシ <i>Chlaenius prostenus</i> Bates	コウチュウ目 オサムシ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 DD
汽水・淡水魚類	伊賀市伊賀町，津市阿漕浦海岸，伊勢市内宮，神路山で記録されているだけである。 【文献】 357, 362.				
昆虫類	(生川展行)				
クモ類	スジヒラタガムシ <i>Helochaeres niponicus</i> Hebauer	コウチュウ目 ガムシ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 NT
貝類	三重県では、いなべ市藤原町冷川谷，鈴鹿市伊船町御幣川，西庄内町，伊賀市法花で記録があるだけである。				
甲殻類	【文献】 89, 260, 441, 558.				
その他動物	(生川展行)				
維管束植物	ケスジドロムシ <i>Pseudamophilus japonicus</i> Nomura	コウチュウ目 ヒメドロムシ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 VU
蕨類	三重県では、津市美杉町平倉演習林で記録されているだけである。 【文献】 279, 315.				
藻類	(生川展行)				
キノコ	シライサワクビボソジョウカイ <i>Asiopodabrus (Imasakapodabrus) shiraisawanus</i> (Takahashi & Kiriyama)	コウチュウ目 ジョウカイボン科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 —
EX	いなべ市と北勢町で記録されている。 【文献】 365, 443.				
EW	(秋田勝己)				
CR	キイクビボソジョウカイ <i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) kiiensis kiiensis</i> (Nakane & Makino)	コウチュウ目 ジョウカイボン科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 —
EN	津市と大台町で記録されている。 【文献】 365, 443.				
VU	(秋田勝己)				
NT	シマシマクビボソジョウカイ <i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) shimashimanus</i> (Nakane & Makino)	コウチュウ目 ジョウカイボン科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 —
DD	菰野町，大台町で記録されている。 【文献】 365, 443.				
	(秋田勝己)				
	イクリダニクビボソジョウカイ <i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) ikuridaniensis</i> Takahashi	コウチュウ目 ジョウカイボン科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 —
	いなべ市，菰野町，亀山市で記録されている。 【文献】 365, 443, 486.				
	(秋田勝己)				
	ヒョウゴクビボソジョウカイ <i>Asiopodabrus (Asiopodabrus) hyogoensis</i> Nakane & Makino	コウチュウ目 ジョウカイボン科	三重県 2025 DD	三重県 2015 —	環境省 2020 —
	津市で記録されている。 【文献】 365, 443.				
	(秋田勝己)				

ホソチビジョウカイ <i>Malthodes (Sohayakimalthodes) furucatomygus</i> Wittmer	コウチュウ目 ジョウカイボン科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

津市で記録されている。
【文献】162.

(秋田勝己)

オオメコバナジョウカイ <i>Microichthyurus pennatus</i> (Lewis)	コウチュウ目 ジョウカイボン科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	—	—

津市で記録されている。
【文献】162, 255.

(秋田勝己)

イノウエホソカタムシ <i>Antibothrus morimotoi</i> Sasaji	コウチュウ目 ムキヒゲホソカタムシ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	—

福井県と三重県津市美杉町平倉で得られた標本により1997年に新種記載された種で、全国的に記録は稀である。
【文献】237, 346.

(生川展行)

ヤマトオサムシダマシ <i>Blaps japonensis japonensis</i> Marseul	コウチュウ目 ゴミムシダマシ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	NT

三重県では菰野町, 四日市市, 鈴鹿市, 亀山市, 津市で記録されているだけである。
【文献】224, 309, 339, 442, 443.

(生川展行)

コモンキノコゴミムシダマシ <i>Spiloscapa ichihashii</i> (Nakane)	コウチュウ目 ゴミムシダマシ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	—

津市美杉町平倉演習林の標本により1956年に新種記載された種で、三重県では平倉演習林以外では記録はない。
【文献】12, 132, 210.

(生川展行)

オオマダラヒゲナガゾウムシ <i>Sympaector rugirostris</i> (Sharp)	コウチュウ目 ヒゲナガゾウムシ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	—

広葉樹の自然林に生息する。倒木や立ち枯れに集集するが、個体数は少ない。津市美杉町から記録される。
【文献】255.

(官能健次)

ホシモンマダラヒゲナガゾウムシ <i>Litocerus kimurai</i> Shibata	コウチュウ目 ヒゲナガゾウムシ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	—

広葉樹の自然林に生息する。倒木や立ち枯れに集集するが、個体数は少ない。津市美杉町から記録される。
【文献】255.

(官能健次)

アカツツホソミツギリゾウムシ <i>Callipareius (Callipareius) japonicus</i> (Nakane)	コウチュウ目 ミツギリゾウムシ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	—

本州, 九州, 琉球に分布。県内では津市美杉町三重大学演習林から1963年の新種として記載の記録のみである。
【文献】11, 57, 212.

(官能健次)

クロツツホソミツギリゾウムシ <i>Callipareius (Metacidotes) kojimai</i> Morimoto	コウチュウ目 ミツギリゾウムシ科	三重県 2025	三重県 2015	環境省 2020
		DD	DD	—

本州, 台湾に分布。県内では津市美杉町三重大学演習林の1989年の記録だけである。
【文献】11, 57.

(官能健次)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類

ヒメマルミツギリゾウムシ
Higonius (Higonius) cilo Lewis

コウチュウ目 ミツギリゾウムシ科

三重県 2025
DD

三重県 2015
DD

環境省 2020
—

鳥類

津市美杉町三重大学演習林の1958年までの複数の記録と大杉谷の1958年以後の記録のみである。
【文献】 304, 390.

(官能健次)

爬虫類

オオクニネゾウモドキ
Procas biguttatus Faust

コウチュウ目 イネゾウムシ科

三重県 2025
DD

三重県 2015
DD

環境省 2020
—

両生類

汽水・淡水魚類

北海道, 本州に分布する北方系の種である。1961年に御在所岳で記録されて以後記録がない。
【文献】 390.

(官能健次)

昆虫類

クロイネゾウモドキ
Notaris oryzae (Ishida)

コウチュウ目 イネゾウムシ科

三重県 2025
DD

三重県 2015
DD

環境省 2020
—

クモ類

貝類

北海道, 本州, 九州に分布している。1956, 1957年に津市津海岸・阿漕浦で採集された3頭の標本が確認された。

(官能健次)

甲殻類

その他動物

カワセタマノミゾウムシ
Sphaerorchestes kawasei Morimoto & Miyawaki

コウチュウ目 ゾウムシ科

三重県 2025
DD

三重県 2015
DD

環境省 2020
—

維管束植物

暖地性の種で熊野市楯ヶ崎から新種として発表され, 尾鷲市など沿岸沿いに少ない記録がある。
【文献】 156.

(官能健次)

蘚苔類

藻類

カギアシゾウムシ
Bagous bipunctatus (Kôno)

コウチュウ目 ゾウムシ科

三重県 2025
DD

三重県 2015
DD

環境省 2020
—

キノコ

四日市市, 津市, 伊賀市, 志摩市, 紀北町, 御浜町で記録があるが, 池・河川の開発により減少している。
【文献】 89, 304, 372.

(官能健次)

EX

EW

ツルギトゲカタビロサルゾウムシ
Augustinus similis (Chûjô)

コウチュウ目 ゾウムシ科

三重県 2025
DD

三重県 2015
DD

環境省 2020
—

CR

EN

過去には県内山地で多く記録されていたが, ニホンジカの食害により, 食草が減少し, 生息数が減少している。
【文献】 306, 356, 390.

(官能健次)

VU

ミヤマカレキゾウムシ
Trachodes (Atrachodes) monticola Morimoto & Miyakawa

コウチュウ目 ゾウムシ科

三重県 2025
DD

三重県 2015
DD

環境省 2020
—

NT

DD

本州の針葉樹林帯に生息する種である。大台ヶ原のトウヒから採集された標本が確認されている。
(官能健次)

アシボソヒメフタマタアミカ
Philorus longirostris Kitakami

ハエ目 アミカ科

三重県 2025
DD

三重県 2015
DD

環境省 2020
—

記録の少ない種。幼虫は溪流にすむ。小岐須溪谷と藤原岳東麓の産地では生息域は狭まる傾向にある。
【文献】 48, 72, 61.

(篠木善重)

エサキニセヒメガガンボ
Protanyderus esakii Alexander

ハエ目 ニセヒメガガンボ科

三重県 2025
DD

三重県 2015
—

環境省 2020
DD

平倉演習林で1966年に採集以来, 記録が途絶えているが, 1982年に藤原岳東麓で採れた個体は同属のsp.と近年記録。

【文献】 37, 69.

(篠木善重)

アシグルルリミズアブ <i>Sargus meracus</i> Nagatomi	ハエ目 ミズアブ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
---	-----------	----------------	----------------	---------------

全国的に産地の少ない種で、県内では8月に平倉演習林から1雄が記録。自然度の高い森林にみられる。
【文献】45.

(篠木善重)

マツムラハラブトハナアブ <i>Mallota rubripes</i> Matsumura	ハエ目 ハナアブ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	-----------	----------------	----------------	---------------

平地から低山の自然度の高い森林に生息する。幼虫は樹洞生活者。津市美杉町からの記録のみ。
【文献】7, 72.

(篠木善重)

ウスマダラミズメイガ <i>Elophila orientalis</i> Filipjev	チョウ目 ツトガ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	-----------	----------------	----------------	---------------

伊賀市、いなべ市から記録されている湿地性の蛾。貧栄養の湿地の減少に伴う生息環境の減少。
【文献】28.

(間野隆裕)

エンスイミズメイガ <i>Torigea argentata</i> Yoshiyasu	チョウ目 ツトガ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	-----------	----------------	----------------	---------------

海浜性の種で、各地河口で得られている。幼虫は汽水域で蘚苔類を食す。汽水域の水質悪化と生息環境の減少。
【文献】28.

(間野隆裕)

イブキスズメ <i>Hyles gallii</i> (Rottensburg)	チョウ目 スズメガ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	------------	----------------	----------------	---------------

幼虫はヤナギランやカワラマツバを食す山地草原性種。東海地方では極めてまれな種。いなべ市の記録が唯一。
【文献】28.

(間野隆裕)

オオツバメエダシャク <i>Amblychia angeronaria</i> Guenée	チョウ目 シャクガ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	------------	----------------	----------------	---------------

紀伊半島以西に分布する南方系の種。大台町宮川大杉谷、紀北町不動谷で記録されているが、生活史は不明。
【文献】24, 28.

(間野隆裕)

キイロトゲエダシャク <i>Apochima praeacutaria</i> (Inoue)	チョウ目 シャクガ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
---	------------	----------------	----------------	---------------

紀北町海山区不動谷の記録が県内唯一の南方系種。照葉樹の豊かな環境で年1回早春に発生するが食草は不明。
【文献】28.

(間野隆裕)

ヤクシマギンツバメ <i>Pseudomicronia advocataria</i> (Walker)	チョウ目 ツバメガ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	------------	----------------	----------------	---------------

紀伊半島以南に分布する南方系種。尾鷲市九鬼、大紀町錦峠に記録があるが、生活史は不明である。
【文献】28.

(間野隆裕)

トリゲキシヤチホコ <i>Torigea plumose</i> (Leech)	チョウ目 シヤチホコガ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
--	--------------	----------------	----------------	---------------

日本固有種。本州、四国、九州のブナ帯に産し幼虫はクマザサ類を食す。菰野町湯ノ山の記録が県内唯一。
【文献】28.

(間野隆裕)

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蘚苔類
藻類
キノコ
EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

哺乳類	クロモンオビリンガ <i>Gelastocera rubicundula</i> (Wileman)	チョウ目 コブガ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
鳥類	県内が東限となっている南方系種。熊野市榑ヶ崎と大紀町錦に記録があるが、生活史は不明である。 【文献】28.				
爬虫類	(間野隆裕)				
両生類	シーモンアツバ <i>Sinarella c-album</i> Owada	チョウ目 ヤガ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
汽水・淡水魚類	全国的にまれな希少種。生活史は不明であるが、大台町宮川大和谷に加え近年松阪市で記録された（未発表）。				
昆虫類	【文献】28. (間野隆裕)				
クモ類	キュウシュウスジヨトウ <i>Doerriesa coenosa</i> Sugi	チョウ目 ヤガ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 VU
貝類	全国で志摩市大王町のほか、福岡県、対馬、千葉県の3か所のみで記録されている海浜性種。生活史は不明。				
甲殻類	【文献】28. (間野隆裕)				
その他動物	キバネセセリ <i>Burara aquilina</i> (Speyer)	チョウ目 セセリチョウ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
維管束植物	台高山脈で少数の生息情報があるのみ。2000年の記録以後、発見例がない。				
蕨苔類	(中西元男)				
藻類	イトウホソバトビケラ <i>Molannodes itoae</i> Fuller et Wiggins	トビケラ目 ホソバトビケラ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
キノコ	いなべ市、亀山市、津市の3地点の湿地で記録されている。 【文献】5, 6, 10. (森田久幸)				
EX					
EW					
CR	クチキトビケラ <i>Ganonema uchidai</i> Iwata	トビケラ目 アシエダトビケラ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 NT
EN	伊勢市、伊賀市、南伊勢町の3地点で記録されている。 【文献】3, 10, 11. (森田久幸)				
VU					
NT	ツノカクツツトビケラ <i>Lepidostoma cornigera</i> (Ulmer)	トビケラ目 カクツツトビケラ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
DD	菰野町、志摩市の2地点でのみ記録されている。 【文献】7, 11, 12. (森田久幸)				
	オオセイボウ <i>Stilbum cyanurum</i> (Förster)	ハチ目 セイボウ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 DD
	スズメバチに寄生する種。いなべ市、亀山市、伊勢市、志摩市、大紀町、紀北町から記録される。 【文献】1, 32, 51, 61, 63. (篠木善重)				
	ケブカツヤオオアリ <i>Camponotus nipponensis</i> Santschi	ハチ目 アリ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 DD
	胸部背面に20本以上の長い立毛を持つ。丘陵地から低山帯の倒木に営巣。いなべ市と伊賀市からの記録のみ。 【文献】12, 16. (川添昭夫)				

ヤマトムカシアリ <i>Leptanilla japonica</i> Baroni Urbani, C.	ハチ目 アリ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
---	---------	----------------	----------------	---------------

体長 1 mm前後。海岸線沿い照葉樹林の土中に生息。紀伊長島の記録（1981）は神奈川県に次ぐ2例目の発見。

【文献】17.

(川添昭夫)

モリシタカギバラアリ <i>Proceratium morisitai</i> Onoyama & Yoshimura	ハチ目 アリ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 —
---	---------	----------------	----------------	---------------

体長3.5 mmまで。赤褐色。丘陵地の雑木林の土中に営巣。伊賀市と津市から記録される。

【文献】16, 37.

(川添昭夫)

フタモンクモバチ <i>Parabatozonus hakodadi</i> (Dalla Torre)	ハチ目 クモバチ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 NT
--	-----------	----------------	----------------	----------------

日本最大のクモバチ。いなべ市、四日市市、津市、明和町、多気町、伊勢市、紀北町から記録されている。

【文献】52, 53.

(篠木善重)

フクイアナバチ <i>Sphex inusitatus fukuianus</i> Tsuneki	ハチ目 アナバチ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 NT
---	-----------	----------------	----------------	----------------

いなべ市、四日市市、津市、伊賀市、名張市、松阪市、伊勢市、紀北町、熊野市から記録。全身黒色の大型種。

【文献】38, 47, 52.

(篠木善重)

クズハキリバチ <i>Megachile pseudomonticola</i> Hedicke	ハチ目 ハキリバチ科	三重県 2025 DD	三重県 2015 DD	環境省 2020 DD
--	------------	----------------	----------------	----------------

桑名市、亀山市、津市、松阪市から記録される。発生期は♀8～9月、♂7～8月。

【文献】13, 46.

(篠木善重)

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 汽水・淡水魚類
- 昆虫類
- クモ類
- 貝類
- 甲殻類
- その他動物
- 維管束植物
- 蘚苔類
- 藻類
- キノコ
- EX
- EW
- CR
- EN
- VU
- NT
- DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

文 献 (昆虫類は目ごとに採番しています。)

(トンボ目)

- 1 浅川 勲・水谷敏之・山下正文・三輪俊和・馬路泰蔵. 1960. 四日市付近のトンボ. ひらくら, 4(6): 38-40.
- 2 浅名正昌. 2007. 伊賀にベニイトトンボ・コサナエ・ハネビロエゾトンボ・ムスジイトトンボの新産地あり. 三重自然誌, (11): 100-103.
- 3 浅名正昌. 2009. 伊賀におけるオオサカサナエの新産地. 三重自然誌, (12): 161-163.
- 4 浅名正昌. 2009. 伊賀におけるルリボシヤンマの新産地. 三重自然誌, (12): 164-165.
- 5 浅名正昌. 2012. 伊賀盆地のトンボ その見分け方. 自費出版. 208pp.
- 6 浅名正昌. 2014. 伊賀盆地のトンボ18年間の調査記録. 三重自然誌, (14): 1-28.
- 7 後藤光男. 1957. 藤原岳自然科学調査報告(1)第1回採集記. ひらくら, (4): 9-11.
- 8 後藤光男. 1957. 湯の山自然科学調査報告(1)第1回採集記. ひらくら, (5): 2-6.
- 9 浜田初代. 1969. 多気・度会地方のトンボ類 一分布資料のまとめ. ひらくら, 13(4): 27-43.
- 10 浜田初代. 1972. 三重県下で採集したトンボの記録. ひらくら, 16(7): 49-51.
- 11 浜田初代・中江富美. 1967. 鳥羽周辺の珍しいトンボ2種について. ひらくら, 11(9): 77.
- 12 林 憲一. 1959. 伊賀のナニワトンボその後. ひらくら, 3(8.9): 105-106.
- 13 林 憲一. 1959. 伊賀のトンボ3題. ひらくら, 3(8.9): 107-108.
- 14 林 憲一. 1960. 伊賀地方の蜻蛉調査. 三重の生物, (10): 6-15.
- 15 林 憲一. 1961. 伊賀産トンボの追加. ひらくら, 5(3): 19-20.
- 16 比奈知ダム昆虫調査団. 1984. 比奈知ダム予定地域の昆虫相. ひらくら, 28(6): 82-90.
- 17 穂積俊文・中根敏勝・石田昇三. 1958. 続平倉演習林採集記. ひらくら, 2(22): 118-119.
- 18 市橋 甫. 1957. ムカシトンボの幼虫の一知見. ひらくら, (7): 2.
- 19 市橋 甫. 1987. ムカシヤンマ湯の山での記録. ひらくら, 31(2): 31.
- 20 市橋 甫. 2006. アキアカネの12月の記録. ひらくら, 50(2): 15.
- 21 市橋 甫・天春明吉. 1998. トンボの記録 (三角紙から). ひやくとりむし, (183): 2191-2193.
- 22 市橋 甫・刀根定良・中西元男・生川展行. 1977. 松名瀬海岸の昆虫. みえの生物生物定点調査報告書-1996・海辺-, 三重県環境安全部: 19-25.
- 23 今村隆一. 2003. オオサカサナエを久居市で採集. ひらくら, 47(5): 85.
- 24 石田和男. 2000. 雲出川下流部でネアカヨシヤンマ, エサキアメンボを採集. ひらくら, 44(4): 67.
- 25 石田勝義・石田茂人. 1971. 四日市東洋紡績工場あとの池のトンボ 第4報. ひらくら, 15(1): 1-6.
- 26 石田勝義・田中多香美・石田茂人. 1968. 四日市東洋ぼうせき工場あとの池のトンボ 第2報. ひらくら, 12(10): 77-80.
- 27 石田昇三. 1957. ムカシトンボの天敵と羽化初見. ひらくら, (4): 4-5.
- 28 石田昇三. 1957. アオヤンマの幼虫を流水中で採る. ひらくら, (4): 5-6.
- 29 石田昇三. 1957. ムカシトンボの交尾の生態 (第1図). ひらくら, (6): 4-5.
- 30 石田昇三. 1957. ムカシトンボ脱皮殻採集の1例. ひらくら, (6): 6-7.
- 31 石田昇三. 1957. ムカシトンボの1新産地. ひらくら, (6): 7.
- 32 石田昇三. 1957. オツネントンボの羽化初見. ひらくら, (7): 2-3.
- 33 石田昇三. 1957. ムカシヤンマの脱皮殻を湯の山で採る. ひらくら, (7): 3-5.
- 34 石田昇三. 1957. ムカシヤンマの共食. ひらくら, (7): 5.
- 35 石田昇三. 1957. ムカシトンボの幼虫を滝壺で採る. ひらくら, (8): 4-5.
- 36 石田昇三. 1957. ベニイトトンボの新産地とその生態. ひらくら, (9): 12-13.
- 37 石田昇三. 1957. キイロヤマトンボの県下第2の産地. ひらくら, (11): 6.
- 38 石田昇三. 1957. 三重県のムカシトンボ. ひらくら, (12): 1-7.
- 39 石田昇三. 1958. キイロヤマトンボのヤゴを採る. ひらくら, 2(15): 30-31.
- 40 石田昇三. 1958. 四日市市内にオナガサナエ. ひらくら, 2(16): 43.
- 41 石田昇三. 1958. 再びキイロヤマトンボのヤゴを採る. ひらくら, 2(16): 46-47.
- 42 石田昇三. 1958. トンボの初見記録若干. ひらくら, 2(16): 48.
- 43 石田昇三. 1958. オグマサナエ3尾連1成因. ひらくら, 2(17): 58-59.
- 44 石田昇三. 1958. キイロヤマトンボの新産地. ひらくら, 2(18): 69.
- 45 石田昇三. 1958. 青山高原にムカシトンボ. ひらくら, 2(18): 69-70.

- 46 石田昇三. 1958. 三重県のムカシヤンマ. ひらくら, 2(20) : 90-92.
- 47 石田昇三. 1958. 平倉演習林採集品 (トンボ目). ひらくら, 2(22) : 111.
- 48 石田昇三. 1958. 上野市三田でナニワトンボを採る. ひらくら, 2(22) : 116.
- 49 石田昇三. 1958. 海蔵川にキイロヤマトンボ. ひらくら, 2(23) : 129.
- 50 石田昇三. 1958. 飯南郡森林付近のトンボ類. ひらくら, 2(24) : 139-141.
- 51 石田昇三. 1958. ふられ採集記. ひらくら, 2(24) : 144.
- 52 石田昇三. 1959. 紀北・紀南地方のムカシトンボの産地. ひらくら, 3(2) : 26.
- 53 石田昇三. 1959. トンボ二題. ひらくら, 3(4) : 53.
- 54 石田昇三. 1959. 多志田溪谷でムカシヤンマ. ひらくら, 3(5) : 60.
- 55 石田昇三. 1962. 御在所岳山頂の珍しいトンボ3種の記録. ひらくら, 6(1) : 17-18.
- 56 石田昇三. 1962. 大川親雄氏採集の三重県のトンボ類. ひらくら, 6(2) : 26-29.
- 57 石田昇三. 1962. 四日市南部地域におけるトンボ類採集メモ. ひらくら, 6(3) : 37-39.
- 58 石田昇三. 1962. 多度川上流のトンボ. ひらくら, 6(5) : 63-64.
- 59 石田昇三. 1964. 古い採集記録から1953年に四日市で採集したトンボ. ひらくら, 8(1) : 92-102.
- 60 石田昇三. 1964. 赤目付近予備調査で採集されたトンボ類. ひらくら, 8(10) : 91-92.
- 61 石田昇三. 1964. 古い採集記録から1953年に四日市付近で採集したトンボ. ひらくら, 8(11) : 99-102.
- 62 石田昇三. 1965. キイロヤマトンボの新産地. ひらくら, 9(3) : 17-19.
- 63 石田昇三. 1965. 11月にミルンヤンマを採る. ひらくら, 9(7) : 117.
- 64 石田昇三. 1966. 宮川流域のトンボ(1)宮川高校生物教室所蔵のトンボ類標本. ひらくら, 10(5) : 37-41.
- 65 石田昇三. 1966. ムカシヤンマの1新産地. ひらくら, 10(5) : 43.
- 66 石田昇三. 1966. 4月17日にムカシトンボの羽化殻を採集. ひらくら, 10(8) : 67.
- 67 石田昇三. 1966. 鳥羽湾周辺地域のトンボ類 (予報). ひらくら, 10(9) : 69-81.
- 68 石田昇三. 1967. 志摩・道仏でネアカヨシヤンマ多数を目撃. ひらくら, 11(8) : 64.
- 69 石田昇三. 1990. トンボ類 (蜻蛉目). 四日市市史第1巻史料編自然目録, 四日市市 : 103-105.
- 70 石田昇三. 2000. 三重県海山町船越池周辺のトンボ相. 三重自然誌, (6) : 27-32.
- 71 石田昇三. 2001. 菅島のトンボ相. 三重自然誌, (7) : 42-44.
- 72 石田昇三. 2003. 中西元男氏採集の答志島のヤンマ. ひらくら, 47(6) : 94.
- 73 石田昇三. 2005. キイロヤマトンボの幼虫を採る. ひらくら, 49(2) : 31.
- 74 石田昇三. 2010. 県内におけるムカシトンボの最も早い採集記録. ひらくら, 54(4) : 66.
- 75 石田昇三・稲垣 毅. 1959. 湯の山でムカシヤンマの幼虫と脱皮殻を採る. ひらくら, 3(5) : 61.
- 76 石田昇三・河北均・中西元男. 2016. 鈴鹿山脈で採集されたトンボ類の記録. 鈴鹿山脈の昆虫—三重昆虫談話会創立60周年記念事業—, 三重昆虫談話会 : 7-12.
- 77 石田昇三・中西元男. 2011. 志摩半島地域離島部のトンボ類. 志摩半島の昆虫—三重昆虫談話会創立55周年記念事業—, 三重昆虫談話会 : 3-8.
- 78 石田昇三・中西元男. 2012. 三重県内トンボの記録. ひゃくとりむし, (345) : 4135-4136.
- 79 石田昇三・中西元男. 2014. 三重県と周辺地域のトンボの記録. ひゃくとりむし, (362) : 4340-4341.
- 80 石田昇三・成瀬善一郎. 1957. 雲出川上流水棲昆虫採集記. ひらくら, (8) : 1-4.
- 81 石田昇三・杉田忠久. 1959. ムカシトンボ幼虫の1採集例. ひらくら, 3(4) : 45.
- 82 石田昇三・刀根定良. 2004. トンボ目. 上野市史自然編, 上野市 : 873-883.
- 83 石田昇三・山川昌宏. 1984. 名張市比奈知地域周辺のトンボ相. 比奈知ダム周辺昆虫類調査報告書, 三重昆虫談話会 : 31-48.
- 84 岩中信市. 1960. 熊野にもムカシヤンマ. ひらくら, 3(10,11) : 125.
- 85 岩中信市. 1960. 熊野地方における珍しいトンボと蝶の採集記録. ひらくら, 3(12) : 146.
- 86 角田 保. 1957. 伊勢, 志摩阿児町横山昆虫採集会の記. ひらくら, (9) : 5-7.
- 87 川原 誠. 1980. 平倉演習林採集記—おそまつなカミキリ屋の繰り言の巻. ひらくら, 24(1) : 9-11.
- 88 河北 均. 1977. 尾鷲市内のムカシトンボ成虫の採集例. ひらくら, 21(4) : 75.
- 89 河北 均. 1980. ムカシヤンマ南勢町の記録. ひらくら, 24(5) : 83.
- 90 河北 均. 2010. クロスジギンヤンマ伊勢市岡本の発生記録 (2010年). ひらくら, 54(6) : 99.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔蘚類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 91 河北 均. 2015. 伊勢市佐八町の昆虫類. ひらくら, 59(4) : 77-95.
- 92 北川賢澄. 1958. 野登山一雨壺沼澤—のムカシトンボ. ひらくら, 2(19) : 81-82.
- 93 北川賢澄. 1959. 櫛田川上流(森, 蓮)採集記. ひらくら, 3(6) : 77-78.
- 94 久保田耕平. 1993. 観察会の記録・昆虫. 自然誌だより, (18) : 4.
- 95 蒔田実造. 2002. ネアカヨシヤンマを四日市市富田で採集. ひらくら, 46(4) : 71.
- 96 松沢孝晋. 2021. 三重県北・中部におけるキイロヤマトンボの2020年の生息状況. *Aeschna*, 57 : 23-25.
- 97 松沢孝晋. 2022. 三重県四日市市川島町の湿地で確認したトンボ類 第2報. *Aeschna*, 58 : 45-60.
- 98 松沢孝晋. 2024. 三重県北中部河川のキイロヤマトンボ, アオハダトンボの状況. ひらくら, 68(2) : 25-32.
- 99 松沢孝晋. 2024. 南伊勢町押渕でグンバイトンボとベニトンボを確認. ひらくら, 68(2) : 32-34.
- 100 松沢孝晋. 2024. 鳥羽市答志島のアオヤンマ, ネアカヨシヤンマの状況. ひらくら, 68(2) : 35-36.
- 101 松沢孝晋. 2025. 志摩市磯部町でベニイトトンボを確認. ひらくら, 68(2) : 34-35.
- 102 南 尊演. 1978. ムカシトンボ経ヶ峰にて採集. ひらくら, 22(4) : 67.
- 103 中村 泰. 1972. ベニイトトンボの新産地. ひらくら, 16(11) : 84.
- 104 中西元男. 1993. 三重県のトンボの記録少々. ひゃくとりむし, (120) : 1437.
- 105 中西元男. 1998. 蝶屋にも採れる珍雑虫・2ルリボシヤンマ. ひゃくとりむし, (190) : 2279.
- 106 中西元男. 2002. 鳥羽市答志島のトンボ. ひゃくとりむし, (230) : 2757.
- 107 中西元男. 2009. 熊野市小森地区の蝶, および若干のトンボ. 三重自然誌, (12) : 169-171.
- 108 中西元男. 2011. 蝶屋にも採れる珍雑虫・⑩ムカシトンボ. ひゃくとりむし, (234) : 3886-3887.
- 109 中西元男. 2012. 志摩市渡鹿野島の蝶, トンボ. ひらくら, 56(3) : 71.
- 110 中西元男. 2014. 伊賀のコサナエ. ひらくら, 58(2) : 45.
- 111 中西元男. 2016. 松阪市日丘町八重田池の蝶とトンボ. 自然誌だより, (109) : 5-7.
- 112 中西元男. 2017. 松阪市の里山, 岩内のトンボ. ひらくら, 61(1) : 18-19.
- 113 中西元男. 2019. 松坂市里山丘陵阿坂地区溜池群周辺の昆虫. ひらくら, 63(4) : 69-84.
- 114 成田茂生. 1986. ハネビロエゾトンボ雌の摂食群飛. *Aeschna*, 19 : 15.
- 115 成瀬善一郎. 1958. 員弁川採集記. ひらくら, 2(17) : 60.
- 116 成瀬善一郎. 1960. 雨の員弁川採集記. ひらくら, 4(1.2) : 6.
- 117 成瀬善一郎. 1960. 御池岳採集. ひらくら, 4(8) : 59-60.
- 118 西田時弘. 1992. 1990年に津市見当山丘陵地帯で確認したトンボについて. ひらくら, 36(1) : 1-7.
- 119 西田時弘. 2012. 三重県津市におけるトンボ記録. *Aeschna*, 48 : 1-15.
- 120 小川隆之. 1995. 上野市法花湿地の水生昆虫類調査報告. 三重自然誌, (2) : 38-40.
- 121 小川隆之. 1999. 南伊勢町押渕の底生動物類. 三重自然誌, (5) : 29-31.
- 122 小川隆之. 2000. 三重県海山町船越池の底生動物類. 三重自然誌, (6) : 39-40.
- 123 小川隆之. 2007. 答志島の淡水産底生動物類. 三重自然誌, (11) : 41-44.
- 124 小川隆之. 2009. 大杉谷および大台ヶ原の水生昆虫相. 三重自然誌, (12) : 96-99.
- 125 小川隆之・市橋甫・生川展行・横関秀幸・秋田勝己・今村隆一・乙部宏・久保田耕平・刀根定良. 1999. 大王町船越池および南勢町押渕の昆虫調査について. 三重自然誌, (5) : 23-25.
- 126 大川親雄. 1958. 三重県にもヒメタイコウチ. ひらくら, 2(24) : 143.
- 127 大川親雄. 1965. ムカシヤンマを志摩で採る. ひらくら, 9(12) : 152.
- 128 大川親雄. 1975. 経ヶ峰にムカシヤンマ. ひらくら, 19(6) : 104.
- 129 大川親雄. 1975. ムカシトンボ経ヶ峰にて採集. ひらくら, 23(4) : 62-63.
- 130 大久保憲秀. 1969. 外宮でムカシヤンマ採集. ひらくら, 13(11) : 107.
- 131 大町文衛・山下善平・市橋 甫・石田昇三・北川賢澄・的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・大川親雄・山本祐嗣. 1959. 熊野灘沿岸地方の昆虫. 吉野熊野伊勢志摩両国立公園地域拡張書, 吉野熊野伊勢志摩国立公園地域拡張協議会 : 189-236.
- 132 大島康宏. 2021. 伊賀盆地北部の蜻蛉目(トンボ目)昆虫. 伊賀盆地北部及び伊勢湾岸地域の昆虫(三重昆虫談話会編), 三重昆虫談話会 : 11-25.
- 133 大島康宏. 2021. 伊勢湾岸地域の蜻蛉目(トンボ目)昆虫. 伊賀盆地北部及び伊勢湾岸地域の昆虫(三重昆虫談話会編), 三重昆虫談話会 : 137-141.

- 134 長田克彦. 1960. 多度川における蜻蛉目. ひらくら, 4(10) : 74-75.
- 135 乙部 宏. 2021. 櫛田川上流域のグンバイトンボ. ひらくら, 65(4) : 86-87.
- 136 坂部元宏. 1958. ムカシトンボの1新産地. ひらくら, 2(17) : 57.
- 137 坂部元宏. 1958. ムカシヤンマ・サラサヤンマの新産地. ひらくら, 2(20) : 94.
- 138 坂部元宏. 1967. ムカシトンボを4月7日に採る. ひらくら, 11(9) : 73.
- 139 下野伸司・山口和洋. 1991. 紀南地方のトンボ. ひらくら, 35(6) : 81-87.
- 140 多田弘一. 1995. 1995年7月上旬自宅庭での昆虫観察記録. ひやくとりむし, (145) : 1734-1735.
- 141 多田弘一. 1996. 1995年9月中旬自宅庭での昆虫観察記録. ひやくとりむし, (154) : 1843-1845.
- 142 高崎保郎. 1958. 尾鷲市九鬼の蜻蛉. ひらくら, 2(19) : 76-80.
- 143 高崎保郎. 1959. 員弁郡のクロサナエ. ひらくら, 3(8.9) : 104.
- 144 高崎保郎. 1962. 多度山塊のムカシトンボの1産地. ひらくら, 6(1) : 18.
- 145 高崎保郎. 1970. 鳥羽市船津のトンボ. ひらくら, 14(2) : 18.
- 146 富田靖男. 1974. 台高山脈北部ならびに奥香肌峡の昆虫相. 台高山脈北部ならびに奥香肌峡一帯自然科学調査報告書. 三重県立博物館自然科学調査報告書第5報, 三重県立博物館 : 23-71.
- 147 富田靖男. 2004. 昆虫類相. 明和町史資料編第1巻 自然・考古, 明和町 : 195-228.
- 148 富田靖男. 2017. 三重県産トンボ目昆虫の記録 (未発表資料の整理). 三重自然誌, (15) : 12-13.
- 149 富田靖男・市橋 甫. 1973. 紀伊長島臨海地域及び島嶼の昆虫相. 紀伊長島町, 108p.
- 150 富田靖男・市橋 甫・中西元男. 2012. 「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」指定地域内の昆虫目録. 国指定天然記念物 田光のシデコブシ及び湿地植物群落 自然調査報告書, 菰野町境域委員会 : 217-227.
- 151 富田靖男・富田傑. 2001. トンボ目 (蜻蛉目). 勢和村史資料編二, 勢和村 : 111-113.
- 152 刀根定良. 1992. 均翅亜目 (局地種) 3種の記録若干. ひらくら, 36(5) : 83.
- 153 刀根定良. 1992. 三重県松阪市のトンボ相 (I). ひらくら, 36(6) : 85-91.
- 154 刀根定良. 1993. 青峰山での観察会の記録 (トンボ相). 自然誌だより, (17) : 8.
- 155 刀根定良. 1993. 志摩郡大王町にてベッコウトンボを目撃, 採集. ひらくら, 37(1) : 10.
- 156 刀根定良. 1993. 白山町 四季の里にて採集, 目撃したトンボ2種の記録. ひらくら, 37(1) : 11.
- 157 刀根定良. 1993. キイロヤマトンボ若干の目撃・採集記録. ひらくら, 37(4) : 73.
- 158 刀根定良. 1993. ムカシトンボ, ムカシヤンマの採集記録若干. ひらくら, 37(5) : 92.
- 159 刀根定良. 1994. 志摩の自然—大王町船越池周辺の観察会 トンボの観察. 自然誌だより, (21) : 8.
- 160 刀根定良. 1994. 松阪市又苅池のトンボ相. ひらくら, 38(1) : 1-10.
- 161 刀根定良. 1994. 熊野市楯ヶ崎のトンボ観察記録若干 (1993年). ひらくら, 38(5) : 98-99.
- 162 刀根定良. 1994. 東青山 四季のさとのトンボ相. ひらくら, 38(6) : 107-114.
- 163 刀根定良. 1994. 1992年 雲出川でのオオサカサナエ観察記録. ひらくら, 38(6) : 114.
- 164 刀根定良. 1995. 櫛田川におけるオオサカサナエの観察記録 (1994年). ひらくら, 39(3) : 48-49.
- 165 刀根定良. 1995. 又刈池のトンボ (追加の記録). ひらくら, 39(4) : 64.
- 166 刀根定良. 1995. 松阪市のトンボ相 (追加の記録). ひらくら, 39(5) : 81-82.
- 167 刀根定良. 1996. 紀伊長島町でタイリクアカネを採集. ひらくら, 40(6) : 314-315.
- 168 刀根定良. 1997. 多気郡多気町油夫 (油夫池) のトンボ. ひらくら, 41(2) : 26-28.
- 169 刀根定良. 1998. 亀山市のルリボシヤンマ. ひらくら, 42(1) : 12.
- 170 刀根定良. 1998. 美杉村波籠でルリボシヤンマを採集. ひらくら, 42(6) : 99.
- 171 刀根定良. 1999. 南勢町押淵のトンボ相. 三重自然誌, (5) : 26-28.
- 172 刀根定良. 1999. 大王町船越池のトンボ相. 三重自然誌, (5) : 43-44.
- 173 刀根定良. 2000. 上野市予野でのナニワトンボの採集・観察記録. ひらくら, 44(2) : 30-31.
- 174 刀根定良. 2000. 紀伊長島町諏訪池におけるオオギンヤンマ・ハネビロエゾトンボの採集記録 (1999). ひらくら, 44(2) : 31-32.
- 175 刀根定良. 2000. 四日市市水沢町におけるキトンボの一観察記録 (1999年). ひらくら, 44(3) : 47.
- 176 刀根定良. 2004. トンボ目目録. 嬉野史自然編, 嬉野町 : 411-419.
- 177 刀根定良. 2006. 熊野灘沿岸地域のトンボ, 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫—三重昆虫談話会創立50周年記念事業—, 三重昆虫談話会 : 16-26.
- 178 刀根定良. 2007. 松阪市櫛田川のグンバイトンボ. ひらくら, 51(5) : 80.
- 179 刀根定良. 2007. 三重県のベニイトトンボの記録2000年~2007年. ひらくら, 51(5) : 81.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 180 刀根定良. 2007. 伊賀市予野西出地域のナニワトンボ. ひらくら, 51(6) : 98.
- 181 刀根定良. 2008. 榑田川水系でオオサカサナエの羽化殻を採集. ひらくら, 52(6) : 94-95.
- 182 刀根定良・石田昇三. 2001. 昆虫類(トンボ目). 紀勢町史 自然編, 紀勢町 : 217-223.
- 183 刀根定良・石田昇三. 2010. 亀山市のトンボ相. 亀山市史 自然編, 亀山市 : 742-757.
- 184 刀根定良・石田昇三・山口照美. 2016. 神宮宮城動物調査・昆虫類(トンボ類). 神宮宮城動物調査会, 神宮司廳営林部 : 1-6.
- 185 刀根定良・八木孝彦. 1999. 三重県南部相野谷川のトンボ. 三重自然誌, (5) : 87-89.
- 186 刀根定良・八木孝彦・石田昇三. 2008. 鈴鹿市のトンボ目. 鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書一, 鈴鹿市環境部環境政策課 : 467-477.
- 187 鵜殿清文. 2022. 東海三県(愛知・岐阜・三重)のメガネサナエ属の継続調査結果. *Aeschna*, 58 : 27-44.
- 188 上村淳夫. 1959. ムカシヤンマをはじめて採る. ひらくら, 3(5) : 60.
- 189 上野市法花湿地昆虫調査班. 1995. 上野市法花湿地の昆虫類. 三重自然誌, (2) : 25-37.
- 190 八木孝彦. 1998. 津市一身田を中心とした市北西部のトンボ. ひらくら, 42(4) : 53-67.
- 191 八木孝彦. 1988. 三重県におけるオオサカサナエ観察記録若干(1987年). *Aeschna*, 21 : 12-15.
- 192 八木孝彦. 2003. お熊ヶ池のトンボ. ひらくら, 47(2) : 19-23.
- 193 八木孝彦. 2008. グンバイトンボを榑田川水系で再確認. ひらくら, 52(6) : 95-96.
- 194 八木孝彦. 2010. 三重県のトンボの記録(1). ひらくら, 54(4) : 53-66.
- 195 八木孝彦. 2010. 三重県のトンボ記録(2). ひらくら, 54(6) : 89-97.
- 196 八木孝彦. 2011. 三重県のトンボ記録(3). ひらくら, 55(2) : 25-45.
- 197 八木孝彦. 2011. 三重県のトンボ記録(4). ひらくら, 55(4) : 73-97.
- 198 八木孝彦. 2012. 三重県のトンボ記録(5). ひらくら, 56(2) : 29-48.
- 199 八木孝彦. 2013. 三重県のトンボ記録(7). ひらくら, 57(4) : 73-94.
- 200 八木孝彦. 2014. 三重県のトンボ記録(8). ひらくら, 58(2) : 25-44.
- 201 八木孝彦. 2014. 故市橋甫氏採集の三重県産トンボ. ひらくら, 58(3) : 61-67.
- 202 八木孝彦. 2014. 三重県のトンボの記録(9). ひらくら, 58(4) : 73-98.
- 203 山口和洋. 2012. 三重県南部トンボと蝶などのメモ(2012年3~4月). ひゃくとりむし, (339) : 4062-4064.
- 204 山口和洋. 2012. 三重県南部トンボと蝶などのメモ(2012年5月). ひゃくとりむし, (344) : 4124-4125.
- 205 山口和洋. 2012. 御浜町のモートナイトトンボ. ひらくら, 56(2) : 50.
- 206 山口和洋. 2013. 三重県南部~和歌山県頭部トンボと蝶などのメモ・2012年11~12月. ひゃくとりむし, (359) : 4303.
- 207 山口和洋. 2013. 「御浜町のモートナイトトンボ」の訂正と追加. ひらくら, 57(1) : 24.
- 208 山口和洋. 2014. 紀宝町で採集したモートナイトトンボ. ひらくら, 58(1) : 21.
- 209 山口和洋. 2014. ネアカヨシヤンマを紀宝町で採集. ひらくら, 58(1) : 21.
- 210 山口和洋. 2014. 三重県南部トンボと蝶などのメモ・2014年1~4月. ひゃくとりむし, (376) : 4507-4508.
- 211 山口和洋. 2016. 三重県南部トンボと蝶などのメモ・2014年5~11月. ひゃくとりむし, (395) : 4732-4734.
- 212 山口和洋. 2016. 御浜町におけるキトンボの採集記録. ひらくら, 60(1) : 14-15.
- 213 山口和洋. 2017. 熊野地方のトンボ記録. 三重自然誌, (15) : 4-11.
- 214 山口和洋. 2017. 紀宝町のトンボ記録若干. ひらくら, 61(2) : 42-43.
- 215 山川昌宏. 1984. ネアカヨシヤンマの新産地. ひらくら, 28(4) : 61.
- 216 山川昌宏. 1984. グンバイトンボを度会郡大宮町で採集. ひらくら, 28(5) : 78-79.
- 217 山川昌宏. 1986. トンボ類(蜻蛉目). 大宮町史 自然編, 大宮町 : 278-287.
- 218 山川昌宏. 1989. 志摩町でハネビロエゾトンボを目撃. ひらくら, 33(2) : 31.
- 219 山本悠紀夫. 1962. 赤目峡(三重県)のトンボ. ひらくら, 6(3) : 35.
- 220 山本悠紀夫. 1967. 鳥羽落口のトンボ. ひらくら, 11(2) : 97.
- 221 山本悠紀夫. 1967. お亀池のトンボ. ひらくら, 11(4) : 36-37.

- 222 山本悠紀夫. 1980. 鳥羽落口（三重県）のトンボ（続報）. ひらくら, 24(2): 18–30.
- 223 山本悠紀夫. 1983. 三重県におけるコサナエ属の分布. ひらくら, 27(2): 17–26.
- 224 山本悠紀夫. 1991. 三重県櫛田川におけるオオサカサナエの分布と周伊勢湾地域の *Stylurus* 属サナエトンボの分布とその地史的背景. ひらくら, 35(5): 65–70.
- 225 山本悠紀夫. 2001. 亀山市から関町にかけての鈴鹿丘陵を中心とした地域のトンボ. ひらくら, 45(4): 139–148.
- 226 山本悠紀夫. 2002. グンバイトンボの志摩半島における分布と地史的背景. 月刊むし, 379: 40–43.
- 227 山本悠紀夫. 2003. 三重県鈴鹿郡加太からのルリボシヤンマとタカネトンボの確認. ひらくら, 47(4): 55–58.
- 228 山本悠紀夫. 2004. 三重県志摩半島の鶴方層（洪積統）堆積域とその周辺に分布するトンボ. 佳香蝶, 56(219): 67–71.
- 229 山本悠紀夫. 2004. 志摩半島（三重県）の仏像構造線内帯山地に棲息するグンバイトンボ. ひらくら, 48(4): 54–56.
- 230 山本悠紀夫. 2005. 三重県伊勢市朝熊町のトンボ. 佳香蝶, 57(222): 35–39.
- 231 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, 三重県自然科学研究会: 119–288.
- 232 吉田雅澄. 2012. トンボ幼虫の採集・飼育記録 第11報. *Aeschna*, 48: 29–34.
- 233 吉田雅澄. 2021. 三重県雲出川のオオサカサナエの消長. *Aeschna*, 57: 27–28.
- 234 吉川照男. 1996. 三重県での採集の思い出. ひらくら, 40(1): 8.
- 235 生方秀紀・宮崎俊行. 2024. 日本列島におけるムカシトンボ分布地点の緯度・標高および水温・気温の限界値. *Tombo*, 67: 123–156.
- 236 山口和洋・浅名正昌・石田昇三. 2018. 三重県のトンボ. みえ生物誌—昆虫II（トンボ・チョウ）, 三重自然誌の会: 1–150.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

（バッタ目・ハサミムシ目・ゴキブリ目）

- 直翅類研究グループ. 1983. 日本の直翅類（大阪市立自然史博物館収蔵資料目録15集）. 大阪市立自然史博物館, 大阪, 101 pp.
- 古川晴男. 1948. うみべの直翅類. 新昆虫, 1(5): 8–12.
- 橋本太郎. 1957. 私の観察記録から—伊勢市附近の昆虫季節（続の1）. 日本昆虫学会東海支部ニュース, 6: 10–12.
- 橋本太郎. 1958. 三重県に棲息するコオロギ類の種類と分布について. ひらくら, 2(13): 3–11.
- 橋本太郎・大川親雄・市橋甫. 1973. 1955年鳥羽湾周辺の昆虫（そのI）. ひらくら, 17(11): 85–90.
- 日浦勇. 1979. 1センチ以上の昆虫誌8 バッタ [2]. *Nature Study*, 25(1): 5–10.
- 市橋甫・富田靖男. 2004. 御在所岳の「マレーズ・トラップ」により採集された昆虫類. 研究報告, (10): 101–116.
- 市橋甫・今村功・天春明吉・横関秀行. 1976. 篠立の風穴の昆虫類. 篠立風穴自然科学調査報告書, pp. 93–134. 藤原岳自然科学館, 藤原.
- 市橋甫・富田靖男. 宮本佳典・深田達也. 2002. 祓川の昆虫, 研究報告, (8): 71–108.
- 市川顕彦. 1992. 近畿地方のヒシバッタ類4. *Nature Study*, 38(6): 7–8.
- Ichikawa, A. 1993. Four new species of the genus *Tetrix* Latreille (Orthoptera, Tetrigidae) from Japan. *Akitu*, 135: 1–8.
- 市川顕彦・富永修. 1992. 「近畿地方のヒシバッタ類」への追記と各種の分布図. *Nature Study*, 38(12): 3–6.
- 石川友一. 1983. 鈴鹿山系宇賀溪での採集記録, ばったりぎす, (49): 1424–1425.
- Ishikawa, H. 1998. A new *Parapodisma* species (Orthoptera, Acrididae, Catantopinae) from Shizuoka Prefecture Central Honshu Japan. *The Japanese Journal of Systematic Entomology*, 4(1): 173–178.
- 磯野正次. 1940. 日本内地産コホロギ科に就いて. 三重博物, 3: 71–76.
- 伊藤元. 2010. ヤマトフキバッタとキイフキバッタの♀を正確に同定する. ばったりぎす, (145):

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

37–38.

- 17 Ito G. 2015. A systematic study of the grasshopper tribe Podismini in Japan (Orthoptera: Acrididae). *Insecta matsumurana New Series*, (71): 1–119. Appendix-1.
- 18 加納康嗣. 1979. 野登山 (三重県亀山市) のササキリモドキ. *ばったりぎす*, (17), 299–301.
- 19 加納康嗣. 1980. 採集記録. *ばったりぎす*, (33): 766.
- 20 加納康嗣. 1982. 名張市周辺のミヤマフキバツタ (1). *ひらくら*, 26(2): 13–31.
- 21 加納康嗣. 1983. 名張市周辺のミヤマフキバツタ (2). *ひらくら*, 27(3): 37–48.
- 22 加納康嗣. 1983. タンボオカメコオロギを大山田村で採集. *ひらくら*, 27(1): 12–13.
- 23 加納康嗣. 1985. 名張市周辺のミヤマフキバツタ (3). *ひらくら*, 29(4): 51–64.
- 24 加納康嗣. 1987. 名張市周辺のミヤマフキバツタ (4). *ひらくら*, 31(1): 1–5.
- 25 Kanô, Y. 1996. A new genus of the tribe Melanoplini (Orthoptera, Acrididae) from Japan. *Tettigonia*, 1: 27–29.
- 26 加納康嗣・富永 修・田畑郁夫・別府隆守・石川 均・村井貴史・三時輝久・河北 均・豊嶋 弘・高橋耕司. 1999. 日本の短翅ササキリモドキ類 (直翅目. キリギリス科ヒメツユムシ亜科). *Tettigonia*, 1(2): 1–81.
- 27 河合正人. 1980. 伊勢の河原で収穫ドッサリ. *ばったりぎす*, (23): 479–485.
- 28 河北 均. 1978. スズカハダカササキリモドキ (仮称) について. *Nature Study*, 24(9): 15.
- 29 河北 均. 1989. ヤマトマダラバツタを鈴鹿市で採集. *ひらくら*, 33(1): 15.
- 30 河北 均. 1994. ヤマトマダラバツタを阿児町で採集. *ひらくら*, 38(2): 26.
- 31 河北 均. 2000. 直翅類. 三重県その自然と動物 (三重県その自然と動物編集委員会編), pp. 371–378. 三重県良書出版会, 津.
- 32 河北 均. 2000. ハマスズ紀宝町の記録. *ひらくら*, 44(5): 83.
- 33 河北 均. 2000. コバネコロギスを志摩町で採集. *ひらくら*, 44(6): 98.
- 34 河北 均. 2001. 飯高町明神平の直翅目2種. *ひらくら*, 45(1): 12.
- 35 河北 均. 2001. 昆虫類 (ゴキブリ目・カマキリ目・バツタ目・ナナフシ目). *紀勢町史 自然編*, p.225–229.
- 36 河北 均. 2010. 三重県におけるヤマトマダラバツタの分布について. *ひらくら*, 54(5): 73–87.
- 37 河北 均. 2011. 志摩半島の直翅目. 志摩半島の昆虫 (生川展行 編), pp.9–24. 三重昆虫談話会, 津.
- 38 河北 均. 2017. 熊野灘沿岸地域の直翅類. *三重自然誌*, (15): 24–28.
- 39 河北 均. 2018. 三重県のバツタ目. *三重生物誌・昆虫III (バツタ・カメムシ他)*, pp.9–62. 三重自然誌の会, 松阪.
- 40 河北 均・今村隆一. 2008. ゴキブリ目・カマキリ目・バツタ目・ナナフシ目, 三重県立博物館収蔵資料目録 大川親雄昆虫標本目録第1集, p.23–29.
- 41 河北 均・中村 泰. 2009. 宮川中流域におけるカワラバツタの分布について. *ひらくら*, 53(6): 73–87.
- 42 河北 均・生川展行. 2014. クロハサミムシ大台町の記録. *ひらくら*, 58(1): 23.
- 43 河北 均・西口恵子. 2012. 津市白塚海岸の野球場グラウンド跡のバツタ類 (2012年). *三重自然誌*, 13: 65–67.
- 44 Kobayashi, M. 1986. A new *Parapodisma* species (Orthoptera, Acrididae) from Central Honshu, Japan. *Kontyu*, 54(3): 513–518.
- 45 松浦一郎. 1978. 日本産のコオロギ類 (4). *昆虫と自然*, 13(2): 21.
- 46 松浦一郎. 1985. オカメコオロギ属 (*Loxoblemmus* Orthoptera) の1新種. *New Entomol.*, 34(1/2): 11–13.
- 47 三輪勇四郎. 1958. 津市を中心とした採集地めぐり. *新昆虫*, 11(7): 29–31.
- 48 宮武頼夫・加納康嗣編. 1992. *セミ・バツタ*. 保育社, 大阪, 214 pp.
- 49 村井俊郎. 1971. 県内における直翅目三種の新産地. *ひらくら*, 15(8): 57–58.
- 50 村井俊郎・河北 均. 1982. 尾鷲地域の直翅類相. 尾鷲地域野生生物調査報告書, pp.385–408. 尾鷲地域野生生物調査会・三重県自然科学研究会, 尾鷲・津.
- 51 村井俊郎・河北 均. 2008. 鈴鹿市の直翅類. 鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書— (鈴鹿市環境部環境政策課 編), pp. 478–486. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.

- 52 村井俊郎・富田靖男. 2011. 亀山市の直翅型昆虫グループ(直翅目, ゴキブリ目, カマキリ目, ナナフシ目およびハサミムシ目), 亀山市史 自然編, p.758-770.
- 53 中村 泰. 1993. 紀和町木津呂熊野川河原におけるカワラバッタの採集記録. ひらくら, 37(4): 77.
- 54 日本直翅類学会編. 2006. バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑. 北海道大学出版会, 札幌, 687 pp.
- 55 野沢 登. 1950. 採集品同定の手引バッタの解説(1). 新昆虫, 3(3): 25-27.
- 56 大町文衛. 1939. 日本の蟋蟀. 兵庫県中等教育博物学雑誌, 4: 1-12.
- 57 大町文衛. 1941. 紀州に於いて発見されたる亜熱帯性直翅類昆虫. 兵庫県中等教育博物学雑誌, 7: 233-241.
- 58 坂部元宏. 1973. ハマスズの羽化期と性との関係. ひらくら, 17(5): 34.
- 59 坂部元宏. 1973. 中南勢地区の海岸附近の昆虫. 中南勢地域における昆虫生息状況に関する調査報告書, pp. 95-100. 三重県自然科学研究会, 津.
- 60 Sato R. et A. Ichikawa. 2000. A New Species of the Genus *Xya* Latreille, 1809 (Orthoptera: Tridactyloidea: Tridactylidae) from Japan. Japanese journal of systematic entomology, 26(2): 290-293.
- 61 篠木善重. 2018. 櫛田川調査会報告. はなあぶ, (46): 56-59.
- 62 Shiraki, T. 1930. Orthoptera of the Japanese Empire, 1 (Gryllotalpidae and Gryllidae). Insecta Matsumurana, 4(4): 181-252.
- 63 Sugimoto, M. et A. Ichikawa. 2003. Review of Rhabdophoridae (excluding Protrigophilineae) (Orthoptera) of Japan. Tettigonia, 5: 1-48.
- 64 富田靖男・市橋 甫. 2004. 昆虫類相. 明和町史資料編第1巻 自然・考古, pp.195-228. 明和町, 明和.
- 65 富永 修. 1980. 二見朝熊山の *Parapodisma* の再検. ぱったりぎす, (32): 745.
- 66 富永 修. 1981. *Parapodisma* Information 11 志摩半島のフキバッタ. ぱったりぎす, (41): 1037-1039.
- 67 富永 修. 1997. 翅の長いキンフキバッタ. ぱったりぎす, (113): 71.
- 68 富永 修・加納康嗣. 1987. 近畿地方から発見されたミヤマフキバッタ属の1新種, 越佐昆虫同好会々報, (64): 30-38.
- 69 植田義輔. 1970. カヤコオロギの生息地とその生息環境. きべりはむし, 32(1): 59-60.
- 70 上島法博. 1959. 飯南郡森村の直し類. ひらくら, 3(7): 89-90.
- 71 山下善平・村井俊郎. 1980. 伊勢神宮境内地の直翅類相. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp.227-248. 神宮司庁, 伊勢.
- 72 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋 甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦 誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp.119-288, 24pls. 三重県自然科学研究会, 津.

(カメムシ目)

- 1 橋本太郎. 1955. 大台ヶ原・大杉谷の昆虫. 大杉谷・大台ヶ原山の自然, pp.74-77. 大台・大杉自然科学調査団.
- 2 橋本太郎. 1958. 平倉演習林昆虫採集目録. ひらくら, 24: 135-136.
- 3 林 憲一. 1957. 伊賀のセミは. いがざさ, 5: 34p. (孔版).
- 4 林 憲一. 1959. チッチゼミを採る. いがざさ, 19: 159p. (孔版).
- 5 穂積俊文・中根敏勝・石田昇三. 1958. 続平倉演習林採集記. ひらくら, 22: 118-119.
- 6 市橋 甫. 1960. 御在所岳でチッチゼミを採集. ひらくら, 4(8): 54.
- 7 市橋 甫. 1967. マエグロハネナガウンカ御在所岳から採集. ひらくら, 11(7): 59.
- 8 市橋 甫. 1977. 御在所岳のエゾゼミについて. ひらくら, 21(2): 29.
- 9 市橋 甫. 1982. 御在所岳でエゾハルゼミを採集. ひらくら, 26(1): 1-2.
- 10 市橋 甫. 1991. 1991年鈴鹿山系のセミ類の初鳴きの記録. ひらくら, 35(5): 77.
- 11 市橋 甫. 1993. 御在所岳のエゾハルゼミの鳴き声について. ひらくら, 37(1): 14.
- 12 市橋 甫. 2004. ニシキキンカメムシを御在所岳で採集. ひらくら, 48(4): 64-65.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 13 市川 太・市橋 甫. 1999. エゾゼミの記録2例について. ひらくら, 43(5): 81.
- 14 石田和男. 2000. 雲出川下流部でネアカヨシヤンマ, エサキアメンボを採集. ひらくら, 44(4): 67.
- 15 石田和男・矢崎充彦. 2001. ホッケミズムシ・ナガミズムシ (半翅目: ミズムシ科) の採集例. ひらくら, 45(4): 154-155.
- 16 石田和男・矢崎充彦. 2002. シロウミアメンボを大王町で採集. ひらくら, 46(3): 54-55.
- 17 石田和男・矢崎充彦. 2005. 大王町船越池の水生半翅類, 水生甲虫類. ひらくら, 49(2): 17-24.
- 18 石田昇三・成瀬善一郎. 1958. 三重大学平倉演習林で観察された昆虫初見 (観) 日. ひらくら, 14: 21-22.
- 19 伊藤修四郎・奥谷禎一・日浦 勇編著. 1977. 原色日本昆虫図鑑 (下), 保育社, 大阪: 385pp. 64pls.
- 20 粥見淳一. 1793. 中南勢の農耕地における昆虫の発生動向. 中南勢地域における昆虫生息状況に関する調査報告書, pp. 101-111. 三重県自然科学研究会, 津.
- 21 川瀬英夫. 1996. 明神岳付近で採集したセミ2種. ひらくら, 40(6): 313.
- 22 桑名市教育委員会・環境科学株式会社名古屋事務所編. 2010. 桑名市指定天然記念物ヒメタイコウチ保存管理計画. 桑名市教育委員会, 桑名, 40 pp.
- 23 前川和則. 2008. ニシキキンカメムシの記録. ひらくら, 52(3): 39.
- 24 蒔田実造. 1984. ヒメタイコウチを四日市市で採集. ひらくら, 28(5): 77.
- 25 中根敏勝・石田昇三. 1958. 平倉演習林採集記. ひらくら, 2(21): 107-108.
- 26 中谷和夫. 1959. 平倉演習林採集記録 (其の一). 演習林で採った蝶とセミ. ひらくら, 3(6): 69-71.
- 27 中谷和夫. 1959. 平倉演習林採集記録 (其の二). ひらくら, 3(11): 128-141.
- 28 小川隆之. 1995. 上野市法花湿地の水生昆虫調査報告. 三重自然誌, (2): 38-40.
- 29 小川隆之. 2000. 三重県海山町船越池の底生動物類. 三重自然誌, (6): 39-40.
- 30 小川隆之. 2001. 第17項 水生昆虫類. 紀勢町史 自然編, pp.387-395. 紀勢町, 紀勢.
- 31 小川隆之. 2007. 菅島の淡水産底生動物類. 三重自然誌, 11: 41-44.
- 32 大川親雄. 1957. 三重県の異翅亜目目録. ひらくら, 10: 1-12.
- 33 大川親雄. 1958. 三重県産同翅亜目けいふん群目録. ひらくら, 17: 49-57.
- 34 大川親雄. 1958. 三重県にもヒメタイコウチ. ひらくら, 2(24): 143.
- 35 大川親雄. 1959. 三重県の水せい異し亜目第二報. ひらくら, 3(8/9): 109-110.
- 36 大川親雄. 1961. 半翅目. 藤原岳の昆虫 (三重昆虫談話会 編), pp. 20-23. 三岐鉄道, 四日市.
- 37 大川親雄. 1962. ほら穴採集記. ひらくら, 6(12): 130-134.
- 38 大川親雄. 1968. 平倉演習林のカメムシ類. ひらくら, 12(7): 51-57.
- 39 大川親雄. 1974. 鳥羽湾周辺地域のカメムシ類. ひらくら, 18(4): 26-32.
- 40 大川親雄. 1980. 伊勢神宮境内地の半翅目相. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp.249-274. 神宮司庁, 伊勢.
- 41 大川親雄. 1982. 尾鷲地域の半翅目相. 尾鷲地域野生生物調査報告書. pp.409-426. 尾鷲地域野生生物調査会・三重県自然科学研究会, 尾鷲・津.
- 42 大川親雄. 1986. IV. 生物. b. 動物. 8. カメムシ・セミ類 (半翅目). 大宮町史 自然編, pp. 288-301. 大宮町, 大宮.
- 43 大川親雄. 1996. 三重県の異翅半翅類 (A). ひらくら, 40(3): 73-264.
- 44 大川親雄. 2001. 三重県と同翅半翅類頸吻群目録. ひらくら, 45(3): 35-137.
- 45 大川親雄・河北 均. 1991. ウミアメンボを大王町で採集. ひらくら, 35(1): 15.
- 46 大町文衛・山下善平・市橋 甫・石田昇三・北川賢澄・的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・大川親雄・山本祐嗣. 1959. 熊野灘沿岸地方の昆虫. 吉野熊野伊勢志摩両国立公園地域拡張調書, pp. 189-236. 14pls. 三重県, 津.
- 47 乙部 宏. 1998. 上野市のチッチゼミ. ひやくとりむし, 188: 9.
- 48 乙部 宏. 2003. 名張市のエゾゼミ. ひらくら, 47(5): 83-84.
- 49 乙部 宏. 2003. 宮川村のアカエゾゼミ. ひらくら, 47(6): 96.
- 50 坂部元宏. 1994. エゾハルゼミ飯高町蓮に分布す. ひらくら, 38(2): 23.
- 51 島地岩根・富田靖男・倉田 忠・小川隆之・山下善平・石田昇三・大川親雄・石田勝義. 1996. 上野市友生地区の昆虫相. 三重県自然科学研究会, 40 pp.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 52 多田弘一. 1980. 1979年, 燈火に飛来したタガメの記録. ひらくら, 24(5): 81–82.
- 53 田中茂三郎. 1940. 伊賀「主として赤目, 香落付近」における比較的珍しい昆虫. 三重博物, 3: 40–55.
- 54 富田靖男. 1974. 台高山脈北部および奥香肌峡の昆虫相. 台高山脈北部ならびに奥香肌峡一帯自然科学調査報告書. 三重県立博物館自然科学調査報告第5報: pp. 23–71.
- 55 富田靖男. 1977. 5. 松阪の動物. 松阪市史 第一巻 資料編 自然, pp. 465–636. 松阪市, 松阪.
- 56 富田靖男. 1980. ライト・トラップで調査された伊勢神宮境内地の半翅目昆虫群集. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp. 41–69. 神宮司庁, 伊勢.
- 57 富田靖男. 2004. カメムシ目・付編2昆虫目録カメムシ目. 上野市史 自然編 第5章 昆虫 第4節, pp. 684–687, 887–904. 上野市, 上野.
- 58 富田靖男. 2005. 上野市史自然編に記載したコオイムシ類について. ひらくら, 49(3): 54.
- 59 富田靖男. 2006. 熊野灘沿岸の半翅目昆虫相. 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫 (三重昆虫談話会 編), pp. 30–62. 三重昆虫談話会, 津.
- 60 富田靖男. 2007. 答志島・菅島・神島の半翅目昆虫の記録. 三重自然誌, 11: 72–74.
- 61 富田靖男. 2008. 第8節 鈴鹿市のカメムシ目. 鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書 (鈴鹿市環境部環境政策課 編), pp. 494–524. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
- 62 富田靖男. 2008. 四季の里の観察会. 三重動物学会会報, 31: 7–9.
- 63 富田靖男. 2008. 明和町の半翅目昆虫. ひらくら, 52(5): 69–83.
- 64 富田靖男. 2010. 第5節 亀山市の半翅目昆虫. 亀山市史 自然編, pp. 771–808. 亀山市, 亀山.
- 65 富田靖男. 2011. 鳥羽市・志摩市の半翅目昆虫相. 志摩半島の昆虫 (生川展行 編), pp.34–65. 三重昆虫談話会, 津.
- 66 富田靖男. 2012. 津市域における半翅目昆虫の記録. 三重自然誌, (13): 68–75.
- 67 富田靖男・富田 傑. 2001. 第1編. 第3章. 勢和の動物. 勢和村史, pp. 54–177. 勢和村, 勢和.
- 68 刀根定良・八木孝彦. 1997. 大安町でコバンムシを採集. ひらくら, 41(4): 63.
- 69 戸澤信義. 1955. 大台・大杉の昆虫—序説. 大杉谷・大台ヶ原山の自然. pp. 32–37. 大台・大杉自然科学調査団.
- 70 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋 甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦 誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 119–288. 24pls. 三重県自然科学研究会, 津.
- 71 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田 忠・大川親雄・石田昇三・後藤 勇. 1976. 上野市南部丘陵地域の昆虫相. 上野市南部都市開発に伴う自然環境調査および影響評価報告書, pp. 189–301. 三重県自然科学研究会, 津.
- 72 矢崎充彦・石田和男. 2001. 度会郡南勢町で採集した注目すべき水生半翅類. ひらくら, 45(2): 29.
- 73 矢崎充彦・石田和男. 2008. 東海地方の水生半翅類. 佳香蝶, 60: 165–200.
- 74 乙部 宏. 2022. 朝日町と松阪市でオオアメンボを採集. ひらくら, 66(1): 17–18.
- 75 乙部 宏. 2022. 熊野市のオオアメンボ. ひらくら, 66(4): 86.
- 76 篠木善重. 2022. コオイムシを津市で発見. ひらくら, 66(1): 17.
- 77 津田正太郎. 2022. 伊賀市でコバンムシを採集. ひらくら, 66(2): 40.
- 78 林 正美. 1989. 日本産セミの分布報告 (1) . CICADA, 8(1): 1–27.
- 79 林 正美・税所康正. 2015. 改訂版 日本産セミ科図鑑, 誠文堂新光社, 東京: 224pp.1CD.
- 80 北村 颯. 2020. 松阪市飯南町局ヶ岳のエゾゼミ属2種の記録. ひらくら, 64(2): 38–39.
- 81 北村 颯. 2023. 松阪市飯高町におけるエゾゼミ属2種の新産地. ひらくら, 67(1): 17–18.
- 82 税所康正. 2019. セミハンドブック, 文一総合出版: 東京, 112pp.
- 83 富田靖男. 2006. 熊野灘沿岸地域の半翅目昆虫相. 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫 (三重昆虫談話会 編), 30–62.
- 84 富田靖男・河北 均・篠木善重・生川展行. 2016. 鈴鹿山脈の半翅目昆虫. 鈴鹿山脈の昆虫 (三重昆虫談話会 編), 53–80.
- 85 富田靖男・中西元男・河北 均・篠木善重・蒔田実造. 2021. 伊勢湾岸地域の半翅目昆虫の記録. 伊賀盆地北部及び伊勢湾岸地域の昆虫 (三重昆虫談話会 編), 154–163.
- 86 北村 颯. 2022. 総門山のエゾゼミ. ひらくら, 66(3): 58–59.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 87 北村 颯. 2022. 南伊勢町のヒメハルゼミ. ひらくら, 66(3) : 59–60.
- 88 北村 颯. 2023. 中南勢地域のヒメハルゼミの分布調査. ひらくら, 67(1) : 18–21.
- 89 初宿成彦. 2022. 近畿地方におけるヒメハルゼミの分布～古代以前の宗教と関わった歴史的背景に基づく評価～. 大阪市立自然史博物館研究報告, 76 : 67–96.
- 90 北村 颯. 2020. 明和町でチッチゼミを採集. ひらくら, 64(2) : 40–41.
- 91 河野勝行. 2018. 鈴鹿市の岸岡山緑地でチッチゼミを採集. ひらくら, 62(2) : 40–42.
- 92 富田靖男. 2017. 三重県北勢地域臨海部および丘陵地を主体とした半翅目昆虫の記録. 三重自然誌, (15) : 32–37.
- 93 矢崎充彦. 2017. いなべ市藤原岳周辺で得た分布上特記すべき昆虫類. 藤原岳自然科学館館報, 39 : 2–17.
- 94 矢崎充彦. 2018. いなべ市藤原岳周辺で得た分布上特記すべき昆虫類 (II). 藤原岳自然科学館館報, 40 : 1–8.
- (アミメカゲロウ目・ヘビトンボ目)
- 1 石田昇三. 1990. 広翅・脈翅・長翅類. 四日市市史 第1巻 史料編 自然. pp.354–356. 四日市市, 四日市.
- 2 三輪勇四郎・大川親雄. 1958. 三重県の脈翅目. ひらくら, 2(18): 63–65.
- 3 森田久幸. 2013. ヤマトセンブリの記録. ひらくら, 57(2): 44.
- 4 中谷和夫. 1959. 平倉演習林採集記録 (其の二). ひらくら, 3(10/11): 128–141.
- 5 奥田貞助. 1998. コマダラウスバカゲロウの繭作り. ひらくら, 42(3): 35–39.
- 6 奥田貞助. 2003. オオウスバカゲロウの飼育と羽化. 自然誌だより, (55): 3–5.
- 7 田中茂三郎. 1940. 伊賀「主として赤目, 香落付近」における比較的珍しき昆蟲. 三重博物, (3): 40–55.
- 8 富田靖男. 2004. 第5節 アミメカゲロウ目, シリアゲムシ目ならびにハエ目. 上野市史 自然編 第5章 昆虫, pp. 688–689, p.905–908. 上野市, 上野.
- 9 富田靖男. 2006. 熊野灘沿岸の半翅目昆虫相. 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫 (三重昆虫談話会編), pp. 30–62. 三重昆虫談話会, 津.
- 10 富田靖男. 2008. 第8節 鈴鹿市のカメムシ目. 鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書 (鈴鹿市環境部環境政策課 編), pp. 494–524. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
- 11 富田靖男・市橋 甫. 1973. 紀伊長島臨海地域および島嶼の昆虫相. 紀伊長島町, 108 pp.
- 12 富田靖男・島地岩根. 1980. ライトトラップ法で調査された伊勢神宮境内地のチャタテムシ目, 脈翅目ならびに長翅目昆虫群集. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp. 71–91. 神宮司庁, 伊勢.
- 13 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋 甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦 誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 119–288. 24pls. 三重県自然科学研究会, 津.
- 14 山下善平・大川親雄・島地岩根・市橋 甫・村井俊郎・橋本理市・富田靖男・坂部元宏・中西元男・倉田 忠. 1972. 大杉谷および大台ヶ原山の昆虫ならびに樹上クモ類相. 大杉谷・大台ヶ原自然科学調査報告書. pp. 195–285. 9pls. 三重県自然科学研究会, 津.
- 15 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田 忠・大川親雄・石田昇三・後藤 勇. 1976. 上野市南部丘陵地域の昆虫相. 上野市南部都市開発に伴う自然環境調査および影響評価報告書, pp.189–301. 三重県自然科学研究会, 津.
- 16 秋田勝己. 2021. 三重県のオオウスバカゲロウ. 月刊むし, (601) : 61.
- 17 三重県上野森林公園HP, https://mie-mori.jp/ueno/events_report/ 2023年2月1日.
- 18 内山旬人・内山えりか・蓑島悠介. 2024. キバネツノトンボ *Libelloides ramburi* (M'Lachlan) は九州に分布するのか?. 北九州市立自然史・歴史博物館研究報告A類 (自然史) 22 巻, p. 21–25.
- 19 間野隆裕. 2024. オオウスバカゲロウ津市の記録. ひらくら, 68(4) : 102.
- 20 乙部 宏. 2022. 名張市のキバネツノトンボひらくら, 66(4) : 102.

哺乳類
鳥類
爬虫類
両生類
汽水・淡水魚類
昆虫類
クモ類
貝類
甲殻類
その他動物
維管束植物
蕨苔類
藻類
キノコ

EX
EW
CR
EN
VU
NT
DD

(コウチュウ目)

- 1 秋田勝己. 1984. 二見ヶ浦のオオヒョウタンゴミムシ. ひらくら, 28(2): 24.
- 2 秋田勝己. 1987. 美杉村平倉のトゲフタオタマムシ. ひらくら, 31(3): 45.
- 3 秋田勝己. 1990. 赤目溪谷でセダカテントウダマシを採集. ひらくら, 34(6): 160.
- 4 秋田勝己. 1995. 三重県および周辺地域のクワガタムシ (1). ひらくら, 39(1): 1-11.
- 5 秋田勝己. 1995. 三重県および周辺地域のクワガタムシ (2). ひらくら, 39(2): 17-29.
- 6 秋田勝己. 1995. 三重県および周辺地域のクワガタムシ (3). ひらくら, 39(3): 35-44.
- 7 秋田勝己. 1996. 紀伊半島のキンモンナガタマムシ. 月刊むし, 310: 20.
- 8 秋田勝己. 1997. 三重県のフタスジゴマフカミキリ. 月刊むし, 314: 37.
- 9 秋田勝己. 1999. 三重県のオオトラカミキリ. 月刊むし, 341: 42.
- 10 秋田勝己. 2001. 羽毛トラップにきたコブナシコブスジコガネ. 鯉角通信, 3: 58.
- 11 秋田勝己. 2006. 三重県版レッドデータブック調査対象甲虫の記録. ひらくら, 50(3): 33-46.
- 12 秋田勝己. 2008. 志摩市大王町船越池のゲンゴロウ類と捕食性外来動物について. 甲虫ニュース, 162: 31-34.
- 13 秋田勝己. 2008. セスジマルドロムシの再発見. 甲虫ニュース, 164: 14-15.
- 14 秋田勝己. 2012. 三重県でオオサカスジコガネを採集. 鯉角通信, 25: 44.
- 15 秋田勝己. 2004. 三重県のミヤマオオハナムグリとムラサキツヤハナムグリ. ひらくら, 48(3): 47-48.
- 16 秋田勝己・久保田耕平. 1985. クロカタビロオサムシを美杉村で採集. ひらくら, 29(5): 78.
- 17 秋田勝己・森正人, 2011. クロシオガムシの本州における記録. さやばねニューシリーズ, 3: 30-31.
- 18 秋田勝己・締次美穂, 2011. キバネキバナガミズギワゴミムシの生態観察例. さやばねニューシリーズ, 4: 12-14.
- 19 秋田勝己・天満智憲. 1999. サツマヒメコバナカミキリ本州に産す. 月刊むし, 343: 43.
- 20 浅野 隆・小山幸伯. 2001. 海山町のミヤマダイコクコガネ. ひらくら, 45(29): 24.
- 21 馬場金太郎・佐藤正孝. 1962. 三重県南部の水棲甲虫類. ひらくら, 6(1): 1-3.
- 22 Balfour-Browne, J. & Satô, M. 1962. On the Japanese species of the genus *Hydrochus* Leach (Coleoptera Hydrophilidae). *Niponius*, 1(19): 1-6.
- 23 Chujo, M. & Morimoto, K. 1959. Curculionid-Beetles of Niigata Prefecture Collected by Dr. K. Baba (2nd report). *Kontyu*, 27: 146-155.
- 24 Chujo, M. & Voss. 1960. Neue Curculioniden-subfamilie gattungen und arten von Japan (Coleoptera, Curculionidae). *Mem. Fac. Liberal Art & Educ. Kagawa Univ.* II. 94: 1-17.
- 25 藤原 均. 1993. 奈良県曾爾高原でヒメビロウドカミキリを採集. 月刊むし, 270: 40-41.
- 26 藤岡昌介. 2001. 日本産コガネムシ上科総目録, コガネムシ研究会, 東京, 264 pp.
- 27 後藤光男. 1961. 藤原岳の昆虫. 三岐鉄道, 四日市, 87 pp.
- 28 春沢圭太郎. 1968. 古和谷 (尾鷲市) の甲虫類. ひらくら, 12(10): 75-76.
- 29 長谷川道明・穂積俊文・川瀬英夫. 1993. カスリチビカミキリについての分類学的知見. 豊橋市自然史博研報, 3: 21-26.
- 30 長谷川道明・桜丘高等学校生物部. 2014. 神島で確認されたシロヘリハンミョウ. 豊橋自然史博物館研報, 24: 31-32.
- 31 橋本太郎. 1958. 平倉演習林昆虫目録. ひらくら, 2(23): 135-138.
- 32 橋本太郎. 1960. 昆虫. 神宮宮城産生物目録VII, pp. 1-58. 神宮徴古館農業館, 伊勢.
- 33 橋本太郎・大川親雄・市橋 甫. 1974. 1955年採集鳥羽湾周辺の昆虫 (そのII). ひらくら, 18(6): 43-51.
- 34 林 秀雄. 1962. 三重県におけるテントウムシダマシ科の越冬について (越冬甲虫その1). ひらくら, 6(6): 73.
- 35 林 秀雄. 1964. 大台ヶ原で採集したカミキリムシについて. ひらくら, 8(12): 107.
- 36 林 秀雄. 1967. 赤目地域の甲虫類. ひらくら, 11(3): 19-32.
- 37 林 匡夫. 1955. 大台ヶ原山・大杉谷の甲虫類. 大杉谷・大台ヶ原山の自然, pp. 38-59. 大台・大杉自然科学調査団.
- 38 林 匡夫. 1955. 原色日本昆虫図鑑 (上) 甲虫編 (日本甲虫学会編), p. 166. 保育社, 大阪.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 39 林 匡夫. 1960. オオルリハムシを青山高原にとる. 昆虫学評論, 11(2): 70.
- 40 林 匡夫・森本 桂・木元新作編著. 1984. 原色日本甲虫図鑑 (IV), 保育社. 大阪: 438 pp.
- 41 林 成多. 2004. 総説・日本のネクイハムシ亜科. ホシザキグリーン財団研究報告第7号, pp. 29-126. ホシザキグリーン財団. 島根.
- 42 樋尾信也・篠木善重・尾崎美香・市橋 甫・前川和則・生川展行. 2009. 鈴鹿川流域の甲虫類. 鈴鹿川流域自然環境調査報告書, pp. 70-106. 鈴鹿市.
- 43 Hirasawa, H. 1987. オオヒラチャイロコガネの変異と新種記載を含むその近縁種・チャイロコガネ属の覚え書き I. *Lamellicornia*, 3: 11-20.
- 44 広瀬正則. 1983. フタコブルリハナカミキリの採集記録. ひらくら, 27(6): 99.
- 45 穂積俊文. 1952. 中部東海地方産天牛科目録. 佳香蝶, 4(19): 1-25.
- 46 穂積俊文. 1960. 香良洲付近の雲出川原で採集したゴミムシについて. ひらくら, 4(12): 90.
- 47 穂積俊文・中根敏勝・石田昇三. 1958. 続平倉演習林採集記. ひらくら, 2(22): 118-119.
- 48 市橋 甫. 1955. 三重大学農学部演習林の甲虫について (1955年の採集品より). 日本昆虫学会東海支部ニュース, 4: 8-13.
- 49 市橋 甫. 1958. 小岐須谷にもミヤマダイコクコガネ産する. ひらくら, 2(11): 129.
- 50 市橋 甫. 1959. アイヌハンミョウの新産地. ひらくら, 3(5): 62.
- 51 市橋 甫. 1960. 御在所岳のミヤマダイコクコガネ. ひらくら, 4(7): 49.
- 52 市橋 甫. 1963. 大台ヶ原山. 大杉谷の珍しい甲虫2種. ひらくら, 7(9): 71-72.
- 53 市橋 甫. 1969. 三重県から未記録のオカモトツヤアナハネムシ. ひらくら, 13(12): 115.
- 54 市橋 甫. 1973. 津海岸のハマベゾウムシについて. ひらくら, 7(10): 79-83.
- 55 市橋 甫. 1973. 津海岸をタイプロカリティの一つとするハマベゾウムシ. 中南勢地域における昆虫生息状況に関する調査報告書, pp.116-117. 三重県自然科学研究会, 津.
- 56 市橋 甫. 1984. 四日市市内でホソハンミョウを採集. ひらくら, 28(5): 75.
- 57 市橋 甫. 1992. 三重県のミツギリゾウムシの記録と分布. ひらくら, 30(5): 76-78.
- 58 市橋 甫. 1996. 平倉演習林の思い出. ひらくら, 40(1): 2-4.
- 59 市橋 甫. 1986. 石灰洞とそこに生息する動物. 大宮町史 自然編, pp. 513-525. 大宮町, 大宮.
- 60 市橋 甫. 1995. 御在所岳のオオダイセマダラコガネの大発生. ひらくら, 39(5): 77.
- 61 市橋 甫. 1996. 多気郡宮川村からオカモトツヤアナハネムシを採集. ひらくら, 40(6): 304-305.
- 62 市橋 甫. 1997. 1957「三重県の食糞コガネムシ」の食糞コガネムシの記録について. ひらくら, 41(3): 33-40.
- 63 市橋 甫. 1997. リュイスヒゲボソゾウムシを宮川村で採集. ひらくら, 41(4): 56.
- 64 市橋 甫. 1999. コクロオバボタル三重県から二番目の記録. ひらくら, 43(6): 87.
- 65 市橋 甫. 2005. カワラゴミムシの採集記録. ひらくら, 49(3): 53.
- 66 市橋 甫・赤塚敬一. 1959. オオヒョウタンゴミムシの発見. ひらくら, 3(3): 71.
- 67 市橋 甫・天春明吉. 1980. 三重県南部の石灰洞から記載された3種の新しいメクラチビゴミムシ. ひらくら, 24(4): 65-67.
- 68 市橋 甫・天春明吉. 1982. 伊勢神宮境内地の石灰洞に生息する節足動物. 神宮境内地昆虫調査報告, pp. 425-446. pls.2. 神宮司庁, 伊勢.
- 69 市橋 甫・天春明吉. 1984. 四日市の昆虫の記録(4). 四日市の昆虫, 1(4): 26-30.
- 70 市橋 甫・天春明吉. 1989. 四日市市周辺の海岸の冬の甲虫類. ひらくら, 33(1): 1-3.
- 71 市橋 甫・天春明吉. 1995. ヒメシマチビゲンゴロウの記録と種名の訂正について. ひらくら, 39(6): 93-94.
- 72 市橋 甫・天春明吉・官能健次・市川 太. 1999. 三重県北部のテントウムシ2種の記録. ひらくら, 43(2): 32.
- 73 市橋 甫・天春明吉・生川展行・横関秀行. 2001. 鈴鹿郡関町の昆虫. 三重のむし, 5(1): 2-25.
- 74 市橋 甫・天春明吉・清水 実. 1984. 鈴鹿山脈北部石灰岩地域内の石灰洞及び鉱山跡洞穴に生息する節足動物. 鈴鹿山脈北部石灰岩地域自然科学調査報告書, pp. 209-279. 藤原岳自然科学館, 藤原.
- 75 市橋 甫・天春明吉・横関秀行. 1996. 三重県の記録の少ない数種のカミキリムシ. ひらくら, 40(4): 277.
- 76 市橋 甫・天春明吉・横関秀行・川添昭夫・生川展行・中西元男・間野隆裕・森田久幸・官能健次・市

- 川 太. 2000. 員弁郡の昆虫類. 三重県環境保全事業団. 研究報告, 5: 67–117.
- 77 市橋 甫・天春明吉・横関秀行・中西元男. 2000. 三重県海山町船越池の甲虫類. 三重自然誌, 6: 33–35.
- 78 市橋 甫・今村 功・天春明吉・横関秀行. 1976. 篠立の風穴の昆虫類. 篠立風穴自然科学学術報告書, pp. 93–134.
- 79 市橋 甫・今村隆一・天春明吉・横関秀行・中西元男. 2001. 鳥羽市菅島の甲虫類 (附トンボ, カメムシ, ハエ目リスト含む). 三重自然誌, 7: 29–41.
- 80 市橋 甫・川原 誠・前川和則・生川展行. 1982. 尾鷲地域の甲虫類. 尾鷲地域野生生物調査報告書, pp. 505–547. 尾鷲地域野生生物調査会・三重県自然科学研究会, 尾鷲・津.
- 81 市橋 甫・的場孝郎・大川親雄. 1958. 大杉谷・大台ヶ原の甲虫類. 大杉大台ヶ原自然科学調査展示資料目録並びに調査報告, 1: 11–23.
- 82 市橋 甫・的場孝郎・大川親雄. 1959. 三重県産ハンミョウ科目録. ひらくら, 3(4): 44–45.
- 83 市橋 甫・中西元男・川添昭夫・天春明吉・横関秀行. 1992. 鳥羽市神島の昆虫. ひらくら, 36(4): 51–65.
- 84 市橋 甫・生川展行. 1986. 動物・甲虫類 (鞘翅目). 大宮町史. 自然編, pp.394–428. 大宮町, 大宮.
- 85 市橋 甫・生川展行. 1993. 伊勢市朝熊町 (世界祝祭博覧会予定地) で採集された甲虫. ひらくら, 37(2): 17–29.
- 86 市橋 甫・生川展行・天春明吉. 1985. 三重県の記録の少ない甲虫. ひらくら, 29(3): 35–48.
- 87 市橋 甫・生川展行・天春明吉・官能健次・横関秀行. 2001. 第11章. 昆虫類 (コウチュウ目). 紀勢町史 自然編, pp. 247–312. 紀勢町, 紀勢.
- 88 市橋 甫・生川展行・天春明吉・中西元男・官能健次・市川 太. 2003. 楠町吉崎海岸の昆虫. ひらくら, 47(5): 69–82.
- 89 市橋 甫・生川展行・天春明吉・横関秀行・官能健次・市川 太. 2004. 第5章コウチュウ目付編2昆虫目録コウチュウ目. 上野市史 自然編: pp. 689–978. 上野市, 上野.
- 90 市橋 甫・生川展行・横関秀行・秋田勝己・今村隆一・乙部 宏. 1999. 南勢町押淵の甲虫類. 三重自然誌, 5:33–42.
- 91 市橋 甫・刀根定良・中西元男・生川展行. 1997. I-6 松名瀬海岸の昆虫. みえの生物定点調査報告書, pp. 19–25. 三重自然誌の会, 津.
- 92 市橋 甫・横関秀行・天春明吉・市川 太・稲垣政志・稲垣順子・官能健次. 2005. 集中豪雨により津市白塚に打ち上げられたゴミムシ類. ひらくら, 49(1): 1–9.
- 93 伊賀市環境保全市民会議. 2006. 伊賀のレッドデータブック～伊賀の希少動植物～. 伊賀市, 伊賀. 242 pp.
- 94 Ikeda, H., Kagaya, T., Kubota, K., & Abe, T. 2008. Evolutionary relationships among food habit, loss of flight, and reproductive traits: Life history evolution in the Silphinae (Coleoptera: Silphidae). *Evolution*, 62: 2065–2079.
- 95 Ikeda, H., Kubota, K., Cho, Y.-B., Lian, H., & Sota, T. 2009. Different phylogeographic patterns in two *Silpha* species (Coleoptera: Silphidae) affected by climatic gradients and topography. *Biological Journal of the Linnean Society*, 98: 452–467.
- 96 今村隆一. 1989. 宮川村父ヶ谷における甲虫 (タマムシ, カミキリムシ, ゾウムシ). ひらくら, 33(2): 28–30.
- 97 今村隆一. 1989. 三重県で記録されたカミキリムシ2種. ひらくら, 33(4): 60–61.
- 98 今村隆一. 2004. 嬉野町の昆虫類 (甲虫), 嬉野町昆虫類甲虫目録. 嬉野町史自然編, pp. 421–431.
- 99 今村隆一・市橋 甫. 2007. 鳥羽市答志島の甲虫類 (バッタ目・カメムシ目・ハチ目を含む). 三重自然誌, 11: 45–57.
- 100 今村隆一・市橋 甫・乙部 宏. 2009. 大台ヶ原地域の甲虫類. 三重自然誌, 12: 57–71.
- 101 Imura, Y. 2004. An isolated new subspecies of *Ohomopterus yamato* (Coleoptera, Carabidae) discovered from the southerneastern part of the Kii Peninsula. *Elytra*, Tokyo, 32: 3–4.
- 102 稲垣順子. 2000. 野登山でムナコブハナカミキリを採集. ひらくら, 44(5): 80.
- 103 稲垣政志. 2000. アイヌコブスジコガネの2採集例. ひらくら, 44(6): 87.

哺乳類

鳥 類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝 類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻 類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 104 稲垣政志. 2002. FITに落ちた鈴鹿山脈の糞虫～1年間の経時的調査結果～. 鯉角通信, 5: 29–34.
- 105 稲垣政志. 2003. 南部照葉樹林におけるアイヌコブスジコガネの記録. ひらくら, 47(5): 83.
- 106 稲垣政志. 2003. 迷岳でムソコブスジコガネを採集. ひらくら, 47(4): 67.
- 107 稲垣政志. 2004. ミヤマオオハナムグリを迷岳にて採集. ひらくら, 48(1): 8.
- 108 稲垣政志. 2004. 三重県南部地域の食糞性コガネムシ類の季節推移について. 鯉角通信, 9: 25–34.
- 109 稲垣政志. 2004. 尾鷲市のマルエンマコガネ. ひらくら, 48(5): 75.
- 110 稲垣政志. 2005. 三重県初記録のコツヤマグソコガネ. ひらくら, 49(4): 61.
- 111 稲垣政志. 2005. 三重県初記録のヌバタママグソコガネ. ひらくら, 49(4): 60.
- 112 稲垣政志. 2005. 三重県初記録のピロウドコガネ族. ひらくら, 49(1): 10–11.
- 113 稲垣政志. 2006. 菰野町のヒメキイロマグソコガネ. ひらくら, 50(1): 4.
- 114 稲垣政志. 2008. コブナシコブスジコガネ *Trox nohirai* Nakaneの生態について (続報). 鯉角通信, 16: 33–35.
- 115 稲垣政志. 2013. 三重県でマルエンマコガネを採集. 鯉角通信, 26: 93–94.
- 116 稲垣正志・市橋 甫・天春明吉・横関秀行・稲垣順子. 2008. 篠立の風穴の甲虫類. 第二次篠立の風穴自然科学調査報告書, pp. 91–97.
- 117 稲垣政志・市川 太. 2009. ヒメコエンマコガネの尾鷲市での記録. ひらくら, 53(5): 118.
- 118 稲垣政志・稲垣信吾. 2007. コブナシコブスジコガネ *Trox nohirai* Nakaneの生態について. 鯉角通信, 15: 7–10.
- 119 稲垣政志・前川和則. 2003. コスジマグソコガネを勢和村で採集. ひらくら, 47(3): 46.
- 120 稲垣政志・生川展行. 2013. 藤原町・菰野町でコツヤマグソコガネを採集. ひらくら, 57(3): 67–68.
- 121 稲垣政志・横関秀行. 2011. 津市美杉町にてアイヌケシマグソコガネを採集. ひらくら, 55(3): 68.
- 122 稲垣政志・横関秀行. 2013. 藤原町でコブナシコブスジコガネを採集. ひらくら, 57(2): 41–42.
- 123 石田和男. 2001. 雲出川河川敷でマダラコガシラミズムシを採集. ひらくら, 45(2): 28.
- 124 石田和男・矢崎充彦. 2002. 上野市法花で採集した注目すべき水生昆虫類. ひらくら, 46(2): 30.
- 125 石田和男・矢崎充彦. 2005. 大王町船越池の水生半翅類. 水生甲虫類. ひらくら, 49(2): 17–24.
- 126 石田昇三. 1980. 名四国道で採れたオオクワガタ. ひらくら, 9(8): 125.
- 127 石田昇三・市橋 甫・大川親雄・中根敏勝・成瀬善一郎・的場孝郎. 1959. 紀北・紀南調査会採集記. ひらくら, 3(1): 4–16.
- 128 石田昇三・成瀬善一郎. 1957. 雲出川上流水棲昆虫採集記. ひらくら, 8: 1–4.
- 129 石川 均・新井真. 2004. アカマダラハナムグリの一生態について. 甲虫ニュース, 148: 13.
- 130 Ishikawa, R., & Kubota, K. 1994. Geographical races of *Carabus maiyasanus* Bates and *C.arrowianus* (Breuning) in Honshu, Japan. at tentative revision (Coleoptera, Carabidae). Bulletin of the Biogeographical Society of Japan, 49: 105–128.
- 131 Ishikawa, R., & Kubota, K. 1995. Geographical races of *Carabus iwawakianus* (Nakane) in Honshu, Japan. at tentative revision (Coleoptera, Carabidae). Bulletin of the Biogeographical Society of Japan, 50: 39–50.
- 132 梶田 治. 1967. 平倉演習林とその附近で採集した甲虫2種. ひらくら, 11(12): 95.
- 133 鎌苅哲二. 1982. 奈良県大台ヶ原山におけるクロソンホソハナカミキリの採集例. 月刊むし, 139: 30.
- 134 Kamiya, H. 1966. On the Coccinellidae attacking the scale insects and mites in Japan and the Ryukyus. Mushi, 39: 65–93.
- 135 神吉正雄・石川延寛. 2014. 関西でクロカタビロオサムシ大発生(1). 昆虫と自然, 49(19): (印刷中).
- 136 金井直樹・堀口 徹. 2005. クロモンマグソコガネの採集と生息状況. 鯉角通信, 10: 7–10.
- 137 蟹江 昇・横関秀行・生川展行. 1996. フタスジカタビロハナカミキリの採集例. ひらくら, 40(1): 13.
- 138 官能健次. 2003. 迷岳でホソクリタマムシを採集. ひらくら, 47(2): 32.
- 139 官能健次・生川展行. 1996. 鈴鹿山脈でヘリハネムシを採集. ひらくら, 40(5): 298.
- 140 加藤敦史・水野弘造・岩田隆太郎. 1995. 奈良県のカミキリムシ. 関西甲虫談話会資料, 10: 1–140.
- 141 粥見惇一. 1973. 中南勢の農耕地における昆虫の発生動向. 中南勢地域における昆虫生息状況に関する調査報告書, pp. 101–111. 三重県自然科学研究会, 津.
- 142 川原 誠. 1980. ヒメヨツスジハナカミキリを尾鷲市で採集. ひらくら, 24(5): 79–80.
- 143 川原 誠. 1980. 津市とその周辺のカミキリムシ (6). ひらくら, 24(5): 77–79.

- 144 川原 誠. 1982. 三重県未記録のカミキリムシ2種の羽脱例. ひらくら, 26(2): 31–32.
- 145 川原 誠・後藤 勇・中西元男. 1980. ひらくら採集会採集品. ひらくら, 24(1): 11–13.
- 146 川原 誠・大川親雄. 1981. 三重県のカミキリムシ. ひらくら, 25(1): 1–53.
- 147 川井信矢・掘 繁久・河原正和・稲垣政志. 2005. 日本産コガネムシ上科図説第1巻食糞群. 昆虫文献六本脚, 東京, 189 pp.
- 148 河路掛吾. 1980. セアカオサムシの採集一例. ひらくら, 24(5): 74–75.
- 149 河路掛吾. 1988. 石樽峠でオオチャイロハナムグリを採集. ひらくら, 32(3): 41.
- 150 河路掛吾. 1989. トゲフタオタマムシの羽脱記録. ひらくら, 33(3): 49.
- 151 河路掛吾. 1989. 石樽峠の枯れ枝より羽脱したカミキリムシ. ひらくら, 33(4): 56–59.
- 152 河路掛吾. 1991. 平倉採集会で得た材より羽脱したカミキリムシ. ひらくら, 35(2): 21–24.
- 153 川瀬英夫. 1992. カミキリムシ数種の採集記録. ひらくら, 36(5): 80–81.
- 154 川瀬英夫. 1994. チャマルチビヒョウタンゴミムシの採集記録. ひらくら, 38(5): 102.
- 155 川瀬英夫. 1996. スゲ類で得たヒメゾウムシ亜科2種の採集記録. ひらくら, 40(4): 278–279.
- 156 川瀬英夫. 1997. 熊野. 尾鷲市沿岸で採集したゾウムシ類. ひらくら, 41(4): 49–56.
- 157 川瀬英夫. 1998. 秋のヨシ原に多かった甲虫について. ひらくら, 42(5): 81.
- 158 川瀬英夫. 1998. 明神岳でオオクボカミキリを採集. ひらくら, 42(2): 33.
- 159 川瀬英夫. 2001. 1993年平倉採集会での昆虫3種. ひらくら, 45(5): 166.
- 160 木元達之助. 2004. クチキムシ亜科甲虫の分布記録. 甲虫ニュース, 145: 7–14.
- 161 近畿オサムシ研究グループ. 1979. 近畿地方のオサムシ. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第11集. 大阪自然史博物館, 大阪, 83 pp.
- 162 桐山 功. 2000. 三重県産ジョウカイボン科の記録. ひらくら, 44(1): 1–8.
- 163 岸井 尚. 2001. 三重県産コメツキムシの記録 (8) 横関秀行氏の蒐集資料について. ねじればね, 95: 9–12.
- 164 北山 昭・森 正人. 1992. マダラシマゲンゴロウの近年の採集例. 月刊むし, 255: 38.
- 165 小林裕和・藤岡昌介. 2008. 日本産チャイロコガネ属 (コフキコガネ亜科ピロウドコガネ族)について. *Kogane Supplement*, 2: 35–76.
- 166 小林伸郎. 1966. クロカタピロオサムシを津で採集. ひらくら, 10(11): 98.
- 167 窪木幹夫. 1984. イヨヒメハナカミキリ三重県下の記録. ひらくら, 28(2): 17.
- 168 窪木幹夫. 2000. 大台ヶ原山からオオミネヒメハナカミキリを採集. 甲虫ニュース, 129: 12.
- 169 久保田耕平. 1996. ホソハンミョウを鈴鹿市内で採集. ひらくら, 40(4): 280.
- 170 Kubota, K., Kubota, N., Akita, K., & Otohe, H. 2007. The easternmost record of *Figulus punctatus* (Coleoptera, Lucanidae) in Honshu and its host woody materials. *Biogeography*, 9: 77–82.
- 171 Kubota, K., Nagahata, Y., Ikeda, H., Kubota, N., Otohe, H. & Umetsu, K. 2011. Diversification process of stag beetles belonging to the genus *Platycerus Geoffroy* (Coleoptera: Lucanidae) in Japan based on nuclear and mitochondrial genes. *Entomological Science*, 14: 411–427.
- 172 Kubota, K., & Yahiro, K. 2003. Description of an isolated and specialized population of *Carabus arrowianus* (Breuning, 1934) (Coleoptera, Carabidae) discovered in the southernmost part of Mie Prefecture, Japan, as a new subspecies, with analyses of its morphological features. *Biogeography*, 5: 9–15.
- 173 工藤雄太. 2013. ず〜っと, 水の中でも大丈夫!? キボシチビコツブゲンゴロウのなぞ. 北九州市立いのちのたび博物館 特別展「世界の昆虫展」内 大微小種展 GUIDE BOOK. pp.60–61.
- 174 倉田 忠. 1969. 経ヶ峰オサ掘り報告. ひらくら, 13(6): 64.
- 175 倉田 忠. 1970. ミヤマダイコクコガネを野登山で採る. ひらくら, 14(10): 89.
- 176 Kurosawa, Y., 1963. Buprestid-fauna of eastern Asia, (Coleoptera)(5). *Bull. natn. Sci. Mus.*, 6(2): 90–111.
- 177 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著. 1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅲ), 保育社, 大阪, 500 pp.
- 178 草間慶一・高桑正敏・窪木幹夫・小宮次郎・榎原 寛・大林延夫. 1984. 日本鞘翅目学会(編) 日本産カミキリ大図鑑, 講談社, 東京, 565 pp.+96pl.
- 179 前川和則. 1981. 津市栗真海岸で得たオオヒョウタンゴミムシ. ひらくら, 25(2): 63.
- 180 榎原 寛ほか. 2004. ワシタカ類の巣で生活するアカマダラハナムグリ. 甲虫ニュース, 148: 21–23.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 181 蒔田実造. 1997. 湯ノ山のムナコブハナカミキリ. ひらくら, 41(5): 79.
- 182 蒔田実造. 1999. 美杉村でオオキノコムシを採集. ひらくら, 43(1): 8.
- 183 蒔田実造・生川展行. 1983. セアカオサムシの新産地. ひらくら, 27(4): 70-71.
- 184 的場孝郎. 1956. 三重県における珍しい甲虫二種. 日本昆虫学会東海支部ニュース, 5: 6.
- 185 的場孝郎. 1960. 阿漕浦海岸の甲虫(鞘翅目) I. ひらくら, 4(1): 34
- 186 的場孝郎. 1960. 三重県産のシデムシ科甲虫. ひらくら, 4(8): 56-58.
- 187 的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・市橋 甫. 1959. 飯南郡森村付近のクワガタムシ・コガネムシ. ひらくら, 3(3): 31-32.
- 188 的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・市橋 甫. 1959. 飯南郡森村付近の飽食亜目甲虫類. ひらくら, 3(4): 41-43.
- 189 的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・市橋 甫. 1959. 飯南郡森村付近の甲虫類(六). ひらくら, 3(8/9): 91-99.
- 190 松井弘見. 1984. セアカオサムシの一記録. ひらくら, 28(1): 7.
- 191 松井弘見. 1984. アイヌハンミョウの採集記録. ひらくら, 28(5): 75-76.
- 192 松井弘見. 1984. アオヘリアオゴミムシ津市の記録. ひらくら, 28(5): 76.
- 193 松井弘見. 1984. シラフチビサビキコリを津市で記録. ひらくら, 28(5): 77-78.
- 194 松井弘見. 1984. 津市長谷山のコガネムシの記録2題. ひらくら, 28(1): 7.
- 195 松井弘見. 1984. 四日市のゴミムシ科甲虫若干の記録. 四日市の昆虫, 1(3): 21.
- 196 三重県. 2001. 中勢沿岸下水道(志登茂川処理区)浄化センター設置に伴うカワラハンミョウ(幼虫)生息場所調査報告書.
- 197 三重県. 2014. 中勢沿岸下水道(志登茂川処理区)浄化センター設置に伴う工事中における事後調査報告書.
- 198 三重自然誌の会編. 1995. 自然のレッドデータブック・三重. 三重県教育文化研究所, 津, 183 pp.
- 199 南 敏行. 2014. 伊賀市岡波でクロカタビロオサムシを採集. ひらくら, 58(1): 18.
- 200 水田國雄. 2002. キマダラマグソコガネ三重県大台町で採集される. 鯉角通信, 5: 22.
- 201 森 正人・北山 昭. 1993. 図説 日本のゲンゴロウ. 文一総合出版社, 東京, 217 pp.
- 202 森 正人・北山 昭. 2002. 改訂版図説日本のゲンゴロウ, 文一総合出版, 東京, 223 pp.
- 203 Morimoto, K. 1962. Revision of the Subfamily Curculionidae from Japan II (Coleoptera). *Mushi*, 36(4): 21-39 + pl. 6.
- 204 Morimoto K, H. Kojima & S. Miyakawa. 2006. *The Insects of Japan 3*. 日本昆虫学会, 406pp.
- 205 森田誠司. 1975. ウミホソチビゴミムシの新産地. 甲虫ニュース, 29/30: 5.
- 206 Morita, S. 1989. A new *Apatrobus* (Coleoptera, Carabidae) from the Suzuka Mountain Range. Central Japan. *Elytra*, Tokyo, 17(2): 143-146.
- 207 Morita, S. 2004. A New *Pterostichus* (Coleoptera, Carabidae) from the Suzuka Mountains. Central Japan. *Elytra*, Tokyo, 32(1): 29-33.
- 208 村木武則. 1992. 各種甲虫類の記録. ひらくら, 36(1): 14.
- 209 Nagata, N., Kubota, K., Takami, Y. & Sota, T. 2009. Historical divergence of mechanical isolation agents in the ground beetle *Carabus arrowianus* as revealed by phylogeographic analyses. *Molecular Ecology*, 18: 1408-1421.
- 210 Nakane, T. 1956. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XIII. *Sic. Rep. Saikyo Univ. (Nat. Sic. & Liv. Sic.)*, 2(3): 29-44.
- 211 中根猛彦. 1985. 日本産ヒメコガシラミズムシ属の種の再検討. 北九州の昆蟲, 32(2): 61-67.
- 212 Nakane, T. 1963. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XX. *Fragm. Coleopt.*, 8: 31-40.
- 213 Nakane, T. 1969. Lycidae. In *Fauna Japonica*, pp. 1-224, Pl.8.
- 214 中根敏勝・石田昇三. 1958. 平倉演習林採集記. ひらくら, 2(21): 107-108.
- 215 Nakane, T. & Ohbayashi, K. 1949. Description of a new species of the genus *Lucidina* from Japan (Coleoptera, Lampyridae). *Entom. Rev. Japan*. 1(2): 34-35.
- 216 中西智恵美. 1985. セアカオサムシ・エゾカタビロオサムシを北勢町で採集. ひらくら, 29(6): 86.
- 217 中野 東. 1965. 赤目甲虫採集目録. ひらくら, 9(11): 143-149.

- 218 中谷和夫. 1959. カミキリ数種の採集記録. ひらくら, 3(8/9): 100.
- 219 中谷和夫. 1959. 平倉演習林採集記録(其の二). ひらくら, 3(10/11): 128-141
- 220 中谷和夫. 1960. クロサワヒメコバネカミキリ平倉に産す. ひらくら, 4(9): 63-64
- 221 中谷和夫. 1961. 平倉演習林で新しく確認した鞘翅目. ひらくら, 5(1): 1-4.
- 222 生川展行. 1981. ヒサゴゴミムシダマシ鈴鹿山脈に産す. ひらくら, 25(6): 108.
- 223 生川展行. 1982. 鈴鹿市千代崎海岸の甲虫. ひらくら, 26(5): 57-60.
- 224 生川展行. 1983. 三重県から未記録のゴミムシダマシ. ひらくら, 27(1): 11.
- 225 生川展行. 1986. 三重県未記録のタケウチヒゲナガコバネカミキリを採集. ひらくら,
- 226 生川展行. 1987. 三重県内で得たオオキノコムシの記録. ひらくら, 31(1): 8-11.
- 227 生川展行. 1987. 紀伊長島町で得られた注目すべき甲虫2種. ひらくら, 31(5): 78-80.
- 228 生川展行. 1988. 三重県のテントウダマシ科(主に文献記録のまとめ). ひらくら, 32(2): 17-24.
- 229 生川展行. 1990. 鈴鹿山脈北部で得た食糞コガネ. ひらくら, 34(4): 64-65.
- 230 生川展行. 1992. 大川親雄氏採集のアリモドキ・ニセクビボソムシ. ひらくら, 36(5): 79-80.
- 231 生川展行. 1993. 三重県のゴミムシダマシ(主に文献記録のまとめ). ひらくら, 37(3): 35-61.
- 232 生川展行. 1995. 三重県初記録のルリキオビジョウカイモドキ. ひらくら, 39(5): 73.
- 233 生川展行. 1995. 1993年~1994年に採集した興味深い甲虫. ひらくら, 39(6): 85-88.
- 234 生川展行. 1997. アバタツヤナガヒラタホソカタムシを三重県で採集. ねじればね, 76: 4-5.
- 235 生川展行. 1997. アリモドキ科2種の記録. ひらくら, 41(6): 90.
- 236 生川展行. 2000. アバタツヤナガヒラタホソカタムシの採集記録. ねじればね, 86: 7-8.
- 237 生川展行. 2000. ホソカタムシの記録若干. 北九州の昆虫, 47(1): 4, pl. 2.
- 238 生川展行. 2000. 興味深い甲虫3種の記録. ひらくら, 44(3): 45.
- 239 生川展行. 2001. 明神岳で得られた興味深い甲虫2種. ねじればね, 96: 15.
- 240 Narukawa, N.. 2002. A new species of the genus *Antibothrus* (Coleoptera: Bothrideridae) from Japan. *Ent. Rev. Japan*, 57(2): 123-126.
- 241 生川展行. 2002. 興味深い海浜性アリモドキ3種の記録. ひらくら, 46(5): 88.
- 242 生川展行. 2002. 三重県南亦山で採集したヒラタムシ上科(1). 北九州の昆虫, 49(2): 97-102.
- 243 生川展行. 2003. 総門山で得たヒラタムシ上科若干. ひらくら, 47(6): 97-99.
- 244 生川展行. 2004. 三重県のヒラタムシ上科の記録若干(1). ひらくら, 48(3): 43-46.
- 245 生川展行. 2004. 桧塚奥峰でオオダイルリヒラタコメツキを採集. ひらくら, 48(5): 70.
- 246 生川展行. 2004. 菰野町庵座谷で採集した甲虫若干. ひらくら, 48(5): 77-78.
- 247 生川展行. 2005. 三重県版暫定レッドリスト掲載種の甲虫類の記録(1). ひらくら, 49(1): 14-15.
- 248 生川展行. 2005. 三重県版暫定レッドリスト掲載種の甲虫類の記録(2). ひらくら, 49(4): 61-62.
- 249 生川展行. 2005. 三重県版暫定レッドリスト掲載種の甲虫類の記録(3). ひらくら, 49(6): 95-96.
- 250 生川展行. 2005. 迷岳で採集したオオキノコムシ. ひらくら, 49(5): 76-78.
- 251 生川展行. 2007. 四日市市のキバネキバナガミズギワゴミムシ. ひらくら, 51(5): 79.
- 252 生川展行. 2008. 鈴鹿市の海岸で採集した甲虫. ひらくら, 52(4): 56-60
- 253 生川展行. 2011. 2009~2010年に採集したホソカタムシ. ひらくら, 55(3): 65-66.
- 254 生川展行. 2012. イチハシホソカタムシの追加記録. ひらくら, 56(1): 24.
- 255 生川展行・秋田勝己・市橋 甫・今村隆一・久保田耕平・島地岩根. 1989. 平倉演習林の甲虫. ひらくら, 33(6): 88-141.
- 256 生川展行・秋田勝己・市橋 甫・今村隆一・久保田耕平・島地岩根. 1990. 平倉演習林の甲虫II. ひらくら, 34(2): 19-23.
- 257 生川展行・天春明吉・今村隆一・市橋 甫・久保田耕平・松井弘見・前川和則・山崎浩一. 1984. 比奈知地域(三重県名張市)の甲虫相. 比奈知ダム周辺昆虫類調査報告書, pp. 137-191. 三重県昆虫談話会, 津.
- 258 生川展行・市橋 甫・天春明吉・市川 太・稲垣政志・官能健次・前川和則・横関秀行. 2006. 熊野灘沿岸照葉樹林の甲虫類. 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫(三重県昆虫談話会 編), pp.63-187. 三重県昆虫談話会, 津.
- 259 生川展行・市橋 甫・天春明吉・横関秀行. 2001. 四日市市曾井町の甲虫. 三重のむし, 5(2): 29-49.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 260 生川展行・市橋 甫・横関秀行・天春明吉・稲垣政志・前川和則・村木武則・官能健次・市川 太・久保田耕平・稲垣順子. 2008. 第7節 鈴鹿市のコウチュウ目. 鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書一, pp. 525–691. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
- 261 生川展行・市橋甫・横関秀行・官能健次・稲垣政志・稲垣順子・天春明吉・市川太. 2011. 亀山市のコウチュウ目. 亀山市史 自然編, pp. 821–941. 亀山市, 亀山.
- 262 生川展行・市岡孝朗. 1984. コブスジコガネ科甲虫2種の記録. ひらくら, 28(1): 9.
- 263 生川展行・河北 均・天春明吉. 1984. 三重県のコガネムシ主科11種の分布記録. ひらくら, 28(4): 49–52.
- 264 生川展行・川瀬英夫. 1994. 三重県未記録のゴミムシダマシ3種の記録. ひらくら, 38(2): 25.
- 265 生川展行・村木武則・若林成和. 1985. 大台ヶ原で採集した甲虫. ひらくら, 29(6): 88–90.
- 266 生川展行・中山 惇. 2006. 志摩市で採集した注目すべき甲虫. ひらくら, 50(6): 93–95.
- 267 生川展行・中山 惇・岡 由佳理. 2007. 志摩半島のイソジョウカイモドキ. ひらくら, 51(3): 40.
- 268 生川展行・中山 惇・岡 由佳理・横関秀行・稲垣政志・官能健次・市川 太. 2011. 志摩半島の甲虫. 志摩半島の昆虫(生川展行 編), pp. 66–195. 三重昆虫談話会, 津.
- 269 生川展行・岡 由佳理. 2007. 志摩市でニセماغソコガネダマシを採集. ひらくら, 51(3): 41–42.
- 270 生川展行・乙部 宏. 1987. 多気郡宮川村父ヶ谷で得た甲虫. ひらくら, 31(2): 19–30.
- 271 生川展行・乙部 宏・今村隆一. 1989. 宮川村狸峠で得た甲虫. ひらくら, 33(2): 17–28.
- 272 生川展行・乙部 宏・篠木善重. 2012. 津市自然ガイドブックの調査で得られた甲虫. 三重自然誌, 13: 76–86.
- 273 生川展行・尾崎美香. 2009. 鈴鹿市磯山海岸でクロオビホソアリモドキを採集. ひらくら, 53(2): 83.
- 274 生川展行・山崎浩一. 1982. セアカオサムシを採集. ひらくら, 26(1): 8.
- 275 生川展行・山崎浩一・市岡孝郎. 1982. オオヒョウタンゴミムシを鼓ヶ浦海岸で採集. ひらくら, 26(6): 90.
- 276 成瀬善一郎. 1957. 雲出川上流下瀬戸橋附近の水棲甲虫. ひらくら, 11: 5.
- 277 成瀬善一郎. 1958. 員弁川の水棲甲虫. ひらくら, 19: 84.
- 278 成瀬善一郎. 1958. 栗の花にて採集せる甲虫類(三重県美杉村にて). 佳香蝶, 10(35): 28–53.
- 279 成瀬善一郎. 1958. 尾平山にマダラシマゲンゴロウ. ひらくら, 2(13): 15.
- 280 成瀬善一郎. 1959. 津阿漕浦海岸で採集したゲンゴロウ2種. ひらくら, 3(3): 38.
- 281 成瀬善一郎. 1960. 雨の員弁川採集報告. ひらくら4(1/2)(37/38): 6.
- 282 成瀬善一郎. 1960. 湯の山でキボシツブゲンゴロウを採集. ひらくら, 4(7): 48.
- 283 成瀬善一郎. 1962. キボシケンゲンゴロウの斑紋の変化について. ひらくら, 6(1): 6.
- 284 新美宣之. 1979. 松阪市におけるたまむし科の記録. ひらくら, 23(6): 87–89.
- 285 西川正明. 2014. シデムシ科. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(3)(初宿成彦 編), pp.5–46. 大阪自然史博物館, 大阪.
- 286 Nishikawa, M., Ikeda, H., Kubota, K., & Sota T. 2010. Taxonomic redifinition and natural history of the endemic silphic beetle *Silpha longicornis* (Coleoptera, Silphidae) of Japan, with an analysis of its geographic variation. *Zootaxa*, 2648: 1–31.
- 287 西村照雄. 1975. 多気郡宮川村のフン虫. ひらくら, 19(4): 61.
- 288 新田涼平・吉富博之. 2012. 日本産ゴマフガムシ属(コウチュウ目, ガムシ科)の分類学的再検討. さやばねニューシリーズ(7): 18–31.
- 289 野尻湖昆虫グループ. 1979. アトラス日本のネクイハムシ. 野尻湖昆虫グループ, 大阪, 182 pp.
- 290 Ochi, T., Kawahara, M. & Inagaki, M. 2011. Taxonomic notes on some Japanese corprophagous lamellicorn beetles (Coleoptera, Scarabaeoidea) VIII. Description of a new species of the genus *Psammodyus* and a new species of the genus *Trichiorhyssenus* (Aphodiidae) from Tanegashima Is., Southwest Japan. *Kogane*, Tokyo, 12: 69–77.
- 291 大林延夫・佐藤正孝・小島圭三. 1992. 日本産カミキリムシ検索図説. 東海大学出版会. 東京, 695 pp.
- 292 大鐘裕道・福富宏和. 2002. アカガネエグリタマムシを鳥羽市で採集. ひらくら, 46(5): 84.
- 293 大平仁夫・市橋 甫. 1975. 三重県のコメツキムシ2. 市橋甫採集のコメツキムシ標本. ひらくら, 19(6): 87–101.
- 294 大平仁夫・市橋 甫. 1999. 三重県産コメツキムシ類の分布資料. ひらくら, 43(4): 51–66.

- 295 大平仁夫・川瀬英夫. 1995. 三重県のコメツキムシの記録3. ひらくら, 39(5): 67-73.
- 296 大平仁夫・大川親雄・的場孝郎. 1976. 三重県のコメツキムシ3. 大川親雄. 的場孝郎所蔵のコメツキムシ科標本. ひらくら, 20(1): 1-13.
- 297 大平仁夫・島地岩根. 1975. 三重県のコメツキムシ1. 平倉演習林で灯火に飛来したコメツキムシ. ひらくら, 19(4): 44-53.
- 298 大川親雄. 1955. 三重県産鞘翅目について. 日本昆虫学会東海支部ニュース. (2): 8-9.
- 299 大川親雄. 1959. 矢頭山採集記. ひらくら, 3(8/9): 113-114.
- 300 大川親雄. 1960. 志摩病院の甲虫. ひらくら, 4(3): 13-18.
- 301 大川親雄. 1960. マグラシマゲンゴロウの新産地. ひらくら, 4(7): 48.
- 302 大川親雄. 1961. 大杉谷採集記. ひらくら, 5(11): 91-92.
- 303 大川親雄. 1965. カワラハンミョウ三重県に産す. ひらくら, 9(3): 24.
- 304 大川親雄. 1973. 戦災前後電灯に飛来した鞘翅目について. ひらくら, 17(8): 59-72.
- 305 大町文衛・山下善平・市橋甫・石田昇三・北川賢澄・的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・大川親雄・山本祐嗣. 1959. 熊野灘沿岸地方の昆虫. 熊野灘沿岸国立公園地域拡張調査, pp.189-236. 三重県. 津.
- 306 大町文衛・山下善平・市橋甫・成瀬善一郎. 1960. 平倉演習林の昆虫相. 第1報鞘翅目. 三重大学農学部演習林報告, 4: 1-32.
- 307 岡由香理・生川展行. 2008. 志摩半島周辺の海岸で採集した甲虫. ひらくら, 52(1): 1-11.
- 308 岡田昌悦. 1982. "三重県のカミキリムシ"に未発表のカミキリムシの産地について. ひらくら, 26(3): 33-38.
- 309 乙部 宏. 1984. 鈴鹿郡のヤマトオサムシダマン. ひらくら, 28(1): 8.
- 310 乙部 宏. 1984. 南勢町のゲンゴロウ. ひらくら, 28(1): 14.
- 311 乙部 宏. 1985. 三重県でツヤハダクワガタを採集. ひらくら, 29(6): 83.
- 312 乙部 宏. 1988. 国見山の灯火採集で得られた甲虫若干 ひらくら, 32(1): 13.
- 313 乙部 宏. 1990. 御池岳のヘリトゲコブスジコガネ. ひらくら, 34(2): 33.
- 314 乙部 宏. 1991. 青山町でガガブタネクイハムシを採集. ひらくら, 35(2): 24.
- 315 乙部 宏. 1992. 国見山のヨコヤマヒゲナガカミキリ. ひらくら, 36(6): 98.
- 316 乙部 宏. 1994. 三重県のマルコガタノゲンゴロウ. 月刊むし, (282): 35.
- 317 乙部 宏. 1995. カワラハンミョウ. 自然のレッドデータブック・三重 (三重自然誌の会 編), p. 107. 三重県教育文化研究所, 津.
- 318 乙部 宏. 1995. 三重県のカワラハンミョウ. ひらくら, 39(1): 12.
- 319 乙部 宏. 1996. 野登山のアイヌコブスジコガネ. ひらくら, 40(6): 307.
- 320 乙部 宏. 1997. 阿山町のヤマトエンマコガネ. ひらくら, 41(1): 8.
- 321 乙部 宏. 1999. 古ヶ丸山のクワガタムシ. ひらくら, 43(6): 88.
- 322 乙部 宏. 2000. ネクイハムシ3種の記録. ひらくら, 44(3): 43.
- 323 乙部 宏. 2000. 志摩半島のシロヘリハンミョウ. ひらくら, 44(4): 58.
- 324 乙部 宏. 2001. 青山高原のマルツヤマグソコガネ. ひらくら, 45(1): 9.
- 325 乙部 宏. 2001. 上野市のアイヌハンミョウ. ひらくら, 45(2): 26-27.
- 326 乙部 宏. 2002. 雲出川河川敷における甲虫の記録若干. ひらくら, 46(6): 101.
- 327 乙部 宏. 2002. 宮川村のヒゲジロホソコバネカミキリ, ひらくら, 46(6): 103.
- 328 乙部 宏. 2003. 紀和町のカラカネナカボソタムシ. ひらくら, 47(1): 15.
- 329 乙部 宏. 2003. 三重県大台町におけるキマダラマグソコガネの追加記録. 鯉角通信, 6: 43.
- 330 乙部 宏. 2004. 河芸町のカワラハンミョウ. ひらくら, 48(6): 95.
- 331 乙部 宏. 2004. 大内山村のヨコヤマヒゲナガカミキリ. ひらくら, 48(6): 96.
- 332 乙部 宏. 2005. 美里村のカツラネクイハムシ. ひらくら, 49(1): 13.
- 333 乙部 宏. 2005. 津市のアオヘリアオゴミムシ. ひらくら, 49(1): 15.
- 334 乙部 宏. 2006. 熊野川河川敷で得られたコガネムシ類. ひらくら, 50(5): 79.
- 335 乙部 宏. 2006. 三重県でセラネクハムシを発見. 月刊むし, 430: 4-5.
- 336 乙部 宏. 2010. 津市のダイミョウアトキリゴミムシ. ひらくら, 54(5): 88.
- 337 乙部 宏. 2011. 櫛田川上流域のヒゲジロホソコバネカミキリ, ひらくら, 55(3): 68-69.
- 338 乙部 宏・中西元男. 1999. 宮川村のムツコブスジコガネ. ひらくら, 43(1): 9

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 339 乙部 宏・生川展行. 1984. ヤマトオサムシダマシの新産地. ひらくら, 28(1): 8.
- 340 乙部 宏・岡村 純. 1990. 名張市のクロマダラタマムシ. ひらくら, 34(2): 33.
- 341 乙部 宏・城殿 浩. 2002. 迷岳のルリクワガタ属. ひらくら, 46(2): 32.
- 342 Saitô, M. 1994. A revisional study of the Japanese species of the family Ischaliidae (Coleoptera, Heteromera). *Elytra*, Tokyo, 22(2): 335–343.
- 343 斉藤昌弘・生川展行. 1986. 三重県内で得られた注目すべき甲虫. ひらくら, 30(2): 36–37.
- 344 桜谷鎮雄. 1975. 伊勢神宮林の甲虫類. *Hirakura*, 19(1): 2–14.
- 345 桜谷鎮雄・宗林正人. 1983. クビアカモモブトカミキリの採集記録. ひらくら, 27(3): 50–51.
- 346 Sasaji, H. 1997. A new species of the genus *Antibothrus* (Coleoptera, Bothrideridae) from Japan, with notes on the Japanese Bothrideridae. *Esakia*, 37: 111–116.
- 347 佐藤正孝. 1957. *Neptosternus nipponensis* Kamiya の新産地. ひらくら, 8: 5–6.
- 348 Satô, M. 1972. The georissid beetles of Japan. *J. Nagoya Womens Coll.*, 18: 207–213.
- 349 Satô, M. 1976. New Cantharidae from Japan. *Trans. Shikoku Ent. Soc.*, 13: 53.
- 350 佐藤正孝. 1978. 日本産ホソガムシ科概説. 甲虫ニュース, 40: 1–3.
- 351 佐藤正孝. 1981. 日本産マルドロムシ科概説. 甲虫ニュース, 53: 1–4.
- 352 佐藤真矢. 1993. 亀山市におけるゲンゴロウ類の記録. ひらくら, 37(6): 101.
- 353 Satô, M. & Yoshitomi, H. 2004. Discovery of a second representative of the genus *Horelophopsis* (Coleoptera, Hydrophilidae) from the Ryukyu Archipelago, Japan. *Elytra*, Tokyo, 32:41–49.
- 354 佐藤正孝・吉富博之. 2005. 日本産水棲昆虫の分類学的覚え書きIV. 甲虫ニュース, 151:1–6.
- 355 島地岩根. 1963. 平倉演習林の昆虫記録(2) 1963年の甲虫採集記録. ひらくら, 7(12): 93–96.
- 356 島地岩根. 1974. 台高山脈北部および奥香肌峡の鞘翅目昆虫相. 三重県立博物館自然科学調査報告, 5: 72–94.
- 357 島地岩根. 1980. 伊勢神宮境内地の鞘翅目相. 神宮境内地昆虫調査報告書, pp.349–411. 神宮司庁, 伊勢.
- 358 島地岩根・富田靖男. 1988. 紀和町とその周辺の鞘翅目昆虫相. ひらくら, 32(5): 65–83.
- 359 島地岩根・富田靖男・倉田 忠・小川隆之・山下善平・石田昇三・大川親雄・後藤 勇・石田勝義. 1996. 上野市友生地区の昆虫相, pp. 1–40. 三重県自然科学研究会.
- 360 篠木善重・尾崎美香・田中晃詞・辻 尚道・生川展行. 2012. 鈴鹿市西部鈴鹿山脈の甲虫. 重要生態系地域の自然環境調査報告書, pp. 41–94. 鈴鹿市.
- 361 初宿成彦. 2011. ゲンゴロウ上科. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(3) (初宿成彦 編), pp. 3–28. 大阪自然史博物館, 大阪.
- 362 初宿成彦・安井通宏・高橋 徹・水野弘造. 2012. ゴミムシ類, カミキリムシ科ヒメハナカミキリ属, ハムシ科. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(2), 大阪自然史博物館, 大阪, 372 pp.
- 363 杉浦真治・大築正弘. 1993. 近畿地方でエゾコガムシを発見. 月刊むし, 265: 36–37.
- 364 Takahashi, K. 2003. A revision of the Japanese genus *Yukikoa* (Coleoptera, Cantharidae) with reference to the systematic position and speciation. *Jpn. J. syst. Ent.*, 9(1): 81–100.
- 365 Takahashi, K., 2012. A Taxinomic Study on The Genus *Asiopodabrus* (Coleoptera, Cantharidae) of Japan. *Japanese Journal of Systematic Entomology Monographic Series* (4). 359 pp.
- 366 高井 泰・青木哲郎. 2005. 岐阜県産チャイロコガネ2種の記録. 月刊むし, 413: 47.
- 367 田中茂三郎(1940) 伊賀「主として赤目, 香落付近」における比較的珍しき昆虫. 三重博物, 3: 40–55.
- 368 谷口真理. 2013. 三重県津市美杉町で発見したゲンゴロウ. 自然誌だより, 96: 8.
- 369 天満智憲. 2001. 須賀利大池・小池周辺の昆虫. 平成13年度「地域で守りたい自然」動植物調査結果
- 370 富田靖男. 1966. 答志島における昆虫夜間採集品目録 (答志島総合調査・昆虫関係報告). ひらくら, 10(2): 13–18.
- 371 富田靖男. 1977. 松阪の動物. 松阪市史 第1巻 資料編, p. 540. 松阪市, 松阪.
- 372 富田靖男・市橋 甫. 1973. 紀伊長島町臨海地域および島嶼の昆虫相. pp. 1–101.
- 373 富田靖男・島地岩根・中西元男. 1973. 中勢地区の里山昆虫相—岩内, 観音岳, 堀坂山および阿坂周辺地域について— 中勢地区における昆虫生息状況に関する調査報告書.
- 374 富田靖男・富田 傑. 2001. 第1編勢和の自然環境, 第3章勢和の動物. 勢和村史, pp. 54–177. 勢和村, 勢和.

- 375 辻 尚道. 2008. 菰野町でルリキオビジョウカイモドキを採集. ひらくら, 52(4): 62.
- 376 辻 尚道. 2008. 津市白塚海岸でマルエンマコガネを採集. ひらくら, 52(6): 97.
- 377 塚本珪一. 2003. 日本フン虫誌 (1) ヤマトエンマコガネ. 鯉角通信, 4: 1-4.
- 378 塚本珪一. 2003. 日本列島フン虫記. 青土社, 東京, 225 pp.
- 379 塚本珪一・稲垣政志・河原正和・森正人. 2009. ふんコロ昆虫記. トンボ出版, 大阪, 176 pp.
- 380 塚本珪一・井上宗二・岸井 尚. 1960. (15) 三重県神島及び愛知県三河湾内の諸小島嶼の昆虫類に就いて. 日本列島周辺の小島嶼の生物地理学的研究・第2報 三重県(志摩国)神島及び愛知県(三河国)渥美湾の小島嶼群. 平安学園研究会, 4: 77-83.
- 381 Uéno, S.-I., 1954. Studies on the Japanese Trechinae (II) (Coleoptera, Harpalidae). Mem. Coll. Sei. Univ. Kyoto. (B), 21(1): 29-37.
- 382 Uéno, S.-I., 1955. New cave dwelling Anchomenids of Japan. Opusc. Ent. Lund, 20: 56-64. pl.1.
- 383 Uéno, S.-I., 1959. New cave trechids from the eastern foot of Suzuka Mountain Renge, Japan. Mem. Coll. Sei. Univ. Kyoto, (B), 26(3): 93-134. 299-304.
- 384 Uéno, S.-I., 1979. New Cave-dwelling Trechine Beetles from the Eastern Part of the Kii Peninsula. Central Japan. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, (A), 5: 115-126.
- 385 Uéno, S.-I., 1980. The Anophthalmic Trechine Beetles of the Groep *Trechiana ohshimai*. Bull. Natn. Sci. Mus., Tokyo, (A), 6: 195-275.
- 386 上野市法花湿地昆虫調査班. 1995. 上野市法花湿地の昆虫類. 三重自然誌, 2: 25-37.
- 387 和田隆史. 1996. 電灯火に飛来する昆虫類の消長. 三重自然誌, 3: 31-38.
- 388 山田充哉・北井誠也・石橋 亮. 2012. 三重県鳥羽市におけるコガタノゲンゴロウの採集記録. 月刊むし, 493: 46.
- 389 山下善平・大川親雄・石田昇三・成瀬善一郎・村井俊郎・佐藤正孝. 1965. 伊勢志摩国立公園の昆虫 1. 英虞湾周辺の昆虫. 伊勢志摩国立公園自然科学調査書, pp. 1-19. 三重県, 津.
- 390 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋 甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦 誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, pp. 119-288. 24pls. 三重県自然科学研究会, 津.
- 391 山下善平・大川親雄・島地岩根・市橋 甫・村井俊郎・橋本理市・富田靖男・坂部元宏・中西元男・倉田 忠. 1972. 大杉谷および大台ヶ原の昆虫相ならびに樹上のクモ類相. 大杉谷・大台ヶ原自然科学調査報告書, pp. 195-285. 9pls. 三重県自然科学研究会.
- 392 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田 忠・大川親雄・石田昇三・後藤 勇. 1976. 上野市南部丘陵地域の昆虫相. 上野市南部都市開発に伴う自然環境調査及び影響評価報告書, pp.189-301. 上野市, 上野.
- 393 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田 忠・大川親雄・坂部元宏・大久保憲秀・杉山 章・中西万年. 1975. 父ヶ谷地域の昆虫相. 宮川揚水発電計画に伴う父ヶ谷自然地域環境調査報告書, pp. 231-326. 三重県自然科学研究会, 津.
- 394 四日市市教育委員会. 1983. 国指定天然記念物 御池沼沢植物群落環境整備事業報告書. 四日市市教育委員会, 四日市市, 264 pp.
- 395 横関秀行. 2001. 2月に採集されたセダカテントウダマシ. ひらくら, 45(2): 25.
- 396 横関秀行. 2012. 菰野町田光の甲虫. 三重自然誌, 13: 140-142.
- 397 横関秀行. 2013. 大台町(旧宮川村)の甲虫. ひらくら, 57(1): 1-8.
- 398 横関秀行・市橋 甫・天春明吉. 2012. 第5章昆虫類第4節コウチュウ目. 国指定天然記念物「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」自然科学調査報告書(田光のシデコブシ及び湿地植物群落調査報告書編集委員・菰野町教育委員会編), pp. 253-287. 菰野町教育委員会, 菰野.
- 399 横関秀行・市川 太. 1997. ヘリハネムシの採集記録. ひらくら, 41(6): 90.
- 400 横関秀行・今村隆一. 2012. 鳥羽市神島の甲虫. 三重自然誌, 13: 34-35.
- 401 吉田信代・山下伸夫・岩佐光啓・渡邊彰. 2004. 駆虫剤を投与した牛の糞は糞虫を誘引するとともに幼虫生存率を低下させる. 東北農業研究成果情報, 18: 376-377.
- 402 Yoshihara & Morimoto. 1994. A Revision of the Baridinae Weevils of the Genus *Limnobaris* Bedel (Coleoptera, Curculionidae) from Japan and Neighbouring Countries. Jpn. J. Ent, 62(3): 445-456.
- 403 吉富博之ほか. 2001. レッドデータ水生甲虫類の分布記録 I エゾコガムシの分布記録のまとめ. 甲虫ニュース, 135: 7-9.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 404 市橋 甫. 1976. 三重県から採集した珍しい甲虫3種. ひらくら, 20(5): 75–76.
- 405 河上康子. 2003. 三重県橿田川河口における甲虫相調査. *Natur Study*, 49(12): 9–10.
- 406 川瀬英夫. 1991. 平倉でオオホソコバナカミキリを採集. ひらくら, 35(1): 13.
- 407 川瀬英夫. 1994. 海山町で採集したテントウムシ2種について. ひらくら, 38(3): 45.
- 408 高橋 徹. 2011. ゴミムシダマシ科. 大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(I), pp. 29–102. 大阪市立自然史博物館, 大阪.
- 409 横関秀行. 2001. クロスジイッカクの新産地. ひらくら, 45(5): 165.
- 410 高橋 徹・春沢圭太郎. 2014. コガネムシ上科: 食糞群. 大阪自然史博物館所蔵甲虫目録(3), pp. 47–100. 大阪自然史博物館, 大阪.
- 411 市橋 甫. 1958. 燈火に飛来するAphodius属数種. ひらくら, 2(20): 93–94.
- 412 島地岩根. 1980. 伊勢神宮境内地の鞘翅目相. 伊勢神宮境内地昆虫調査報告書, pp.125–411. 神宮司庁, 伊勢.
- 413 辻 尚道・稲垣政志. 2024. シャクダイジンメクラチビゴミムシの現状の生息記録. ひらくら68(1): 9–10.
- 414 Morita S. & Inagaki M. 2023. Notes on the Species of the Carabidae (Coleoptera) from Japan VII. A New Species of the Genus *Jujiroa* S. Ueno Ise District, Mie Prefecture, Central Part of Honshu. *Japanese Journal of Systematic Entomology*, 29(2): 288–296.
- 415 稲垣政志. 2002. オビマグソコガネを再発見. ひらくら, 46(6): 103.
- 416 稲垣政志. 2002. FITに落ちた鈴鹿山脈の糞虫～1年間の経時的調査結果～. 鯉角通信, (5): 29–34.
- 417 Ochi T. Kawahara M. Inagaki M. 2019. Four new Psammodiini species from Japan (Coleoptera, Scarabaeidae). *Kogane* (22): 25–34.
- 418 稲垣政志・横関秀行. 2021. コバヤシチャイロコガネを三重県尾鷲市で採集. 鯉角通信, (42): 69.
- 419 野村 鎮. 1976. 日本産ピロウドコガネ族について(その2). 桐朋学園, (26): 167–205.
- 420 稲垣政志. 2022. 記載以来三重県2例目となるホソチャイロコガネ. ひらくら, 66(3): 57.
- 421 市橋 甫. 1976. 三重県およびその周辺の石灰洞穴の昆虫類についてIV洞穴から採集されたゴミムシ類について. ひらくら, 20(2): 30–36.
- 422 Uéno S & Okuda Y. 2002. Two new upper hypogean species of the Genus *Kusumia* (Coleoptera, Trechinae). *Journal of the speleological society of Japan*, (27): 33–41.
- 423 稲垣政志・乙部 宏. 2002. 伊勢市と紀勢町でネグロマグソコガネを採集. ひらくら, 46(5): 86.
- 424 池田正清. 2004. 安芸郡芸濃町でネグロマグソコガネを採集. ひらくら, 48(5): 76–77.
- 425 生川展行・市橋 甫・横関秀行・官能健次・稲垣政志・天春明吉・市川 太・前川和則・島地岩根・稲垣順子. 2016. 甲虫類. 神宮宮域動物調査報告書, pp.45–147. 磯野出版, 度会郡.
- 426 Ochi, T., Kawahara, M. & Inagaki, M. 2006. Taxonomic notes on some Japanese Coprophagous Lamellicorn beetles (Coleoptera, Scarabaeoidea) VI. Descriptions of three new taxa. *Japanese Society of Systematic Entomology*, 12(1): 141–147.
- 427 生川展行・稲垣政志・官能健次・横関秀行. 2021. 伊勢湾岸地域の甲虫. 伊賀盆地北部及び伊勢湾岸地域の昆虫, pp.166–185. 三重昆虫談話会, 津.
- 428 辻 尚道. 2009. 堤ヶ浦海岸のハバビロコケシマグソコガネ. ひらくら, 53(3): 99.
- 429 稲垣政志. 2023. 三重県初記録のワタリピロウドコガネを採集. ひらくら, 67(1): 22.
- 430 乙部 宏. 2017. 志摩市のニセマグソコガネダマシの新産地. ひらくら, 61(3): 69.
- 431 乙部 宏. 2024. 高見山のオオダイルリヒラタコメツキ. ひらくら, 68(1): 12.
- 432 生川展行・中山 惇・岡 由佳理. 2017. 志摩半島で得た甲虫. ひらくら, 61(1): 12–15.
- 433 中西元男. 2020. 坂手島の蝶及びその他の昆虫. 三重自然誌, (16): 1–7.
- 434 生川展行. 2016. 迷岳で採集した甲虫若干. ひらくら, 60(1): 10–11.
- 435 林 秀雄. 1963. 三重県におけるアトコブゴミムシダマシの越冬について(越冬昆虫その4). ひらくら, 7(4): 33.
- 436 横関秀行. 2017. 松阪市飯高町の甲虫(I). 三重自然誌, (15): 71–75.
- 437 横関秀行. 2020. 大台町の甲虫類(II). ひらくら, 64(2): 25–37.
- 438 横関秀行. 2017. 鳥羽市答志島, 菅島および坂手島の甲虫類について. 三重自然誌, (15): 76–89.
- 439 生川展行. 2015. 和具大島の甲虫若干の記録. ひらくら, 59(2): 21.

- 440 横関秀行. 2021. 紀北町鈴島の甲虫. ひらくら, 65(1): 11–12.
- 441 横関秀行. 2020. いなべ市の甲虫類. 三重自然誌, (16): 8–20.
- 442 古川 清・生川展行. 2023. 三重県北部と志摩市で得た注目すべき甲虫. ひらくら, 67(2): 25–29.
- 443 生川展行・横関秀行・田中晃詞・尾崎美香・官能健次・稲垣政志. 2016. 鈴鹿山脈の甲虫. 鈴鹿山脈の昆虫, pp.81–238. 三重昆虫談話会, 津.
- 444 Yanagi, T. & Akita, K. 2021. A new species of the genus *Laccophilus* (Coleoptera: Dytiscidae; Laccophilinae) from Honshu, Japan. *Japan Journal of Systematic Entomology*, 27(1): 31–34.
- 445 Nakane, T., 1967. On the genus *Chphonocerus* Kiesenwetter in Japan and Formosa (Insecta, Coleoptera, Lampyridae). *Bull. Nat. Sci. Mus. Tokyo*, 10(1): 7.
- 446 中島淳・林成多・石田和男・北野忠・吉富博之. 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫, 東京: 文一総合出版, 351 pp.
- 447 藤田 宏・平山洋人・秋田勝己. 2018. 日本産カミキリムシ大図鑑(I), 東京: むし社, 324pp.
- 448 窪木幹夫. 2024. 日本のヒメハナカミキリ. 東京: むし社, 167pp.
- 449 中林博之. 1993. カタキハナカミキリ三重県の記録. 月刊むし, (265): 40.
- 450 長谷川道明. 2017. 豊橋市自然史博物館に新たに収蔵された東海地方産絶滅危惧甲虫の標本について. 豊橋市自然史博物館研報 *Sci. Rep. Toyohashi Mus. Nat. Hist.*, (27): 31–35.
- 451 亀山 剛・加藤義隆. 2019. 三重県のカワラハンミョウ. pp.237–261.
- 452 堀 道雄 (編著). 日本のハンミョウ. 東京: 北隆館, xiv+126pp.
- 453 三重県. 2024. 中勢沿岸流域下水道 (志登茂川処理区) 浄化センター設置に伴う事後調査報告書. 303pp.
- 454 中西元男・乙部 宏. 2023. 「三重県明和町大淀海岸におけるカワラハンミョウの発見および生息地消滅までの経過」と, 津市白塚海岸生息地の消失の危機について. 三重自然誌, (18): 1–5.
- 455 若林郁夫・岡由佳里. 2021. 三重県明和町大淀海岸におけるカワラハンミョウの発見および生息地消滅までの経過. 三重の生きものだより. (68): 2–18.
- 456 Kudo, Y. & Kojima, H. 2010. Observation of the respiratory strategy of *Neohydrocoptus bivittis* (Coleoptera, Noteridae). *Elytra*, Tokyo, 38: 85–86.
- 457 秋田勝己. 2022. 三重県産コガシラミズムシ科甲虫の記録. さやばねニューシリーズ(46):20–22.
- 458 秋田勝己・益本仁雄. 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑, むし社, 東京. 302pp.
- 459 藤田 宏・平山洋人・秋田勝己. 2023. 日本産カミキリムシ大図鑑 (II) . むし社, 東京.
- 460 秋田勝己・苅部治紀・津田正太郎・柳丈陽・北野忠・小田切顕一・荒谷邦雄. 2024. 三重県および和歌山県で採集されたチビマルケシゲンゴロウ. さやばねニューシリーズ(53): 20–22.
- 461 Watanabe, K. & Kamite, Y. 2018. A new species of the genus *Laccophilus* (Coleoptera, Dytiscidae) from Japan. *Elytra*, Tokyo, New series, 8(2): 417–427.
- 462 渡辺晃平・北野忠・佐野真吾・苅部治紀・秋田勝己. 2017. 三重県におけるニセコクロヒラタガムシの初記録. さやばねニューシリーズ, (27): 32.
- 463 津田正太郎. 2024. 伊賀市の里山湿地で得られた水生甲虫の記録. ひらくら, 68(1):1–8.
- 464 中林博之. 1997. 三重県のムネモンヒメハナカミキリの記録. 月刊むし, (311):37.
- 465 水野弘造. 2012. カミキリムシ科ハナカミキリ亜科ヒメハナカミキリ属. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第44集:171–238.
- 466 北野 忠・西原昇吾・苅部治紀・秋田勝己. 2019. 三重県で採集されたユーラシアシジミガムシ. さやばねニューシリーズ,(34): 55–56.
- 467 生川展行・稲垣政志・官能健次・横関秀行. 2021. 伊賀盆地北部の甲虫. 伊賀盆地北部及び伊勢湾岸地域の昆虫, pp.47–78. 三重昆虫談話会, 津.
- 468 桐山功・横関秀行. 2012. 三重県産ジョウカイボン科の記録(3). ひらくら56(3): 53–68.
- 469 Sato, M., Y. Okushima & K. Ishida. 2002. Japanese species of the genus *Cantharis* Linnaeus (Coleoptera, Canthalidae). *The Entomological Review of Japan*, 57(2): 205–217.
- 470 Ishida, K. & M. Sato. 1993. A new species of *Athemus* (Coleoptera, Canthalidae) from Japan. *Elytra*, Tokyo, 21:47–50.
- 471 Okushima, Y. 2005. A taxonomic study on the genus *Lycocerus* (Coleoptera, Cantharidae) from Japan, with zoogeographical considerations. *Japanese Journal of Systematic Entomology*

哺乳類

鳥 類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝 類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻 類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

Monographic Series, (2): 1–383.

- 472 小出 大・持田幸良. 2012. 太平洋側ブナ個体群の更新に与える冬季気温およびシカの影響. 日本森林学会誌(94): 68–73.
- 473 秋田勝己. 2024. 石田昇三さんのこと. ひらくら, 68(3): 72–74.
- 474 岡田亮平・渡部晃平・森正人・稲畑憲昭. 2020. 本州からのアママルケシゲンゴロウの発見と生息環境. さやばねニューシリーズ, (40):44–46.
- 475 秋田勝己. 2019. 三重県産クロコモンタマムシについて. 月刊むし, (575):28–31.
- 476 乙部 宏. 2019. 玉城町のクロマダラタマムシ. ひらくら, 63(1):25–26.
- 477 中根敏勝. 1959. 飯南郡森村附近のカミキリムシ. ひらくら, 3(7): 85–88.
- 478 河北 均. 2016. 津市・松阪市でコオナガミズスマシを採集. ひらくら, 60(1): 12.
- 479 半田由佳理・生川展行. 2024. 明和町と伊勢市の海岸で得た甲虫若干の記録. ひらくら, 68(1): 11–12.
- 480 乙部 宏. 2017. 熊野市のキンモンナガタマムシ. ひらくら, 61(4).
- 481 乙部 宏. 2017. 大台町のヤマトヨツスジハナカミキリ. ひらくら61(1):16.
- 482 真部永地・高桑正敏・秋田勝己. 2020. 地域別のコブヤハズカミキリ情報・近畿地方. 日本のコブヤハズカミキリ (高桑正敏・中林博之・小林敏男 編), Pp.86–88. むし社, 東京.
- 483 生川展行. 2023. 雲母峰で30年前に灯火採集で得た甲虫. ひらくら, 67(2):33–34.
- 484 津田正太郎. 2020. 伊賀盆地のムモンチビコツブゲンゴロウ. ひらくら,64(2): 46.
- 485 井元俊介. 2018. 大台町でヨツボシカミキリを採集. ひらくら, 62(4):97.
- 486 田中晃詞. 2019. ジョウカイボンの記録. ひらくら63(2):46–47.
- 487 渡部晃平. 2015. 三重県における希少水生甲虫4種の追加記録. 月刊むし(533): 58.
- 488 Watanabe, K. & O. Bistron. 2022. A new species of the genus *Hydrovatus* Motschulsky (Coleoptera: Dytiscidae) from Japan. *The Coleopterist Bulletin*, 76(1): 115–121.
- 489 西本雄一郎. 2021. アオヘリアオゴミムシを三重県で採集. 月刊むし,(610):22.
- 490 小川康哉. 2022. 三重県津市でアオヘリアオゴミムシを採集. 月刊むし, (620): 47.
- 491 乙部 宏. 2023. 松阪市と玉城町のアオヘリアオゴミムシ. ひらくら, 67(2):35–36.
- 492 浜際康太. 2016. 紀宝町のオオヨツボシゴミムシの記録. ひらくら, 60(3):81.
- 493 乙部 宏・森田久幸. 2015. 榎田川のカワラゴミムシ. ひらくら,59(1): 20.
- 494 乙部 宏・森田久幸. 2019. 榎田川におけるカワラゴミムシの記録. ひらくら,63(1): 25.
- 495 山田翔太. 2019. 菰野町でフタコブルリハナカミキリを採集. ひらくら63, (1):24.
- 496 乙部 宏. 2024. 玉城町のアカマダラハナムグリ. ひらくら,68(1):13.
- 497 生川展行. 2021. 2020年に採集した甲虫の記録. ひらくら, 65(2): 58–62.
- 498 乙部 宏. 2021. 玉城町のオオトクリゴミムシ. ひらくら, 65(2): 35–36.
- 499 Morita, S. 2015. Two new species of the genus *Reicheiodes* (Coleoptera, Carabidae) from Honshu, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series 5(2):281–286.
- 500 生川展行・横関秀行・官能健次・田中晃詞・尾崎美香. 2018. 三重生物誌—昆虫I (甲虫). 三重自然誌の会, 松阪. 832pp.
- 501 横関秀行. 2018. 大台町の甲虫. ひらくら, 62(1):1–20.
- 502 市橋 甫・天春明吉・生川展行・久保田耕平. 1990. 第4章動物, 19昆虫類, (7)甲虫類. 四日市市史第1巻資料編: 397–414.
- 503 森 正人. 1997. アリスアトキリゴミムシの生態に関する一知見. ねじればね, 76 : 8–9.
- 504 乙部 宏. 2021. 菰野町のイネネクイハムシ. ひらくら, 65(4) : 82.
- 505 乙部 宏. 2024. 四日市市のオオサルハムシ. ひらくら, 68(4) : 92–93.
- 506 稲垣政志・太田玲奈. 2023. 御在所岳のオオチャイロハナムグリ. ひらくら, 67(1) : 21.
- 507 生川展行・篠木善重・田中晃嗣・尾崎美香. 2023. キンイロネクイハムシの採集記録. ひらくら, 67(3) : 52–53.
- 508 官能健次. 1996. 鈴鹿山脈より得たカミキリムシ. ひらくら, 40(1) : 14.
- 509 横関秀行. 2021. 三重県のタマムシ科. ひらくら, 56(1) : 1–23.
- 510 乙部 宏. 2020. 博物館収蔵標本から判明した三重県におけるクロチビタマムシの過去の記録と新たな採集記録について. ひらくら, 64(1) : 12–14.
- 511 乙部 宏. 2020. 美杉町のゲンゴロウ (ナミゲンゴロウ), ひらくら, 64(4) : 89–90.

- 512 乙部 宏. 2017. 松阪市の海浜性のコメツキムシ類. ひらくら, 61(1) : 18.
- 513 浜際康太. 2016. 紀宝町におけるトラハナムグリの採集記録. ひらくら, 60(4) : 106.
- 514 三重県農水商工部. 2008. アマモ場再生ガイドブック.
- 515 三重県水産研究所. 2011. アマモ場再生ハンドブック.
- 516 乙部 宏. 2016. 三重県におけるハマベゾウムシ58年ぶりの再発見～海から命を繋ぐ虫～, 月刊むし, 548 : 22–28.
- 517 乙部 宏. 2016. 三重県で58年ぶりに再発見したハマベゾウムシについて, ひらくら, 60(4) : 89–90.
- 518 乙部 宏. 2024. 雲出川河口のハマベゾウムシ. ひらくら, 68(1) : 13.
- 519 乙部 宏. 2021. 飯高町のホソクロナガタマムシ. ひらくら, 65(1) : 11.
- 520 乙部 宏・蟹江 昇・関 章弘. 2015. 三重県でアヤムネスジタマムシを採集. 月刊むし, (557):59.
- 521 生川展行. 1982. 鈴鹿山脈でオニクワガタを採集. ひらくら, 26(6) : 91.
- 522 乙部 宏. 2023. 玉城町のコアトワアオゴミムシ. ひらくら, 67(3) : 53.
- 523 Tamadera, Y. & Yoshitake, H. 2017. Occurrence of *Habroloma (Parahabroloma) marginicolle* (Fairmaire) (Coleoptera, Buprestidae) in Mie Prefecture, Honshu, Japan. *Elytra*, Tokyo, New Series, 7 (2): 409–411.
- 524 乙部 宏. 2004. 松阪市のルリボシカミキリ. ひらくら, 48(6) : 95.
- 525 秋田勝己・安居義高. 2024. 養老産地のルリボシカミキリ. 月刊むし, 636 : 54–55.
- 526 乙部 宏. 2019. 尾鷲市のアカガネエグリタマムシ. ひらくら, 63(4) : 90.
- 527 乙部 宏. 2017. 松阪市のキョウトアオハナムグリ. ひらくら, 61(1) : 16.
- 528 稲垣政志・横関秀行. 2012. 津市美杉町のコスジマグソコガネ. ひらくら, 56(1) : 23.
- 529 飯田泰地. 2022. 2020年度冬季に採集した三重県のセダカコブヤハズカミキリ. ひらくら, 66(1) : 10–11.
- 530 官能健次. 2001. 三重郡菰野町雲母峰より得られたカミキリムシ. ひらくら, 45(4) : 24.
- 531 湯沢宜久. 1980. 鈴鹿山系で採集したカミキリ若干. ひらくら, 24(3) : 39–41.
- 532 今村隆一. 1984. 秋の笠取山のカミキリムシ. ひらくら, 28(2) : 21.
- 533 稲垣順子. 2002. 上野市でセダカコブヤハズカミキリを採集. ひらくら, 46(3) : 50.
- 534 青山三郎・井上品次. 1968. 経ヶ峰の甲虫類. ひらくら, 12(4) : 23–34.
- 535 加藤敏行・乙部 宏. 2024. 三重県未記録のチョウセンゴモクムシを採集. ひらくら, 68(1) : 14.
- 536 乙部 宏・森田久幸. 2017. 員弁川のアイヌハンミョウ. ひらくら, 61(4) : 100.
- 537 乙部 宏. 2021. 玉城町のクビアカモモブトハナカミキリ. ひらくら, 65(3) : 62.
- 538 津田正太郎. 2019. 伊賀市でクビアカモモブトホソカミキリを採集. ひらくら, 63(2) : 47.
- 539 津田正太郎. 2021. 伊賀市のホソコハナムグリとクビアカモモブトホソハナカミキリ. ひらくら, 65(2) : 37.
- 540 乙部 宏. 2016. 伊勢市のコガムシとコガタガムシ. ひらくら, 60(1) : 13.
- 541 乙部 宏. 2022. 津市のコガムシ. ひらくら, 66(1) : 10.
- 542 乙部 宏. 2020. 南伊勢町のジュウシチホシハナムグリ. ひらくら, 64(4) : 91.
- 543 市橋 甫. 1969. 遅くまで見られた鈴鹿のヘイケボタル. ひらくら, 13(11) : 107.
- 544 天春明吉・横関秀行・市橋 甫. 1987. 四日市市のゲンジボタルとヘイケボタル(1). 四日市の昆虫, 3(1) : 6–7.
- 545 鈴木伸治. 1987. 四日市市内のホテル生息地(2) (ゲンジボタルとヘイケボタル). 四日市の昆虫, 3(2) : 1–3.
- 546 市川 太. 2010. ヘイケボタルの遅い記録. ひらくら, 54(1) : 19.
- 547 紙谷靖彦. 1978. ヘイケボタルの遅い発生記録. ひらくら, 22(4) : 60.
- 548 杉浦邦彦. 1971. 伊勢市内のホテルの分布について. ひらくら, 15(7) : 49–54.
- 549 河北 均. 2015. 伊勢市佐八町の昆虫類. ひらくら, 59(4) : 77–95.
- 550 荒谷邦雄・細谷忠嗣. 2016. ペット甲虫類における外来種問題—意図的導入の罪過とその贖罪—. 昆虫と自然, 51(14) : 12–17.
- 551 高桑正敏. 2012. 日本の昆虫における外来種問題(2)国内外来種問題をめぐって. 月刊むし, (499) : 29–34.
- 552 乙部 宏. 2006. 三重県中南部地域と周辺のルリクワガタ属. ひらくら, 50(1):2–4.
- 553 乙部 宏. 2015. 大紀町のクロカタビロオサムシ. ひらくら, 59(3):71.
- 554 田中晃詞. 2022. 津市でクロカタビロオサムシを採集. ひらくら, 66(4):86.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

藓苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 555 村木武則. 2023. クロカタビロオサムシを度会郡南伊勢町で採集. ひらくら, 67(2):32.
- 556 尾崎美香. 2024. 鈴鹿市でピットフォールトラップで得たクロカタビロオサムシ. ひらくら, 68(2):37.
- 557 Makita, S., Zhang, S.-N., & Kubota, K. 2021. Two isolated populations of *Carabus* (*Ohomopterus*) *maiyanus* Bates (Coleoptera, Carabidae) from Mie Prefecture, Central Japan, with description of a new subspecies. *Elytra*, Tokyo, new series, 11: 285–292.
- 558 矢崎充彦. 2017. いなべ市藤原岳周辺で得た分布上特記すべき昆虫類. 藤原岳自然科学館報藤原岳, (39):2–17.

(ハエ目)

- 1 青木 朗. 1950. 第4563圖あかつりあぶもどき. 日本昆蟲圖鑑改訂版(石井 悌ほか編). 北隆館, 東京, 1738pp.
- 2 別府隆守. 2004. 高知県のヤマトヒメナガヒラタハナアブ. はなあぶ, (17): 13.
- 3 別府隆守. 2009. ヒラタムシヒキがハマベコムシヒキを狩る. はなあぶ, (27): 33.
- 4 橋本太郎. 1960. 神宮宮城産生物目録Ⅶ昆虫類. 神宮農業館, p.1–58.
- 5 春沢圭太郎. 2004. ウミアメンボを狩るヒラタムシヒキの記録. はなあぶ, (17): 75.
- 6 春澤圭太郎. 2019. *Hybomitra litoralis* Yonetsu, Shinogi, and Watanabe, 2018ハマアブを和歌山県から記録. はなあぶ, (47): 1.
- 7 Hirooka, T., M. Maruyama & F. C. Thompson. 2015. Revision of the Flower Fly Genus *Mallota* Meigen, 1822 (Diptera: Syrphidae) from Japan. *JJSE*, 21(2): 241–258.
- 8 市毛勝義. 2014. *Chamaesyrrhus japonicus* ヤマトヒメナガヒラタハナアブを愛媛県で採集. はなあぶ, (38): 39–41.
- 9 市毛勝義. 2021. 茨城県産ヤマトヒメナガヒラタハナアブの追加記録. はなあぶ, (52): 76–77.
- 10 市毛勝義. 2023. *Stratiomys japonica* ナミズアブとその近縁種について. はなあぶ, (56): 22–31.
- 11 市川顕彦・大石久志. 2021. コブアリノスアブを京都で採集. はなあぶ, (51): 19.
- 12 伊賀市環境保全市民会議編. 2006. 伊賀のレッドデータブック—伊賀の希少動植物—. 伊賀市環境政策課, 242 pp.
- 13 今村 功. 1986. 三重県で再度記録したアカツリアブモドキ. ひらくら, 30(3): 65.
- 14 岩井大輔. 2020. 京都府亀岡市でのケンランアリノスアブの記録. はなあぶ, (50): 8.
- 15 岩井大輔. 2020. 栃木県真岡市伊勢崎のケンランアリノスアブの生息状況. はなあぶ, (49-1): 14–15.
- 16 岩井大輔・丸山宗利. 2005. 栃木県におけるケンランアリノスアブの生息地の現状. はなあぶ, (19): 54–55.
- 17 岩井大輔・酒井春彦. 2008. ケンランアリノスアブの幼虫期の生態に関する知見. はなあぶ, (25): 26.
- 18 伊東憲正. 2002. ヤマトヒメナガヒラタハナアブの茨城県からの記録. はなあぶ, (14): 10.
- 19 祝 輝男. 2008. 九州における海浜性双翅目について -2007年,ヒラタムシヒキ,ハマベコムシヒキ,ハネボシスナニクバエ,ホリホソニクバエ,ゴヘイニクバエ,ハマベニクバエの確認状況. はなあぶ, (25): 49–57.
- 20 加納康嗣. 1999. オウゴンアリノスアブを三重県名張市で採集. はなあぶ, (8): 62.
- 21 桂孝次郎. 2004. ヤマトヒメナガヒラタハナアブの雄の発見と生態的新知見. はなあぶ, (17): 7–11.
- 22 桂孝次郎. 2020. *Hybomitra litoralis* ハマアブ(双翅目, アブ科)を淡路島にて採集. はなあぶ, (50): 6.
- 23 桂孝次郎・奥野晴三・別府隆守. 2004. ヤマトヒメナガヒラタハナアブの生態調査. はなあぶ, (17): 12.
- 24 桂孝次郎. 2007. アカツリアブモドキを和歌山で採集. はなあぶ, (23): 81.
- 25 河北 均. 2014. 明和町でハチモドキハナアブを採集. ひらくら, 58(2): 47.
- 26 河北 均. 2015. 伊勢市佐八町の昆虫類. ひらくら, 59(4): 77–95.
- 27 川北 均. 2018. コガタノミズアブを松阪市飯高町で採集. ひらくら, 62(1): 20.
- 28 川瀬英夫. 1998. トワダオオカの採集記録. ひらくら, 42(6): 98.
- 29 轡田康彦. 2022. 新潟県上越市でコブアリノスアブを採集. 越佐昆虫同好会報, 125: 1–2.
- 30 蒔田実造. 2000. 三重北部のデガシラバエ科4種. ひらくら, 44(4): 65–66.
- 31 蒔田実造. 2001. ハマダラハルカを藤原町で採集. ひらくら, 45(5): 171.
- 32 蒔田実造. 2005. ルリハナアブを四日市市で採集. ひらくら, 49(6): 101.

- 33 蒔田実造. 2005. 四日市市富田のコガタノミズアブとミズアブ. ひらくら, 49(5): 83.
- 34 蒔田実造. 2005. 藤原町の双翅目2種. ひらくら, 49(5): 85.
- 35 Maruyama M. & Hironaga T.. 2004. *Microdon katsurai*, a New Species of Myrmecophilous Hoverfly (Diptera, Syrphidae) from Japan, Associated with *Polyrhachis lamellidens* (Hymenoptera, Formicidae). Bulletin of the National Science Museum. Series A, Zoology, 30(4): 173–179.
- 36 松本吏樹郎編. 2013. 大阪自然史博物館所蔵双翅目目録(1). 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録, (45): p.1–100.
- 37 三島敏夫. 1988. ニセヒメガガンボの三重県からの記録と訂正. ひらくら, 32(1): 13–15.
- 38 Nagatomi A. 1978. The Japanese *Chrysopilus* (3) (Diptera, Rhagionidae). Kontyu, 46(3): 450–451.
- 39 永富 昭. 1997. ムシヒキアブ類. 日本動物大百科第9巻昆虫II, p. 130. 平凡社.
- 40 中村剛之・加藤大智・三枝豊平. 2015. 三重県, 徳島県におけるカスミハネカの記録, 三重県総合博物館研究紀要, (1): 23–24.
- 41 岡田英士. 2022. 事例紹介: ヤマトヒメナガヒラタハナアブ(双翅目ハナアブ科)による外生菌根菌ショウロおよびホンショウロの摂食. Truffology, 5(1): 55–57.
- 42 Okada H., Sueyoshi M., Suetsugu K.. 2021. Consumption of the ectomycorrhizal fungi *Rhizopogon roseolus* and *R. luteolus* by *Chamaesyrrhus japonicus* (Diptera: Syrphidae). Entomological Science, 24: 123–126.
- 43 大石久志・乙部 宏. 2003. 三重の海浜性ムシヒキアブ. はなあぶ, (16): 49–52.
- 44 大石久志・乙部 宏・蒔田実造. 2007. 三重のニセミギワバエとイソベバエ. はなあぶ, (23): 71–77.
- 45 大石久志・蒔田実造. 1999. アシグロルリミズアブ(新称)について. はなあぶ, (8): 35–39.
- 46 大石久志・蒔田実造. 2002. コブアリノスアブを三重県で採集. はなあぶ, (14): 51–52.
- 47 大石久志・蒔田実造. 2005. 三重県産*Chrysopilus shibuyai*について. はなあぶ, (20): 15.
- 48 大石久志・蒔田実造. 2008. 第10節鈴鹿市のハエ目. 鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書—, p. 711–717. 鈴鹿市環境部環境政策課, 鈴鹿.
- 49 大石久志・篠木善重. 2017. 三重県におけるヤマトヒメナガヒラタハナアブの再発見. はなあぶ, (43): 25–26.
- 50 大石久志・篠木善重・紺野 剛. 2020. 日本産ツリアブの同定. はなあぶ, (49-2): 1–134.
- 51 大石久志・篠木善重・蒔田実造. 2012. 三重県のミギワバエ. はなあぶ, (33): 82–88.
- 52 大石久志・篠木善重・別府隆守. 2010. 日本産*Acrosathe*属(ツルギアブ科)の新知見. はなあぶ, (30-1): 31–46.
- 53 大川親雄. 1959. 志摩の昆虫. ひらくら, 3(10/11): 115–119.
- 54 大川親雄. 1957. 三重県の採集品について. 新昆虫, 10(12): 32–33.
- 55 大川親雄. 1961. トワダオオカの1産地. ひらくら, 5(5): 34.
- 56 大川親雄. 1963. トワダオオカを津市内で採る. ひらくら, 7(10): 82.
- 57 乙部 宏. 2003. カクモンハラブトハナアブを三重県で採集. はなあぶ, (16): 48.
- 58 貞廣邦夫. 2013. 四国における*Microdon katsurai*ケンランアリノスアブの採集記録. はなあぶ, (35): 27.
- 59 酒井春彦. 2021. ケンランアリノスアブの飼育観察記録. はなあぶ, (51): 15–16.
- 60 堀野満夫. 2008. 近畿地方におけるメスアカケバエの記録. はなあぶ, (25): 60–61.
- 61 篠木善重. 2016. 鈴鹿山脈の双翅目. 鈴鹿山脈の昆虫, 三重昆虫談話会, p.270.
- 62 篠木善重. 2011. カクモンハラブトハナアブの採集記録. ひらくら, 55(2): 46–47.
- 63 篠木善重. 2011. マサキに訪花したコガタノミズアブ. ひらくら, 55(1): 21–22.
- 64 篠木善重. 2014. 干潟固有のアブ. 自然誌だより, (99): 2–3.
- 65 篠木善重. 2016. メスアカケバエの群飛を観察. はなあぶ, (41): 72–73.
- 66 篠木善重. 2016. 樹液に集まる双翅目5種の記録. はなあぶ, (41): 70–71.
- 67 篠木善重. 2018. 三重県におけるシバカワツリアブ(双翅目, ツリアブ科)の記録. 三重県総合博物館研究紀要, (4): 31–33.
- 68 篠木善重. 2018. 櫛田川にアシナガムシヒキ. ひらくら, (458): 74.
- 69 篠木善重. 2024. 三重県産ニセヒメガガンボ科. はなあぶ, (57): 80–83.
- 70 篠木善重. 2024. 津市河芸町の外来甲虫とミズアブ(ハエ目). 自然誌だより, (141): 7.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

苔苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 71 篠木善重・大石久志. 2012. 津市の双翅目(ハエ目). 三重自然誌, (13): 92-113.
- 72 篠木善重・大石久志・蒔田実造. 2014. 三重県産双翅目RDB種の記録. はなあぶ, (37): 92-99.
- 73 新家 勝. 2000. 武庫川でナギサツルギアブを採集. はなあぶ, (9): 64.
- 74 Shiraki, T.. 1956. Studies on the Syrphidae. 5. Two new Japanese species, presented by Dr. C. Ōkawa. Insecta Matsumurana, 20(1-2): 1-5.
- 75 鈴木 博. 1998. 干潟で産卵するスズキキロアブ *Atylotus suzukii*. 衛生動物, 49(supplement): 73.
- 76 竹門康弘. 2018. ハネカ科Nymphomyiidae. 日本産水生昆虫—科・属・種への検索第二版(川合禎次・谷田一三 共編), p.929-934. 東海大学出版部, 平塚.
- 77 田中茂三郎. 1940. 伊賀「主として赤目, 香落付近」における比較的珍しき昆虫. 三重博物, (3): 40-55.
- 78 田中和夫. 2018. カ科Culicidae. 川合禎次・谷田一三共編 日本産水生昆虫 第二版科・属・種への検索, p.1021-1269. 東海大学出版部.
- 79 富田靖男. 2010. 第4章第6節亀山市の等翅目, チャタテムシ目, 広翅目, 脈翅目, 長翅目ならびに双翅目昆虫若干, 亀山市史 自然編, p.809-820.
- 80 富田靖男. 2010. 明和町の膜翅目昆虫・双翅目昆虫ならびに鱗翅目昆虫蛾類若干. ひらくら, 54(2): 21-34.
- 81 富田靖男・(故)市橋甫・中西元男. 2012. 第5章昆虫類第1節カゲロウ目・トンボ目・ゴキブリ目・カマキリ目・直翅目・ハサミムシ目・チャタテムシ目・脈翅目・膜翅目・長翅目・双翅目昆虫 in 田光のシデコブシ及び湿地植物群落調査報告書編集委員・菰野町教育委員会編, 国指定天然記念物田光のシデコブシ及び湿地植物群落自然科学調査報告書, p.215-227. 菰野町教育委員会.
- 82 富田靖男・市橋甫・宮本佳典. 2003. MECビオトープで確認された哺乳類、爬虫類、両生類ならびに昆虫類. (財)三重県環境保全事業団研究報告, (9): 75-92.
- 83 富田靖男・富田傑. 2001. 第3章 勢和の動物, 勢和村史資料編二, p.53-177.
- 84 山下善平. 1974. 外宮でトワダオオカを採集. ひらくら, 18(6): 51.
- 85 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, p.119-288.
- 86 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田忠・大川親雄・坂部元宏・大久保憲秀・杉山章・中西万年. 1975. 父ヶ谷地域の昆虫相. 宮川揚水発電計画に伴う父ヶ谷地域自然環境調査報告書, p.231-326.
- 87 山下善平・白井重雄・山本潔美・宗林正人・三島敏夫・大川親雄・石田昇三・島地岩根・市橋甫・村井俊郎・成瀬善一郎・石塚三郎・富田靖男・灰谷輝男・松浦誠・坂部元宏. 1968. 平倉演習林の昆虫目録. 三重大学農学部演習林資料(1), p.1-94.
- 88 米津 晃. 2023. 日本の海浜性キイロアブ属の種類と分布並びにナガトミキイロアブの生態的知見(双翅目, アブ科). はなあぶ, (56): 52-60.
- 89 Yonetsu, A., Y. Shinogi and M. Watanabe. 2018. *Hybomitra litoralis* sp. nov., a new species of the family Tabanidae (Diptera) from Japan. Med. Entomol. Zool., 69(1): 13-18.
- 90 吉田浩史. 2008. 紀伊半島におけるニクバエ科の採集記録. はなあぶ, (25): 46-47.
- 91 吉田浩史. 2011. 近畿地方産ニクバエ科分布資料. はなあぶ, (32): 34-37.
- 92 源河正明. 2010. 兵庫県からのケンランアリノスアブの記録. はなあぶ, (29): 48.

(チョウ目)

- 1 新田 智. 2017. クシヒゲハイロヒメシヤク. ありんくりん通信, 19: 1-5.
- 2 福井県. 2016. 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物.
- 3 長谷川好昭. 2022. 旧熊野市のルーミスジミの環境様相について(三重県). めもてふ, (355): 3894-3895.
- 4 長谷川好昭・北澤悠詩. 2020. 宮妻峡でヒサマツミドリシジミ、エゾミドリシジミ、オオミドリシジミを採集・四日市市(三重県). めもてふ, (343): 3771-3772.
- 5 長谷川好昭・中西元男. 2021. 伊勢湾岸の蝶類. 伊賀盆地北部及び伊勢湾岸地域の昆虫, pp.192-211. 三重昆虫談話会, 津.
- 6 長谷川勉・佐竹邦彦. 1995. 春子谷地湿原の昆虫および小動物. 岩手県滝沢村文化財調査報告書, 29:

1-48. 滝沢村教育委員会.

- 7 井上 寛. 1982. シャクガ科. 井上寛ほか, 日本産蛾類大図鑑, 1: 425-573, 2: 55-108. 講談社. 東京.
- 8 金子岳夫. 2011. シャクガ科ヒメシャク亜科. 岸田泰則(編), 日本産蛾類標準図鑑 1, : 224-247. 学研教育出版. 東京.
- 9 河本 実. 2013. 2013年、四日市市のホシミスジ. ひゃくとりむし, 361: 4326.
- 10 河本 実. 2016. 鈴鹿山脈のチョウ相. 鈴鹿山脈の昆虫, pp.323-354. 三重昆虫談話会, 津.
- 11 河本 実. 2017. 三重県産蝶類分布表. 自刊, 名古屋: 889pp.
- 12 河本 実. 2017. 千石平林道でフジミドリシジミを採集. ひゃくとりむし, (418): 5010.
- 13 河本 実. 2022. 藤原岳のオナガシジミの採集記録と生態写真 —四方山話を添えて—. 三重県. めもてふ, (355): 3897-3899.
- 14 河本 実. 2022. 鈴鹿山脈のヤマキマダラヒカゲの化性について. ひらくら, 66(2): 21-26.
- 15 河本 実. 2022. 鈴鹿山脈のヒメキマダラヒカゲについて. ひらくら, 66(3): 47-49.
- 16 河村 忠. 1984. 福岡県産蛾類目録. 北九州市立自然史博物館自然誌資料 1. 119 pp.
- 17 河本 実・中西元男. 2021. 伊賀盆地北部の蝶相. 伊賀盆地北部及び伊勢湾岸地域の昆虫, pp.83-101. 三重昆虫談話会, 津.
- 18 木村裕之. 1995. 菰野町のヒメヒカゲ. 自然誌だより, (23): 2.
- 19 木村正明. 2020. 喜界島で昼間に採集した蛾類の記録. Satsuma, 166: 93-94.
- 20 木村正明. 2022. 奄美群島のクシヒゲハイロヒメシャクの採集記録. Satsuma, 170: 93.
- 21 間野隆裕. 2023. クワトゲエダシャクの新記録寄主と既寄主のまとめ, 及び分布に関する一考察. 誘蛾燈, 252: 87-88.
- 22 間野隆裕・中山 淳. 2022. 南伊勢町押渕 蛾類調査報告書. 伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会. 55pp.
- 23 間野隆裕・篠木善重, 2024. クシヒゲハイロヒメシャクの愛知県と三重県からの記録および生息環境について. 誘蛾燈, 255: 4-6.
- 24 松井弘見. 2022. 紀北町不動谷のオオツバメエダシャク. ひゃくとりむし, 509: 8.
- 25 松井弘見. 2022. 宮川水系源流部のヤクシマヒメキシタバ. ひゃくとりむし, 501: 1-2.
- 26 松井弘見. 2022. 西藤原駅前のイセキリガ. ひゃくとりむし, 509: 7.
- 27 松井弘見. 2022. 津市白山町のカバフキシタバ. ひゃくとりむし, 503: 12.
- 28 三重県農林水産部みどり共生推進課(編). 2015. 三重県レッドデータブック2015~三重県の絶滅の恐れのある野生生物~. 757pp.三重県農林水産部みどり共生推進課. 津.
- 29 中西元男. 2013. 紀北町のツマジロウラジャノメネガティブデータ. ひゃくとりむし, (357): 4280.
- 30 中西元男. 2013. 三重県のツマグロキチョウをめぐる状況. ひゃくとりむし, (358): 4287-4288.
- 31 中西元男. 2016. 伊賀市のクモガタヒョウモン. ひらくら, 60(1): 4.
- 32 中西元男. 2017. 青山,美杉山地のチョウその他の昆虫. 三重自然誌, (15): 102-109.
- 33 中西元男. 2018. ウラギンスジヒョウモンの1目撃記録. ひゃくとりむし, (423): 5073.
- 34 中西元男. 2021. 私的・三重蝶類誌(全種)・4. ひゃくとりむし, (483): 5786-5792.
- 35 中西元男. 2022. 私的・三重蝶類誌(全種)・14. ひゃくとりむし, (499): 5983-5985.
- 36 中西元男. 2023. 赤目室生国定公園及び周辺のチョウとトンボ. 三重自然誌, (18): 31-35.
- 37 中西元男. 2023. ウスバシロチョウの採集記録. ひゃくとりむし, (534): 6405.
- 38 中西元男. 2024. 私的・三重蝶類誌(全種) 34. ひゃくとりむし, (537): 6435-6438.
- 39 中西元男. 2024. 松阪市のツマグロキチョウの目撃記録. ひゃくとりむし, (543): 6505.
- 40 中西元男・村上 龍. 2023. フジミドリシジミ雌の吸水行動. ひらくら, 67(4): 71.
- 41 野村賢二. 2014. 1994年~2012年の蝶の記録Ⅶ・テングチョウ科・マダラチョウ科・ジャノメチョウ科. めもてふ, (311): 3448-3451.
- 42 野村賢二. 2015. 2015年ベニモンカラスシジミの記録・大台町. めもてふ, (321): 3546.
- 43 大島康宏・森田奈菜. 2022. 三重県総合博物館ミュージアムフィールドにおける蝶類相. 昆虫網(チョウ類)について. 三重県総合博物館研究紀要, (8): 1~10.
- 44 大塚陽香・奥園元晴・矢野文士・日南 瑤・徳田 誠, 2023. PP19クシヒゲハイロヒメシャクの生態および塩生植物シチメンソウ立ち枯れとの関連. 日本昆虫学会第83回大会プログラム. https://entsoc.jp/meeting/2023/2023_program_v2.pdf.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

- 45 乙部 宏. 2010. 伊勢市のオオキイロアツバ. ひらくら, 54: 71.
 46 乙部 宏. 2022. 大紀町のフジキオビ. ひらくら, 66: 16–17.
 47 乙部 宏. 2024. 松阪市のオオムラサキの目撃記録. ひやくとりむし, (544): 6525.
 48 佐藤力夫, 1988. クシヒゲハイイロヒメシヤク対馬に産す. 誘蛾燈, 113: 105.
 49 多賀敏正. 2022. 菅島のウラナミジャノメ (三重県). めもてふ, (353): 3872–3876.
 50 高橋弘樹. 2023. 相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録. 3. —相生市三濃山麓の蛾 2020 – 2023—. きべりはむし, 462: 1–16.
 51 津田正太郎. 2017. 伊賀市でウラジロミドリシジミを採集. ひらくら, 61(4): 99.
 52 渡邊瑛太・神澤由己・山本稜士・安西 稔. 2022. ヤマトハガタヨトウの愛知県・静岡県における採集記録. 蛾類通信, 303: 92.

(トビケラ目)

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 1 三輪勇四郎・大川親雄. 1958. 三重県産毛翅目目録. ひらくら, 2(14): 17–19.
 2 森田久幸. 1994. 船越池よりミサキツノトビケラ採集される. ひらくら, 38(5): 97.
 3 森田久幸. 1996. 県内で採集された興味深いトビケラ. ひらくら, 40(5): 288–289.
 4 森田久幸. 1997. 海山町船越池のトビケラ. ひらくら, 41(6): 96–97.
 5 森田久幸. 1998. 北勢町で採集したトビケラ. ひらくら, 42(1): 13–14.
 6 森田久幸. 2000. イトウホソバトビケラの記録. ひらくら, 44(1): 12.
 7 森田久幸. 2001. 菰野町田光のトビケラ相. ひらくら, 45(6): 173–175.
 8 森田久幸. 2006. 亀山市でヒトスジキソトビケラを採集. ひらくら, 58(5): 81.
 9 森田久幸. 2009. スジトビケラの記録. ひらくら, 53(3): 103–104.
 10 森田久幸. 2009. 県内で採集された興味深いトビケラ(2). ひらくら, 53(5): 121–122.
 11 森田久幸. 2011. 志摩半島のトビケラ類. 志摩半島の昆虫, pp. 212–218. 三重昆虫談話会, 津.
 12 森田久幸. 2012. 第3節 ヘビトンボ目・カワゲラ目・トビケラ目. 国指定天然記念物「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」調査報告書 (田光のシデコブシ及び湿地植物群落調査報告書編集委員・菰野町教育委員会編), pp. 245–252. 菰野町教育委員会, 菰野.

(ハチ目)

- 1 橋本太郎. 1960. 神宮宮域産生物目録Ⅶ昆虫類. 神宮農業館, 伊勢, p.1–58.
 2 廣瀬勇輝・渡辺恭平. 2024. ヒメウマノオバチ (ハチ目, コマユバチ科) の寄主初記録. 昆虫 (ニューシリーズ), 27(2): 80–84.
 3 石田昇三. 2011. 四日市市南部丘陵公園でウマノオバチを採る. ひらくら, 55(1): 23.
 4 市橋 甫・富田靖男・宮本佳典・深田達也. 2002. 祓川の昆虫. 研究報告, (8): 71–108.
 5 金杉隆雄. 2022. 群馬県におけるキバラハキリバチ (ハチ目: ハキリバチ科) の記録. 群馬県立自然史博物館研究報告, (26): 179–180.
 6 加納康嗣. 2008. 2008年に発見した伊賀地方の昆虫6種の生息地. ひらくら, 52(6): 98–99.
 7 加納康嗣. 2010. キンモウアナバチ・クロアナバチの観察. 蜂狩人, (2): 10–12.
 8 加納康嗣. 2010. ニッポンハナダカバチ観察日記. 蜂狩人, (2): 1–4.
 9 香取郁夫・田丸真弓・横井智之. 2010. 送粉昆虫マイマイツツハナバチの営巣習性. 日本応用動物昆虫学会誌(応動昆), 54(2): 77–84.
 10 河北 均. 1992. キンモウアナバチの巣の坑道に侵入した直翅類. ひらくら, 36(1): 15.
 11 河北 均. 2012. 明和町でモンスズメバチを採集. ひらくら, 56(3): 74.
 12 川添昭夫. 1984. 北鈴鹿山脈のアリ相. 鈴鹿山脈北部石灰岩地域自然科学調査報告書, p.147–153. 藤原岳自然科学館, 藤原.
 13 川添昭夫. 1986. 無脊椎動物昆虫綱膜翅目. 養老山脈南部丘陵地 (古野地区) 自然科学報告書, p.93, 117–119. 北勢自然科学研究会.
 14 川添昭夫. 2001. 第12項昆虫類 (ハチ目ハチ類). 紀勢町史 自然編, p. 313–324. 紀勢町, 紀勢.
 15 川添昭夫. 2004. ハチ目 (ハチ類). 上野市史自然編, p.707–711, 979–985.

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

- 16 川添昭夫. 2004. ハチ目 (アリ類). 上野市史自然編, p.712-716, 986-988.
- 17 川添昭夫. 2006. 熊野灘照葉樹林のアリ類. 熊野灘沿岸照葉樹林の昆虫 (三重昆虫談話会 編), p. 191-196. 三重昆虫談話会, 津.
- 18 川添昭夫. 2008. 鈴鹿市のハチ目ハチ類. 鈴鹿市の自然—鈴鹿市自然環境調査報告書—, p.692-706. 鈴鹿市環境部環境政策課.
- 19 川添昭夫. 2010. 亀山市のハチ目ハチ類. 亀山市史自然編, p.942-954.
- 20 川添昭夫. 2013. 蒔田実造氏のハチコレクションから—ハチ目—. ひらくら, 57(1): 15-19.
- 21 川添昭夫. 2021. 伊賀盆地北部のハチ・アリ類. 伊賀盆地北部及び伊勢湾岸地域の昆虫, p.79-82. 三重昆虫談話会.
- 22 川添昭夫. 2021. 伊勢湾岸地域のハチ・アリ類. 伊賀盆地北部及び伊勢湾岸地域の昆虫, p.186-191. 三重昆虫談話会.
- 23 川添昭夫・河北 均. 1992. アルマンアナバチとキンモウアナバチの獲物について. ひらくら, 36(5): 73-76.
- 24 川添昭夫・松浦 誠. 1982. 尾鷲市とその周辺の膜翅目. 尾鷲地域野生生物調査報告書, p.549-553, 三重県自然科学研究会.
- 25 前 美津・前 由花. 1979. ホシアシプトハバチを上野市で採集. ひらくら, 23(4): 61-62.
- 26 蒔田実造. 2001. ホシアシプトハバチを美杉村で採集. ひらくら, 45: (1)15.
- 27 松浦 誠. 1961. 三重県の *Osmia* (ツツハナバチ) 属. ひらくら, 5(5): 33-34.
- 28 松浦 誠. 1963. 三重県の蜂 (5) ハバチ類 (広腰亜目 Suborder Symphyta). ひらくら, 7(2): 15.
- 29 松浦 誠. 1963. 三重県の蜂 (6) スズメバチ (*Vespula Vespa*) 属. ひらくら, 7(3): 21-22.
- 30 松浦 誠. 1963. ウイキョウの花上よりえたハチ. ひらくら, 7(4): 27-30.
- 31 松浦 誠. 1975. 三重県のハチ (9) マルハナバチ属 (*Bombus*). ひらくら, 19(6): 84.
- 32 松浦 誠. 1986. ハチ. アリ類 (膜翅目). 大宮町史, p.432-448.
- 33 松浦 誠. 1995. 凶説社会性カリバチの生態と進化. 北海道大学図書刊行会, 札幌市, 353 pp.
- 34 松浦 誠. 1996. 三重大学構内の注目すべき昆虫類. ひらくら, 40(1): 22-23.
- 35 松浦 誠. 2001. ホシアシプトハバチ幼虫の津市三重大学構内での再記録. ひらくら, 45(5): 169.
- 36 松浦 誠. 2002. 中西元男氏採集の三重県のアシナガバチ類とスズメバチ類. ひらくら, 46(4): 64-66.
- 37 松浦 誠・川添昭夫. 1989. 平倉演習林の膜翅目. ひらくら, 33(6): 142-149.
- 38 松浦 誠・中西元男. 2003. フクイアナバチ三重県に産す. 昆虫と自然, 38(2): 10.
- 39 西田悦造. 2005. モンスズメバチを採集. ひらくら, 49(4): 69.
- 40 西田悦造. 2005. 白山町でのホシアシプトハバチの目撃記録. ひらくら, 49(4): 69.
- 41 西田悦造. 2005. ナシアシプトハバチの記録. ひらくら, 49(5): 82.
- 42 西田悦造. 2005. キンモウアナバチの記録. ひらくら, 49(5): 83.
- 43 西田悦造. 2007. 答志島の膜翅目 (ハチ類). 三重自然誌, (11): 71.
- 44 西田悦造. 2008. 伊賀市でクロマルハナバチを確認. ひらくら, 52(6): 94.
- 45 西田悦造. 2009. 津市でキアシハナダカバチモドキを確認. ひらくら, 53(2): 86.
- 46 西田悦造. 2012. 三重県におけるクズハキリバチの記録. ひらくら, 56(1): 26-27.
- 47 西田悦造. 2012. 三重県におけるフクイアナバチの記録. ひらくら, 56(3): 74-76.
- 48 西田悦造. 2013. ニッポンハナダカバチを南伊勢町で採集. ひらくら, 57(4): 100.
- 49 西田悦造. 2013. 三峰山でバイケイソウハバチを採集. ひらくら, 57(4): 100.
- 50 西田悦造. 2014. ヤマトスナハキバチを志摩市と南伊勢町で採集. ひらくら, 58(2): 47.
- 51 西田悦造・川添昭夫. 2011. 志摩半島のハチ目. 志摩半島の昆虫 (生川展行編), p.196-207. 三重昆虫談話会, 津.
- 52 西田悦造・川添昭夫. 2016. 鈴鹿山脈のハチ類. 鈴鹿山脈の昆虫 (生川展行編), p.239-269. 三重昆虫談話会, 津.
- 53 西田悦造・篠木善重. 2012. 津市北部海岸のハチ. 三重自然誌, (13): 87-91.
- 54 大川親雄・松浦 誠. 1965. スズメバチ (*Vespa*) 属の越冬に関する知見. ひらくら, 9(1): 7.
- 55 大草伸治. 2023. 伊勢湾岸地域のハチ・アリ類追加. ひらくら, 67(4): 61-69.
- 56 大町文衛・山下善平・市橋 甫・石田昇三・北川賢澄・的場孝郎・中根敏勝・成瀬善一郎・大川親雄・

哺乳類

鳥類

爬虫類

両生類

汽水・淡水魚類

昆虫類

クモ類

貝類

甲殻類

その他動物

維管束植物

蘚苔類

藻類

キノコ

EX

EW

CR

EN

VU

NT

DD

山本祐嗣. 1959. 熊野灘沿岸地方の昆虫. 熊野灘沿岸国立公園拡張調書, p.189-236, 三重県自然科学研究会.

57 篠木善重. 2009. キバラハキリバチを津市北部の海浜で発見. ひらくら, 53(5): 124-126.

58 篠木善重. 2012. キバラハキリバチを鈴鹿川派川河口の海浜で採集. ひらくら, 56(1): 26.

59 富田靖男. 1974. 台高山脈北部および奥香肌峡の昆虫相. 三重県立博物館自然科学調査報告書第5報台高山脈北部および奥香肌峡一帯自然科学調査報告, p. 23-71.

60 富田靖男. 2010. 明和町の膜翅目昆虫・双翅目昆虫ならびに鱗翅目昆虫蛾類若干. ひらくら, 54(2): 21-34.

61 富田靖男・市橋 甫. 1973. 紀伊長島臨海地域および島嶼の昆虫相. 紀伊長島町, 108p.

62 Watanabe.C. 1934. Notes on Braconidae of Japan V. *Eurobracon*. *Insecta matsumurana*, 9(1-2): 19-23.

63 山下善平・大川親雄・的場孝郎・石田昇三・市橋 甫・村井俊郎・成瀬善一郎・北川賢澄・灰谷輝雄・松浦 誠・坂部元宏. 1963. 鈴鹿山脈の昆虫. 鈴鹿山脈自然科学調査報告書, p.119-288. 三重県自然科学研究会, 津.

64 山下善平・島地岩根・富田靖男・倉田 忠・大川親雄・石田昇三・後藤 勇. 1976. 上野市南部丘陵地域の昆虫相. 上野市南部都市開発に伴う自然環境調査及び影響評価報告書, p.189-302, 三重県自然科学研究会.